

追從シテ、二圓臺ニナツタト云フコトハ、皆サンモ御承知デアリマセウ、是ニ於テ政府ハ議會ニ擔保生絲ノ買收法案ヲ提出シ、是ガ議會ノ決定ヲ見ルヤ、直チニ滯貨生絲十萬俵ヲ一括買收シテ、サウシテ生絲價ノ安定ヲ期シタト云フコトハ、當時ノ狀況ヲ見レバ詳カデアリマス、斯ノ如ク生絲價ハ米價トハ異リ、國內の事情ニ依リ動搖スルコトハ少イノデアリマス、米ハ國內ニ於テ産シ、又國內ニ於テ消費スルモノデアアルカラ、其調節モ自由デアリ、又可能デアリマセウ、然ルニ生絲價ハサウ云フヤウナ關係ハ甚ダ薄イノデアリマス、隨テ歴代政府ノ苦心スル所ハ此點デアリマス、儲テ本施設法案ノ内容ヲ見マスルニ、政府ハ製絲業者ヲシテ強制的ニ生絲價安定施設組合ヲ組織セシメ、又輸出生絲業者竝ニ本法施行地以外ノ製絲業者ヲモ、組合員タルコトガ出來ルト云フ規定ヲ立案シタノデアリマス又此組合ハ豫メ政府ノ定メタ最高最低ノ値段ノ範圍ニ於テ、有事ノ際ニ生絲ノ賣渡又ハ買入ヲ爲ス機關ヲ成スモノデアリマス、其他組合員ノ製絲ノ共同保管デアルトカ、組合ノ事業ニ關スル統制デアルトカ、組合員ノ斯業改善ニ關スル施設等ヲ兼ネ行フノ機關デアリマス、茲ニ多少ノ問題トスベキハ、只今社會大衆黨ノ佐竹君モ其點ニ付テ述ベラレタノデアリマスガ、此賣渡又ハ買入價格ノ點デアリマス、本案ニ依レバ、主務大臣ハ第十一條ノ規定ニ依リ價格ヲ定メ、生絲價委員會ニ諮問スルコトニナツテ居リマス、即チ第十一條ニハ、勅令ノ定ムル所ニ依リ競争纖維ノ價格、繭生產費中ニ於ケル現金支出額ニ自給費ノ一定割合ノ金額ヲ加ヘタルモノ及生絲ノ製造販賣ニ要スル費用竝ニ物價其他ノ經濟事情ヲ參酌シテ主務大臣之ヲ定ムトアリマス、本條文ハ用語甚ダ煩瑣デアリ、隨テ多少誤解サレ易キ點ガアルノデアリマス、委員會ニ於テモ此點ニ付テ種々ナル質問ガアリマシタ、特ニ篠原委員ノ如キハ、此問題ニ付テハ相當政府ニ力説シタノデアリマス、吾々モ此問題ニ付テ大イニ政府ノ所信ニ付テ質ス所ガアツタガ、政府當局ニ於テハ之ニ對シテ種々辯明シタ結果、其事情ヲ諒トシ之ヲ認メルコトト致シタノデアリマス、唯繭ノ生產費ノ算出方法ニ付テハ、後段ニ於テ多少述ベタイト考ヘルノデアリマス、尙ホ組合ノ理事及ビ副理事ノ選任、竝ニ生絲價安定委員會ノ委員ノ任命ニ付テデアリマス、從來此種ノ選任又ハ任命ハ、兎角官僚主義ニ依リ人選スル嫌ヒガ

アツタノデアリマス、今回ハ此弊風ヲ矯メ、各方面ノ有爲ナル人材ヲ網羅スルコトガ必要デア  
ル、例ヘバ理事長、副理事長ノ如キモ官僚出身者バカリヲ選バズ、時代ニ適應シタル新鮮味ヲ帶  
ビタ人選ヲ爲スコトガ適當デアルト思フ、又生絲價委員會ノ如キモ、官吏トカ學識經驗者バカ  
リデナク、製絲業者ハ勿論デアリマスガ、吾々ノ要望スル所ハ、養蠶農民ノ代表ヲ是非トモ加  
ヘナケレバナラヌト強ク主張スルノデアリマス、次ニ政府ハ是ガ達成ノ爲メ、生絲價安定ノ施設  
特別法案ヲ茲ニ提出致シマシタ、其内容ハ運用資金最高七千萬圓ト共ニ、買收法ニ依ツテ買入  
レタル滯貨生絲ノ残りノ五萬俵ヲ、同會計ニ引繼グコトトナツタノデアリマス、吾々ハ此金額  
ヲ以テ、我國蠶絲對策トシテハ、甚ダ其金額ノ少イコトヲ憾ムノデアリマス、併ナガラ一面我  
國ノ財政状態ヲ見ルニ、今ヤ非常ニ行詰ツテ居ルノデアリマス、故ニ已ムヲ得ズ此類ヲ承認ス  
ルノデアリマスガ、政府ハ其運用ニ當ツテハ、此範圍内ニ於テ適切有效ナル施設ヲナサレンコ  
トヲ、此際特ニ政府ニ要求スル者デアリマス、同時ニ養蠶家ノ爲ニモ、私ハ政府ノ一考ヲ煩ハ  
シタイト思フノデアリマス、最近政府ノ施設ヲ見ルト、ドウモ製絲家ニ厚クシテ養蠶家ニ輕キ  
感ヲ懷クノデアリマス、斯ク申シタトテ私ハ本案ニ決シテ反對スルノデアリマセウ、唯十二  
年度豫算案ノ内容ヲ見マス、産繭處理統制施設費ニ於テモ相當削減サレテ居リマス、又桑園  
ノ整理改植助成費ニ付テモ相當削減サレテ居リマス、是等ヲ以テシテモ、政府ノ養蠶農民ニ對  
スル態度ハ、甚ダ冷淡デアアルコトヲ、窺フニ足ルノデアリマス、此點ニ付テハ、吾黨ヨリノ希  
望條件トシテ委員會ニ於テ之ヲ決定致シマシタガ、即チ生絲價ノ下落ニ依ツテ養蠶家ニ損害ヲ與  
ヘザルヤウ最善ノ努力ヲナスベク、茲ニ改メテ政府ニ警告ヲ致スモノデアリマス、尙ホ生絲價安  
定策トシテハ色々アリマス、其一ハ、生産ノ統制デアリマス、是ハ先ヅ桑園ノ整理調整ガ目下  
ノ場合急務デアルト考ヘルノデアリマス、一部ニ於テハ、生絲又ハ蠶種ニ依リ調整スベシトノ  
意見モアリマスガ、勿論其方法モ一ツデアリマセウ、併ナガラ我國ノ桑園ヲ全國的ニ之ヲ整理  
スルニ於テハ、現在ノ養蠶農民ノ蒙ル損失ハ相當輕減サレルノデアリマス、唯其ヤリ方ニ付テ私  
ハ一言シタイ、政府ハ宜シク主要養蠶地ト然ラザル土地ニ付テ相當考慮ヲ拂ツテ、適切ナル對

策ヲ講ゼラレシコトヲ希望シタイノデアリマス、更ニ生絲ノ需要増進ヲ圖ル爲メ積極的手段ヲ執ツテ貫ヒタイコトデアリマス、聞ク所ニ依レバ政府ハ、最近當業者ヲシテ米國其他ニ對シテ販路擴張ヲ爲シツ、アルト云フコトデアリマス、勿論現在供給シテ居ル米國方面ニ對シテ、是ガ販路擴張ヲスルノハ當然デアリマスガ、私ハ更ニ新販路開拓ニ付テ善處セラレシコトヲ要望スルノデアリマス、即チ彼ノ歐洲方面トカ、或ハ南米方面ニ對シ相當宣傳ヲ爲シ、益、我國ノ生絲ヲ各方面ニ輸出スルヤウ對策ヲ執ラレシコトヲ政府ニ希望スルノデアリマス、ソレト同時ニ國內ノ需要ニ對シテモ、一段ノ考慮ヲ拂ツテ戴キタイト思フノデアリマス、今日國內ニ於テハ僅ニ生絲ヲ織物ニシテ居ル位デスガ、更ニ多クノ織物ヲ產出シ、サウシテ内地ノ需要ニ供スルト共ニ、海外ニモ其織物ノ輸出ヲ獎勵スベキデアリマス、ソレニハ國內ノ生絲需要者ニ對シ製絲ノ品位ト重量ニ付テ安心ヲ與ヘナケレバナラヌノデアリマス、即チ國用生絲ニ對シテモ、輸出生絲同様に検査ヲスルコトガ必要デアアル、現在國用生絲ノ検査所ハ福井、石川、京都ノ三縣シカアリマセヌ、而モ其規模ハ小サク、又費用モ不十分デアリマス、故ニ私ハ此設備ヲ改善スルト共ニ、他ノ主要織物地ニ對シテハ、是非共此検査所ヲ新設スベキデアアルト思フノデアリマス、例ヘテ申シマスレバ、群馬縣ノ如キハ其最モ必要ヲ感ジテ居ル縣デアリマス、又昨今問題トナツテ居ルノハ、大製絲家ノ兼營スル所ノ蠶種製造ト、中小蠶種業者ノ對立デアリマス、此事ハ自由經濟主義ノ今日ニ於テハ已ムヲ得ナイトハ言ヘ、我國ノ中小蠶種業者ガ我が蠶絲界ニ貢獻シタコトハ多大ナルモノガアリマス、我國ノ生絲ガ其品質ニ於テ世界ニ誇リ得ルモノハ、彼ノ四千五百人ノ蠶種業者ニ與ツテ力ガアルモノト申シテ差支ナイノデアリマス、而シテ彼等ハ今日ノ如キ優良蠶種ヲ得ルマデニハ、有ユル苦心慘憺ヲシ、大キナ犠牲ヲ拂ハレタコトハ事實デアリマス、然ルニ昨今是等蠶種業者ハドウデアリマセウカ、大製絲家ノ蠶種製造ニ壓迫サレ、其生活權ガ奪ハレントスル情勢ニアルノデアリマス、其結果勢ヒ販賣上ノ競争トナリ、過剩蠶種ノ製造トナリ、品種ノ下落ヲモ來シテ居ルコトハ政府ノ能ク知ラル、所デアリマス、此見地カラシテモ、普通蠶種ノ國家管理ヲ必要トスルモノデ、輿論モ亦茲ニ一致シテ居ルノデアリマス、政府

ハ宜シク速ニ此對策ヲ講ゼラルベキデアリマス、我黨ニ於テハ此點ヲ留意シテ、委員會ニ於テソレヲ希望條件トシテ附シタ次第デアリマス、以上ハ大體我黨ノ本案ニ對スル賛成ノ趣旨デアリマスガ、私ハ此場合以下聊カ大衆黨ノ本案ニ對スル反對意見ニ付テ、其所信ヲ述ベテ見タイト思フノデアリマス、只今大衆黨ヲ代表シテ此處ニ登壇セラレタ佐竹君ガ種々反對說ヲ述ベラレタガ、此案ニ於ケル十一條ニ付テ申上ゲルナラバ、生産費ヲ補償シテ居ラナイカノ如キ說ガアルノデアリマス、私ハ此問題ハ先ニ申シタ如ク、多少條文ガ煩瑣デアツテ、吾々ガ誤解シ易キ點モアルノデアリマス、即チ繭ノ生産費中ニ於ケル現金支出ニ自給費ノ一定割合ヲ云々トシテアルナドソレデアリマス、之ヲ見ルト繭ノ生産費ハ、其中ノ一定割合ノ金額ヲ差引イテ計算シ、又製絲家ノ生産費ハ、此差引ヲ見込マザルト云フヤウナ點デアアルノデアリマス、此點ニ付テハ私モ先申ス如ク、養蠶家ニ對シ甚ダ薄イ所ノ政策デアアルト思フノデアリマスガ、併ナガラハ私モ蠶家ト製絲家トノ間ニ於ケル繭ノ取引關係スル所デアリマス、政府ハ之ニ依ツテ豫メ、十一條ニ依ツテ豫メ最高最低値段ヲ作り、生絲ノ暴落スルト云フヤウナ場合ニ於テ、是ガ發動スルト云フ意味デアリマスカラ、之ヲ以テ直チニ製絲家ガ養蠶家カラ繭ヲ買入レル金額ト見ルコトハ、甚ダ間違ッテ居ル見解ト思ハレマス、殊ニ此絲價ハ先ニモ申シタ如ク、外國ノ經濟事情ニ依ツテ左右サレルノデアリマスシ、又人絹ノ發達ニ依ツテモ影響スルノデアアルカラ、此問題ニ付テ吾々ハ相當研究シナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ政府委員ノ答辯ニ依ツテ見マスルト、此十一條中ノ即チ現金支出ト、自給費ノ一定割合ト云フ項ヲ除クニ於テハ、或ハ恐ル、此法ノ發動ニ依ツテ絲價ヲ安定スルコトガ出來ナイト云フ虞ガアルノデアリマス、吾々ハ此政府ノ言明ヲ是認シテ、サウシテ此案ニ賛成シタノデアリマスガ、例ヘテ申シマスレバ、此案ガ假ニ佐竹君ノ言フガ如ク、現在我國ノ蠶絲業ニ取ツテ宜クナイ案デアアル、宜クナイ案デアアルト申シテモ、之ヲ立法化スルコトニ依ツテ、多少デモ地方ノ養蠶家並ニ製絲家ガ、是ノ恩典ニ與ルト云フ場合ニ於テ、此法案ヲ否決スルヨリモマシデアアルト私ハ考ヘルノデアリマス、之ヲ具體的ニ申セバ、此案ニ關係ナク申上ゲルノデスガ、往年普通選舉案ガ此議場ニ付議サレタ、ソレハ大正十四年ノ、第

五十議會デアリマス、此普選案ニ對シテハ私ハ今尚ホ満足ハ致シテ居リマセヌ、或ハ比例代表制デアルトカ、或ハ年齡ノ低下デアルト云フ點ニ於テ、今日デサヘ私ハ之ニ賛成シテ居ラナイノデアリマス、然ルニ其當時ノ事情ニ於テハ、斯ル不徹底ノ普選案デアルガ、之ヲ通過セシメナケレバナラヌト云フヤウナ事情ニ立至ッタノデアリマス、其結果我ガ議會ハドウデアアルカ、今日反對スル所ノ大衆黨ノ諸君モ、此普選案ガ通過シタカラ堂々ト當選シテ來テ、サウシテ自己ノ所信ヲ天下ニ發表シ得ル機會ガ與ヘラレタデハナイカ、本案ニ對スル態度モ是ト同ジデアリマス、吾々ハ此法案ハ餘リ理想的デハナイガ、併シ第一步トシテ此案ニ賛成スルト云フ次第デアリマス、其他佐竹君ノ御意見等モアリマシタガ、私ハ以上ヲ以テ佐竹君ニ對スル反對ノ意思ヲ表スルモノデアリマス、最後ニ一言シタイノハ、今議會ニ政府ノ提案セル農村關係法律案ハ、本案ヲ初メトシ、漁船保險法案、森林保險法案等ガアルガ、是等ハ何レモ部分的ノモノデアリマス、又負債整理組合法ニ關聯スル法律案モ提出サレマシタガ、之ニ依ッテ能ク四十餘億ノ農村ノ負債ガ整理サレルト云フコトヲ、考ヘラレナイノデアリマス、故ニ私ハ庶政一新ヲ標榜スル林内閣ノ治下ニ於テハ、今一段農村問題ニ對シテ眞劍味ガアツテ欲シイノデアリマス、此時偶々外電ハ米國ニ於ケル新農村政策ノ事實ト、全米農村會議ノ開催ヲ報道シテ居リマス、又曩ニハ農業調整法ヲ實施シ、農村ノ負債ヲ整理スルト共ニ、生産統制、價格ノ吊上策ヲ執ッタコトハ御承知ノ如クデアリマス、其成績ノ如何ハ別トシテ、此「ルーズベルト」氏ノ農村對策ハ、全米農民ニ多大ナル衝動ヲ與ヘタコトハ事實デアリマス、故ニ私ハ山崎農相ニ一言セントスルノハ、來議會ニ於テハ全國民ノ爲メ、一大革新農業政策ヲ提出セラレンコトヲ希望シ、本案ニ賛成ヲスルモノデアリマス

横川君ノ賛成演説

私ハ只今議題ニナツテ居リマスル絲價安定施設法案、竝ニ絲價安定施設特別會計法案ニ對シマシテ、委員長報告ノ如ク附帶決議三項ヲ附シテ賛成ヲ致スモノデアリマス、尚ホ此法案中ニハ多少不滿ノ點ガアルノデアリマスルガ、是等ヲ檢討致シマシテ、賛成ノ理由ヲ簡單ニ申述ベタイ

ト思ヒマス、生絲ノ價格ノ安定ハ長年朝野ノ熱望デアリマシテ、昭和六七年來ノ蠶絲恐慌以來、我黨政友會ニ於キマシテモ、熱心ニ是ガ達成ヲ努メテ居リマシタノデ、是ガ爲ニ夙ニ我黨ニ於キマシテハ、原蠶種國家管理、產繭處理統制案及ビ輸出生絲販賣統制ノ蠶絲對策、根本對策ヲ樹立致シマシテ、常ニ議會ニ於キマシテ是ガ達成ニ努力ヲ致シ、政府ヲ指導シ來ッタノデアリマス、曩ニ前二案ハ既往ノ議會ニ於キマシテ既ニ成立ヲ致シマシテ、第三ノ輸出生絲販賣統制案ニ付キマシテ、前議會ニ於テ院議トシテ其提出ヲ政府ニ要望シテ居ッタノデアリマスルガ、此販賣統制案ハ、名前ハ統制ト云フ點ニゴザイマスルガ、其内容ハ絲價ノ安定ニアツタノデアリマシテ、今回政府ガ提出致シマシタル絲價安定施設法案ノ目的ト、全ク其趣旨ニ於キマシテ一致スル所デアアルノデアリマス、併ナガラ本案ノ成敗ハ、其運用ノ如何ニ依リマシテ決セラレルモノデアリマシテ、而モ具體的ノ決定ハ、殆ド勅令ノ事項ニ委ネラレテアルノデアリマスカラ、其運用ノ宜シキヲ得ザル時ハ、所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイノミナラズ、或ハ暴騰ヲ激成シ、或ハ暴落ニ救急ノ用ヲ爲サザルノ憂ガ多分ニアルノデアリマス、本案ノ要點ハ大體二ツノ點ニ要約セラレルト思フノデアリマス、即チ政府ガ上値ト下値トヲ定メマシテ、此上値ガ出マシタ場合ニハ、政府手持ノ五万捆ノ生絲ヲ、申込ニ應ジマシテ生絲安定施設組合ニ賣渡ヲ爲シテ、上値ヲ超ユル所ノ暴騰ヲ防ギ、又下値ガ出タ場合ニ於キマシテハ、其定メラレタル値段ニ於テ、絲價安定施設組合カラ生絲ノ買入ヲ爲シマシテ、下値以下ノ暴落ヲ防グト云フ仕組ニナツテ居ルノデアリマス、此爲ニ七千万圓ノ特別會計ヲ立テ、居ルノデアリマス、他ノ一ツノ要點ハ、下値ニ近イ値段ニ於テ絲價安定施設組合ニ於テ生絲ノ共同保管ヲ爲シ、或ハ爲サシメマシテ、下値豫防ノ働キヲ爲スト云フ、以上二點ニ要約セラレルノデアリマス、此定メラレマサル上値、即チ賣渡價格、及ビ下値、即チ買入價格ノ定メ方ニ依ッテ、本案ノ生命ガ左右セララル、ノデアリマシテ、是ガ法案ノ第十一條ニ規定シテアルノデアリマス、法案ノ朗讀ハ省略致シマスルガ、凡ソ物價ノ騰落ハ、經濟界全體ノ情勢ニ依ッテ支配セラレル場合ト、商品ソレ自體ノ理由ニ依ッテ左右セラレル場合ト、大體二ツニ大別サレルノデアリマス、第一ノ場

合ハ是ハ大體ニ於テ不可抗力的ナモノデアリマシテ、經濟全般ノ對策ニ俟ツ以外ニハ其對策ハ  
 ナイノデアリマス、茲ニ考ヘラレル問題ト致シマシテハ第二ノ場合デアリマス、此需給關係ニ  
 於テ、大體市場價格ガ定マルノデアリマスルガ、本案ニ於キマシテハ、生絲ノ市場價格ハ上  
 値、下値ノ算定ノ基礎トナツテ居ラナイノデアリマス、米穀統制法ニ於キマシテハ、米價指數  
 ト云フモノガ其計算ノ基礎ヲ成シテ居ルノデアリマスルガ、本案ニ於テハ絲價指數ト云フモノ  
 ガ全ク取入レテナイノデアリマス、即チ政府ノ謂フ所ノ異常ナル高値ト申シマスノハ、現行絲  
 價カラノ異常ナル高値ト云フモノヲ意味スルノデハナクシテ、別ニ定メラレマシタ人絹價格ノ  
 三倍乃至四倍ノ點ニ於テ、定メラレマスル所ノ價格ヲ超エルト云フコトニナルノデアリマス、  
 此點ハ全ク人絹ノ價格一本ニ支配セラレル譯ニ相成ツテ居リマシテ、絲價ノ變動ノ他ノ重大ナ  
 ル要因ハ全ク閑却セラレテ居ルノデアリマス、是ハ洵ニ遺憾、不十分ナ點デアリマシテ、政府  
 ガ政治的考慮ニ或ハ因ハレマシテ、經濟ノ實際ト論理ノ徹底トヲ缺ク憾ミガ多分ニアルノデア  
 リマス、若シ天然絹絲ガ人絹ノ制約ノ下ニアツテ、全ク獨立性ガナイモノデアラナラバ、下値ヲ定  
 ムル場合ニ於テモ、人絹トノ對比ニ於テ定メラルベキデアリマスルガ、併シテサウ云フコトニナ  
 リマス、更ニソレハ矛盾ヲ重ネル所以トナルノデアリマスルカラ、左様ナコトハ爲シ得ナイ  
 ノデアリマシテ、サウ云フ意味カラ申シマスルナラバ、上値ヲ人絹ノミニ依ツテ定メマスルト  
 云フコトガ、即チ矛盾デアルト云フコトニナルノデゴザイマス、更ニ下値ヲ定メマスル場合  
 ハ、繭ノ生産費中ニ於ケル現金支出ハ、是ハ全額計算ノ基礎トスルノデアリマスルガ、其自給  
 費ニ付キマシテハ、其一部ノミヲ採用シテ、全部ヲ取入レテ居ラナイノデアリマス、前段ノ論  
 者モ此點ニ付テ言ウテ居リマスルガ、然ルニ製絲業者ニ對シマシテハ、製造販賣ノ費用ノ全額  
 ヲ計算ノ基礎トシテ取入レテアルノデアリマス、此點法ノ立前ト致シマシテ、洵ニ不正ノ感  
 ガアルノデアリマシテ、政府ガ常ニ養蠶家ヲ根幹トシテ蠶絲對策ヲ樹立スルト云フ主張ト背馳  
 スルバカリデハアリマセヌ、論理上許サレザル所ノ重大ナル矛盾デアルト思フノデアリマス、  
 而モ此法文中ニ於キマシテハ、總テノ要因ヲ參酌スルト云フ文字ガ加ヘラレテアリマスルカ

ラ、必シモ現在ニ於テ政府ノ所信ガ、所謂生産費全額ヲ計算ノ基礎ニ入レルコトニ依リマシ  
 テ、制低價段ガ高イ所ニ落著クト云フコトカラ、或ハ増産ヲ誘致スルヤウナ虞ガアルノデヤナ  
 イカト云フ御意見ニアルノデアラウナラバ、ソレハ參酌ト云フ文字ニ依リマシテ、寧ロ其下値ニ  
 モ決メ得ルノデアリマスルカラシテ、斯様ナ立前カラ致シマスルナラバ、養蠶家ト製絲家トヲ  
 異ナル取扱ニ致シマスル所ノ不正ハ、ドウ致シマシテモ許シ得ナイコトト思フノデアリマ  
 ス、要スルニ此法律ニハ不滿ノ點ヲ多々含ムノデアリマス、而モ是ガ運用ノ如何ニ依リマシテ  
 ハ、實際絲價ガ既ニ暴落ヲシテカラ後ニ發動致シマシテ、六日ノ菖蒲、十日ノ菊ト云フヤウ  
 ナ、遺憾ナル結果ヲ現ハス虞ガ多々アルノデアリマス、而モ上値ハ人絹價格ニ依ツテ制約セラ  
 レテ居ルノデアリマスルカラ、他ノ經濟的要因ノ變化ニ依ツテハ、却テ急激ナル騰貴ヲ誘致ス  
 ルノ虞モアルノデアリマス、曩ニ絲價安定融資補償法ノ發動ノ場合ニ於キマシテハ、當路者ハ  
 其以前ノ高値ノ記録ニ因ハレマシテ、國庫ニ多大ノ損失ヲ與ヘタコトニナツテ居リマスガ、今  
 ヤ此法案ニ於キマシテハ、低値ノ記録ニ因ハレマシテ、十分ナル安定ニ資シ得ナイ憾ミヲ、ソ  
 コニ藏スルノデハナイカト私ハ憂フルモノデアリマス、以上、遺憾ノ點ハ多々アルノデアリマス  
 ルガ、是等ハ其運用ニ依ツテ或ハ補足シ得ルモノト考ヘマシテ、又此法案以外ノ新シキ施設ノ  
 加味増設ニ依リマシテ、其全キヲ得ルコトヲ期待致シマシテ、此案ニ贊成ヲ致スモノデアリマ  
 スルガ、其爲メ附帶決議三項ヲ附シテ、木案ノ擴充補填ニ充テルベク吾々委員ノ意思ヲ表明シ  
 タ次第デゴザイマス、殊ニ附帶決議第二項ニアリマスル「政府ハ速ニ普通蠶種ノ國家管理並桑園  
 ノ調整ニ關スル適切ナル方策ヲ樹立スベシ」此第二項ニ付キマシテハ、所謂生産調節ノ意味ス  
 ルモノデアリマス、絲價安定ニドウシテモナクテハナラヌ一ツノ要因デアリマシテ、最モ重大  
 ナル關係ガアルノデアリマス、而モ此第二項ノ實現ニ依リマシテ、養蠶農家ノ經濟ヲ向上セシ  
 メ、蠶種業ヲ安定スルコトノ、重大ナル約束ヲ含ムモノト思ヒマス、此點ニ付キマシテハ政  
 府ハ特ニ深キ注意ヲ拂ハレテ、速ニ實現ノ方途ヲ立テラレンコトヲ希望致シマシテ、贊成ノ意  
 思ヲ表示ヲ致ス次第デゴザイマス

青木君ノ贊成演説

私ハ只今議題トナッテ居リマスル絲價安定施設法案外一件ニ付キマシテハ、民政黨、政友會、昭和會、三派ノ一致協定ノ下ニ成案シマシタ所ノ附帶決議ヲ附シテ可決スルト云フ、委員長ノ報告ニ贊成ヲ致ス者デアリマス、只今横川君ノ述ベラレマシタ通り、絲價安定策ノ確立ノ要望ハ、多年來ノ重要ナル懸案デゴザイマシテ、蠶絲業關係官民ノ間ニ、久シク論議研究サレテ來タ所ノ問題デアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、又最上君ノ述ベラレタ通り、今日マデ幾多ノ蠶絲業關係ノ立法ガ制定セラレテ參リマシタガ、是等ノ蠶絲業立法モ、畢竟スルニ絲價安定問題解決ヘノ段階的基礎工事ニ過ギナカッタト云フコトガ言ヘルト思フノデアリマス、茲ニ絲價安定施設法案ノ成立ヲ見ントスルニ當ッテ、初メテ一聯ノ脈絡アル蠶絲業對策ノ大體ノ機構ガ出來上ルノデアルト言フテモ宜シイノデアリマス、サレバト云ッテ、本案ヲ以テ必シモ蠶絲業對策ノ最終的ノ立法デアルト申スコトハ勿論出來マセヌガ、少クトモ重要ナル結論的立法ノ一デアルト云フコトダケハ言ヒ得ルト考ヘルノデゴザイマス、而シテ本案ノ狙フ所ハ、今マデ討論セラレタル所ノ諸君ノ述ベラル、通り、單ニ今マデ唱ヘラレテ居タル所ノ絲價安定ト云フ概念トハ、少シ其内容ト趣ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマス、即チ生絲ノ有力ナル競争纖維トシテ、世界的ニ進出シツ、アル所ノ人造絹絲ニ對シテ、將來生絲ノ消費分野ヲ確保シ、且ツ是ガ發展ヲ圖ラントスル所ノ、所謂人絹對策ト云フ所ニ、大キナ國策的ノ特色ヲ把持スルモノデアリマシテ、本案ノ實施ニ依ッテ齋サントスル所ノ效果ニ付テハ、相當大キナ期待ヲ約束付ケルモノトサレテ居ルノデアリマス、近年纖維工業ノ花形デアアル所ノ人造絹絲ノ目覺シキ發展ニ伴ヒマシテ、我が朝野ノ間ニハ、生絲ノ將來性ニ付テ一種ノ悲觀說ヲ唱ヘル者ガアルノデアリマスルガ、私ハ左様ニ悲觀スル必要ハナイト考ヘル者デアリマス、即チ我國ノ輸出生絲五十万俵ノ中、米國向ケノ生絲四十五万俵ノ消費分野ヲ檢討シテ見マスルニ、其中約二十五万俵ハ靴下トカ、「シャツ」手袋、其他肌著類ノ原料トシテ消費セラレテ居ルノデアリマシテ、是ダケハ他ノ何物ニモ奪ハレザル所ノ不動ノ地盤ヲ確保シテ居ルノデアリマス、唯殘リ二十万俵ノ需給關

係ニ於キマシテ、人絹トノ競争ニ依ッテ、其消費分野ガ爭奪戰線ニ曝サレテ居ルト云フノガ其實情デアリマス、斯様ナ次第デアリマスルカラシテ、生絲ノ將來性ニ付キマシテハ、唯徒ニ悲觀スル必要ハゴザイマセヌ、併ナガラ大イニ警戒的態度ヲ以チマシテ、今後官民協力ヲ致シテ、蠶絲業ノ有ユル角度カラ益、調査研究ヲ進メテ、斯業ノ全面的更新刷新ニ銳意努力ヲ拂ッテ行キマスレバ、人造絹絲トノ競争ニ拮抗シテ、生絲ノ世界的消費分野ヲ維持確保シ、且ツ新販路ノ開拓ヲ期スルコトハ、相當ニ可能性ガアルモノト私ハ信ズル者デアリマス、唯人造絹絲工業ハ、他ノ諸君カラモ言ハレタ通り、文字通りニ、日進月歩ノ勢ヲ以テ發展シ、著々品質改善ノ實績ヲ擧ゲテ居リマシテ、其利用價值ヲ高メテ參ッテ居ルノデゴザイマス、サウシテ市場價格ノ統制モ、實ニ能ク保タレテ居リマシテ、且ツ生産費ノ低廉ナル點ニ於テモ、一大特異性ヲ發揮シテ居リマスガ故ニ、生絲ヲシテ之ニ對抗セシメ行クノニハ、蠶絲業ノ狀態ヲ從來ノ如ク投機的經營ニ放任シテ、市場相場ノ異動常ナキガ儘ニ致シテ置イタノデハ、到底人造絹絲ニ對抗シ得ベクモナイノデアリマス、其結果ハ好ムト好マザルトニ拘ラズ、遂ニハ蠶絲業ノ没落ヲ見ルコトハ、火ヲ賭ルヨリモ明カデアリマス、本案ノ狙ヒ所ハ、即チ此處ニアルノデアリマシテ、私ガ本案ニ於テ大キナ國策的特色ヲ指摘スル所以モ、亦此點ニ存スルノデアリマス、ソコデ本案ノ核心トモ言フベキ點ハ、他ノ諸君カラモ述ベラレマシタガ、生絲ノ賣渡價格及ビ買入價格ノ公定制度ノ下ニ、生絲價格ノ異常ナル騰落ヲ抑制調節シテ、如實ニ價格ノ統制ヲ斷行セントスル所ニアルノデアリマス、此點ハ正ニ斯業ノ最大缺陷ニ向ッテ一大鐵案ヲ下シタモノト言フベキデアリマセウ、吾々ガ本案ニ對シ、昨年制定セラレマシタ所ノ產繭處理法ト相俟ッテ、所謂車ノ兩輪ノ如キ關聯ニ於テ贊意ヲ表スル理由モ、此點ニアルノデゴザイマス、併シ具サニ本案ノ内容ヲ檢討シマスルニ、本案ノ骨子タル所謂制高制低ヲ規定スル第十一條ノ條項中、買入價格決定ノ基準ニ付テ、繭ノ生産費ノ全額保障ノ立前ガ採ラレナカッタ爲ニ、繭絲價ノ低落ヲ誘發シ、養蠶農民保護ノ點ニ於テ、大イニ缺クル所ガアルデハナイカト云フ點ニ付キマシテハ、他ノ諸君ノ熱心ニ論難セラル、通り、相當ノ異論ガアルノデアリマス、

此點ニ對シテハ私モ他ノ諸君ト共ニ憂ヲ同ジクシ、頗ル遺憾ニ思フ次第デゴザイマス、今又佐竹君ハ、本案ノ施行ノ結果ハ、却テ生絲ノ値段引下政策ニ墮スルノデハナイカト御懸念ヲサレテ居リマス、是モ頗ル養蠶農民ニ對スル所ノ御親切ナル御考方デアルトハ思ヒマスルガ、此點ニ付キ、又前段述ベマシタ所ノ生産費ノ問題ト共ニ政府ノ辯明ヲ聽キマスルト云フト、是ハ競争纖維トノ關係モアツテ、今後ノ蠶絲業ノ安定ト發達トヲ圖テ行クガ爲ニハ、繭絲價ノ高クナルコトバカリヲ望ムノハ、頗ル困難ナル情勢ニアルノデアアル、隨テ現下ノ實情ニ即シテ考ヘレバ、繭ノ生産費ノ全額ヲ保障スル制度ヲ樹立スルコトハ、實際上ノ問題トシテハ、目下ノ所デハ不可能ノコトデアアル、且ツ本案ハ繭絲價暴落ノ非常時ニ於テ、養蠶農民ノ經營上、耐ヘ難キ事態ノ發生スルコトヲ防止セントスル趣旨ニ出デタルモノデアアツテ、平常時ニ於ケル所ノ繭價ヲ適正ナラシムル對策トシテハ別ニ其途ガアル、即チ之ニ付テハ養蠶團體ノ強化、竝ニ產繭處理統制ニ關スル所ノ運用等ニ依ツテ、所期ノ目的ヲ達スル考デアルト云フノデアリマス、併シナガラ率直ニ申シマスレバ、養蠶農民ハ蠶絲形態ノ重大要素ヲ成スモノデアアルコトハ御承知ノ通りデアアル、其養蠶農民ガ依然トシテ犧牲的ノ立場ニ押込メラレテ居ルト云フコトニ付キマシテハ、何トシテモ不滿ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、相變ラズ養蠶農民ニ對シテ無理解デアアル、不親切デアルト云フ所ノ非難ヲ政府當局ガ受ケルノハ、大體論トシテ當然デアラウト考ヘルノデアリマス、繭ヲ考ヘマスルニ、本案ノ目指ス所ハ、蠶絲業ノ全面的更生刷新ニアルノデアアル、又蠶絲業ノ世界的躍進ノ姿ヲ強化スルニアルノデアアル、既ニ此狙ヒ所ヲ承認スル以上ハ、右申上ゲタ點ニ於テ遺憾デハアリマスガ、是モ過渡時代ノ一時的變則ト致シマシテ、暫ク之ヲ忍ブノモ亦已ムヲ得ザルモノガアルノデハナイカトモ考ヘラレマス、何トナレバ、斯ノ如ク養蠶農民ヲ打チノメス所ノ管ノ下ニモ、少クトモ二ツノ指導精神ガ躍動シテ居ルト云フコトヲ見通シテハナラナイノデアリマス、即チ其一ツハ、コ、デ繭ノ生産費ヲ完全ニ保障スルトスレバ、自然ニ繭ノ増産ヲ誘發スルコトニナルト云フコトガ懸念サレテ居ルノデアアル、其二ハ、蠶絲業ノ維持發展ヲ圖ル爲ニハ、生産費ヲ低下スルコトガ必然條件トサレテ居ルノデアアルカラシテ、之

ヲ茲ニ示唆スルノデアルト云フノガ、當局ノ考ヘ方デアッタラシイノデアリマス、ソコデ當局ハ此二ツノ指導精神ヲ一種ノ謎トシテ、此條文ノ中ニ隱シテ置クモノト私ハ解スルノ外ナイノデアリマス、果シテ然ラバ曾テ吾々ノ大先輩ノ言ハレタ通り、謎デハ政治ハ行ヘナイノデアリマス、當局ハ其指導精神ヲ具現化シ、總テノ機關制度ヲ運用動員致シテ、之ヲ實際ニ活カシテ行ツテ、蠶絲業ノ實際の更生健全化ニ向ツテ、更ニ一段ノ眞劍味ヲ以テ努力セラレナケレバナラヌノデアリマス、サウシテ一日モ早ク斯ノ如キ養蠶農民ニ對スル所ノ無理解ナル差別待遇の條項ヲ撤廢スルヤウニ心掛ケテ貫ヒタイノデアリマス、更ニ人造絹絲ノ躍進ニ對抗シテ、生絲ノ發展ヲ圖ツテ行カウト云フコトニ付キマシテハ、生絲ノ利用増進ニ關スル所ノ試驗研究ヲモット盛ナラシムルコトガ必要デアラウト考ヘルノデアリマス、元來植物性ノ人造絹絲ト動物性ノ天然絹絲トハ、其纖維ノ性情ニ於テ自ラ異ナルモノガアルノデアリマスルカラシテ、此兩纖維ノ競争途上ニ於キマシテ、兩者ノ摩擦關係ヲ維持シテ行ク間ニモ、自ラ其消費分野ノ歸趨ガ定マツテ行クベキ筈デアルト考ヘマス、隨テ是ガ利用増進ノ方途ニ付テハ、費用ナドハ各ム必要ハナイ、各ンデ居ル時デアリマセヌ、十分ニ是ガ機關ノ擴充動員ヲ圖ラレンコトヲ要望致シテ置キマス、其他ノ點ニ付テハ、附帶決議ニ依ツテ吾々ノ意思ハ表明セラレテ居リマスルカラシテ、重複ヲ避ケル爲ニ省略致シマス、最後ニ一言致シマス、回顧スレバ昭和四年、蠶絲業ノ非常時ニ落込シテ以來、今日ニ至ル迄我ガ蠶絲業ハ幾多ノ困難危機ヲ切抜ケテ參リマシタガ、其當時ハ我ガ蠶絲業ハ全然無方針無統制ノ状態デ、唯成行任セニ放任セラレテ居ッタノデアリマス、此苦キ試練時代ヲ經テカラ、漸ク官民協力ノ步調ガ整ツテ參リマシテ、昭和八年頃カラシテ當局ニ於テモ蠶絲業ノ更生刷新ニ關スル所ノ施設計畫ニ乗出シ始メタノデアリマス、先ヅ其對策方針ト致シマシテハ、蠶絲類ノ優良品ノ廉價生産、生産販賣ノ統制、需要ノ増進等ノ三大目標ヲ確立セラレマシテ、著々其方策ヲ施設化サレテ來タノデアリマス、而シテ今期議會ニ至リマシテ、漸ク茲ニ蠶絲業ノ中心機構トナルベキ所ノ本案ガ、此議政壇上ヨリ産聲ヲ擧ゲントスルニ至ッタノデアリマス、私ハ國民經濟ノ動脈タル蠶絲業ノ前途ノ爲ニモ、將又久シク不安ニ鎖

サレテ居リマシタ所ノ内外生絲市場ノ爲ニモ、眞ニ祝福ヲ禁ジ得ナイノデアリマス、最近歴代内閣ヲ通ジマシテ、蠶絲業ニ關スル施設ダケハ、兎ニモ角ニモ官民協調ノ實ヲ示シテ參リマシテ、稍、一貫セル方針ノ下ニ、著々建設的施設ヲ進メテ參リマシテ、漸ク蠶絲業對策ノ機構的屋臺骨ダケハ組立テラレントスルニ至リマシタコトヲ喜ブト共ニ、茲ニ農林當局ノ不斷ノ努力ト、議會ノ協調トニ對シテ、聊カ多トスルニ足ルベキモノガアルコトヲ確信致スノデアリマス、重ネテ政府當局ハ本案ノ運用其宜シキヲ得テ蠶絲業更生ノ實績ヲ舉ゲラレントコトヲ切ニ要望致シマシテ、本案ニ對スル所ノ贊成ノ意思ヲ表明致シマス

平野君ノ贊成演說

私ハ本案ニ關シマシテ、三ツノ希望條項ヲ附シテ贊成ヲセントスル者デアリマス、社會大衆黨ノ本案ニ對スル反對ノ御意見ニ對シマシテハ、其議論ノ中ニ於キマシテハ、大イニ傾聴スベキモノアリト信ズル者デアリマスルガ、本案ガ我國千五百万人ノ養蠶農民ノ爲ニ、今日現實ノ經濟上ノ問題ニ對シマシテ、其利益ヲ擁護スルト云フ點ニ付キマシテハ、私ハ本案ハ相當ニ有益ナルモノデアルト云フコトヲ信ズル一人デアリマス、併ナガラ本案ニ對スル政友會、民政黨、昭和會ノ三派ニ依リマスル所ノ附帶決議ノ中ニ於キマシテハ、其附帶決議ノ精神其モノニ對シマシテハ、十分吾々ハ諒解致シマスデアリマスルガ、繭ノ生産費ヲ保障スベシト云フ點ニ關スル所ノ御主張ト云フモノニ對シマシテ、稍、薄弱ノ點ナキカト云フコトヲ考ヘマスルガ故ニ、私ハ獨自ノ希望條件ヲ附シマシテ、本案ニ對スル所ノ贊成ヲシタイト思フノデアリマス、議論ヲ進メマスル上ニ於キマシテ、先ヅ私ノ希望致シマスル所ノ條項ヲ讀上ゲマシテ、其上ニ於テ私ハ議論ヲ進メタイト思フノデアリマス、一、本法案運用ニ當リ常ニ養蠶農民ノ立場ヲ留意シ繭ノ生産費ヲ保障スベシニ、絲價安定委員會ニハ必ズ養蠶農民ノ代表ヲ入ルベシニ、政府ハ蠶絲業對策ヲ樹ツルニ當リ養蠶業ヲ以テ主タル産業トスル府縣ト然ラザル府縣トヲ劃一的ニ取扱フコトナク前者ニ對シテハ特ニ考慮ヲ拂フベシ、以上三項デアリマス、第一ノ私ノ希望條

項ノ一ツデアリマスル所ノ、繭ノ生産費ヲ保障スベシト云フ點ニ對シテ、山崎農林大臣ハ、本案ノ特別委員會ニ於テ屢々吾々ニ對シマシテ、其心持ト云フモノハ十分之ヲ諒トスルト云フコトヲ繰返シ答辯サレテ居リマス、又蠶絲局長ハ此點ニ於キマシテ、繭ノ生産費ヲ必シモ本案ハ擁護スベキモノデハナイト雖モ、本案運用ニ當ッテ養蠶農民ノ立前ト云フモノヲ、吾々ハ十分考慮スベキモノデアルト云フコトヲ、附言サレテ居ルト思フノデアリマス、私ハ此點ニ於キマシテ農林大臣ニ希望ヲ申シマスルコトハ、常ニ農業政策ガ議會ニ提案サレマスル時ニ、其所管農林大臣ガ、其案ニ對シテセラレマスル答辯ト云フモノハ、何時モ農民階級救護ト云フコトニ對シマシテ、洵ニ言葉ノ上ニ於テハ誠意ガアルヤウデアリマスガ、愈、是ガ運用サレマス、甚ダ農民ノ期待ヲ裏切ルト云フコトガアリマスルガ故ニ、本案ニ關シマシテハ、斷ジテ其點ナキヤウト云フコトヲ、農林大臣ニ篤ト私ハ希望スル者デアリマス、次ニ本案ニ對シテ吾々ガ質問ヲ致シマシタ重點ノ中ニ、本案運用ノ途上ニ當リマシテ、製絲業者ト養蠶業者ト利害ガ相反スルコトガ起ラナイカト云フ問ニ對シマシテ、當局ハ本案運用ノ途上ニ當ッテハ、製絲業者ト養蠶業者ト利害ハ概ネ相一致スルト云フ答辯ヲサレテ居リマス、併ナガラ私ハ本案運用ノ途上ニ於キマスル所ノ、製絲業者對養蠶業者ノ利害ニ對シマシテ、必ズ是ガ一致スルト云フ見解ヲ持ッテ居ラレル點ニ付キマシテハ、私ハ必シモ贊成出來ナイノデアリマス、何トナレバ本案ノ第十一條ニ於テ、本日此處ニ於テ、委員長モ説明サレマシタ通り、十一條ノ運用ニ依リマシテ、製絲業者ハ其製造販賣ニ關スル費用ト云フモノガ、完全ニ擁護サル、ト云フコトハ、法ノ明記スル所デアリマスガ、併シ生絲ノ値段ガ決定致シマシテモ、繭ガ出來上リマシテ一舉ニ市場ニ繭ガ殺到シマシタ時ニ於テ、其繭ヲ成ベク安ク買取ラウトスルコトハ、是レ製絲業者ノ當然ノ心理デアリマスガ故ニ、其場合前議會ニ於テ通過致シマシタ產繭處理統制法ト云フモノヲ以テ、十分是ガ統制ヲ爲シ得ルモノデアルト云フ、蠶絲局長竝ニ農林大臣ノ御答辯デアリマスケレドモ、此點ニ關シマシテハ、特ニ十二分ノ注意ヲ以テ、其運用アランコトヲ私ハ希望シテ已マナイ者デアリマス、次ニ私ハ本案ノ運用ニ當リマシテ、生産費ヲ保障スベシト云フ言葉ニ對シテ、稍、

當局ニ難點ガアルヤウニ考ヘラレマスケレドモ、是ハ私ノ見解ヲ以テ致シマスナラバ、繭ノ生産費ト云フモノノ内容ヲ仔細ニ點檢致シテ見マス時ニ、其生産費ノ大部分ヲ占メルモノハ桑デアルト云フコトハ、何人モ御承知デアリマセウ、繭ノ原料ハ即チ桑デアアル、其桑ノ原料ハ何デアアルカト申シマス、是ハ肥料デアリマス、今日全國ノ統計ニ依ッテ、蠶絲局カラ發表サレマシタ、繭一貫目ニ對スル所ノ生産費ト云フモノヲ見マス、一貫目四圓四十四錢一厘ト發表サレテ居リマス、其四圓四十四錢一厘ノ中ニハ、桑ノ代金ガ二圓十二錢九厘含マレテ居リマス、即チ約半分デアリマス、是ハ帝國農會ノ調ニ依リマシテモ、全國蠶絲業聯合會ノ調ニ依リマシテモ、略、同一ノ統計ニナツテ居ルコトヲ見マスレバ、要スルニ繭ノ生産費ノ五割ガ桑代デアルト云フコトハ明瞭デアリマス、然ラバ其桑ノ生産費ト云フモノハ、如何ナル狀態ニアルカト申シマス、茲ニ私ハ山梨縣松里村ニ於キマスル養蠶實行組合ガ調ベテ居ル實際ノ調査ヲ見マス、一反歩ノ畑ヨリ生産サレマス所ノ桑ガ約四百束、其四百束ノ中ニ於テ、繭一貫目作ルニ要シマスル桑ヲ十三束ト致シマシテ、一反歩カラ三十貫ノ繭ヲ取ルノデアリマス、三十貫ノ繭ヲ一貫目五圓ニ賣ッタト致シマス、其收入ハ百五十圓、併シ此調査ノ中ニ於キマシテハ、一反歩ニ對スル所ノ小作料ト云フモノガ三十圓、肥料代金ガ二十五圓含マレテ居リマス、即チ小作料ト肥料代金ガ合計五十五圓デアリマシテ、百五十圓ノ繭ヲ作ル中ニ、肥料代ト小作料ト云フモノガ、約三分ノ一以上アルト云フコトハ、如何ニ養蠶農民ガ繭ノ生産費ヲ低下シヨウト思ヘバ、肥料代金ト小作料ト云フモノニ重點ガアルカト云フコトハ、一見明瞭デアラウト思フノデアリマス、此意味ニ於キマシテ、私ハ農林大臣ニ希望ガアリマス、農業政策ト云フモノハ、肥料統制法ハ肥料ダケノコト、繭ノ統制法ハ繭ダケノコト、米ノ統制法ハ米ダケノコトト云フヤウニ、總テノ法案ヲ縱ニノミ解釋サレテ、米ノコトハ是デ宜イ、繭ノコトハ是デ宜イト云フ見解ノ下ニ、農業政策ヲ樹テラルベキモノデハナイ、何トナレバ總テノ政策ト云フモノハ米ノ問題デアアル、繭ノ問題デアアル、肥料ノ問題デアアルニアラズシテ、其背後ニアル農民ノ生活ト云フコトニ、如何ナル影響ガアルカト云フコトガ重點デナクテハナラヌ、斯ウ考ヘマスル時ニ、繭ノ生産費ヲ低下セシ

トスルナラバ、先ヅ昨年ノ議會ニ於テ通過致シマシタ重要肥料統制法ナル法律ニ依ッテ、肥料ノ値段ト云フモノヲ、今日相當ニ低下セシムルト云フコトハ、是レ農林大臣ガ本案ノ施行ニ當リマシテ、當然考慮ニ入レラレナケレバナラヌ問題デアルト私ハ確信スル者デアリマス、即チ此意味ニ於キマシテ、私ハ本案ト昨年通過致シマシタ重要肥料統制法ト云フ二ツノ法律案ヲ見ル時ニ、若シモ今回出來ル絲價安定法案ノ中ニ於ケル所ノ、絲價安定委員會ニ於キマシテ、養蠶農民ノ生産費ト云フモノヲ、農民階級ガ犠牲ニシナケレバナラヌト云フ時ガアルナラバ、一方ニ於テハ肥料統制委員會ニ於テ、肥料會社ハ肥料ノ生産費ヲ割ッテモ、之ヲ農民ニ供給スルト云フ考ガナクテハナラヌト云フコトヲ斷言シテ憚ラナイ者デアリマス、斯ウ云フ風ナ考カラ致シマシテ、本法案ハ雷ニ繭ノ問題、生絲ノ問題デアアルバカリデナク、是ハ我國ノ農業政策ノ根幹ニ當ル所ノ、千五百万ノ農民ニ對シテ重大ナル影響アル法案デアルト云フコトヲ考ヘマスル時ニ、其他ノ法律案ト之ヲ相併用致シマシテ、少クトモ私ノ第一ノ希望條件デアアル、繭ノ生産費ヲ絕對ニ農民ニ保障スベシト云フ一點ニ對シマシテハ、私ハ此演壇ヨリ確カト山崎農林大臣ニ希望スル次第デアリマス、第二ノ希望條件デアリマスル所ノ、絲價安定委員會ニハ必ズ養蠶農民ノ代表ヲ入ルベシ、此點ニ付キマシテ農林大臣ハ屢、委員會ニ於テ説明ヲサレタ所ニ依リマスルト、アナタ方ノ之ニ對スル希望ト云フモノハ十分ニ分ッテ居ル、絲價安定委員會ニ農民ノ意見ヲ反映スベシト云フコトハ、十分ニ考慮スルト云フコトヲ、幾タビカ約束ヲサレテ居リマスルノデ、私ハ此點ニ關シマシテハ、暫ク農林大臣ノ言明ヲ信用致シマシテ、私ハ本問題ニ對シマシテハ是レ以上論及ヲ致シマセヌ、第三ノ政府ハ蠶絲業對策ヲ樹ツルニ當リ、養蠶業ヲ以テ主タル産業トスル府縣ト、然ラザル府縣ト云フモノヲ、別箇ニ扱ヘト云フ議論ニ付テ、若干ノ説明ヲシタイト思フノデアリマスルガ、全國ノ繭ノ生産費ト云フモノヲ見マスルト、言フ迄モナク相當ニ是ハ全國ニ於テ開キガアリマス、而シテ養蠶ヲ以テ主タル使命ト致シテ居リマスル長野縣、愛知縣、群馬縣、埼玉縣、山梨縣、茨城縣、岐阜縣等ニ於キマシテハ、其受ケル打撃ト云フモノハ、繭價ノ低下ニ依ッテ莫大ナル損害ヲ受ケルノデアリマスガ、故ニ苟モ農民ヲ



救済スルト云フ見地ニ立ッテ蠶絲業政策ヲ立ツルナラバ、是等ノ養蠶ヲ以テ主タル産業ト爲ス縣ト、然ラザル縣ニ對スル區別ヲ立テラレルト云フコトハ、是レ豈ニ蠶絲業ノ問題ノミニ非ズシテ、我國ノ農業、副業ニ對スル政府ノ方針ト致シマシテ、絶對ニ考ヘラルベキ理由ガアルト私ハ信ズル者デアリマス、此意味ニ於キマシテ、私ハ此三ツノ希望條件ヲ山崎農林大臣ニ篤ト希望シ、而モ委員會ニ於ケル答辯ヲシテ單ナル議會ニ於ケル答辯ニアラズ、之ヲ全農民ノ前ニ眞實ナル所ノ答辯ト致シマシテ、本案運用ニ關シテ萬遺憾ナキヲ期セラレタイト云フ希望ヲ附シマシテ、以テ本案ニ賛成ヲ致シマス

起立採決ノ結果兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二、第三讀會ヲ開キ委員會報告ノ通可決シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十日可決奏上シ同月三十日六三ハ法律第十六號、六四ハ法律第十七號ヲ以テ公布セラレ

### 六五 アルコール專賣法案

#### アルコール專賣法

第一條 アルコールノ製造ハ政府ニ專屬ス

第二條 本法ニ於テアルコールトハアルコール分九十度以上ノアルコールヲ謂フ

アルコール分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有ス

ルアルコールノ容量ヲ謂フ

第三條 政府ハ本法施行前一年間引續キ業トシテアルコールヲ製造シタル者ニ對シ本法施行ノ際ニ限り其ノ製造ヲ特許スルコトヲ得

相續、會社ノ合併又ハ營業ノ讓受ニ因リアルコールノ製造業ヲ承繼シタル場合ニ於テハ被相續人、合併ニ因リテ消滅シタル會社又ハ讓渡人ノ爲シタル製造ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ相續人、合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ讓受人ノ爲シタル製造ト看做ス

第四條 アルコールハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ズ

第五條 アルコール製造者ハ製造場一個所毎ニ毎年其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ一年度内ニ製造スベキアルコールノ數量、製造方法及アルコール分ノ度数ヲ定メ豫メ政府ノ許可ヲ受クベシ

政府ハ特ニ必要アル場合ニ於テハアルコールノ製造原料ヲ指定スルコトヲ得

第六條 アルコール製造者ノ製造スベキアルコールノ數量ハ製造場一個所毎ニ一年度内五十石ヲ下ルコトヲ得ズ但シ同一製造場内ニ於テ第十七條ノアルコールヲ製造スルトキハ其ノ數量

ヲ合算スルモノトス

アルコール製造者前項ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲サザルトキハ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因ルコトヲ證明スルニ非ザレバ政府ハ其ノ不足石數ニ對シ其ノ賠償價額ト第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ徵收ス

第七條 アルコール製造者ハ左ノ場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一 製造場又ハ藏置場ヲ新設、變更又ハ廢止セントスルトキ  
二 其ノ他本法ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキ

第八條 アルコール製造者ノ製造ニ係ル酒母及醪ハ之ヲ讓渡シ、質入シ、飲料トシテ消費シ又ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケズシテ製造場ヨリ移出スルコトヲ得ズ

第九條 相續人が被相續人ノアルコールノ製造業ヲ承繼シタルトキハ相續人ハ其ノ製造ノ特許ヲ受ケタルモノト看做ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノアルコールノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ其ノ製造ノ特許ヲ受ケタルモノト看做ス

第十條 アルコールノ製造業ヲ讓受ケアルコールヲ製造セントスル者ハ讓受前アルコール製造

ノ特許ノ承繼ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ之ヲ相當ト認ムルトキハ政府ハ特許ノ承繼ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 アルコール製造者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ特許ノ取消ヲ求ムベシ

第十二條 アルコール製造者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ハ其ノアルコール製造ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一 三年以上引續キ其ノ製造ヲ爲サザルトキ  
二 第三十三條第三號ノ規定ニ依リ處罰又ハ處分セラレタルトキ

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ取消シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内製造其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ仍本法ヲ適用ス

第十三條 アルコール製造者ノ製造シタルアルコールハ政府之ヲ收納ス

第十四條 政府ハ收納スルアルコールノ品質及アルコール分ノ度數ヲ定ムルコトヲ得

收納ニ適セザルアルコールニ付テハ政府ハ適當ナル處理ヲ爲スベキ旨ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 政府ハ收納シタルアルコールニ對シ賠償金ヲ交付ス

賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示ス

第十六條 アルコール製造者ノ製造シタルアルコールハ總テ之ヲ政府ニ納付スベシ  
政府ハ納付ノ期日及場所ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 酒造税法又ハ酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ製造免許ヲ受ケタル者ガ酒類又ハアルコール含有飲料ノ原料トシテ其ノ同一製造場内ニ於テ製造スルアルコールニハ本法ヲ適用セズ

第十八條 アルコールノ製造方法ヲ試験研究スル爲アルコールヲ製造セントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條、第八條、第十一條乃至第十六條、第三十條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ收納及賣渡ニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十九條 政府ハ其ノ賣渡スアルコールノ價格ヲ定メ之ヲ公示スベシ

第二十條 左ニ掲グル用途ニ供スル場合ニ於テハ政府ハ前條ノ價格ニ拘ラズ特ニ定メタル價格ヲ以テアルコールノ賣渡ヲ爲スコトヲ得

- 一 命令ヲ以テ定ムル揮發油混入ノ用ニ使用スルトキ
- 二 命令ヲ以テ定ムル工業ノ用ニ使用スルトキ
- 三 輸出又ハ移出ノ用ニ供スルトキ

第二十一條 前條ノ價格ヲ以テ賣渡スアルコールニ付テハ政府ハ買受人ヲシテ其ノ賣渡價額ト第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ノ全部又ハ一部ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ノ擔保ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 第二十條ノ價格ヲ以テアルコールヲ買受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ用途ニ供シタルコトヲ證スル書類ヲ政府ニ提出スベシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ政府ハ其ノ賣渡價額ト第十九條ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ヲ納付セシム

買受人前項ノ金額ヲ納付セザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ提供セシメタル擔保アルトキハ之ヲ以テ納付セシムベキ金額ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及前項ノ金額ニ充テ不足アルトキハ之ヲ徵收シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十三條 第二十一條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者前條第一項ノ書類ヲ提出シ又ハ前條第二項ノ金額ヲ納付シタルトキハ政府ハ其ノ擔保ヲ還付ス

第二十四條 第二十條ノ價格ヲ以テ買受ケタルアルコールヲ讓渡シ、質入シ又ハ其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第二十二條及前條ノ規定ハ前項ノアルコールヲ讓渡シ又ハ其ノ用途ヲ變更シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 第二十條ノ價格ヲ以テ買受ケタルアルコールノ使用數量ガ買受數量ニ對シ正當ノ事由ナクシテ不足シタルトキハ其ノ不足數量ニ對シ第二十二條第二項及第三項竝ニ第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 第二十條第二號ノ用途ニ供スルアルコールニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ變性ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 第十九條ノ價格ヲ以テ政府ノ賣渡シタルアルコールヲ命令ノ定ムル所ニ依リ第二十條第二號又ハ第三號ノ用途ニ供シタル者ハ其ノ買受價額ト第二十條第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ算出シタル金額トノ差額ニ相當スル金額ノ交付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得  
前項ノ請求ハアルコールノ使用、輸出又ハ移出後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十八條 アルコールハ政府又ハ政府ノ指定シタル賣捌人ニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ  
アルコール賣捌人及アルコールノ販賣ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 アルコールハ政府ノ賣渡シタルモノニ非ザレバ之ヲ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ズ但シ試験研究ノ爲政府ノ許可ヲ得テ製造スル場合又ハアルコール製造者納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ノ遅延シタル場合ニ於テ所有又ハ所持スルハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 當該官吏ハアルコール製造者、アルコール賣捌人又ハ第二十條ノ規定ニ依リアルコールヲ政府ヨリ買受ケタル者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 アルコール製造者、アルコール賣捌人又ハ第二十條ノ規定ニ依リアルコールヲ政府ヨリ買受ケタル者ノ所持スルアルコール

二 アルコールノ製造、納付又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 アルコールノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、容器、材料其ノ他ノ物件

第三十一條 本法ニ依リ納付セシムベキ金額ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第三十二條 政府ハアルコール製造ノ委託ヲ爲スコトヲ得

第七條、第八條、第十六條、第二十九條、第三十條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 政府ノ特許、許可又ハ委託ヲ受ケズシテアルコールヲ製造シタル者

二 第四條ノ規定ニ違反シアルコールノ輸入又ハ移入ヲ爲シタル者

三 政府ニ納付スベキアルコールヲ讓渡シ、消費シ又ハ隱匿シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シ製造場若ハ藏置場ヲ新設、變更若ハ廢止シ又ハ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタル者

二 第二十四條第一項ノ規定ニ違反シアルコールヲ讓渡シ、質入シ又ハ其ノ用途ヲ變更シタル者

三 第二十九條ノ規定ニ違反シ政府ノ賣渡サザルアルコールヲ所有シ、所持シ、讓渡シ、質入シ又ハ消費シタル者

四 アルコール賣捌人ニ非ズシテアルコールヲ販賣シタル者

第二十二條第二項及第三項竝ニ第二十三條ノ規定ハ前項第二號ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル製造原料ヲ使用セザル者

二 第八條ノ規定ニ違反シ酒母又ハ醪ヲ讓渡シ、質入シ、消費シ又ハ製造場ヨリ移出シタル者

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十四條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ命令シタル處理ヲ爲サザル者

二 正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル納付期日ニアルコールヲ納付セザル者

三 第三十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ、虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第三十七條 第三十三條、第三十四條第三號若ハ第四號又ハ第三十五條第二號ノ罪ヲ犯シタル者アルトキハ其ノ犯罪ニ係ルアルコール、酒母、醪及其ノ容器竝ニアルコール製造用機械器具ハ之ヲ沒收ス其ノアルコール、酒母又ハ醪ニシテ沒收スルコト能ハザルニ至リタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ付テハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ但シ第三十六條第三號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條 アルコール製造者、アルコール賣捌人又ハアルコールヲ政府ヨリ買受ケタル者ハ

其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ  
基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ  
得ズ

第四十條 間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發ス  
ル命令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

間接國稅犯則者處分法中收稅官吏及稅務署長ニ屬スル職務ヲ行フベキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ム

第四十一條 アルコール製造者其ノ製造ノ特許ヲ取消サレ又ハ其ノ業務ヲ廢止スルモ製造場又  
ハ藏置場ニアルコール、酒母又ハ醪ノ現存スル間ハ仍本法ヲ適用ス

附則

第四十二條 本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 第三條ノアルコール製造者又ハ本法施行ノ際現ニアルコールノ製造方法ヲ試驗研  
究スル爲アルコールノ製造ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ製造ヲ繼續セントスルモノハ本法  
施行ノ日ヨリ一月内ニ製造ノ特許又ハ許可ヲ受クベシ其ノ期間内ハアルコールノ製造ヲ爲ス  
コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許又ハ許可ヲ受クル迄ノ間ニ製造シタルアルコールニ關シテハ本法ヲ準  
用ス

第四十四條 本法施行ノ際現ニアルコールノ販賣ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ販賣ヲ繼續セ  
ントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ二月内ニアルコール賣捌人ノ指定ヲ受クベシ其ノ期間内ハ  
アルコールノ販賣ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ指定ヲ受クル迄ノ間ニ於ケル販賣ニ付テハ本法ヲ準用ス

第四十五條 昭和十二年三月三十一日迄ニ酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ査定又ハ檢定ヲ受ケ  
タルアルコールニシテ本法施行ノ際現存スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四十六條 酒精及酒精含有飲料稅法第四條中「及清涼飲料」ヲ「清涼飲料及アルコール專賣法  
ノ適用ヲ受クル酒精」ニ改ム

第四十七條 酒母、醪及麴取締法第一條中「酒類ノ製造免許」ノ下ニ「又ハアルコール專賣法ニ  
依リアルコール製造ノ特許、許可若ハ委託」ヲ加フ

右ハ昭和十二年二月十九日本院ニ提出ス同月二十七日日本案及六七、六八、七〇ノ四案ヲ一括シテ  
第一讀會ヲ開キ結城大藏大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ諸法案ニ付キマシテ、先ヅ「アルコール」專賣法案ニ付テ提案ノ理由ヲ說

明致シマス、燃料國策ニ應ジ揮發油ノ使用量ヲ減ジマスル爲ニ、之ニ「アルコール」ヲ混用セシムルコトノ緊要デアリマスルコトハ、申ス迄モナイ所デアリマス、然ルニ「アルコール」ヲ揮發油ニ混用致シマス爲ニハ多額ノ數量ヲ要シマスノデ、其供給ニ付テハ一部ヲ臺灣等ヨリ移入スルノ外、内地ニ於テモ新ニ生産計畫ヲ樹テネバナラヌノデアリマス、而シテ其供給價格ハ之ヲ低廉ニスル必要ガアリマスノデ、其製造ヲ民間事業トシテ經營セシメマス時ハ、國庫ヨリ多額ノ補助ヲ要スル次第デアリマス、又其製造原料トシテノ甘藷、馬鈴薯等ノ農産物ヲ多量ニ使用致シマスル關係上、本工業ハ農村經濟ニ密接ナル關係ヲ有スルモノデアリマスノデ、揮發油混入用「アルコール」ノ製造ハ、收益ヲ目的トセザル新規ノ事業デアリ、且ツ農村ニ至大ノ利害關係ガアリマスカラ、原則トシテ政府自ラ之ヲ經營スルコトト致シマシテ、尙ホ適當ト認メマスル場合ニハ、民間ニモ其製造ヲ委託スルコトト致シマシテ、尙ホ適當ト認メマスルシメマスル爲ニハ、是ガ賣渡價格ヲ均一ニスルコトヲ要シマスルト、取締ノ關係ヨリ政府ニ於テ直接其賣渡ヲ行フモノデアリマス、次ニ工業用等ノ「アルコール」ハ、揮發油混入用ノ「アルコール」ト殆ド其品質ヲ等シクシテ居リマシテ、相互ニ融通性ガアリマス、又其供給ハ主トシテ臺灣、南洋等ヨリノ移入ニ俟ツモノデアリマシテ、其稅收入ハ現在ニ於キマシテハ臺灣總督府、南洋廳ノ收入トナツテ居リマスガ、之ヲ消費地タル内地ノ收入ニ爲スコトニ改ムルコトト致シマシタ、而シテ其實行ニ當リマシテハ、課稅ノ方法ニ依ルヨリモ、之ヲ專賣ト致シマシテ、稅金ニ相當スル金額ヲ加算シテ賣渡スル適當ト認ムルノデアリマス、尙ホ現在内地ニ於テ之ヲ製造スル者ニ對シテハ、其製造ヲ特許スル次第デアリマス、次ニ一般會計歳出ノ財源ニ充テ爲メ特別會計ヨリ致シマス繰入金ニ關スル法律案外二件ノ提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、一般會計歳出ノ財源ニ充テ爲メ、當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル所ニ依ツテ、特別會計カラ一般會計ヘ繰入金ヲ致シマス必要ヲ認メマシテ、昭和十二年度ニ於テハ通信事業特別會計カラ千二百六十四萬圓、帝國鐵道特別會計カラ三千萬圓、關東局特別會計カラ百五十萬圓、朝鮮總督府特別會計カラ九百四十五萬圓、臺灣總督府特別會計カラ五百二十五萬圓、樺太廳特別會

計カラ百九十五萬圓、南洋廳特別會計カラ百十萬圓ヲ、ソレト一般會計ニ繰入ル、コトト致シマシタ所、右繰入ニ關シマシテハ法律ノ制定ヲ必要ト致シマスルノデ、此一般會計歳出ノ財源ニ充テ爲メ特別會計ヨリ致シマス繰入金ニ關スル法律案ヲ、提出致シマシタ次第デアリマス、次ニ對支文化事業特別會計ノ資金ハ、現行法ニ於キマシテハ國債ヲ以テ保有シ、又ハ大藏省預金部ニ預入レ、之ヲ運用シ得ルコトニ規定セラレテ居ルノデアリマスガ、此際其運用方法ヲ擴張致シマシテ、支那ニ於ケル文化ノ助長ニ資スル共ニ、日支兩國ノ經濟的緊密ヲ強メル方面ニモ、必要ニ應ジ其資金ヲ運用シ得ル途ヲ開クヲ適當ト認ムルノデアリマス、又山東懸案解決ニ關スル條約竝ニ山東懸案鐵道細目協定ニ依ツテ受領致シマシタ膠濟鐵道國庫證券ハ、現在一般會計ト本會計トニ分屬致シテ居リマスルガ、此機會ニ於テ其全部ヲ本會計ニ一括保有セシムルヲ適當ト認メマシテ、同國庫證券ニシテ現ニ一般會計ノ保有ニ係ルモノヲ、本會計ニ歸屬セシムルコトト致シマシテ、本會計ノ資金カラ右證券ノ額面金額竝ニ其經過利子ニ相當スル金額ヲ、一般會計ニ繰入ル、コトト致シマシタデアリマス、右ノ趣旨ニ依リマシテ、對支文化事業特別會計法中改正法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、終リニ一般會計歳出ノ財源ニ充テツル爲メ大藏省預金部特別會計ヨリ致シマス繰入金ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、昭和十二年四月一日ヨリ郵便貯金利率ヲ二厘四毛方引下グルコトト致シマシタル結果、將來大藏省預金部特別會計ニ毎年度約八百萬圓ノ餘裕金ヲ生ズル見込デアリマスルガ、當該餘裕金ハ其性質ニ顧ミマシテ、出來得ル限り之ヲ社會政策的諸施設ノ財源ニ充テツルヲ適當ト認メマシテ、昭和十二年度以降毎年度他ノ法律ニ依ツテ繰入ヲ爲スモノノ外、更ニ六百萬圓ヲ限リ、大藏省預金部特別會計ヨリ、一般會計ニ繰入ルコトト致シマシタ、右繰入ニ關シマシテハ法律ノ制定ヲ必要ト致シマスルノデ、本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル次第デアリマス

岩瀬亮君、佐竹晴記君、伊豆富人君、小谷節夫君及笠井重治君ハ質疑ヲ爲シ結城大藏大臣、伍堂

商工大臣、杉山陸軍大臣、堀内外務次官、荒井大藏省專賣局長官及岡田外務省對支文化事業部長  
應答ス

岩瀬亮君ノ質疑

只今御提案ニナリマシタ「アルコール」專賣法案ニ對シマシテ、極ク簡單ニ數箇ノ質問ヲ致シタ  
イト存ジマス、現下ノ時局ヨリ致シマシテ、國防ノ充實ヲ圖ラネバナラヌコトハ申スマデモア  
リマセヌ、ガ併シ如何ニ飛行機ヲ作りマシテモ、戰車ヲ作りマシテモ、又軍艦ヲ作りマシテ  
モ、其原動力タル燃料ノ補給ニ缺陷ガアリマシテハ、到底國防ノ獨立安全ハ期シ難イノデアリ  
マス、隨テ世界何レノ國ヲ見マシテモ、液體燃料ノ缺乏シテ居ル國ニ於キマシテハ、ソレハ  
是ガ補給ノ途ヲ講ジテ居ルノデアリマス、近時我國ニ於キマシテモ、燃料國策ガ高唱セラレマ  
シタコトハ、洵ニ當然ナコトデアリマシテ、寧ロ遲キニ失スルトサヘ思フ位デアリマス、倍テ  
先ヅ第一ニ御尋致シタイコトハ、此間伍堂商工大臣ガ本議場ニ於キマシテノ御答辯ニ依リマス  
ルト、政府ハ石炭液化等ニ依リマシテ燃料問題ヲ解決スベク、最近民間事業會社ヲ設立シテ、  
其製造ヲ行ハントスルモノヤウニ承ツテ居リマス、洵ニ結構ナコトト思ウテ居ルノデアリマ  
ス、併シ同ジ液體燃料デアリマスル「アルコール」ニ對シテノミハ、之ヲ民營ニ委ネズシテ、政  
府自ら專賣ヲ強行セントセラレルノハ、如何ナル理由ニ基クモノデアリマスカ、十分ナル御説  
明ヲ承リタイノデアリマス、私ハ燃料國策ノ立前カラ、製造方法ニ於テモ、亦採算ノ上カラ致  
シマシテモ、非常ナ困難ヲ伴フ所ノ石炭液化事業ノ如キモノコソ官營トシ、既ニ相當ノ發達ヲ  
爲シ、尙ホ十分發達普及ノ餘地アル所「アルコール」ノ如キハ、之ヲ民營ニ委ネルコトハ何等  
支障ナキノミナラズ、却テ其方ガ豐富低廉ナル供給ヲ得ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、  
之ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、次ニ政府ガ「アルコール」ヲ製造スルニ  
當リマシテ、其原料ハ何ニ求メラレルカ、木材ヲ以テ「アルコール」ヲ製造スル方法モアリマス  
ルガ、是ハ現在我國ノ主要産業タル纖維工業ノ資源ヲ、益々涸渴セシムル結果ト相成リマスルノ

デ、我國ニ於キマシテハ是ハ不適當ト思フノデアリマシテ、結局政府ニ於キマシテハ甘藷、馬  
鈴薯等ノ農産物ヲ以テ其原料トセラレルコトト思フノデアリマス、彌ッテ農村ノ實情ヲ見マス  
ルニ、農村ノ疲弊困憊ノ原因ハ多々アリマスルガ、其中農村ノ收入所得ノ少イコトガ、其最モ  
大ナル原因ノ一ツデアリマス、仍テ農村ノ收入所得ノ増加ヲ圖ルコトガ、農村救済ニ最モ肝要  
ナコトト思フノデアリマス、而シテ甘藷及馬鈴薯ハ何レモ耐旱耐冷ノ作物デアリマスルガ故ニ  
「アルコール」原料ヲ木材ニ依ラズシテ、此甘藷及馬鈴薯ニ依リマスレバ、全國到ル所ニ生産ヲ  
増シ、原料ニ困難ヲ來スコトガナイノミナラズ、農村ニ對シ數千萬圓ノ收入増加ノ途ヲ開クコ  
トガ出來テ、正ニ一石二鳥ノ妙案デアラウト考フルノデアリマス、唯現在ノ作付反別及ビ品種  
ニ依ツテハ、急速ニ巨大ナル要求ヲ充タスコトハ困難ト思フノデアリマス、即チ「アルコール」  
製造ニ對シ必然的ニ原料ノ不足ヲ生ジ、政府ノ專賣工場ニ非常ナル支障ヲ來ス虞アリト思フノ  
デアリマス、而モ政府ノ專賣工場ハ、我國ニ於ケルソレ等農産物ノ主要産地ニ設置サル、ヤウ  
ニ承ツテ居リマスルガ、現在ニ於ケル此ノ種農産物ノ主要産地ハ、過去數十年來、澱粉製造工  
業及ビ燒酎工業ノ中心地デアリマシテ、是等ノ工業者ガ陰ニ陽ニ其原料生産ノ爲ニ並々ナラヌ  
努力ト犠牲ヲ拂ツテ、本日ニ至ツタノデアリマス、而モ是等ノ地域ニ於キマシテハ、最早増産  
ハ其多クヲ望ミ得ナイノデアリマス、仍テ政府ガ專賣工場ヲ斯ル地域ニ設置セラル、ナラバ、  
ソレ等地域ノ民間澱粉製造業者及ビ燒酎製造業者ハ、忽チニシテ原料價格ノ騰貴又ハ原料ノ不  
足ヲ生ジ、爲ニ事業ノ經營困難トナリ、遂ニ其生活權ヲ奪ハル、コトトナリ、實ニ由々シキ  
社會問題ヲ惹起ス虞アリト考フルノデアリマス、即チ政府ハ是等ノ澱粉業者及ビ燒酎業者ニ、何  
等ノ影響ヲ與フルコトナクシテ、「アルコール」原料ニ對スル豐富低廉ナル供給ヲ、行ハル、確信  
ヲ有セラル、ヤ否ヤ、又政府ハ疲弊困憊ノ甚シキ農山村地域ニ專賣工場ヲ設置シテ、其開發ヲ  
圖ルガ最モ至當ト思フガ、其意思アリヤ否ヤ、政府ノ明確ナル御答辯ヲ煩シタイノデアリマス、  
第三ニ御伺致シタイノハ「アルコール」專賣ハ内地ノミトシテ、臺灣朝鮮ニ施行セラレザル理由  
ニ付テデアリマス、特ニ臺灣ニ於テハ酒類ノ專賣ヲサヘ實施シテ居ルノデアリマスルニ拘ラ



ズ、承ル所ニ依リマスレバ、製糖會社ノミニ其製造ヲ專屬セシムル由デアリマスルガ、斯ノ如キ新興工業ハ内外地共ニ民間企業ニ委ネ、其發達普及ヲ指導スルコトガ、産業ノ振興擴充ヲ圖ラントスル政府ノ聲明ニ、合致スル所以ト思フノデアリマスルガ、内外地、制度ヲ異ニシタル理由ヲ承リタイノデアリマス、第四ニハ政府ハ「アルコール」ノ揮發油混入ヲ、昭和十三年度ヨリ實施セントセラル、ノデアアルガ、現在「アルコール」ノ時價ト揮發油ノ時價トノ間ニハ、相當ノ開キガアルノデアリマスルガ、其點ノ調整ハ如何ニセラル、ノデアアルカ、承リタイノデアリマス、第五ニ伺ヒタイノハ、政府ハ揮發油混入用ノ「アルコール」ノ外、一般化學工業用「アルコール」ニ對シテモ之ヲ專賣トセラル、ノデアリマスガ、斯テハ其取引ニ徒ラニ段階的ノ手續用「アルコール」ノミト限定セザリシ理由ヲ、承リタイノデアリマス、專賣ノ範圍ヲ揮發油混入度ヨリ「アルコール」ノ揮發油混入ヲ行ハントスルノデアリマス、最後ニ政府ハ昭和十三年ノミヲ昭和十二年四月一日ヨリ、施行セントスルノデアリマスルカ、而モ其施行期日迄ニハ本日ヨリ數ヘマシテモ、僅ニ一箇月ヨリナイノデアリマス、政府ハ既ニ專賣ノ準備ガ整ウテ居ルノデアリマスカ、私ハ是ハ昭和十三年四月一日ノ誤リデハナイカトサヘ思ハル、ノデアリマスガ、政府ノ御用意ト御意見ヲ承リタイノデアリマス、以上述べマシタ六ツノ質問ニ對シテ、政府ノ詳細明確ナル御答辯ヲ承リタイノデアリマス

結城大藏大臣ノ應答

只今岩瀨君ノ御尋ニ對シテ御答申上ゲマス「アルコール」ヲ專賣ニシタ理由ハドウデアアルカト云フコトデアリマスガ、提案ノ理由ニ御説明申上ゲマシタヤウニ、此ハ多額ノ數量ノ「アルコール」ヲ要シマスルノデ、新ニ生産計畫ヲ立テネバナラヌト云フコトト、供給價格ヲ成ベク低廉ニシタイト云フコトカラ、民間デアルコトニナリマス、自然ニ相當ノ補助金ヲヤラネバナラヌト云フコトニナリ、此專賣ハ收入ヲ目的トシタノデアリマセヌノデ、自然ニ國家ガ幾分力損ヲ致

シマシテモ、燃料國策ノ上カラヤラネバナラヌト云フヤウニ考ヘテ、提案スルコトニナッタノデアリマス、其次ニ「アルコール」製造ハ何ヲ原料トシテヤルノカト云フコトデアリマシタガ、是ハ甘藷デアリマストカ、馬鈴薯デアアルトカ云フモノヲ原料ニ致シマスガ、サウナルト、自然其近邊ニアル澱粉業者ヤ何カノ業務ニ、影響スルコトガナイカト云フ御尋デアリマシタ、其邊ハ十分考慮致シマシタガ、是ハ今後其原料ヲ得マス爲ニハ、相當ニ生産ノ増加トカ、或ハ新ニ耕地ノ擴張ト云フヤウナコトノ方法ヲ採ラネバナリマセヌノデ、ソレ等ヲ致シマシテ、自然農村ノ收入増加ノ一助ニモナラウト思フノデアリマスガ、新ナル生産計畫ヲ立テマス時ニ、澱粉業者其他ニ、惡影響ノナイヤウナ方法ヲ講ズルデアリマス、ソレカラ何故日本内地ダケデ、外地デハヤラヌカト云フコトデアリマスガ、是ハ我國ノ國策ニ順應スルト云フコトニ於テハ、何レモ異存ノナイコトデアリマスガ、ソレノ地域ニ於ケル製造方法其他ニ付キマシテ、特殊ノ事情ガアリマスノデ、是ハ内地ダケニ致シタヤウナ次第デアリマス、其他ノ御質問ニ對シテハ、政府委員ノ方カラ御答申上ゲタ方宜カラウト思ヒマス、尚ホ此機會ニ於キマシテ、去年二月二十日ニ衆議院本議會ニ於テ私ニ御質問ノアリマシタ時ニ、私ガ豫算總會ニ出テ居リマシテ不在デアリマシタノデ、御答スルコトガ出來マセヌデシタ箇條ニ付テ、御答ヲ申上ゲタ方宜カラウト存ジマス、其一ツハ河野君カラノ御質問デアリマシテ、此關稅率ノ一般改正案ヲ出サヌデ、縮小修正シタコトニ付テハ、ドウ云フ考デアッタカト云フコトデアッタサウデアリマスガ、是ハ一般ノ改正案ハ、相當ニ龐大デアリマシテ、其全部ニ付テ十分ニ再檢討ヲ致ス時ガアリマセヌト、一面關稅ノ改正ガ、直グニ物價ノ騰貴ニ影響スルヤウナコトナドガアリマスノデ、其邊ノコトヲ考慮致シマシテ、全部提出スルコトハ暫ク見合セマシタヤウナ次第デアリマス、其次ニ複關稅定率法ニ付テノ御質問デアリマシタガ、ソレヲ再ビ提出致シマセヌデシタ理由モ、ヤハリ再檢討ニ時日ヲ要スル爲メデアリマシテ、今後慎重ニ研究ヲ續ケテ、適當ナル成案ヲ得次第ニ提案致シタイト考ヘテ居リマス、又貿易伸暢ヲ唱ヘナガラ、輸出ヲ阻礙スルヤウナ輸出統制稅ヲ設ケルノハ不都合デヤナイカ、矛盾デヤナイカト云フ御質問ガアッタサウデアリマスガ、是ハ嘗テ申上ゲマシタヤウニ、

輸出統制税ハ寧ろ輸出貿易ノ進展ヲ圖ル爲メノ施設ニ必要ナル經費ノ財源トシテ使フ考デアリ  
 マシテ、貿易伸暢ノ趣旨ニ合致スルモノデヤナイカト考ヘテ居ル次第デアリマス、其次ニ自由  
 通商主義ニ依ル積リデアルカ、經濟鎖國主義ニ依ル積リデアルカ、斯ウ云フ御質問モアッタサ  
 ウデアリマスガ、此點ハ渡邊君カラモ御尋ガアッタヤウニ承ッテ居リマス、元來外國貿易ハ自  
 由通商ガ常道デアリマス、併ナガラ現下ノ各國ノ通商政策ニ對スル態度ヲ見マスルト、我國ノ  
 ミ獨リ自由通商ト云フコトニ參リマセヌノデ、ソレ等各國ノ通商政策ニ對應スル爲メ、又現在  
 ノ本邦産業經濟ニ對應スル爲ニハ、外國貿易ニ關シテ、相當ナ方策ヲ執ル必要ガアラウト考ヘ  
 ルノデアリマス、併ナガラ元々國際經濟ハ自由通商デアアルベキ筈デアリマスカラ、今ノヤウナ  
 經濟鎖國主義ノ盛ナコトニ付キマシテハ、甚ダ遺憾ニ感ジテ居ル次第デアリマス、尙ホ世界經  
 濟會議ノ招請ガアッタ場合ニ、之ニ應ズルカドウカト云フ御尋デアリマシタガ、サウ云フ場合  
 ガアリマシタ時ニハ、之ヲ拒絕スル理由ハ持チマセヌ、無論其時ノ外交事情其他ノ狀況ニ依ッ  
 テ、考ヘネバナラヌコトデアリマスガ、十分ニコチラノ方ノ考モ述ベル機會ヲ持ツコトハ、  
 適當デアラウト思フノデアリマス、ソレカラ上田君カラハ、後日委員會ニ於テ御質問ガアル  
 ト云フコトデアリマシタサウデスカラ、其節ニ御答ヲスル方ガ便宜デアラウト存ズルノデアリ  
 ス、又二月二十五日ニ郵便法中改正法律案ガ上程サレマシタ時ニ、眞鍋君カラ御質問ガアリマ  
 シタノデ、ソレニ對シ此際御答ヲ致シタ方ガ適當カト存ジマスガ、ソレハ通信事業特別會計  
 カラ、一般會計ヘノ繰越金ニ關スル御質問デアリマシタガ、我國今日ノ財政狀態ト致シマシテ  
 ハ、租税公債等ニ財源ヲ求メマスト共ニ、比較的餘裕ノアル特別會計カラ、ソレゾレ相當ノ應援  
 ヲ求メマシテ、ソコニ一般會計ト特別會計トノ調整ヲ圖リタイト云フコトデ、關係省ト協議ヲ  
 致シタ次第デアリマシテ、是ハ已ムヲ得ヌ處置ト存ズルノデアリマス、左様ニ致シマシテ各特  
 別會計カラ繰入レマシタ金額等ニ付キマシテハ、先刻提案ノ御説明ヲ申上ゲタ次第デアリマス  
 カラ、ソレニ依ッテ御了承ヲ願ヒタイト存ジマス

荒井大藏省專賣局長官ノ應答

只今御質問ノアリマシタ最後ノ點ニ付キマシテ、御答辯申上ゲマス「アルコール」ヲ揮發油ニ混  
 用致シマスノハ、十三年度デアアルニ拘ラズ、「アルコール」專賣法ヲ十二年度カラ實施スル、其  
 理由ハドウ云フ譯デアアルカ、斯ウ云フ御趣旨ニ拜聽致シタノデアリマスガ、成程「アルコール」  
 ヲ揮發油ニ混用致シマスノハ、昭和十三年度カラノ豫定デアリマス、併シ是ガ準備ノ爲ニ工場  
 モ建設致シマスシ、又原料關係ノ準備モアリマスノデ、其點ヨリ本法ヲ十二年度ヨリ施行スル  
 コトト致シタノデアリマス、尙ホ他ノ一點ハ工業用等ノ「アルコール」ニ付キマシテ、只今大臣  
 カラ御説明ガアリマシタ通り、從來ハ臺灣、南洋廳ニ於キマシテ、税金ノ關係ヲ扱ッテ居ッ  
 ノデアリマスルガ、ソレヲ昭和十二年度カラ、内地ニ於キマシテ專賣收入ト致シマシテ、税金  
 ニ相當スルモノハ之ヲ徵收シ、又交付金ト致シマシテ、戻税、免稅等ニ相當スル分ハ、ヤハリ  
 内地ニ於テ行フト云フコトニ致シマシタ爲ニ、十二年度ヨリ施行ト云フコトニ致シタ次第デア  
 リマス

岩瀬君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今大藏大臣及ビ政府委員ノ御答辯ガゴザイマシタガ、私ハ之ニ依ッテ満足ハ出來ナイノデア  
 リマスガ、詳細ノ點ニ付キマシテハ、委員會ニ讓リマシテ、私ノ質問ハ是デ打切りマス

佐竹晴記君ノ質疑

私ハ大藏大臣並ニ商工大臣ニ御尋ヲシタイト考ヘマス、第一本法施行ニ依ッテ、我國液體燃料  
 ノ缺乏ヲ如何ナル程度ニ緩和シ得ルノデアアルカドウカ、此點ヲ御尋シタイト思フノデアリマ  
 ス、本案提出ノ理由書ニ依レバ燃料國策ニ應ジ揮發油混入用「アルコール」ノ供給ヲ確實豊富ナ  
 ラシムル爲メ及ビ工業用「アルコール」ノ專賣ヲ必要トスルニアリ、ト云フノデアリマス、文明  
 ノ進歩發達ニ伴ヒ、石油ノ消費額ガ著シク増大シ、而モ此液體燃料ガ如何ニ國防並ニ産業上ニ

於ケル重要性ヲ有ツテ居ルカト云フコトハ、今更言フ俟タナイ所デアリマス、林首相ガ此演壇ヨリ、今ヤ東洋ハ一觸即發ノ状態ニ在リト言ハレタコトト思ヒ合ハセマスル時ニ、此「アルコール」專賣ニ依ル燃料國策樹立ノ計畫ニ對シマシテハ、深甚ナル關心ヲ有タザルヲ得ナイノデアリマス、然ラバ先ヅ我國ニ於ケル揮發油ノ消費額ハ、如何ナル額ニ達シテ居ルノデアルカ、又其消費ガ如何ニ急激ニ増大シツ、アルカ、更ニ一旦緩急アル時ニ、何程ノ「ガソリン」ヲ要スベキカ、之ヲ知ルコトヲ要スルト同時ニ、進ンデ此必要ニ應ジ、何程ノ供給ヲ爲シ得ルカガアルカドウカ、又何程ノ貯藏ガアルカドウカ、更ニ代用燃料ヲ幾何生産シ得ル能力ヲ、我國ニ於テ有ツテ居ルカドウカ、此點ヲ究メナケレバナラナイト同時ニ、進ンデ今同提案サレマシタ「アルコール」專賣計畫ニ依リ、ドノ程度ニ燃料供給ノ確實豐富ナルコトヲ期シ得ラル、カ、又一旦緩急アル時、其政策實行ニ依リ、如何ナル效用ヲ發揮シ得ルノデアルカドウカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、仍テ當局ニ於カレマシテハ、的確ナル數字ノ上ニ立ツテ、其實情ヲ審カニシ、且ツ專賣法實施ニ依リテ、果シテ燃料國策ノ満足ヲ期シ得ラル、カ否カラ明答サレタイノデアリマス、第二點ハ、進ンデ石炭液化事業ニ付テ御尋ラシタイノデアリマス、本案提出ノ理由ハ「アルコール」ヲ專賣ニスルコトニ依ツテ、之ヲ「ガソリン」ニ混入シ、燃料ノ確實豐富ヲ圖ラントスルニ在ルト云フノデアリマス所、「ガソリン」ノ莫大ナル消費、殊ニ戰前ニ比シ約二百四十倍ト云フ消費激増振リヲ示シテ居リマス我國ノ状態ニ於キマシテハ、此「ガソリン」對策ニ依ツテ、即チ「アルコール」ヲ一割ヤ一割位強制混入スル程度デハ、決シテ燃料國策ノ完璧ヲ期シ得ラレルモノデハナイト、私共ハ憂ヘルノデアリマス、而モ石油其モノ、産出、或ハ輸入ガ意ノ如クナラナイト致シマスナラバ、必然的ニ代用燃料ノ工業化ガ焦眉ノ急トナリマスルコトハ、今更私ヨリ贅言ヲ要シナイ所デアリマス、其代用燃料工業化ノ第一ニ數ヘラルベキモノハ、何ト申シマシテモ石炭ノ液化事業デナケレバナラヌト考ヘマス、此對策ヲ樹立致シマシテコソ、初メテ日本ノ燃料國策ガ確立セラレルモノト思フノデアリマス、而シテ「ガソリン」一砲ヲ生産スルニハ、石炭約五砲ヲ要スルト言ハレテ居ル、ソコデ何ト申シマシテモ、先ヅ石

炭鑛業ヲ國營トシ、石炭ヲ豐富且ツ低廉ニ供給シナケレバナラナイコトハ申上ゲル迄モナイ、滿洲炭ヲ含メテ一元の統制ヲ樹立致シマシテ、石炭液化事業ヲ政府自カラ經營致シマシテ、原料供給ヲ含メタル一貫作業ノ下ニ、利潤ヲ拔キニ致シマシテ、積極的ニ人造石油ヲ生産スルコトニ努力致シマスナラバ「コスト」ヲ低下セシメテ、採算ヲ取り得ル確實性ガ十二分ニアルト私ハ考ヘルノデアリマス、少クトモ差當リ、政府ニ於カレマシテハ、重要産業統制法ノ公益規定ヲ活用致シマシテ、石油鑛業聯合會及ビ其共販機關タル、昭和石炭會社ノ石炭市價吊上竝ニ維持ノミニ汲々ト致シテ居リマスル態度ヲ是正シ、眞ニ低廉ナル石炭ヲ豐富ニ供給セシメマシテ、以テ石炭液化事業ヘ邁進スベキモノデアルト私ハ思フノデアリマス、然ルニ政府ハ此點ニ付テ何等ノ努力ヲ致シテ居ラヌノデアアル、石炭鑛業資本家ノ利潤ヲ保護シタイコトニ專念ノ餘リカ、將亦石油政策ノ中ニ石炭液化工業ヲ含メナイト云フ御精神ナカ、ハッキリシタ御答辯ヲ承リタイノデアアル、第三ニ「アルコール」ヲ「ガソリン」ニ混用スル必要ニ迫ラレテ居リマスル状態ノ下ニ於キマシテハ、各國トモ有ユル代用燃料工業化ニ腐心ヲ致シテ居リマスルガ、政府ハ何故ニ「ガソリン」ノ合成、「ベンゾール」ノ製造、或ハ瓦斯發生爐ノ代用獎勵等ニ付テ、今少シク積極的強行政策ヲ斷行シナイノカ、申上ゲル迄モゴザイマセヌガ、獨逸ニ於キマシテハ千九百三十五年ニ「ルールヘミー」會社ニ於テ、水性瓦斯「コークス」爐瓦斯ヲ原料トスル「ガソリン」ノ合成事業ノ企業化ニ成功致シマシテ、一箇年間約百三十万噸ノ輕質代用燃料ノ自給ガ出來ルト言ハレテ居リマス、日本ニ於キマシテモ、アノ臺灣ニ於テ天然瓦斯ガ猛烈ニ噴出ヲ致シテ居リマス、之ヲ原料ト致シマスナラバ、相當多量ノ合成「ガソリン」ヲ生産シ得ルコトハ、洵ニ明カナコトデアルト思フ、其他代用燃料工業化ニ付キマシテハ、大イニ計畫スベキモノガ多カ、少クトモ今日ノ状態ヨリ見マスルナラバ、過去ノ政府ノ執リタル態度ハ、極メテ消極怠慢デアッタト言ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、今日米國ハ全世界ノ石油産額ノ六七%ヲ有シ、英國ガ一七五%ノ石油資源ヲ有シテ居リマスルコトハ、決シテ一朝一夕ニ之ヲ得タモ

ノデハナイノデアマリス、過去ノ血ノ滲ムガ如キ石油爭奪戰ト、政府ノ厚キ保護援助ノ賜ニ外ナラヌノデアリマス、佛蘭西ガ歐洲大戰ノ苦盃ヲ嘗メテ以來、大戰後熱心ナル外交工作ニ依リマシテ、千九百二十年「サンレモ」協約ヲ英國ト結ブニ至ツテ「イラク」油田ノ開發ニ參加スルノ機會ヲ得、更ニ千九百二十四年佛蘭西石油會社設立ニ際シマシテハ、政府ハ多大ノ出資ヲ致シマシテ、著々トシテ其燃料國策樹立ニ邁進ヲ致シテ居リマシテ、其成果ヲ收メツ、アルデハアリマセヌカ、伊太利ガ大戰中ノ苦キ經驗ニモ拘ラズ、認識不足ナリシ爲ニ立遅レトナリ、最近漸ク其政策樹立ニ進ミツ、アルコト御承知ノ通りデアリマス、獨逸ノ素晴ラシキ發展ノ如キハ、最早私ヨリ申上ゲル迄モナイ、然ルニ日本ハ此間一體何ヲ爲シタカ、現在日本ハ其技術ノ上ニ於テ、獨逸ヨリ十年遅レテ居ルト云フコトヲ、商工省ノ課長サン自ラガ發表シテ居ルデハナイカ、今頃「アルコール」專賣デ以テ、國策樹立ノ緒ニ就キタリト思フナラバ、ソレハ失笑ニ値スル、政府ハ何ガ故ニ今少シク時局ニ鑑ミ、代用燃料工業化ニ邁進ヲ致シマセヌカ、明確ナル御答辯ヲ御願スル次第デアリマス、其次ハ第四、政府ハ何故ニ曩ニ提案致シマシタ帝國燃料興業株式會社法案ヲ引込メ、之ニ關スル液體燃料ノ自給促進ニ關シマスル約一千三百万圓ノ經費ヲ削除致シマシタカ、政府ハ一面「ガソリン」關稅ノ引上、同消費稅ノ新設ヲ企テ、居リマス、此「ガソリン」稅引上竝ニ本法案ト液體燃料自給政策トハ、相表裏ヲ爲シマシテ、不可分ノ關係ニアルニ拘リマセズ、政府ハ其後者ノ費目ノミヲ削減致シマシテ、燃料國策ノ重要ナル部分ヲ拋棄シタノデアリマス、其爲ニ加重スル負擔ノミヲ大衆ニ負ハシメ、一面ニ石油資本家ヲシテ約七十万圓ト云フ莫大ナル利益ヲ增加セシメナガラ、肝腎ナル此燃料自給策ヲ遷延致シマスノハ、果シテ信念アル爲政者ノ爲スコトデアリマセウカ、政府當局ノ所信ヲ承リタイノデアリス、其次第五、政府ハ燃料國策樹立ニ伴ウテ、缺クベカラザル勞働政策ノ持合セガアルデゴザイマセウカ、竝ニ立地政策ニ付テ御考慮セラレテ居ルデゴザイマセウカ、御尋ヲ申上ゲタイノデアリマス、九州大牟田ニアリマス三池窒素ノ工場ヲ滿洲ニ移スヤウニト、滿洲側ヨリ三井當路者ニ德惠ガアリマシタ時ニ、三井ハ熟練工ガナイカラトノ理由ニ依ツテ、之ヲ拒絶シ

タト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、熟練工ガナクシテ斷ジテ燃料國策ハ樹立ノ出來ナイト云フコトヲ證シテ餘リガアルト、私ハ思フノデアリマス、ソレガ爲ニハ勞働條件ヲ引上ゲ、待遇ヲ改善シ、文化的施設ノ下ニ、平素ヨリ教養スルコトヲ急務中ノ急務デゴザイマスルコト、固ヨリ私ヨリ申上ゲル迄モナイ、一觸即發ノ危機ニアル、而モ燃料不足ノ悲鳴ヲ擧ゲテ居リマス今日、若シ一旦緩急アリトセバ如何相成リマスルカ、泥棒ヲ押ヘテ繩ヲ縛フノ愚ハ、豫メ之ヲ避ケンケレバナラヌト考ヘマスルガ、政府ニ致シマシテ如何ナル對策ヲ御持合セニナツテ居ラレマスルカ、又九州大牟田ヨリ滿洲ニ移シテ吳レロト云フ德惠ノアリマシタコトニ鑑ミマスルモ、總テ近代産業ガ土地ノ便利ノ上ニ立タザレバ困難デアルト云フコトヲ物語ツテ餘リアル、例ヘバ撫順附近ニ於キマシテ、石炭油化工場ヲ起ストカ、其他、地ニ據ツテ生産ノ便ヲ得ルト云フコトガ、即チ立地政策ヲ執ルト云フコトガ「コスト」ヲ低廉ナラシメル上ニ於テ、極メテ重要ナル關係ニ立ツテ居ルモノト考ヘマスルガ、政府當局ニ於カル、御所見ヲ拜聽致シタイノデアリマス、其次第六「アルコール」ヲ政府專賣トスルコトニ依リマシテ、其「コスト」ヲ何程ト爲スコトヲ得ルカ、又何程ヲ以テ之ヲ販賣シ得ル所ノ見透シガ付カレテ居リマスルカ、「アルコール」ハ現在ノ「ガソリン」ニ比シマシテ、其「コスト」ハ高價デアルト政府要路ノ方々ヨリ發表セラレテ居リマス、專賣スルコトニ依ツテ、ドレダケデ出來ルカモ分リマセヌガ、其高價ナル「アルコール」ヲ強制混入スルコトニ依リテ「ガソリン」ノ一般市價ニ影響スルコトナキヤ、現ニ「ガソリン」値上ノ爲ニ自動車業者ハ悲痛ナル反對ノ聲ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、世論亦囂々タルモノガアル、是等ニ對シテ何等ノ摩擦ナク、圓滑ニ此計畫ガ遂行サレルト云フ政府ハ確信ヲ有タレテ居リマスルカドウカ、最後ニ第七「アルコール」生産原料ト農村振興トノ關係ヲ御尋ヲ申上ゲタイノデアリマス、本案ガ燃料國策樹立ノ目的ニ在リマスルコトハ勿論デアリマスガ、一面農村振興ノ爲ニ資セントスルニ在ルト云フコトハ、只今ノ大藏大臣ノ御説明ニ依ツテ、之ヲ明ニサレタノデアリマス、然ラバ其生産原料ハ如何ナル地方ニ分布サレ、又如何ナル農村ニ寄與スル所ノ見込デアルカ、其生産原料ハ政府要路ノ如キ數量ヲ獲得シ得ル自信ガアル

カドウカ、更ニ農村ノ受クベキ利益並ニ其效用ノ程度ヲ承リタイト思フノデアリマス、以上先  
ヅ七點ニ付テ御尋ヲ申上ゲマス

伍堂商工大臣ノ應答

御答致シマス、第一ニ「アルコール」ヲ混用致シマスコトニ依ツテ、ドノ位ノ程度ニ「ガソリン」  
ノ使用ヲ緩和シ得ルヤト云フ御尋デアッタと思ヒマスガ、今日自動車用ノ爲ニ「ガソリン」ガド  
ノ位使ハレテ居ルカト申シマスルト、極ク大約ノ數量デアリマスルガ、昨年ノ如キハ「ガソリ  
ン」ガ約百二十万「キロリットル」使用サレテ居リマシテ、其中ノ九五%ガ自動車用ニ使ハレテ居  
ルノデアリマス、斯様ナ見地カラ「ガソリン」ノ大部分ハ、今日自動車用デアリマスルカラ、是ノ  
節約ト云フコトガ、燃料政策トシテ最モ重要ナコトニナルノデゴザイマス、ソコデ混用ノ實施  
ハ十三年度カラ致ス積リデアルコトハ、大藏大臣ガ申サレタ通りデアリマス、混用ノ程度ハ各  
國ノ例ニ依リマシテモ、一割乃至二割迄ニ及ブコトニシテ居リマスルガ、十三年度カラ直チニ斯  
様ナ大キナ割合ヲ以テ混用スルコトハ「アルコール」ノ生産ノ方面カラ見マシテモ出來マセヌデ  
ゴザイマス、ソコデ十三年度ハ先ヅ二%半カラ始メテ行キタイト思フノデゴザイマス、十三年  
度ノ自動車ニ要スル「ガソリン」ノ使用量ヲ、大體百三十五万「キロリットル」ト見テ居リマシ  
テ、是ガ二%半デアリマスルカラ、約三万五千「キロリットル」ノ「アルコール」ガ要ル譯ナノデ  
ゴザイマス、斯ノ如キ目的ニ使ヒマス「アルコール」ハ、極メテ純粹ナモノガ要ルノデゴザイマ  
シテ、九九%位ノ純「アルコール」ガ必要トサレルノデアリマス、此意味ニ於キマシテ工業用ノ  
「アルコール」迄モ含メマシテ、專賣法ヲ適用シヨウト云フノデゴザイマスルガ、何故ニ工業用  
迄モ入レルカト申シマスルト、工業用「アルコール」ノ優良ナ部分ガ、此自動車ノ「アルコール」ニ  
使ハレルト見テモ宜シウゴザイマスカラ、其區別ガ中々難カシイノト、ソレカラ工業用「アル  
コール」ヲ更ニ精製ノ度ヲ高メマシテ、純粹ニ近イ「アルコール」ヲ拵ヘルノデアリマスカラ、ド  
ウシテモ之ヲ一絡ニ含メタ方ガ、效果ガ舉ガルト見テ居ルノデゴザイマス、次イデ燃料政策ニ

付テノ御尋デゴザイマスルガ、御承知ノ通り日本ノ現状ハ、燃料政策ガ遅レテ居リマス、ソレハ  
只今御話ニナリマシタ通りデアリマスルカラ、吾々ト致シマシテハ此燃料政策ハ鐵ノ政策ト共  
ニ、重要視シナケレバナラヌト覺悟シテ居ルノデアリマス、昭和十年ノ統計ニ依リマスルト云  
フト、我國デ使用致シマシタ液體燃料ハ四百七十万「キロリットル」、其中ノ國産品ハ僅ニ三十  
八万「キロリットル」デゴザイマスルカラ、八%位ニシカナライノデゴザイマス、之ヲ自給ニ導  
イテ行キマスノハ中々容易ナコトデハナイノデアリマシテ、國內ノ油田ノ開發ニ努メナケレバ  
ナライコトハ勿論、殊ニ北樺太ノ石油ノ權利ヲ擴張シ、開發ヲ促進スルコトニモ努メナケレ  
バナリマセヌガ、只今仰セノ如ク人造石油ノ事業ニ對シテハ、十分ナ努力ガ必要ナノデゴザイ  
マス、ソレニ付キマシテ今議會ニ於キマシテ、只今御話ニナリマシタ事業ヲ行ヒマスル帝國燃  
料株式會社——此法案ハマダ提出致シマセヌガ、其内容ニ付テ色々研究調査ヲ要スル點ガアリ  
マシテ、豫算面カラハ一度撤回シテアリマスルガ、他ノ方法ヲ以テ必ズ今議會中ニ、内容ヲ殆  
ド變ヘルコトナシニ——内容ト申シマスルノハ、其事業ノ内容デゴザイマス——不日提出スル  
積リデ居リマス、此會社ガ出來マシテ、七年後ニハ人造石油ノ揮發油百萬「キロリットル」及ビ  
重油百萬「キロリットル」、其生産能力ヲ備ヘル積リデ居リマス、中々是ダケノコトデハ足リナ  
イノデアリマスルガ、色々ノ事情カラ此程度ノモノヲ是非實現シタイト考ヘルノデアリマス、  
ソレカラ「アルコール」ヲ專賣トスレバ、燃料ノ「コスト」ガ上ガルノデハナイカ、即チソレガ爲  
ニ自動車營業者ガ非常ニ困ルノデハナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマスルガ、其價格ノ上ガルコ  
トハ已ムヲ得ナイノデアリマスガ、併シ上ゲナイヤウニ、ソレヲ政府ノ負擔ニ於テ行フト云フ  
目的ガ、即チ只今大藏大臣ガ説明サレマシタ「アルコール」專賣制度實施ノ目的ナノデアリマ  
ス、是ハ決シテ政府ガ儲ケル積リデハナイノデアリマシテ、赤字ガ出テモ、此混用ノ爲ニ市價  
ヲ騰貴セシメナイト云フ目的ヲ以テ行フ、即チ言換ヘレバ公益專賣トデモ申シタ宜イカト思  
ヒマス、此「アルコール」製造ノ爲ニ、農村ノ産業ニ惡影響ヲ及ボシハシナイカト云フ御尋デゴ  
ザイマスガ、是ハ十分ニ注意致シテ、其影響ノナイヤウニ努メタイト思ヒマス

荒井大藏省專賣局長官ノ應答

甘藷、馬鈴薯等ヨリ「アルコール」ヲ製造スルニ付キマシテ、其原料ニ付テ自信アリヤ否ヤト云フ御質問デアリマシタガ、是ハ農林當局トモ十分打合セテ致シマシタル所、今日甘藷、馬鈴薯ニ付キマシテハ、其反當リノ生産ノ増加ニ付テモ、随分餘裕ガアリマスルシ、亦耕地ノ擴張ニ付キマシテモ、比較的容易デアアル、又品種ノ改良ニ付キマシテモ、今後大ナル見込ガアルノデアリマス、斯ウ云フ各種ノ關係カラ、十分自信ヲ以テ製造ヲ始メルコトガ出來ルト云フ結論ニ歸著致シタノデアリマス、又其他ノ工場ヲ如何ナル方面ニ設置スルヤ、或ハ「ガソリン」ニ混入スル「アルコール」ノ生産費如何、斯ウ云フ點デアリマスガ、是ハ詳細ハ委員會ニ於テ御説明申上ゲルコトト致シタイト考ヘマスルガ、原則ト致シマシテ、工場ハ出來ルダケ産地ニ近ク設置致シタイ、而シテ農村ノ工場トシテ設置致シタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、又是ハ出來ルダケ廣ク設置致シタイト云フコトモ考ヘテ居リマスノデ、此點ニ付キマシテハ十分農林當局ト協議ノ上デ、農村ノ利益ニナルヤウニ計畫致シタイト考ヘテ居リマス

佐竹君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

尙ホ立入ッテ承リタイ點ガアルノデアリマスガ、細カクナリマスノデ、委員會ニ於テ詳細質問ヲ申上ゲルコトニ致シマシテ、當席ニ於キマシテハ私ノ質問ヲ是デ打切りマス

伊豆富人君ノ質疑

本案ニ付キマシテ簡單ニ大藏大臣、商工大臣ニ御質問申上ゲタイト思ヒマス、第一ニ御伺致シタイコトハ、只今政府ノ御説明ニ依リマス「アルコール」專賣ノ目的ハ、燃料國策ニ立脚シテ揮發油混入用酒精ノ供給ヲ、確實豊富ニスルト云フコトデアリマス、ソレニ付キマシテ御伺致シマスル一點ハ、果シテ然ラバ是ト關聯アル所ノ石炭液化化ト同時ニ御出シニナルコトガ出來ナカッタカドウカト云フコトガ「一ツデアリマス、モウ一ツハ、燃料國策ノ維持バカリデアリマスナラ

バ、純度九十九度以上ノ無水「アルコール」ノミニ限定サレルガ、至當デアルニ拘ラズ、政府ノ專賣ノ目的タル酒精ハ、酒精分九十度以上ノモノデアリマシテ、飲料ヲ除キ燃料用、工業用、化學用、藥用、化粧用等、一切ヲ包含シテ居ルノデアリマス、政府ノ眞意ハ燃料國策ノ確立バカリヲ目的トサレルモノデアリマスルカ、或ハ專賣制度ヲ實施スルニ、國庫ノ收入ヲ目的トスル專賣制度ヲ實施スルニアルノデアリマスルカ、其點ヲ御伺申上ゲタイト思フノデアリマス、第二ニ御尋申上ゲタイコトハ、酒類ト切離シテ酒精ノミニ專賣ハ、其本旨ニ副ハナイト云フコトデアリマス、專賣制度ハ現ニ大藏省ノ所管デアリマシテ、財政ノ目的ノ爲ニ設定セラレタモノデアリマス、ソレニ對スル政府ノ御所見如何デアアルカト云フコトデアリマス、前内閣ノ方針ハ、酒類ノ販賣モ意圖サレテ居ッタヤウニ、承知致シテ居ルノデアリマスガ、今回ハソレヲ「アルコール」專賣ノミニ切離シテ提出サレタコトニ對スル、御意向ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、又第三ニ御尋申上ゲタイコトハ、國庫ノ收入ノ伴ハナイ專賣制度ハ、財政上ノ通念ニ反スルノデアリカト思フノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ御伺申上ゲルノデアリマス、前内閣ノ方針ニ依リマスルト、焼酎ヲ酒精ト看做シ、焼酎販賣ノ益金ニ依リマシテ、揮發油混入用酒精ノ損失ヲ補填スル立前ヲ以テ、酒精ノ製造販賣、完全專賣ヲ實施セントサレタノデアリマス、然ルニ現内閣ハ焼酎ヲ酒精ト看做シテ、酒精ノ製造並ニ販賣專賣ヲ行フコトハ、稅制ノ根本的改革ヲ行ハナイ現政府ノ根本政策ニ抵觸スルトノ理由ノ下ニ、焼酎ヲ專賣制度ヨリ除外シテ、在來ノ所謂酒精ノミニ「アルコール」ノミニ專賣制度ヲ實施サレントシテ居ルノデアリマス、其結果ハ國庫ノ減收トナルノデアリマス、政府ノ酒精對策ガ揮發油價格ト、混入用酒精トノ價格ノ調整ヲ目的トスルモノナレバ、ソレハ國庫ノ增收ヲ目的トスル專賣デナク、寧ろ國庫ノ減收ニ依ル企業ノ助成デアルト、申サネバナラナイト思フノデアリマス、斯ノ如キ專賣制度ハ、全ク財政理論ト懸離レタル誤レル觀念ニ基クモノト言ハネバナリマセヌ、是等ニ對スル政府ノ御所見如何ト云フコトヲ御伺申上ゲルノデアリマス、又政府ハ「ガソリン」トノ價格ノ開キヲ如何ニ

シテ調節サレルカト云フコトモ、御伺申上ゲマス、次ニ御伺申上ゲタイコトハ技術上ノ問題デアリマス、無水酒精ノ製造ハ我國ニ於キマシテモ、未ダ研究途上ニ在ルモノト信ズルノデアリマス、而モ製造工程竝ニ消費過程ハ非常ニ複雑多岐ナルモノデアリマスルカラシテ、官業ニハ專口適シナイ、民間ノ自由企業ニ依ッテ其發達ヲ期セラル、コトガ、適當デハナイカト思フノデアリマス、「アルコール」ハ燃料用、工業用、化學用、藥用、化粧用等、有ユル工業ノ原料デアリマスカラ、之ヲ專賣制度ニ依ッテ拘束セラレルヨリモ、免許制度ニ依ッテ民間ニ製造セシムルコトヲ原則トシテ、サウシテ政府モ亦同時ニ製造サレルト云フ立前ヲ執ルコトハ出來ナイノデアリマスルカ、其點ヲ御伺申上ゲマス、私ガ御伺申上ゲタイ點ハ以上ノ諸點デアリマシテ、之ニ對シテ御答辯ヲ御願申上ゲマス

結城大藏大臣ノ應答

伊豆サンノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス「アルコール」專賣ハ燃料國策カラ出發シテヤルノデアルガ、ソレナラバ石炭液化ノ問題ト伴ッテ考ヘルカト云フ御話、是ハ今石炭液化ノコトニ付キマシテハ、商工省ニ於テ頻リニ立案ヲ急イデ居リマス、燃料國策ノ樹立ノ上ニ於テ、急イデヤラネバナラヌノデアリマシテ、ソレハ十分ニ此「アルコール」ノ專賣ト一緒ニ考究スルコトニナッテ居リマス、ソレカラ無水「アルコール」ノミヲ專賣トシタナラバ宜イデヤナイカ、九十度以上ノ「アルコール」ヲ專賣トスルノハ、ドウ云フ理由デアルカト云フ御尋ニ拜承致シマシタ、此「アルコール」專賣法案ハ、燃料國策ニ基イテ無水「アルコール」ヲ專賣トスルモノデアリマス、是ト其融通性ノアル九十度以上ノ「アルコール」、即チ工業用、藥用、其他ノ用途ニ使用セラレルモノニ對シマシテハ、ヤハリ徵稅上ノ關係カラ、是モ便宜專賣ニシタ方ガ宜カラウト云フコトカラ致シマシタヤウナ次第デアリマス、ソレカラ燒酎ヲ專賣ヲセヌデ除外シタノハ、ドウ云フ譯デアルカト云フコトデアリマスルガ「アルコール」ノ專賣ハ燃料國策ニ出發致シテ居リマシタノデ、燒酎ノ方ニナリマス、酒類ニ對スル稅法ノ改正ヲ致シマス考デアリマス

デ、ソレニ伴ッテ致サウト云フコトカラ、今回ハ除イタ次第デアリマス、ソレカラ燒酎ヲ專賣カラ除イテ、單ニ「アルコール」ダケノ專賣ニシタナラバ、國庫ニ損失ヲ來スヤウナコトガナイカト云フ御説デアリマスルガ、是ハ御尋ノヤウニ當分損失ヲ致シマス、併シ將來ノコトヲ考ヘ、又燃料國策ノコトヲ考ヘマスルト、餘儀ナイコトデアリマシテ、長イ將來ニ於テハ其邊ノ所ノ債ヒガアルダラウト存ジマス、專賣ハ必シモ收益主義ニノミ依ルモノデハナイト存ジマス、公益專賣ト云フコトモ考ヘラレマスノデ、今回ノ「アルコール」ノ專賣ハ、ドチラカト申シマスルト、公益專賣ト云フコトニナラウト思フノデアリマス、其點御答致シマス

伍堂商工大臣ノ應答

大體大藏大臣カラ御説明ニナッタト思ヒマスガ、殘ッテ居リマスノハ無水「アルコール」ノヤウナモノハ、非常ニ難カシイモノデアッテ、寧ろ是ハ役人ガヤルヨリモ、民間ニ委シタ方ガ結果ガ好クハナイカト云フヤウナ、御質問ノヤウニ承リマシタガ、是ハ私ハ寧ろ斯様ナ儲カラナイヤウナモノ、初メハ「コスト」ガ非常ニ掛ルヤウナモノコソ、政府ノ研究所等デ行ヒマシタ方ガ宜カラウト考ヘルノデゴザイマス、經濟的ニ參ルヤウニナリマスレバ、之ヲ民業ニ移シタ方ガ却テ宜イカトモ思フノデゴザイマス、ソレカラ佐竹サンノ御質問ニ對シテ、御答ヲ漏シタ點ガアリマスルカラ、簡單ニ申上ゲマスルガ、政府ニ於キマシテモ其他ノ代用燃料ニ付テ研究シ、尙ホ獎勵モ致シテ居リマスル、例ヘバ御承知ノ通り「ディーゼル」自動車、又木炭瓦斯ヲ使フ自動車等ニ付テ獎勵ヲ致シテ居リマスシ、又御話ノ合成「ガソリン」ニ付テモ、研究ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ燃料國策ト關聯シテ、勞働政策ニ付テ考慮シテ居ルカト云フ御話デゴザイマス、之ニ對シテハ最善ノ努力ヲ拂ヒタイト思フノデアリマス

伊豆君ノ再質疑

只今商工大臣ノ御答辯ヲ承ツタノデアリマスルガ、ソレニ依リマスルト「アルコール」ノ如キ「コスト」ノ高イモノハ民間ニ委ネルヨリ政府デヤッタ方が宜シイト云フヤウナ、御答辯ノヤウニ承ツタノデアリマスルガ、私ノ御尋致シマシタノハ、其意味デハナイノデアリマス、「コスト」ノ問題ト云フヨリモ、斯ノ如キマダ研究過程ニ在ル所ノ新シイ工業、而シテ其製造過程消費系統ガ複雑多岐ナルモノハ、官營デヤルヨリモ寧ロ民間ノ自由企業ニ委ネタ方が、適當デハナイカト思ハレルノデアリマス、ソレデ免許制度ニシテ民間ニ移シ、政府モ同時ニ製造サレルヤウナ御方針ニナサツテハ如何デアルカト、斯様ニ御尋申シタノデアリマス「コスト」ノ問題デハナカッタノデアリマスルガ、今一度御答辯ヲ願ヘレバ幸ヒデアリマス

伍堂商工大臣ノ應答

御答致シマス、能ク分リマシタ、斯様ナ新シイ工業、殊ニ高度ノ技術ヲ要スル工業ハ、官民相俟ツテ協力シテ行ヒタイト思ヒマス、其御趣意ヲ尊重シテ實施致シタイト思ヒマス

小谷節夫君ノ質疑

私ハ只今議題トナツテ居リマスル對支文化事業特別會計法中改正法律案ニ關聯致シマシテ、聊カ政府ノ所見ヲ質サントスル者デアリマス、私ハ支那ニ在スルコトガ今年デ三十三年ニナリマスガ、私ノ三十三年ノ支那生活中ハ勿論ノコト、更ニ遡ツテ私共ガモノ心付イテ以來、日支ノ關係ガ、前内閣ノ末期ノ如ク慘澹タル状態ヲ現ハシタコトハナイノデアリマス、アノ日清戰爭ノ如ク、日支兩國相戰ツタ場合ノ如キデモ、日本コソ舉國一致デアリマシタガ、支那ハ斷ジテ舉國一致デハゴザイマセヌ、戰爭ガ濟ミマシタ後ニ、日本ニ對スル敵愾心ガ横溢シテ居ツタカト申シマスルノニ、斷ジテ左様ナコトハナク、アレハ「リーホンチャン」即チ李鴻章ノ戰爭デアッタト片付ケテ、日本ノ長ヲ學バントシテ、日本カラ軍人ヲ備ヒ、學校ノ教員ヲ備ツテ、サウシテ日本ニ對スル非常ナ親善ナ空氣ヲ示シタコトハ、皆サンモ能ク御承知ノ通りデ

アリマス、日露戰爭ノ當時ノ如キハ、中立ト申シマセネバ蒙古方面カラ攻メラル、虞ガゴザイマスルノデ、局外中立ヲ標榜シテハ居リマシタケレドモ、日本ニ對シテ非常ナル援助ヲ致シマシタ、一時親英、親米ノ巨魁デ、排日ノ巨頭デアアルカノ如ク、張作霖側ノ惡宣傳ニ依ツテ、日本人ノ間ニ誤解セラレテ居リマシタアノ吳佩孚ノ如キモ、袁世凱カラ派遣セラレテ、日本ノ諜報勤務ヲ勤メマシテ、屢、死地ニ出入シテ居ツタ程デアリマシテ、日本トノ關係ハ頗ル緊密デアッタノデアリマス、之ヲ要スルニ日支兩國ノ關係ハ、時ニ消長ナキ能ハズデアリマスルガ、概シテ東亞ノ善隣タル兩國ノ立場ヲ理解シ合ツテ、徹底的ノ仇敵關係ヲ作ツタコトハ斷ジテナイノデアリマス、然ルニ昨年來兩國ノ關係ハ頗ル緊迫シ來リ、前内閣ノ末期ニ至ツテハ其最高潮ニ達スルニ至リマシタガ、其理由ハ抑、何デゴザイマセウ、滿洲國ノ問題デゴザイマセウカ、ソレモ理由ノ一ツニハ相違ゴザイマセウガ、是ガ最モ重大ナル理由デアルトシタナラバ、滿洲國問題ノ其直後ガ、モウ少シ陰鬱デナケバレナラナカッタ筈デアリマス、然ラバ北支那問題デゴザイマセウカ、北支那問題ガ重大ナル理由デアルトシタナラバ、其直後ガモウ少シ陰鬱ニナラナケレバナラナカッタ筈デアリマス、滿洲國問題、北支那問題、重大ナル理由ニナルベクシテ、ソレガ重大ナル理由ニナラズシテ、サウシテ後ニ非常ニ陰鬱ナ空氣ヲ呈シテ參リマシタ其理由ハ抑、何デゴザイマセウ、能ク皆サンモ御承知トハ存ジマスルガ、此重大ナル理由ハ、日本ノ慾望ノ限度ニ更ニ見透シノ付カヌコトデアッタノデアリマス、日本ハ此調子デハ支那全土ニ野心ヲ持ツテ居ルノデハナイカト云フ不安ガ、彼等ヲ驅ツテ夷ヲ以テ夷ヲ制スルノデハナクシテ、溺ル、者ハ藁ヲモ掴ムト云フ心理状態デ、一層英米ニ親シクシテ、一層露西亞ト握手セントスルヤウナ傾向ヲ呈シタノデアリマス、而モ今日飛行機トカ「ラデオ」トカト云フヤウナモノガ非常ニ發達致シマシテ、支那ハ統一ノ形ヲ作り易イ状態ニナツテ居リマス、又財政的ニハ幣制改革ガ稍、成功致シマシテ、不換紙幣ガ澤山出テ居リマスルカラ、自分達ノ持ツテ居ル紙幣ガ南京政府ガ潰レタナラバ、紙屑ニナツテシマフト云フ懸念モゴザイマスルノデ、今日マデ見タコトノナイヤウナ、國民的ノ稍、一致シタ形ヲ致シマシテ、窮鼠却テ猫ヲ嚙マントシテ、抗日戰線ヲ擴大強



化シ、失地回復ノ聲ヲ大ナラシメタノデアリマシテ、是ハ何トシテモ前内閣ノ一大失態デアッタト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ元々青島還付ニ憤慨致シマシテ、再ビカルガ如キ愚擧ヲ繰返スコトナカラシメンガ爲ニ、議會ニ發言權ヲ得ルコトヲ志シタ者デアリマス、其故ニ滿洲事件以後ノ帝國ノ執リマシタ態度ニ付キマシテハ、共鳴モシ、感謝モシ、非常ナ敬意ヲ拂ッテ居リマシタ、隨テ此壇上ニ立ッテ質問ガマシイコトヲ述立テル必要モ、要求ガマシイコトヲ言フ必要モナカッタノデアリマスガ、最近ノ支那ノ實情及ビ我國ノ對支政策ニ付テハ、一言ナカルベカラザルヲ感ジマシタノデ、今議會ニ於テモ是非トモ發言ノ機會ヲ得タイト思ッテ居ッタデアリマスルガ、其矢先ニ突如トシテ前内閣ガ崩壊シ、茲ニ林内閣ガ成立シタノデアリマス、林内閣ハ其組閣ノ當初ニ於テ、吾々ノ要求シテ居ッタ通り、過去ノ多元外交ヲ清算シテ一元外交トシ、秘密外交ノ弊ヲ排除シテ、國民ト共ニ明朗ナル外交ヲ行ハントヲ聲明シ、更ニ兩國相互ノ立場ヲ理解シ、相携ヘテ東亞安定ノ推進力タランコト、及ビ中華民國ニ對シ領土の野心ヲ有スルモノニ非ザルコト等ヲ表明シマシタノデ、全ク行詰ッテ居ッタ兩國關係ノ上ニ、一道ノ光明ヲ認メ、私共ニモ別ニ是等ノ問題ニ對シテ、質問ノ必要ヲ認メザラシムルニ至リマシタコトハ、洵ニ喜ブベキ事態ト言フベキデアリマス、此空氣ハ遙ニ南京方面ニモ反映致シマシテ、三中全會ノ如キモ、兎ニモ角ニモ露骨ナル抗日的ノ聲明ナドヲ發表シナクテ濟ンダコトハ、日支兩國關係ノ爲ニ、洵ニ御同慶ニ堪ヘナイ次第デアリマス、林内閣ノ對支政策、其箇々ノ方策ニ付テハ本會議ニ於テ、更ニ豫算委員會ニ於テ稍、具體的ニ聽クヲ得マシタ、尙ホ種々ノ機會ニ於テ一層具體的ニ御尋シテ見タイト存ジテ居リマスルガ、其方針方策ガ如何ニ立派デアッテモ、要ハ實行デアリマシテ、實行ノ伴ハナイ聲明ヤ演說ハ、百ノ聲明、百ノ演說モ蓋シ畫ケル餅ト擇ブ所ハナイノデアリマス、早イ話ガ、多元外交ヲ清算シテ一元外交トスルト言ッテ見タイ所デ、組閣當初ノ軍部關係ノ閣僚ノ銓衡ニ行惱ンダアノ状態ガ、國ノ内外ヲ問ハズ新聞紙ヲ通ジテ周知ノ事實デアアル限り、愈實際ノ御手際ヲ拜見セヌ限りハ、多少トモ危惧ノ觀念ヲ懷クノハ當然デアリマス、併シ是ハ林總理今後ノ努力ニ信賴スルトシテモ、過日來林總理ガ、

總理大臣トシテ或ハ外務大臣トシテ、色々ノ場合ニ述ベテ居ラレマスル問題ニ對シ、其實行上ニドレダケノ用意ト信念トヲ持ッテ居ラレルカハ、頗ル疑ナキ能ハズデアリマス、日支關係ヲ明朗化スル爲ニ相互ノ立場ヲ理解シ、國民相互ノ接觸ニ依ル感情ノ融和ニ努メルトカ、文化的ノ提携ニ努力スルトカ、數ヘ上ゲテ居ラレマスガ、其具體的ノ方策トシテハ、如何ナル手段ニ依ラントシテ居ラレルノデアアルカ不明デアリマス、今朝ノ新聞ヲ見マスルト、外務省アタリデモ、頻リニ實行上ノ方法ニ付テ研究シテ居ラレルヤウデアリマスルガ、其間特ニ經濟的ノ提携ト云フコトニナレバ、南京政府ノ申出ニ依ッテハ、今日英吉利ヤ亞米利加ガヤッテ居リマスヤウニ、經濟借款ヤ或ハ財政借款ニモ乗出ス信念ト、用意トガオアリニナルカドウカ、是ガ私ノ第一ニ承ッテ見タイ點デアリマス、十萬ノ生靈ヲ犠牲トシテ、二十億ノ國帑ヲ費シ國運ヲ賭シテ露國ノ東洋侵略ヲ喰止メ、由テ以テ今日ノ東亞安定ノ基礎ヲ築イタ其歴史ヲ無視シテ、張學良ノ一派ガ日本ノ權益ヲ蹂躪シ、日本人ヲ一人殘ラズ滿洲カラ追拂ッテシマハウト云フヤウナ暴擧ヲ敢テシタコトガ、滿洲事變ノ端トナリ、遂ニ今日滿洲國ノ出現ヲ見ルニ至ッタノデ、此歴然タル事實ノ前ニハ、張學良一派ガ感情的ニ失地恢復ヲ叫ブ以外ニハ、事理ノ分ッタ人達ハ敢テ此問題ニ觸ル、コトヲ好マナイノハ事實デアリマス、ソレハ又當然デアリマス、更ニ山東省ヲ含ム北支那一帶ガ、日滿支三國ニ最モ密接關係ヲ有スル地域デ、他ノ中部及ビ南部支那ニ對スルモノニ比シ、政治、軍事、經濟、有ユル點ニ於テ多少特殊ノ關係ヲ有セザルベカラザルコトモ、是亦自明ノ理デアリマシテ、相互ノ理解サヘ完全シタナラバ、是等ガ兩國關係ノ障礙タル筈ハナイノデアリマス、然ルニ南京政府ハ、却テ是等ノ問題ヲ排日教育ノ活キタル資料トシテ、第二ノ國民ヲ盛ニ抗日的ニ教育シテ居リマス、曾テ共產黨ヲ道伴レトシテ此伐ニ成功シタ蔣介石氏ガ、今ヤ嘗テノ道伴レデアッタ共產黨ノ爲ニ、非常ニ惱マサレツ、アル此教訓ヲ其儘ニ、今日ノ排日教育ガ他日如何ナル結果ヲ招來スベキカト云フコトハ、中國ノ當局者ヲシテ再思三省セシムベキデアリマス、日支交渉ニ於テコソ、未ダ一致點ヲ見出スコトガ出來ナカッタハ申シナガラ、過日ノ三中全會ハ、明ニ共產黨防衛ヲ、其主張ノ一ツニ數ヘテ居リマス、東洋ノ思想、道德ト相容レザル「コミンテルン」

ノ侵入ニ對シテハ、交渉ノ成立未成立ヲ問ハズ、日支兩國ノ意思ハ當然合致スベキモノデ、更ニ露國ノ東洋侵略ヲ防止スルガ爲ニハ、日支兩國ガ利害休戚ヲ一ニスルコトハ、彼ノ日露戰爭ノ當時ト更ニ擇ブ所ハナイノデアリマシテ、支那側ニ於テモ十分得心ノ行クベキコトデ、沈思默考シタナラバ對「コミンテルン」バカリデハナク、「ソ」聯ニ對スル日本ノ軍事ニ付テモ、之ヲ支持スベキガ當然デ、我國トシテモ故ラニ中華民國ヲ驅ツテ、日本ノ軍事行動ノ妨害者タラシムル必要ハ斷ジテナイト思フノデアリマス、故ラニ辭ヲ卑クシテ吾ヨリ求メルノデアリマセヌガ、以上ノ事理ヲ明ニシ、平素ノ場合ニ於テハ經濟提携ノ好キ相手方トシテ、特ニ北支那方面ハ企業的ニ、中部南部ノ方面ハ通商貿易的ニ、而シテ一旦緩急アル場合ニハ、好意的ノ支援者タリ得ルコトガ、兩國ニ約束付ケラレタ天賦ノ宿命デアルト存ズルノデアリマス、兩國關係ノ此事理ヲ明ニシ、誤解ヲ解キ、眞ノ提携ニ入ル第一ノ段階トシテ、現内閣ニ於テハ今日ノ對支文化事業ニ於テ爲シツ、アル事業以外ニ、更ニ有效適切ナル手段ノ御持合ガアルノデアリマセウカ、北平ニ古キ歴史ヲ持ッテ居リマスル順天時報ヲ潰シテシマッタ外務省ハ、ソノナ仕事ハ必要ガナイト思ハレルノデアリマセウカ、近イ例デハアリマスルガ、最近ニ青島ニ紡績爭議ガアリマシタ、日本ノ陸戰隊ヲ上陸サセマシタ、此時ノ日本ノ陸戰隊司令官ノ聲明、斯様ナモノハ、青島ニハ今六十萬ノ人口ガアマリシテ、支那人ノ經營スル新聞ガ十三アリマスガ、支那人ノ經營スル新聞ニハ、斷ジテ陸戰隊司令官ノ聲明ハ載セテ吳レナイノデアリマス、斯様ナ場合ニ順天時報ノ如キ、或ハ上海ニ於ケル江南正報ノ如キ、日本ノ主張ヲ發表シテ、支那人ニ理解セシメルヤウナ機關ガ私ハ必要デアルト思フノデアリマスルガ、其順天時報ヲ僅バカリノ補助金ノ關係デ潰シテシマヒ、又僅バカリノ補助金ヲ出シ吝ンデ、上海ノ江南正報ヲ潰シテシマッタヤウナ外務省ニ、果シテ支那人ニ理解提携ヲ求メルヤウナ、ドウ云フ立派ナ御仕事ガアルカト云フコトニ付テ聽カシテ貰ヒタイ、是ガ私ノ質問ノ第二點デアリマス、私ハ先ニ青島還付ニ憤慨シテ、議會ニ發言權ヲ得ントシタト申シマシタガ、私ハ常ニ支那人ニ向ッテ、長イ間ノ支那生活デ、骨ハ日本カラ持ッテ來タ骨ダケレドモガ、身ハ中國デ附イタ身デ、俺ノ身體自身ガ日支合辦デ出來テ居

ルノダ、ダカラ我輩ハ日本ト支那トノ提携ノ爲ニ、全身ヲ捧ゲレバ、ソレガ私ノ本望デアアルノデアルト始終支那人ニ申シテ居リマス、私ハ斷ジテ侵略的ノ意見ヲ以テ、青島還付ニ反對シタノデハナイノデアリマス、ソレガ日支兩國ノ爲ニ良策ナリト信ジタカラデアリマス、其當時青島ニ在住シテ居リマスル支那人ノ中ニサヘ、日本ノ治下ヲ離レテ支那軍閥ノ苛斂誅求ノ下ニ曝ラサレルコトハ遺憾デアルト云フノデ、支那人自ラガ青島還付ニ反對シテ居ッタ者ガ、澤山アッタノデアリマス、然ルニ其事理ヲモ辨ヘズシテ、青島ヲ還付致シマシテ、今日青島ノ土ヲ踏ム人デ、ソレガ日本人デアル限り、私共ガ豫想シテ居ッタ通りニ、惜シイ處ヲ還シタモノダト言ハヌ人ハ殆ンド一人モナイノデアリマス、又アノ儘青島及ビ山東鐵道ノ經營ガ、日本ノ治下ニ在ッタナラバ、膠濟鐵道ハ疾ク昔ニ河南省ニ伸ビマシテ隴海鐵道ト接續シ、青島港ハ山東省、山西省、河南省、陝西省、甘肅省邊リノ物資ヲ吞吐シマシテ、揚子江ノ水運ニ並行シタ陸運ニ依ッテ、上海並ミノ發展ヲ遂ゲ、數十萬ノ日本人ハ北支那ニ於テ中國民衆ト握手提携シ、北支那ノ文化ノ發展ト云フモノハ、迎モ今日想像モ及バヌ程度ノモノデアッタラウト思ハレルノデアリマス、然ルニ其當時ノ當局者ノ認識不足ノ結果ハ、千餘ノ生靈ヲ犠牲トシ、二億ノ國帑ヲ費シテ而シテ得タルモノハ、彼等ノ輕侮心ト排日侮日ノミデアリマシタ、青島還付以前ニモ排日侮日ガナイデアリマセヌデシタ、併ナガラソレハ論ズルガ程ノモノデハゴザイマセヌデシタ、今日ノ如ク根強イ侮日抗日ノ其備ヲ作ッタモノハ、青島還付デアルト斷言シテ憚リマセヌ、人ニ依ッテハ、アレハ時代ノ力デ致方ガナカッタ言フ人モアリマス、ダガ併シ戰亂ノ血未ダ醒イ歐羅巴ニ於テ「ダヌンチオ」ノ力ヲ以テ「フィウメ」ヲ奪回シタト云フ事實ヲ見タナラバ、時代ノ力トノミ言フ譯ニハ行カスト思フノデアリマス、併ナガラ私共ハ今茲ニ死兒ノ齡ヲ數ヘントスル者デアリマセヌ、唯支那側ヲシテ日本人ニ斯ル不愉快ナル觀念——青島ヲ還シテ纔ニ毎日排日ト云フ御禮ヲ貰ッタバカリデアルト云フヤウナ觀念ヲ與ヘシメルニ至ッタコトガ、日支關係ヲ險惡ニ導イタ重大ナル理由デアルト云フヤウナコトヲ、理解サセル必要ガアリマス、又支那人ハ能ク不平等條約ト云フコトヲ口癖ノヤウニ申シマ

ス、被壓迫ノ下ニ強ヒラレタ條約ハ履行スルニ及バスト申シマス、併シ何レノ國ノ條約モ、全然平等ノ立場ニ於テ作ラレタ條約ト云フモノハ、少イデアラウト思ヒマスルガ、假ニ百歩ヲ譲ツテ、彼等ノ言フ所ヲ是認スルトシマシテモ、青島還付ニ於ケル華府條約ダケハ、英米ノ監視ノ下ニ、却テ日本ガ無理強ヒニ強ヒラレテ、謂ハハ日本側カラ不平等ヲ主張スベキ條約ナリデアリマス、然ルニ其條約サヘモ履行シナイデ、徒ラニ不平等呼ハリヲシテ居ルデアリマス、是等モ支那側ヲ反省セシメナケレバナラヌ重大ナル點デアリマス、更ニ日本ガ誠意ヲ以テ只今議題ニナツテ居リマスルヤウナ文化事業ト云フモノ、吾々東洋ノ文化ヲ發揚シテ、サウシテ日支兩國ガ東洋ノ安定勢力トナツテ、世界ノ平和ニ貢獻シタイト云フヤウナ、斯ウ云フ企モ文化侵略デアルナドト誣ヒマス、眞ニ共存共榮ノ本義ニ則ツテ經濟提携ヲ企テ、モ、ソレヲ經濟侵略デアルト稱シテ之ニ反對シ、而モ歐米人ノ經濟侵略ヲバ單食壟斷シテ迎ヘルト云フヤウナ態度デアルノハ、洵ニ考フベキ點デアリマス、併シ兎ニ角第一ノ質問デ申上ゲマシタ經濟工作、第二ノ質問デ申上ゲマシタ文化工作、サウ云フヤウナコトヲ行ヒマスルノニ、實際ノ問題ニ移ツテ最モ大切ナル問題ハ、私ハ人ノ問題デアルト思フデアリマス、能ク本國政府ノ肚ガ据ラズシテ外交ガ多元デアアル場合ニ、如何ナル人ヲ以テシテモト云フコトハ、屢々聞ク言葉デアリマシタケレドモガ、併シサウ云フ場合ニ於テモ、人其宜シキヲ得レバ、相當ナ仕事ハ私ハ出來ナケレバナラヌト思フデアリマス、尙ホ「リースロス」一人ノ力ヲ以テ英吉利ト支那トノ關係ヲ、如何ナル狀態ニ置イタカト云フコトガ分リマスルナラバ、人ノ問題ト云フコトガ、非常ニ重大ナル問題デアルト云フコトハ、能ク得心ノ行クコトデアルト思ヒマス、私ハ曾テ二十一箇條ノ問題ノ時ニ、大隈侯ガ御苦勞デモ袁世凱ト膝ヲ交ヘテ、東洋ノ問題ハ君ト僕ノミト云フヤウナ氣持デ以テ、赤心ヲ披瀝シ合ツテ交渉ヲセラレタナラバ、アノ二十一箇條デヤッタヤウナコトハ、綺麗ニ出來上ツテシマツテ、何時マデモ二十一箇條問題ガ日支國交ノ害ニナルヤウナコトハナカッタラウト言ツテ居ッタデアリマスガ、併シ日置公使ヲシテ逐條審議ノ交渉ヲヤラシテ、其結果今日ニ至ル迄二十一箇條問題ガ、日本ト支那トノ關係ノ重大ナル癥トナツテ居ルト云フコトハ、皆様モ能ク御承知ノ通りデアリマス、今ヤ日

支交渉ハ新内閣ニ依ツテ從來ノ行詰リヲ打開シ、新ニ一步ヲ踏出サントスル際デアリマス、大所高所ニ立ツテ、東洋永遠ノ礎ヲ築クベキ絶好ノ機會デアリマス、外務畑ノミニ拘泥スル必要ハアリマセヌ、普ク天下ニ求メテ第一人者ト認メタルガ如キ人物ヲ以テ、日支ノ眞ノ國交ヲ調整スルト云フガ如キ御考ガアリマセヌカ、是ガ質問ノ第三デアリマス、此質問ニ關係シテ外務省ノ特別任用ノ問題デアルトカ、在外官憲ヲシテ徒ニ官僚「ファッショ」官僚獨善タラシメテ居ル點、日本ノ内地デハ新聞モアレバ、色々ナモノガ監視シテ居リマスカラ、官僚「ファッショ」官僚獨善主義ト申シマシテモ、マダ「其弊ハ少イノデアリマス、海外ニ於テハ、私モ新聞ヲ經營シテ居リマスガ、其新聞ハ大別ヲシタ時分ニ持ツテ行ツテ、警察官憲ノ檢閲ヲ受ケルノデアリマス、盛ニ削ラレマス、時ニハ領事ノ發表シタ問題ヲ警察官憲デ削ルナドト云フヤウナ、不統一振りヲ示ス場合モアルノデアリマス、新聞ハサウヤツテ抑ヘ付ケテ居ル、居留民ニ對シテハ在留禁止ト云フ處分ガアル、一總領事、一領事ノ考次第デ、在留ヲ禁止セラレルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ武器ヲ持ツテ居ルノデアリマスカラ、實ニ官僚「ファッショ」官僚獨善ノ權化デアルト言ツテモ宜イヤウナ態度ヲ、始終示シテ居ルノデアリマス、斯様ナ問題ニ關聯シテ在留禁止處分ノ問題デアルトカ、左様ナ問題、特ニ又最近ノ青島ノ紡績爭議ノ問題、或ハ人事問題等、色々御尋致シタイコトハ澤山ゴザイマスガ、此際餘リ煩雜ノ嫌ガアリマスルノデ、是等ハ委員會ニ讓ルコトニ致シマス、最後ニ本改正法律案ノ内容ニ付テ承ツテ置キタイコトハ、膠濟鐵道ノ四千万圓ノ國庫債券ノ償還期限ハ、既ニ切迫致シテ居ルノデアリマス、之ニ對シテハ年六分、二百四十萬圓ノ利子ガ入ツテ居ルノデアリマス、之ニ對シテハ年六分、二百四十萬圓ノ積リデ仕事ヲ經營致シテ居リマシテ、期限ガ參リマシテ期限通りニ返セルカ返セヌカ、是ガ今重大ナル問題ニナツテ居リマスケレドモ、返セナイヤウナ積リデ二百四十萬圓ノ其利息ヲ計上シテ居ツテ、若シソレガ返シテ來ルトカ、返ス積リデ居ルガ返セナイトカ、サウ居フヤウナ喰違ヒガアリマス場合ニ、若シ返ヘスト云フ場合ニハ、年六分ノ利廻ト云フヤウナ利廻ノ率ハ、今内地ニハ餘リ澤山ナイト思ヒマスルガ、六分ノ利廻ヲ計算シテ置イテ、サウシテソレガ現金デ返サレテ、六分ノ利廻ニ廻ラヌト云フ場

合ニ於テ、其喰違ハドウスル考デアルカ、或ハ文化事業豫算ハ三百八十万圓デアリマスルガ、其半ヲ占メテ居リマス百六十八萬圓ノ助成費ト云フノハ、如何ナル用途ニ用ヒラレルモノデアリマスルカ、詳シイコトハ委員會デ宜シイガ、其大體ガ承リタイノデアリマス、又非常ニ問題ハ小サイヤウデアリマスケレドモ、主義トシテ小サクナイ問題ハ、青島ニ於ケル中等學校ノ補助費ヲ、何等ノ豫告ナクシテ三割削ツタノデアリマス、ソレハ私ハ青島カラ參リマシタ新聞デ見タノデアリマスガ、突如トシテ補助費ヲ三割モ削ツテシマツテ、青島ノ民團ヲシテ學校經營ニ狼狽ヘサセテ居ルト云フ、斯様ナ不親切ナヤリ方ヲ、ドウ云フ譯デ爲サツタノデアリマスカ、外務省ト云フ所ハ——何レ委員會デ詳シク申シマスガ、實ニ不誠意、不親切ナル人ノ集リデアリマスガ、特ニ此點ニ於テ私ハ何ガ爲ニ斯ウ云フヤウナ、突然ニ民團ニ非常ナ刺戟ヲ與ヘルヤウナヤリ方ヲ爲サツタカ、其點ガ承リタイノデアリマス、以上私ノ質問ニ對シマシテハ、大キイ問題ニ對シテ、大臣級ノ人ヲ派遣シテ交渉ニ當ラシメルト云フヤウナ問題ニ對シテハ、私ハ總理大臣兼外務大臣カラ御答辯ヲ承リタイノデアリマスガ、今日ハ總理大臣ハ、御令息ノ御結婚ノ爲ニオ出デニナツテ居ルサウデアリマスカラ、態、總理大臣ニ此答辯ダケニ出テ戴クト云フコトモ甚ダ不本意デアリマスノデ、其點ニ對シテハ別ノ機會ニ御答辯ヲ願フテモ宜シイノデアリマスガ、政府委員デ御答辯ノ出來ル限リノ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

堀内外務次官ノ應答

只今小谷サンカラ御尋ノ諸點ニ付キマシテ御答致シマス、第一點ハ支那ニ對シテ、經濟借款又ハ財政借款等ニ、政府ガ乗出ス用意ガアルカドウカ、斯ウ云フ風ニ伺ツタノデアリマス、申ス迄モナク、支那ニ對スル借款ハ、經濟借款或ハ財政借款ト申シマシテモ、多クノ場合ニハ政治關係ヲ多分ニ含ンデ居リマスノデ、此借款問題ガ起リマシタ場合ニ、日本ノ政府ガ如何ナル態度ヲ執ルベキヤト云フコトハ、其當時ノ情勢ニ鑑ミテ、慎重考慮ヲ要スルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、殊ニ支那側カラ借款ノ要求ガ起リマシタヤウナ場合ニ於テハ、支那ノ經濟財政

ノ實情カラ致シマシテ、其目的ガ何レニ在ルカ、又其條件ガ何レニ在ルカ、擔保ハ何デアルカ、其用途ニ付テ如何ナル程度マデ監督ヲ爲シ得ルカト云フヤウナ點ニ付テ、慎重ニ考慮ヲ要スルコトハ勿論デアリマス、加之、又我ガ財政狀態ニ於テ、如何ナル金額マデ借款ニ應ジ得ルカト云フコトハ、其時ノ色々ナ財政方針ニモ重大ナル關係ノアルコトハ、申ス迄モナイコトデアリマスカラシテ、只今如何ナル種類ノ借款ニ應ズルカト云フコトハ、豫メ申上ゲルコトハ出來マセヌケレドモ、只今申シマシタ如キ諸條件ヲ慎重ニ考慮シテ、斯ノ如キ申出ヲ十分考慮スル所ノ用意ノアルコトハ、只今申上ゲテ宜シイト存ズルノデアリマス、第二ノ御尋ハ、政府ハ現在行ツテ居ル對支文化事業以外ニ於テ、果シテ如何ナル有效的施設ヲ爲スノ考アリヤ、斯ウ云フコトデアッタト了解致シマシタ、尙ホソレニ關聯致シマシテ、往年外務省ハ極メテ有用ナル新聞デアッタ、順天時報ヲ廢刊シタト云フコトニ付テ、一寸言及サレマシタガ、此新聞ヲ廢シタノハ、當時ノ事情ノ上デ已ムヲ得ナカッタニ出デタノデアリマスルケレドモ、最近支那ニ於ケル邦字新聞ノ發達ハ著シイモノガアリマシテ、漢字新聞ヲ自ラ經營スルノ必要ト云フコトハ、往年ニ比シテ餘程變テ來タノデアリマス、現ニ小谷君御自身モ、有力ナ新聞ヲ御經營ニナツテ居ルノデアリマスルガ、是等ノ新聞ヲ有效ニ利用スルト云フ途ガアルノミナラズ、最近通信機關ノ發達ニ依リマシテ、日本ノ事情ト云フモノガ、巨細ニ而モ迅速ニ支那ノ各新聞ニ傳ハルノデ、支那ノ新聞ヲ通ジテ日本ノ事情ヲ明ニスルト云フ途モ、餘程進歩シテ參ッタノデアリマス、加之、最近ハ支那ノ中央通信社ニ於テモ、東京ニ有能ナル通信員ヲ派遣致シテ居リマシテ、是等ガ毎日ノ如ク外務省ノ情報部ノ發表ニ、人ヲ出シテ居ルヤウナ狀況デアリマス、斯ノ如キ方法ニ依リマシテ、日本ノ事情ガ支那ニ詳シク傳ハルコトハ、以前ノ實情トハ餘程變テ參ッタノデアリマス、尙ホ御尋ノ、果シテ如何ナル有效的施設ヲ爲サヤト云フコトニ付キマシテハ、是ハ色々方法モアルト存ジマスルガ、差當ツテ外務省ニ於テ實行致シテ居リマスノハ、從來ノ文化事業ノ外ニ、更ニ經濟的價值ノアル文化事業ト致シマシテ、北支ノ産業研究所ト云フモノヲ今設置シテ居リマスルシ、又現在北支ノ棉花栽培ノ改良獎勵ト云フヤウナ點ニ付テ、支那側ト協力スル爲ニ必要ナル計畫

ヲ立テ、之ニ付テ必要ナル豫算モ計上サレテ居ルヤウナ次第デアリマス、更ニ民間方面ニ於ケル日支ノ接觸ノ繁クスルト云フコトノ必要ハ、過日外務大臣ヨリ、演說並ニ質問ニ對スル答辯中ニ於テ、屢言及サレタ所デアリマスガ、此點ハ既ニ具體的ニ現レテ來ツ、アルモノモアリマシテ、最近新聞ニ傳ヘラレマシタル如ク、來月中旬ニハ、日支兩國ノ有力ナル實業家ヲ網羅シテ居リマス、中日貿易協會ノ總會ヲ催シマスル機會ニ於テ、我國ノ有力ナル實業家ガ多數出席サレルヤウナコトニモ相成ツテ居リマス、斯ノ如ク兩國ノ經濟方面ノ有力者、文化方面ノ有力者、更ニ政治方面ノ有力者ガ、益々接觸ヲ圖ラレルト云フヤウナコトハ、政府ト致シテモ之ヲ獎勵成致シタイト考ヘテ居ルデアリマス、第三ニハ廣ク人材ヲ各方面ニ求メテ、日支關係ノ打開ニ當ラシメル考アリヤ否ヤ、斯ウ云フ御尋デアッタト拜承致シマシタ、此點ニ付キマシテハ、實ハ外務省ノ制度ハ極メテ廣イ門戸開放デアリマス、大使ト雖モ、公使ト雖モ、是ハ自由任用デアリマス、人材ガゴザイマスナラバ、如何ナル方面ヨリモ之ヲ採用スルコトガ出來ルデアリマシテ、恐ラク政府ニ於テモ、野ニ遺賢ナカラシムルト云フ御考デアラウラウト、私ハ存ジテ居ルデアリマス、第四ト致シマシテハ、膠濟鐵道ノ國庫證券ヲ償還サル、モノトシテ、此文化事業法ノ改正ノ案ガ出來テ居ルヤウデアアルガ、若シ其償還ナキ場合ニハ何カ喰違ヒガ生ズルコトガナイカ、斯ウ云フ御尋デアッタト思ヒマスルガ、此膠濟鐵道國庫證券ノ償還期限ハ、本年ノ十二月末日デアリマス、是ハ政府ト致シマシテハ、勿論期限ノ通りニ償還サル、モノト期待シテ居ル次第デアリマス、尙ホ利息モ六分ヲ支拂フト云フコトニナツテ居リマスルガ、是ハ今日ニ至リマスマデ其契約ニ決メテアリマシタ通り、支拂ヲ受ケテ來タ次第デアリマス、尙ホ償還ヲ受ケテシマッタナラバ、六分ノ利息ト云フモノニ基イテ計算ガ、狂ヒハシナイカト云フコトデアリマシタガ、勿論六分ノ計算デアアルナラバ結構デアリマスルガ、是ガ假ニモウ少シ少クナリマシテモ、別ニ事業ニ支障ヲ來スヤウナコトハナイモノト考ヘテ居リマス、尙ホ第五ニ、外務省ハ青島ノ民團ニ對スル補助額ヲ急ニ減額シタ、是ハドウ云フ譯デアアルカト云フ御尋デアゴザイマシタガ、是ハ政府ノ豫算上ノ都合ニ依リマシテ減額シタノデアリマシテ、從來トモ此民

團ニ對スル補助金ヲ以テ經營シテ居リマシタ事業ハ、是ハ實ハ十分ナル補助ヲ受ケテ居ッタ譯デアリマシテ、之ヲ減額スルト致シマシテモ、事業ノ上ニ何等ノ支障ガナイト云フ確信ヲ持ツテ居ッタ爲ニ、斯ノ如キ取計ヒヲ致シタ次第デアリマス、以上ヲ以テ御答ト致シマス

小谷君ノ再質疑

只今ノ御答辯ヲ承リマシタガ、英吉利ヤ亞米利加ハ盛ニ經濟借款、財政借款ヲヤツテ居ルノニ、日本ノ方デハ事情ガドウトカ斯ウトカ言ツテ居ラレマスルガ、サウスルト結局英吉利ヤ亞米利加ハ、旨デアルト云フコトニナルデアラウカ、私ニハ英吉利、亞米利加ノ立場ト、日本ノ立場トガ違フトハ思ハレナイノデアリマスルガ、ドウモ西原借款以來、色々借款ノヤリ方ノ拙カッタ點デ、夤ニ懲リテ膾ヲ吹イテ居ルヤウナ傾向ガ多分ニアルト思フノデアリマス、私ハ餘リ何時マデモ考慮々々ト言ツテ考ヘテバカリ居ラナイデ、英吉利ヤ亞米利加ガドン／＼ヤルノニ對シテハ、日本モモウ少シ何トカ考ヘテ貫ハナケレバ、立遅レニナツテシマフト信ズルノデアリマス、此點ハ特ニ御考慮ガ願ヒタイノデアリマス、尙ホ通信機關ガ非常ニ立派ニ出來上ツテ居ルノデ、日本ノコトハ何デモ書イテ下サルト仰シヤイマスケレドモ、今現ニ私ガ實例ヲ取ツタガ如ク、日本ノ陸戰隊ガ青島ニ上陸シテ、陸戰隊ガ如何ナル聲明ヲ出シテモ、十三四ノ支那新聞ハ斷ジテ其聲明ヲ出シテ呉レナイ、一軒々々其聲明ヲ吳レテ歩ク譯ニハ行カナイ、斯ウ云フヤウナ場合ニ、日本人經營ノ漢字新聞ト云フモノガ必要ナノデ、順天時報、江南正報ト云フモノナドガ今頃アツタナラバ、如何ニ日支國交ノ爲ニ、特ニ北支那邊リニハ順天時報ナドハ役ニ立ッタデアラウト云フコトデ、有識階級ノ人間ハ、非常ニ殘念ガツテ居ルノデアリマス、外務省以外ノ人間ハ此點ヲ特ニ御注意ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ人ノ問題、偉イ人ガアレバ幾ラデモ入レルト仰シヤイマシタガ、私ハ大隈侯ト二十一箇條ノアノ例ヲ示シマシテ、日支國交調整ノ此最モ重大ナル時ニ、川越君デナシニ、モウ少シ確ッカリシタ人ガ行ツテオヤリニナツタラドウカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、モウ一ツハ、文化事業ノ三百八十万圓ノ中、此

半分ヲ占ムル百六十萬圓ノ助成費、此金ハ如何ニ使ハレルカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマ  
スガ、其御答辯ハアリマセヌデシタ、更ニ青島ノ學校ニハ、是マデ有リ餘ルヤウナ補助ヲシテ  
ヤツテ居ッタノデ、四萬圓位削ッテモ何デモナイ、三割位削ッテモ何デモナイト言フコトハ甚ダ  
不謹慎デハナイカ、政府ハコンナニ緊縮シテ居ル財政ノ中ニ、青島ニハ有リ餘ッタ程ノ金ヲヤッ  
テ居ッタノデスカ、ソレナラバ是迄ノヤリ方ハ非常ニ間違ッテ居ル、ダガ私ノ言フノハ十四萬圓  
ノ金ヲ四萬圓削ッタト云フ一事デハナクテ、出シ抜ケニサウ云フコトヲヤツテ經營ニ迷ハセテ居  
ル、現ニ青島カラ來テ居ル新聞ヲヤツテ居ル人ハ非常ニ困ッテ居ル、十四萬圓ヲ四萬圓削ッタト云  
フコトデ、自治體ガ非常ニ閉口シテ居ルト云フコトヲ言ッテ居ル、サウ云フスッポカシ、肩スカ  
シヲヤルノガ親切ナヤリ方カドウカト云フコトヲ、聽イテ居ルノデアリマス、金額ノ問題デハ  
アリマセヌ、外務省ノヤリ方ニ付テ私ハ聽イテ居ルノデアリマスカラ、今一度御答辯ヲ願ヒタ  
イ

堀内外務次官ノ應答

只今再質問ノ第一點ハ、英米諸國ガ對支借款ヲ盛ニシテ居ルノニ、日本ノ方ハ一向之ヲ行ハナ  
イノハ、ドウ云フ譯デアルカ、斯ウ云フ御尋デアッタト思ヒマシタガ、此點ニ付テハ勿論借款  
ト申シマスコトハ、支那側ヨリ之ヲ求メルコトニ依ッテ初メテ話ガ具體化スル譯デアリマシテ、  
不幸ニシテ最近數年ノ間、日支關係ガ、先程小谷サン御自身ノ御話ノ如キ緊張シタル關係ニ在  
リマシテ、兩國ガ借款ノ話ヲ具體的ニ持出スト云フヤウナ事態ニナカッタ譯デアリマス、隨テ今  
日マデ此借款ノ話ト云フモノガ、具體化スル機會ガナカッタ譯デアリマス、併ナガラ今後兩國  
ノ關係ガ政治的ニ見テモ改善サル、ニ及ンデ、必ズ此借款ノ話ト云フモノモ、日支間ニ起ッテ  
來ルコトヲ私共ハ豫想スルノデアリマス、斯ノ如キ場合ニ於テ日本ノ方ガ、先程申上ゲマシタ  
如キ諸種ノ狀況ヲ考慮シテ、此借款ニ應ジ得ル場合ニハ、之ニ應ズルト云フコトガ適當デアラ  
ウト考ヘテ居ルノデアリマス、其次ニ新聞ノコトニ付テ御話ガアリマシタガ、是ハ御質問ノヤ

ウデモアリマセヌデシタカラ申上ゲマセヌガ、青島ノ學校補助ニ付テ再ビ御尋ガゴザイマシタ  
ガ、此點ハ現在支那ニ於ケル日本ノ學校ニ對スル補助ノ實情ヲ申シマスト云フト、一般ノ學校  
ニ對シテ經費ノ約三割ヲ補助シテ居ルノデアリマス、然ルニ青島ノ學校ニ對シテハ、約七割ヲ  
補助スルコトニナッテ居リマスルカラ、政府ノ保護ガ青島ニ極メテ厚イト云フコトハ、之ニ依ッテ  
御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙ホ文化事業ノ點ニ付キマシテハ、他ノ政府委員ヨリ御答申上  
ゲマス

岡田外務省對支文化事業部長ノ應答

只今ノ文化事業關係ノ助成費ニ付テ御答致シマス、總額ハ百六十八萬圓餘ニナッテ居リマシテ、  
其主ナルモノダケヲ此處デ御返事申上ゲテ、委細ハ分科會ニ於テ申上ゲタイト存ジマス、上海  
自然科學研究所ニ對シマシテ三十八萬六千圓ヲ補助シテ居リマス、東方文化學院ニ對シテ十六  
萬圓餘、北平ニ於テヤツテ居リマス人文科學ノ研究所ニ對シテ十萬圓餘補助シテ居リマス、上海  
及ビ北平ニ設ケマシタ近代科學圖書館ニ對シテ各、六萬圓、合計十二萬圓、華北產業研究所ニ  
對シマシテ五十四萬圓、滿蒙ニ於ケル文化施設ニ對シテ九萬圓、是等ガ主ナモノデゴザイマ  
ス

小谷君ハ更ニ質疑ヲ爲ス

今一應簡單ニ御尋シタイト思ヒマス、今堀内政府委員ハ支那側カラ何モ頼ンデ來ヌノニ、コッ  
チカラ貸シテヤル貸シテヤルト言フコトハ、要ラヌヂヤナイカト云フ御話デアリマシタガ、是  
ハ非常ニヲカシナ話デス、此間マデ南京デ總領事ヲシテ居リマシタ須磨君ハ、此間私共ニ對ス  
ル講演會ニ於テ、支那人ノ方カラオ前ノ方ニハ何ヲ話ヲシテモ出來ヌカラ、仕方ガナイカラ英  
吉利、亞米利加カラ借りルノダト、支那側ノ當局者ガ言ッタト云フコトヲ、ハッキリ私共ニ言ッテ  
居ル、サウ云フ風ニ南京デ直接交渉ニ當ッテ居ッタ須磨總領事ガ、支那側カラ話ヲ受ケタケレド

モ、日本デハ受付ケルコトガ出来ナクテ、サウシテ英吉利ヤ亞米利加ガ盛ニヤツテ居ルト云フコトヲ、講演ヲ致シテ居ルノニ、サウ云フヤウナ話ガ一ツモナイト云フコトハ、是ハ何處カニ嘘ヲ吐ク人間ガ居ルノダト云フコトニナリマス、外交官ニ嘘ハ禁物デアリマスカラ、ドウカ嘘ノナイヤウニシテ貫ヒタイト思フ、ソレカラ今青島ノ方ノ學校ニハ、非常ニ他ノ處ニ較ベテ立派ニ澤山ヤツテ居ルト云フ御話ガアリマシタガ、能ク外務省トシテ考ヘテ貫ハナケレバナラヌコトハ、青島ニ安心シテ資本ヲ下シ、此處ハ支那ニ還スコトハナイカラト云フ資本家ヲ呼ンデ、ドン／＼資本ヲ下サシテ置イテ、サウシテ國策ノ犠牲ト云フ美名ノ下ニ、青島ニ居ル在留民ハ野晒シニナッタノデアリマス、サウシテ學校ナドモ別ニ必要ノナイ程度ノ、青島棒ニ大キナ建物ノ學校ヲ造ツテ殘サレマシテ、其經營ニ困ッタノデアリマス、居留民ハ非常ニ酷イ目ニ遭ツテ居ル、其代償トシテ學校ニ少シ餘計金ヲ貫ッタカラト云ツテ、ソレガ非常ニ恩恵ヲ施シテアルト云フヤウナコトハ、外務省ノヤリ方ノ拙イコトヲ居留民ニ轉嫁サセルヤウナモノデアリマシテ、私ハ非常ニ厭ナ思ヒテ致スノデアリマス、私ノ質問ハ三回以上ハヤルコトハ出来マセヌカラ、其以外ノ問題ハ委員會ニ於テ多少突込ンダ承リ方ヲシタイト思ヒマスカラ、其御用意ヲ願ツテ置キマス

堀内外務次官ノ應答

只今借款ノコトニ付キマシテ、私ハ借款ハ雙方ノ希望ガ合致シテ、初メテ具體化スルト云フコトヲ申シマシタ所ガ、全然借款ノ話ガナカッタト、斯ウ私ガ申上ゲタ風ニ御了解ニナッタノデアリマスルガ、須磨總領事ノ講演云々ト云フ御話デ、何か私ガ有ツタモノヲ無イト斯ウ言ツテ、嘘ヲ申シタカノ如ク御話ニナリマシタガ、私ガ申シマシタノハ借款ノ具體的ナ話ハ、今マデ進展シナカッタ、斯ウ云フコトデアリマシテ、無論色々ナ機會ニ、此場合日本カラ金ヲ出シテ貫フト結構ダト云フヤウナ話ハ、随分色々ナ場合ニアリマス、併ナガラソレハ如何ナル目的ニ用ヒルモノデアルカ、又如何ナル責任者ガサウ云フコトヲ言フノデアルカ、ソレ等ノ點ヲ能ク吟味致

シマシテ、確實ナル話デアル、又政治的情勢ガソレヲ具體化サセルコトニ適當ナリヤ否ヤト云フ判断ヲ致シマシタ上デ、初メテ此借款談ト云フモノハ進行シテ行ク譯デアリマスカラ、斯様ナ意味ニ於テ私ハ申上ゲタ次第デアリマス、何かソコニ誤解ガオアリニナルノデハナイカト思ハレルヤウナ節モアリマシタノデ、一言申上ゲテ置キマス

笠井重治君ノ質疑

本案ハ對支文化事業特別會計ヲ改正シテ、我國ノ對支文化事業ヲシテ、更ニ活潑ナラシメントノ目的ニ依ルモノデアルト思フ、即チ其第九條ハ、本會計ノ資金ハ國債ヲ以テ保有シ、大藏省預金部ニ預入レ、對支文化事業調査會ニ諮問シ、勅令ノ定ムル所ニ依リ、其他ノ有利且ツ確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用スルコトヲ得ルト云フコトガ書イテアリマス、本法ハ昭和十二年四月一日カラ實施サレルヤウニナツテ居リマスガ、是ハ要スルニ我國ノ對支文化事業關係ヲシテ、今少シク有效ニ活動セシムル目的ニ、基因スルノデハナイカト考ヘテ居リマス、ソコデ本日ハ其理由ヲ林外務大臣ニ御尋シタイノデアリマスガ、其前ニ少シク此對支文化事業ノ理由ヲ研究シテ見タイト思フ、其理由タルヤ對支文化事業特別會計ノ資金運用方法ヲ擴張シテ、且ツ一般會計ノ保有スル膠濟鐵道國庫證券ヲ、對支文化事業特別會計ニ歸屬セシムル爲ニ、對支文化事業特別會計法中ノ改正ヲ要スルモノデアルヤウニ見受ケラレルノデアリマス、殊ニ本年ハ膠濟鐵道國庫證券元金四千萬圓及ビ其利子ノ百五十三萬圓、合計四千五百五十三萬圓ト云フ新シイ收入ガアルノデ、之ヲ新シイ方面ニ使フトセバ、今少シク對支文化事業ヲシテ活潑ニ運用セシムルコトガ出來ルモノデアルト思フ、此點ニ付テ外相ニ御伺シタイト思ツテ居リマス、日支兩國ハ東亞ニ於ケル友邦デアツテ、三千年來相交通シ、而シテ我が日本ハ東洋文明ノ精華ヲ發揮シテ、世界ニ之ヲ宣揚シテ參リマシタ、故ニ我國ト致シマシテハ支那ニ對スル文化事業ノ促進ヲセシメルコトハ必要デアル、然ルニ我國ガ如何ニ支那ト文化的提携ヲ希望致シマシテモ、支那自身カラ我が日本ヲ誤解シ、殊ニ最近ノ如ク日本ニ反抗的態度ヲ執ルナラバ、折角ノ文化的提携、

或ハ經濟的ノ協力ト云フコトヲ希望シテモ、我國ノ誠意ガ水泡ニ歸スルノデハナイカト云フコトヲ憂ヘテ居ル、仍テ我が政府當局及ビ我が國民ハ、支那國民ガ我が日本ニ對スル誤解ヲ一掃ニ努メルト共ニ、世界列強ガ、或ハ日本ガ支那ニ對シテ侵略的態度ヲ執ッテ居ルノデハナイカト云フ誤解ヲ、一掃シナケレバナラヌト思フ、故ニ私ハ此點ニ付テ本日ハ總理大臣ニ伺ヒタイト思フガ、御令息ノ結婚ノ爲メトカデ御見エニナッテ居リマセヌカラ、杉山陸軍大臣ノ明確ナル御答辯ヲ伺ヒタイト思フ、私ノ質問ハ雷ニ我が國民ヲシテ對支外交ノ、根本方針ヲ知悉セシムルノミナラズ、支那國民ノ日本ニ對スル誤解ヲ一掃スルト共ニ、更ニ列國ヲシテ我が日本ガ東亞ニ於ケル眞ノ安定勢力デアルト云フコトヲ、知悉セシメントスル希望ニ外ナラナイノデアリマス、隨テ此點ハドウカ陸軍大臣ノ明確ナル御答辯ヲ御願致シタイト思ッテ居リマス、抑對支文化事業ナルモノハ明治三十四年即チ西曆千九百一年九月七日北京ニ於テ調印セラレタル所謂最終議定書ニ依ッテ、清國政府ガ關係各國ニ支拂フベキ團匪賠償金ノ總額四億五千萬海關兩、之ニ四分ノ利子ヲ附シテ千九百二年一月一日カラ支拂ヲ開始致シマシタ、左様ニシテ千九百四十年末ニ至ル迄三十九箇年間に、元利合計九億八千二百二十三萬八千一百五十海關兩ヲ、支那ガ支拂フコトニナッテ居ルノデアリマス、而シテ我が日本ハ殘念ナガラ世界ノ列強ニ追隨シテ、對支文化事業ヲ行ッテ居ルト云フ形ニナッテ居ル、對支文化事業ハ米國ガ各國ニ率先シテ之ヲ實行シ、支那ノ文化的開發ニ資セン爲ニ努力致シマシタ、左様ニシテ米支兩國ノ接近ヲ招來シテ、今日ノ親善ヲ助長致シマシタノハ、要スルニ米國ガ團匪賠償金ヲ有效ニ使ッタノデアリマス、其他英、佛、露、白耳義、伊太利、和蘭、獨逸、奧地利ノ各國ガ之ニ追隨シテ、支那ニ於ケル教育、文化ノ開發ノ計畫ヲ致シマシタ、米國政府ハ千九百八年ニ「ルーズベルト」大統領ノ英斷ニ依ッテ、兩院ノ決議ヲ以テ團匪賠償金ノ總額ノ殆ト半額ヲ、即チ米貨二千四百四十萬七百七十八萬八千一百一十元ニ返スコトニ致シマシタ、其結果支那カラシテハ千九百九年カラ二十九箇年ニ互ッテ、政治及ビ科學ノ進歩ヲ研究セシメル爲ニ、年々五十人乃至百人ノ支那ノ學生ヲ、亞米利加ノ大學ニ勉學致サセマシタ、今日ノ米支ノ間ノ親善關係ノ裏ニ、斯様ナル文

化的事業ガ行ハレテ居ッタノヲ見マスルト、我國モ今後ハ更ニ進ンデ今日茲ニ計畫サレテアル事業ヨリモ、モット確カリシタ事業ヲ爲サナケレバナラヌト思ヒマス、此點ニ付テ外務大臣ハ如何ナル御考ヲ御持チニナッテ居リマスカ、御伺致シタイト思フ、之ニ次イデ英吉利ハ世界大戰ニ際シテ、支那ガ參加致シマシタノデ、列國ノ承認ヲ得テ、團匪賠償金支拂ヲ五年間猶豫制限ヲ附シ、更ニ千九百二十二年ノ十二月一日ニ支拂再開後、英吉利ノ受取ルベキ殘額約一千万磅、即チ今日ノ邦貨ニ換算スレバ一億八千万圓ニナッテ居リマシタ、然ルニ英國政府ハ先ヅ亞米利加ノ政府ノヤッタコトヲ見テ、是ハカナハナイ、何トカシテ自分ノ方デモ支那ニ文化事業ヲヤラナクテハナラヌト云フコトニナッテ、之ヲ免除スルコトヲ致シマシタ、左様ニシテ同年ノ十二月二十二日ニ該金額ノ支拂ヲ免除シテ支那政府ニ返還シ、英支兩國ノ互惠の事業ニ投資スルヤウニ致シマシタ、斯様ナル趣旨ニ基イテ英吉利ニ於テハ支那賠償處分案、即チ「チャイナイ・インデムニテ・アブリケー・ション・ビル」ト云フモノガ英吉利ノ議會ヲ通過致シマシテ法律トナッテ現レマシタ、斯様ニシテ英國外務大臣ノ諮問機關トシテ、同大臣ノ任命スル十一名ノ委員ノ中デ、一人婦人、少クモ二人ノ支那人ヲ加ヘタ諮問會ガ出來タノデアリマス、之ヲ日支文化事業ニ考ヘテ見マスナラバ、當初ハ日支兩國ノ委員ニ依ッテ組織セラレテ居リマシタガ、今日ハ殘念ナガラ支那ノ委員ハ全部脱退致シテシマヒマシタ、ソコデ英國ノ委員會ハ千九百二十六年十月十八日ニ、英國外務大臣ヲシテ賠償金評議員ト云フモノヲ組織セシメ、英人六名、支那人五名ノ委員ヲ出シマシテ、千九百四十五年マデハ此委員ノ割當ヲ以テヤルノデアリマス、サウシテ千九百四十五年以後ハ、全部支那人ガ英吉利人ノ委員ニ代ルト云フ立前ニナッテ居リマス、其金ノ半分ハ之ヲ倫敦ニ置イテ、殘餘ノ半分ハ之ヲ上海ニ置クト云フヤウナ組織ニナッテ居リマス、更ニ進ンデハ英吉利ハ支那ニ於テハ各種ノ事業ノ投資ヲシテ居ル、例ヘバ運河デアルトカ、鐵道デアルトカ、或ハ其他種々ナ事業ニ投資シテ居リマス、粵漢鐵道、或ハ津浦鐵道、或ハ膠濟鐵道ノ如キハ其例デアリマス、左様ニシテ英吉利ハ對支文化事業ノ金ヲ、表面ニハ支那ニ返シタヤウニナッテ居リマスガ、英支ノ合辦ノ事業ニ投資スルトカ、斯様ナルコトニ依ッテ支



那ニ恩惠ヲ賣テ、其上之ニ使用スル材料ヲ英吉利カラ供給シテ、支那ノ發展ニ盡シテ居リマス、亦以テ英吉利ノ對支文化事業ノ裏ニアル支那ニ於ケル英國ノ發展ノ力ガ、如何ニ偉大ナルカラ推知スルコトガ出來マス、然ルニ我が日本ハ團匪事件ノ後ニ、遠慮シテ英米ノ如キ多額ノ賠償金ヲ要求シナカッタノデアル、隨テ我が日本ノ團匪賠償金ノ金額モ、列強ニ比シテハ少額デアッタノデアリマス、併ナガラ今日マデ日本ハ文化事業ノ範圍モ亦英米ニ比シテハ、幾分カ遜色アルカモ知レヌガ、全力ヲ傾倒シテ努力シテ來マシタ、故ニ政府ハ英米ニ追隨スルト云フノデハナイケレドモ、支那ニ對シテ文化事業ヲオヤリニナルナラバ、モウ少シ徹底的ナ事業ヲシテ貫ヒタイ、此點ニ付テ外務大臣ノ明確ナル御答辯ヲ願ヒタイト思ッテ居リマス、現在ハ團匪賠償金、山東關係ノ鐵道、青島ノ公有財產、製鹽業其他カラ出ル所ノ元利ヲ集メテ、毎年約三百萬圓ニ達シテ居ルヤウデアリマス、只今小谷君ノ質問ニ對シテ堀内政府委員ノ御答辯モ承リマシタガ、堀内サンニモウ少シ突込ンダ本當ノ政府ノ考ヲ披瀝シテ戴キタイト思ッテ居リマス、帝國政府ハ支那側トノ連絡ニ依ッテ、大正十四年ノ五月ニ支那側ト協議ノ結果、團匪賠償金ヲ以テ支那ニ於テ事業ヲヤルコトヲ始メタノデアリマス、其結果只今申サレタ上海ノ自然科學研究所、或ハ北京ノ人文科學研究所ヲ作ラレタノデアル、所ガ昭和三年五月ニ濟南事件ガ勃發スルヤ、支那側ノ委員ハ擧ッテ退任シマシタ、翌四年ノ十二月ニ支那政府ハ總委員會、上海委員會ノ支那側ノ委員ヲ一律ニ罷免セシメマシタ、隨テ日本側ノ委員ハ、我が日本政府ノ既定方針ニ基イテ努力シテ參リマシタ、我が對支文化事業部ニ於テハ、各種ノ事業ヲヤッテ居リマスルガ、其事業タルヤ、今政府委員ガ御説明ニナッタヤウニ、或ハ東亞同文會、或ハ日華學會、或ハ同仁會、或ハ人材ノ育英ト云フヤウナ有益ナ事業ヲセラレテ居リマス、私モ此點ニ付テハ小谷君ト同感デアアル、北京ノ順天時報ヲ廢シタノハ幣原君ガ外務大臣ノ時デアアル、私ハ昨年ノ十二月初旬ニ我が對支外交研究ノ爲メ北京ヲ訪問ノ際、偶、蔣介石氏監禁問題ガ起ッテ、支那ハ物情騷然タルモノデアッタ、支那ノ輿論ハ日本ニ反抗シテ居ル、日本大使館ガ聲明ヲ出サウト思ッテモ、一ツノ英字新聞モ漢字新聞モナイデハアリマセヌカ、順天時報ヲ廢シテシマッテ、新

シク新聞ヲ作ラウト思ッテモ、中々容易ニ作レルモノデハナイ、デアリマスカラ小谷君ノ說ニハ賛成デアッテ、支那ニ於テ、北平ノミナラズ、各方面ニ於テ漢字新聞ガ必要デアラナラバ、是ハ作ッテ貫ヒタイ、此點ニ付テ私ハ、堀内サンニ御伺シマスガ、政府ハ上海邊リニ有力ナ英字新聞ヲ起ス御考ハアリマセヌカ、英米ハ有力ナ言論機關ヲ持ッテ居ル、「ノース・チャイナ・デイリー・ニュース」ノ如キハ有名ナ英吉利ノ機關新聞トシテアル、或ハ「チャイナ・プレス」其他ヤ有力ナ英字新聞ガアル、然ルニ我が日本ノ對外的言論機關ト云フモノハ一ツモナイ、上海ハ揚子江ノ河口デアッテ、而モ有力ナル處デアッテ、世界ノ視聽ガ彼處ニ集ッテ參リマス、然ルニ殘念ナガラ我が日本ノ對支政策ハ、全面的ニ失敗シテ、我が日本ノ勢力ハ、今ヤ將ニ支那カラ擊退サレントスルコトハ遺憾デアアル、要ハ外務當局ノ失敗ニ基因スルノデアアル、然ラバ此際何トカシテ文化事業デモミッシリヤッテ戴イテ、支那ニ對シテハ善隣ノ誼ヲ盡スノミナラズ、日本ハ東亞ニ於テ、眞ニ大ナル使命ヲ持ッテ居ル、文化的使命ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ、支那ノミナラズ世界ニ宣揚セネバナラス、私ハ陸軍大臣ニ御伺致シタイコトガ一ツアルノデアリマス、ソレハ私ハ昨年ノ七月ニ議會ニ於ケル同僚ノ收山耕藏君、深澤豐太郎君、其他ノ二君ト共ニ洪牙利國ノ「ブタペスト」市ニ開催ノ第三十二回列國議會同盟會議ニ參列致シマシタ、其際ニ於テ世界列強ノ政治家ヤ外交家ニモ會ヒ、歐米歴訪ノ途ニ於テ、列國ノ政治家ヤ學者ニモ會ッテ彼等ノ意見ヲ聽取致シマシタ、英吉利ヘ行ッテ見ルト、當時英國デハ議會開會中デアリマシタ、偶、日本ノ北支進出ト云フコトガ議會ノ問題トナッテ參リマシタ、英吉利ノ議會ニ於テ論議サレタ所ヲ見マスルト云フト「恐ラクハ日本ガ、或ハ關東軍ガ、或ハ天津軍ト云フモノガ北支ヲ占領スルデアラウ、日本ハ北支五省ヲ獨立セシメルデアラウ、日本ノ軍閥ハ、日本ノ國民ノ意思ヲ無視シテ徒ニ支那ヲ蹂躪スルノデハナイカ」ト云フヤウナ疑心暗鬼ヲ持ッテ非常ニ神經過敏ニナッテ居リマシタ、又一方ニ於テハ「日本ハ北支ノ關稅網ヲ無視シテ、阿片ノ密輸入ヲシテ、支那人ヲ道德的ニ滅亡セシメ、以テ自國ノ勢力ヲ支那ニ發展セシムルノデハナイカ」ト云フヤウナコトヲ誤解シテ居リマシタ、各方面ノ人々ニ會ヒ、或ハ政治家ニ會ッテ見テモ、或ハ倫敦「タイムズ」ヤ「デイリー」ク

ロニクル」等ノ記者ニ會ツテ見テモ、皆サウ云フコトヲ言ツテ居タ、固ヨリ私ハ日本國民ノ一人トシテ、斯ルコトハ絶體ニナイ、日本ハ東亞ニ於ケル安定力デアツテ、其使命ヲ痛感シテ居ル、日本ハ支那ニ對シテハ平和的ニ行クノデアツテ、文化的經濟的提携ヲ希望シテ居ルトノ聲明ヲ致シマシタガ、本日ハ此壇上ニ於テ陸軍大臣ノ御答辯ヲ御伺致シマス、御承知ノヤウニ北支ニ於テハ、二三ノ軍事協定ガアル、或ハ塘沽協定ノ如キモノモアリマス、梅津、何應欽協定モ一昨年六月十日ニ締結セラレマシタ、固ヨリ是ハ侵略的ノモノデナク、北支ニ於ケル治安維持ノ爲デアツテ、支那側ニ於テモ之ヲ尊重シテ居ルト思フ、支那側モ之ヲ喜ンデ居ルコトト思ヒマス、陸軍大臣ニ御伺シタイコトハ、我國ノ陸軍ガ如何ナル態度ヲ以テ北支ニ臨ンデ居ルカ、或ハ支那ヲ分割セントシテ居ルカ、或ハ侵略セントシテ居ルカト云フコトニ付テ御伺シタイノデアリマス、吾々ハ日本國民トシテハ、我陸軍ガ斯ル意圖ヲ有シテ居ラヌト確信シテ居ルガ、政府當局ニ居ル杉山陸相ニ、之ニ關スル御考ヲ御伺シテ見タイト思フ、隨テ陸相ノ御答辯ハ吾々日本國民ヲ安心セシムルノミナラズ、支那人モ心配シテ居リ、又世界列強モ心配シテ居リマスカラ此點ニ付テハ明確ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フ、其後チ再ビ九月上旬ニ大陸カラ倫敦ヲ訪問シタ時ニ、偶、南京ニ於ケル、我が對支交渉ナルモノガ發表サレマシタ、英吉利ノ輿論ハ次ノ通りデアリマシタ「日本ハ支那ニ對シテ暴擧ヲヤツテ居ル、今度ハ日本軍ハ必ズ北支ヲ占領スルデアラウ、恰モ嘗テ加藤高明伯ガ外務大臣デアッタ時ニ、支那ニ對シテ五項二十一箇條ノ要求ヲ出シタガ左様ナコトヲスルノデアラウ」ト云ツテ非常ニ心配シテ居リマシタ、所ガ其結果ドウデアルカ、廣田内閣ハ一方ニ於テハ「斷ノ一字アル」トカ、或ハ「武力ヲ以テ支那ニ臨ム」トカ言ヒナガラ、最後ニ於テ第八回目ノ川越大使張群外交部長トノ會見ノ時ノ日本ノアノ態ハ何デアアルカ、川越大使提出ノ「メモランダム」ハ張外交部長カラ突返サレタノデアアル、其醜態ハ何デアアルカ、然ラバナゼ初ニ斷ノ一字アルノミト云フガ如キ威嚇ヲ爲シタカ、私ハ歐羅巴カラ歸ツテ來テ、日本ノ對支外交ノ全面的失敗ヲ見テ慨歎ニ堪ヘナカッタ、仍テ十二月四日ニ東京ヲ出發シテ、鮮滿地方ヲ經テ北平ニ赴キマシタ、偶、陝西省西安府ニテ蔣介石氏ノ監禁事件ニ

遇ツテ、物情騒然タルモノガアリマシタ、當時私ノ考トシテハ、昨年九月以來ノ對支外交ノ失敗、其失敗ノ原因ガ何處ニ在ルダラウカト云フコトヲ考ヘテ見タ時ニ、恐ラクハ是ハ軍部ガ背後ニアツテ、外交官ヲ操ツテ、或ハ外交官ヲシテ支那ニ強硬ノ要求ヲサシテ居ルノダラウト思ツテ居タ、然ルニ南京ヲ訪問シテ、我が軍部ノ代表ノ人々ニ會ツテ見ルト云フト、事實ハ之ニ反シテ居ルノヲ見出シタノデアアル、外務省ニ於テハ、小谷君ノ今言ハレタヤウニ、須磨總領事ノ如キ支那人々ノ嫌フ、アノ傲岸不遜ノ人物ヲ使ツテ居タコトハ遺憾デアアル、而シテ八時間モ離レテ居ル上海ニ川越ト云フ者ガ居ルデアリマセヌカ、列國ハ最早北平ヨリ大使館ヲ南京ニ移シテテ監禁セラレタ報道ガ、十二月十三日ニ南京ニ到著スルヤ、南京ニ於ケル駐英大使ハ、支那ノ政府ヲ訪問シテ、洵ニオ氣ノ毒デアルトト同情ノ意ヲ表シタ、サウシテ宋子文ニ會見シテ、英國政府ハ支那ニ出來ルダケノ援助ヲスルト云フコトヲ言明シタト報道サレテ居タ、然ルニ日本ノ大使、日本ノ外務省ハ何ヲシテ居タカ、而シテ政府ハ内ニ居ツテ東京ニ於テハ靜觀主義ヲ採ツテ居ル、川越大使ハ上海ニ居ル、支那ニ對シテ善隣ノ友誼ガアルナラバ、我が出先ノ外務官憲タル川越大使ガ、セメテ東洋道徳ヲ諒解シ、我が日本ノ天晴レ武士道ノ精華ト精神トヲ「アンダースタンド」シテ、諒解シテ居ルナラバ、セメテハ南京政府ニ訪フテ、日本國民ノ名ニ於テ、實ニオ氣ノ毒デアルト云フコトヲナゼ一遍言ハナカッタカ、斯様ナコトヲ見マスルト、正ニ是ハ出先ニ居ル川越大使ナルモノガ、木偶ノ坊デ、而モ彼等ガ日本國民性モ諒解セズ、彼等ガ我が大和魂ト云フノ根幹ニ觸レテ居ラナイ、デアルカラシテ此點ニ付テハ外務當局ハ今後慎ンデ戴キタイト云フコトヲ思フ、固ヨリソレハ前政府ノ外務當局者デアリマスケレドモ、林外相ハ支那ニ對シテハ今回ハ經濟提携ヲ行カウ、文化的協力ヲ行カウト云フノデアリマスカラシテ、正ニ斯様ナル態度ハ一掃セラレルコトデアラウト云フコトヲ信ジテ居リマス、所デ一方英吉利側ヲ見マスルト、此機會ヲ利用シテ、英支提携ニ拍車ヲカケタ、日本ハ此際ニ於テハ千載一遇ノ機會ヲ與ヘラレタ、昨年ノ或ハ緩遠問題——其他ニ於テ日本政府ガ好マザル所ノ問題ガ北

支綏遠方面ニ於テ勃發シタ、蔣介石事件ト云フ大事件ガ起ッタナラバ、何故ニ日本ニハ、外務省ニ「ステーツマン・シップ」ヲ有シタ外交官ガ居ラナイカ、日本ノ政治家ノ間ニハ「ステーツマン・シップ」ト云フモノガナイカ、斯様ナ場合ニ於テ支那ニ對シテモ少シ徹底的ニ吾々日本國民ノ意ノ在ル所ヲ示シテ貫ヒタカッタ、偶々日獨防共協定ナルモノガ發表セラレマスルト云フト、斯様ナルコトガ、東亞ニ於テハ相當ノ問題ニナリ、蔣介石監禁事件モ、其裏ニ於テハ、日獨防共協定ノ發表ト云フコトガアル、其問題ヲ英米ハ——英吉利ノ如キハ之ヲ利用致シマシテ、獨リ日本ノミガ——此ノ機會ニ於テ日本國民ノ精神ノ發露ヲ示ス機會ヲ捉ヘ得ナカッタコトハ、政府當局ノ怠慢デアリハシナイカ、外務當局ハ之ヲ以テ失敗ト思ヒマセヌカ、私ガ對支外交ニ付テハ、我が國民ノミナラズ、世界ノ總テノ人々ガ、日本ハ對支外交ニ於テ失敗シタト言ッテ居ル、若シ對支外交ガ失敗シタトナレバ、林外相、次官、兎ニ角之ヲ國民ニ陳謝シテ、吾々ハ新シイ外交ヲ以テ支那ニ臨ムノダト云フコトヲ明確ニ、是ハ今日壇上ニ於テ御説明ヲ願ヒタイト思フ、英吉利大使ガ十二月十三日ニ宋子文ニ言ッタト云フ、心配スルナ、英國ハ君ノ國ニ金ハ幾ラデモ貸スカラ確ッカリヤレト言ウタカラ、支那ノ爲替ノ動亂ヲ防ギマシタ——兎ニ角私ノ質問ノ要旨ハ是デアル、政府ハ今日マデ對支外交、文化事業ト云フモノヲ一新スルナラバ、如何ナルコトヲ以テスルカ、モウ少シ具體的ニ案ヲ示シテ貫ヒタイ、第二ニハ、如何ニ我が日本ガ支那ニ對シテ文化事業ヲヤラウト思ッテモ、今日ノ如ク日本國民ノ意思ガ支那國民ニ反映ヲシナイコトハ遺憾デアル、其原因ハ何處ニアルカト云フナラバ、外交方面ニ於キマシテ無能ナル外交官ヲ支那ニ送ッテ居ルカラデアル、故ニ政府ハ速ニ之ヲ一新スル考ガアルカ、第三ニハ、陸軍大臣ニ御伺シタイ、日本ガ北支ニ於テ侵略主義ヲ執ッテ居ルト云フコトヲ、支那及ビ列強カラ疑ヲ受ケテ居リマスルガ、杉山陸相ハ我が帝國ノ陸軍及ビ我が政府ガ從來如何ナル態度ヲ以テ支那ニ臨ンデ來タカ、或ハ今後如何ナル態度ヲ以テ支那ニ臨ムカト云フコトヲ、此壇上ヨリ我が國民及ビ世界ニ聲明ヲシテ戴キタイ、第四ニハ、林外相ハ廣田外交ノ失敗ヲ認ムルカ、若シ御認メニナルナラバ、之ヲ一新スル御考ガアラウ、然ラバ新シイ方策ヲ以テ支那ニ臨マナケ

レバナラヌト思ヒマス、故ニ新外相ノ下ニ我が對支外交ヲ一新セントスルナラバ速ニ君命ヲ聡カシメタル我國ノ使臣ヲ召還シテ、日支外交調整ノ爲ニ努力シテ頂キタイ、サウシテ新シイ使官ヲ南京ニ送ッテ、新シイ對支政策ヲ行ハシテ貫ヒタイ、故ニ政府ハ川越君ヲ直チニ召還スル考ガアルカドウカ、以上ハ私ノ質問ノ要旨デアル、故ニ斯ル考ノ下ニ吾々ハ此日支外交ノ進展及ビ伸張ヲ希望シテ居ルノデアリマス、尙ホ對支文化事業ヲ進行シテ行クノニハ、我が當局ハ支那ノ有力ナル人々及ビ支那ノ政府當局トモ提携ニ意ヲ注イデ戴キタイ、一昨年上海ノ研究所ノ新城所長ガ新任挨拶ノ爲ニ南京ニ赴キ、外交部文化事業科長ニ會見ノ時ニ、科長ハ曰ク「洵ニ御老體ガ日本カラ遙々來テ努力シテ呉レル、有難イケレドモ、政府トシテハ何等アナタト提携シ且ツ援助ヲ與ヘルコトガ出來ナイト云フコトヲ言明シタト聞イテ居リマス、是ハ洵ニ遺憾デアルガ、果シテソレガ事實ナリヤ否ヤ、新城所長其他對支文化事業ニ携ハッテ居ル人々ハ、愛國的精神ヲ以テ日支兩國ノ文化提携ニ努力セラレテ居ル、故ニ政府當局ハ、我が善隣ノ精神ヲ支那當局及ビ國民ニ徹底スルヤウニ御盡力ヲ願ヒタイ、サウシテ外交刷新ノ爲ニ、且ツ日支兩國ノ文化提携ノ爲ニ御盡力ヲ致シテ、日支共存共榮ノ實ヲ擧ゲテ戴キタイ、以上ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス

杉山陸軍大臣ノ應答

只今笠井君カラ陸軍ハ北支那ヲ占領スル意思アリヤ否ヤ、斯ウ云フ御尋デゴザイマシタ、陸軍トシテハ既ニ御承知ノ如ク政府ニ於テ決定致シマシタル所ノ對支三方針ニ依リマシテ、其方針ヲ確保シテ進ンデ居ルノデアリマス、要約シテ申シマスレバ、最モ速ニ日滿支三國ガ親善提携致シマシテ、經濟的發展ヲ圖リ、共存共榮ノ實ヲ擧ゲマシテ、東亞ノ平和ヲ確定致シタイ、而シテ是ハ極メテ重大ナル問題デアリマス、先年熱河作戦ノアリマシタ際ニ、我軍ハ熱河及ビ北支那ニ居リマスル所ノ支那軍ヲ突破ヲシテ、北平及ビ天津ニ近ク進ンダノデアリマス、此際若シ我軍ニシテ北支那ヲ占領スル意圖ガアリマシタナラバ、更ニ進ンデ眼ノ前ニ見エル北平、天

津ヲ占領スルコトハ易々タルコトデアッタノデアリマス、又占領ノ意圖ガアリマシタナラバ、斯ノ如キ土地ヲ占領シナケレバ、實ハ擧ラヌノデアリマス、併ナガラ其當時ノ軍ト致シマシテハ、滿洲國ノ熱河省ニ對シマシテ、排日反滿ノ團體ガ横行シテ居リマシテ、斯ノ如キ者ヲ早ク芟除スルニアラザレバ、滿洲國ノ平和ヲ速ニ回復スルコトガ出來ナイト云フコトデ、熱河作戰ヲ實施致シマシテ、同時ニ萬里ノ長城ヲ越シマシテ、其國境ノ近所ニアル所ノ斯ノ如キ分子ヲ擊退致シタノデアリマス、此目的ヲ達シマシタル以上ハ、長ク北支那ニ留マル必要ナクシテ、萬里ノ長城以內ニ下ツタノデアリマス、上海ノ事變ニ於キマシテモ同様デゴザイマス、若シ領土の野心ヲ持ツテ居リマシタナラバ、依然上海ヲ占領スベキデアッタノデアリマスガ、直チニ兵ヲ引揚ゲタノデアリマス、此事實カラ考ヘマシテモ、軍ガ支那ヲ占領スル意思ヲ持ツテ居ルカドウカト云フ事柄ハ、明ニ證明ガ出來ル事柄デアリマシテ、若シ夫レ今日ニ於テ尙ホ支那側ニ於テ斯ノ如キコトヲ申シテ居リマスナラバ、是ハ國內ニ對スル所ノ反日抗日ノ氣分ヲ煽リ、又ハ外國ニ對シテ反日抗日ノ政策ヲ實行スルト云フ、一ツノ支那政府、南京政府ノ誠實ヲ缺イタル行爲デアルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、斯ノ如キコトヲ繰返スコト既ニ三年餘リ、此間ニ於テ政府ハ南京政府ニ對シマシテ、屢ニ三方針ノ實行ニ付テ懇談ヲ進メタノデアリマスガ、今ニシテ尙ホ其實行ノ實ヲ擧ゲルコトノ出來マセヌノハ、洵ニ遺憾ニ存ジテ居リマス、併ナガラ今日政府ノ考ヘテ居リマス所ハ、ドウシテモ是ハ經濟的ニ發展シテ行カナケレバナラス、斯ノ如クシテ始メテ東洋ノ平和ヲ確保スルコトガ出來ルノデアアル、此方針ノ下ニ依然三原則ニ從ッテ、此下ニ平和的ニ經濟ノ發展ヲ進メテ行クト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、御答申上ゲマス

堀内外務次官ノ應答

笠井君ノ御質問ニ對シテ御答致シマス、第一點ハ政府ハ今日以上ニ、大キナ規模ヲ以テ文化事業ヲスル考ハナイカ、斯ウ云フ御尋ト拜承致シマシタガ、此點ニ付キマシテハ、政府ハ財政ノ

許ス限リ、出來ルダケ對支文化事業ヲ擴大強化致シタイト存ジマシテ、現ニ從來三百萬圓ニ過ギナカッタ豫算額ヲ、大正十一年度ニ於キマシテハ、之ヲ四百萬圓ニ増額致シタヤウナ次第デアリマス、此經費ノ範圍內ニ於テ出來ルダケ效果ヲ擧ゲタイト苦心致シテ居ル次第デアリマス、且ツ其事業ノ内容ニ付キマシテモ、從來ハ御承知ノ如ク、主トシテ自然科學及ビ人文科學ノ基本的調査研究ト云フコトニ重キヲ置イテ居ッタノデアリマス、併ナガラ時勢ノ必要ニ應ジマシテ、更ニ現代ノ必要ニ直接應ジ得ル如キ方面ノ事業モ、徐々ニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、先刻小谷君ノ御尋ニ對シマシテ御答致シマシタガ、既ニ著手ヲ致シテ居リマスル北支ノ産業研究所、又北支棉花ノ栽培獎勵助成ト云フヤウナ事業ハ、之ニ屬スルモノデアリマス、尙ホ是ハ私自身ノ腹案デゴザイマスケレドモ、例ヘバ同文書院ノ如キ從來有益ナル事業トシテ成績ヲ擧ゲテ居リマスルモノヲ、更ニ擴張致シマシテ、例ヘバ經濟研究室ト云フヤウナモノヲ之ニ設ケテ、現代ノ支那ノ經濟事情ヲ調査研究スルト云フ如キハ、先程申シマシタ如キ目的ニ副フ所以デハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、其他各方面ノ御意見ヲ參酌致シマシテ、朝野ノ衆智ヲ集メテ、此方面ニ著々ト事業ヲ擴張致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、第二ニ支那ノ一般民衆ニ對シテ、政府ハモウ少シ日本ノ意向ヲ周知セシメル方法ヲ講ズル考ハナイカ、例ヘバ支那ニ於ケル外國ノ英字新聞、或ハ漢字新聞ト云フヤウナモノニ倣ッテ、日本モ左様ナ施設ヲシテハドウカ、斯ウ云フ御尋ノヤウデアリマシタガ、此點ニ付キマシテモ、政府ト致シマシテハ、色々ノ方法ヲ講ジテ、現ニ支那ノ民衆ニ對シテ、日本ニ關スル知識ヲ普及セシメ、日本ニ關スル認識ヲ徹底セシメルコトニ努力致シテ居ルノデアリマス、併ナガラ勿論是等ノ事業ハ事機微ニ屬シマスルノデ、此席ニ於テ具體的ニ例ヲ擧ゲテ申上ゲルコトハ差控ヘマス、第三ニハ對支外交ハ過去ニ於テ失敗デアッタ、之ヲ改善スル所ノ考ガ現内閣ニアルカドウカ、斯ウ云フ御尋デゴザイマシタガ、過去ノ對支外交ガ失敗ナリヤ否ヤト云フコトハ、是ハ私ハ先刻笠井君ノ御述ニナツタコトハ、御意見トシテ伺ッテ置ク外ハナイノデアリマスルガ、勿論現在ノ政府ニ於キマシテモ、日本ノ對支根本方針デアリマスル日支親善、共存共榮ト云フ趣旨ニ基キマシテ、相互國民ノ

理解ヲ深メ、且ツ民間ノ接觸モ益々盛ニ致シマシテ、兩國ノ國民ノ間ノ空氣ヲ好轉セシメルト云フコトヲ圖ルト共ニ、尙ホ種々ノ具體的ノ問題ニ付テ、徐々ニ其解決ヲ圖ツテ行クト云フコトヲ考慮致シテ居ル次第デアリマス、最後ニ支那ニ於ケル外交機關ノ主ナルモノヲ政府ハ取替ヘル考ハナイカドウカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタガ、是ハ私ヨリ答辯致スコトハ出来マセヌ、唯私ハ同僚ノ爲ニ一言申上ケテ置キタイノハ、先刻笠井君カラ色々御批評ガアリマシタケレドモ、私ガ常ニ電報、其他ノ報道ニ依ツテ支那ニ於ケル大使、南京ノ總領事、上海ノ總領事、其他同僚諸君ガ日夜至誠ヲ以テ君國ノ爲ニ努力シテ居ルト云フコトニ付テハ、一點ノ疑ヲ挾マナイノデアリマス、此點ヲ斷言致シテ置キマス

笠井君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今ノ杉山陸軍大臣ノ御答辯ノ中デ、我國ノ陸軍ガ平和的意向ヲ以テ支那ニ臨ミ、日支ノ經濟的提携ヲセントノ意思ヲ有スルト云フ御答辯ニ對シテハ、満足ノ意ヲ表シマス、只今堀内次官カラ相當ニ御説明モアリマシタガ、最後ノ點ニ付テハ、私ハ遺憾ナガラ堀内サントハ意見ヲ異ニ致シテ居ルデアリマス、固ヨリ我が外務官憲ガ、我國ヲ代表シテ、世界ノ各地ニ於テ、君國ヲ辱シメザル態度ヲ執ツテ居ルコトニ付テハ、大ニ敬意ト感謝ノ意ヲ表シテ居ル、併ナガラ昨年ノ五月ノ臨時議會ニ於テ、私ハ有田外相ニ對シテモ、支那ノ時局ト云フモノハ重大デアアル、日支外交ト云フモノハ、南京ニ於テ唯日本ノ外交官ガ支那ニ對シテ外交ヲヤツテ居ルノデハナイ、即チ南京ヲ舞臺トシテ、英米露佛獨、其他ノ各國ノ外交官ト相折衝シナケレバナラナイカラシテ、川越君デハマダノ、不十分デアアル、其力モナイト云フコトヲ言ヒマシタ、但シ私ハ川越大使ハ見タコトモナイシ、會ツタコトモナイ人デアリマス、何等ノ恩怨モナイ、今回南京ニ行ッテ見ルト、我が外交陣ハ非常ニ弱イ、之ヲ強化スル必要ヲ痛感シタ、即チ一言ニシテ言フナラバ、先ヅ成ツテ居ラナイト云フコトヲ見テ參リマシタ、隨テ我國ノ對支外交ヲ一新セントスルナラバ、一方ニ於テ須磨總領事ノヤウナ、支那人ノ嫌フ人ヲ戻シタノハ、先ヅ結構デアアルガ、

新シク南京ニ於ケル外交陣ヲ立直シテ戴キタイト云フコトノ希望ヲ述ベテ置キマス、是ヲ以テ私ノ質問ヲ打切りマス、又尙ホ委員會ニ於テ質問ヲ申上ゲマスガ、本日ハ此程度デ……  
次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ三月一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正(附帶決議ヲ附シ)スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ  
委員會報告書

(小字及——ハ委員會修正)

アルコール專賣法案中左ノ通修正ス

第三十二條 政府ハアルコール製造ノ委託ヲ爲スコトヲ得

前項ノ委託ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ申請ヲ爲スベシ

第七條、第八條、第十六條、第二十九條、第三十條、第三十九條及第四十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 本法ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケアルコールヲ製造スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケ

タル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ規定ハ特許又ハ委託ヲ受ケタル者ガ其ノ製造場ヲ新設シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第二章 議事

第三節 議案

第一款 議案ノ討議及表決

第四項 法律案

附則

第四十二條<sup>三</sup> 本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條<sup>四</sup> 第三條ノアルコール製造者又ハ本法施行ノ際現ニアルコールノ製造方法ヲ試験研究スル爲アルコールノ製造ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ製造ヲ繼續セントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ一月内ニ製造ノ特許又ハ許可ヲ受クベシ其ノ期間内ハアルコールノ製造ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許又ハ許可ヲ受クル迄ノ間ニ製造シタルアルコールニ關シテハ本法ヲ準用ス

第四十四條<sup>五</sup> 本法施行ノ際現ニアルコールノ販賣ヲ爲ス者ニシテ本法施行後其ノ販賣ヲ繼續セントスルモノハ本法施行ノ日ヨリ二月内ニアルコール賣捌人ノ指定ヲ受クベシ其ノ期間内ハアルコールノ販賣ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ指定ヲ受クル迄ノ間ニ於ケル販賣ニ付テハ本法ヲ準用ス

第四十五條<sup>六</sup> 昭和十二年三月三十一日迄ニ酒精及酒精含有飲料税法ニ依リ査定又ハ檢定ヲ受ケタルアルコールニシテ本法施行ノ際現存スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四十六條<sup>七</sup> 酒精及酒精含有飲料税法第四條中「及清涼飲料」ヲ「清涼飲料及アルコール專賣法

ノ適用ヲ受クル酒精」ニ改ム

第四十七條<sup>八</sup> 酒母、醪及麴取締法第一條中「酒類ノ製造免許」ノ下ニ「又ハアルコール專賣法ニ依リアルコール製造ノ特許、許可若ハ委託」ヲ加フ

委員會報告書附帶決議

- 一 無水アルコール製造ノ原料ハ甘藷馬鈴薯ハ勿論其ノ他ノ原料ニ付テノ研究ヲ促進スベシ
- 二 農村振興ノ目的ヲ達スルヤウ速ニ製造工場ノ設置ヲ期スベシ
- 三 工場ノ設置ニ際シテハ他ノ同一原料ヲ使用スル工業トノ關係ヲ考慮シ之ヲ壓迫セザルヤウ留意スベシ

同月二十四日起立採決ノ結果議事日程ノ順序ヲ變更シテ本案及一〇三ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長平川松太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程ニナリマシタアルコール專賣法案竝ニ揮發油及アルコール混用法案ニ付テノ委員會ノ經過竝ニ結果ニ付テ簡單ニ御報告致シマス、アルコール專賣法案ノ立法ノ趣意ハ、我國ニ於ケル揮發油ハ其產出至ッテ僅少デアリマシテ、之ヲ輸入ニ大部分仰ガナケレバナナイト云フ現今ノ状態デアアルデアリマス、是ニ於テ揮發油ニ約二割ノ「アルコール」ヲ混用スル、而シテ其「アルコール」ヲ製造スルコト、竝ニ之ヲ賣買スルコトヲ主トシテ政府ニ於テ之ヲ行ヒタイ、又アルコール混用法案ハ、揮發油ニ「アルコール」ヲ強制シテ混用セシメル、是ガ揮發油及アル

コール混用法案ノ立法ノ趣意デアアルノデアリマス、而シテ「アルコール」ヲ製造致シマスルコトハ、豐富竝ニ低廉ニ之ヲ製造シナケレバナラナイ、豐富竝ニ低廉ニ製造スルノニ付キマシテハ、此製造ハ其原料デアアル所ノ芋、此芋ノ栽培ヲ、之ヲ馬鈴薯ノミニ依ッテ行ヒマス時ニ於テハ、約八億二千万貫ノ馬鈴薯ヲ要シマス、甘藷ノミニ依ッテ之ヲ製造スル時ニ於キマシテハ、約五億三千万貫ノ甘藷ヲ要スルデアリマス、而シテ其豫想ノ製造石數ハ、昭和十二年ニ於テ二万石デアリマス、併シ其先キニ於キマシテハ一箇年百六十万石ヲ製造スルト云フ豫想デアリマス、斯様ニ五億三千万貫ノ甘藷又ハ八億二千万貫ノ馬鈴薯ヲ要スル、其價格ハ今日ノ價格ニ之ヲ換算スル時ニ於キマシテハ、約三千七百八十万圓ニ上リマス、斯ノ如ク一面我が揮發油ノ使用量ヲ減少スル爲ニ、燃料トシテ之ヲ專賣ニスルト同時ニ、一面三千七百八十万圓乃至四千万圓ノ馬鈴薯、竝ニ甘藷ニ對スル價格ヲ民間ニ支拂ヲスルデアリマスカラ、農村振興ノ上ニ於キマシテモ、甚大ナル影響ノアル法案デアアルデアリマス、斯ノ如ク一面ニ於キマシテハ、燃料國策、一面ニ於キマシテハ農村振興ノ重大ナル影響ノアル重大ナル法案デアリマスルガ故ニ、委員ニ於キマシテハ、熱心ニ研究ヲセラレ、其質問モ亦有益ナル質問ガ多數アッタデアリマス、即チ政友會ノ三善君竝ニ東條君、大衆黨ノ佐竹君、民政黨ノ山本君竝ニ松本君等ヨリ熱心ニ研究セラレマシテ、洵ニ有益ナル質問ガ行ハレタデアリマス、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、其研究ノ點ニ於テ委員ノ質問ヨリ遙ニ劣ッテ居ルト云フ遺憾ガアッタデアリマス、政府ニ於キマシテハ、斯ル重要法案ナルガ故ニ、大藏省ヲ初メトシ、商工省、農林省、陸軍省、海軍省等ノ政府委員ガ出席セラレマシテ、又大藏大臣、商工大臣等モ出席ノ上答辯セラレマシタケレドモ、其答辯ニ於テ満足スルコトガ多少出來ナカッタ點ガアルト云フコトハ甚ダ遺憾デアアルデアリマス、而シテ採決ニ入ルニ先立チマシテ討論ヲ行ヒマシタ、其討論ノ時ニ於テ、民政黨ノ信太君ヨリ修正動議ガ提出セラレタデアリマス、即チアルコール專賣法案ニ對スル修正ノ動議、是ハ既ニ諸君ノ御手許ニ配付シテアリマスガ、是ハ第三十二條ノ第二項ニ「前項ノ委託ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ申請ヲ爲スベシ」又第三項ノ「前項ノ場合ニ」ト

云フ「前項」ト云フ文字ヲ「第一項」ニ修正ヲスル、更ニ第四十二條ヲ別ニ附加シタノデアリマス、四十二條ハ「本法ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケアルコールヲ製造スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特許又ハ委託ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス」前項ノ規定ハ特許又ハ委託ヲ受ケタル者ガ其ノ製造場ヲ新設シタル場合ニ付之ヲ準用ス」此一箇條ノ條文デアリマス、故ニ第四十二條以下一條ヅ、ヲ繰下ヲシタデアリマス、此趣意ハ今申ス通り「アルコール」ノ製造ト云フコトハ、最モ急務トスル所デアアルデアリマス、然ルニ之ヲ政府ノ製造ノミニ委シテ置ク時ニ於キマシテハ、豫定ノ製造ヲスルコトガ出來ナイ、仍テ民間ニモ之ヲ獎勵ヲシ、委託ヲシナケレバナラヌ、斯様ナ意味ニ於キマシテ民間事業ヲ獎勵シ補助スルト云フ意味合カラ、此修正ヲシタノデアリマス、此修正ノ法文ノ如キ法文ハ他ニモ人造石油製造事業法案及製鐵事業法案ニモ斯ノ如キ規定ガアルデアリマス、此故ニ委員會ニ於テハ此修正ヲスルト云フ動議ヲ信太君ヨリ提出致シマシテ、而シテ政府ハ之ニ贊成ノ意ヲ表シタノデアリマス、政友會ヲ代表致シマシテ、岩瀬亮君ヨリ贊成ノ御演說ガアッタデアリマス、尙又附帶決議トシテ、附帶決議一、無水アルコール製造ノ原料ハ甘藷馬鈴薯ハ勿論其ノ他ノ原料ニ付テノ研究ヲ促進スベシニ、農村振興ノ目的ヲ達スルヤウ速ニ製造工場ノ設置ヲ期スベシ、三、工場ノ設置ニ際シテハ他ノ同一原料ヲ使用スル工業トノ關係ヲ考慮シ之ヲ壓迫セザルヤウ留意スベシ、此附帶決議ヲ信太君ヨリ提案セラレ、又岩瀬君ヨリ之ニ贊成ヲセラレ、此修正動議竝ニ附帶決議ニ付テ採決ヲ致シマシタ所ガ、滿場一致可決シタデアリマス、尙ホ此附帶決議竝ニ修正動議、以上ノ本文ニ付キマシテハ、悉ク贊成ヲセラレタデアリマス、斯様ナ順序ヲ經マシテ、アルコール專賣法案ハ全會一致ヲ以テ可決シタデアリマス、此委員會ノ各委員ノ陳述ニ付キマシテハ、前申ス通りニ研究ノ結果洵ニ有益ナル質問ガアッタデアリマスガ、各委員ノ質問竝ニ各部分ノ質問ヲ一々此處で紹介ヲスルノ煩ヲ避ケマシテ、是ハ速記録ニ依ッテ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、又揮發油及アルコール混用法案ニ付キマシテハ、是ハ質問ハ僅ニ一回デ終了シタノデアリマス、直チニ討論ニ入りマシテ、全會一致之ヲ可決致シ

マシタ、此段御報告致シマス  
院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二、第三讀會ヲ開キ委員會報告ノ通修正議決  
シ即日貴族院ニ送付ス同院ハ同月二十八日可決奏上シ同月三十一日法律第三十二號ヲ以テ公布セ  
ラル

### 六六 農地法案

#### 農地法

第一條 本法ハ互讓相助ノ精神ニ則リ自作地ノ創設維持及農地ノ使用收益關係ノ調整ヲ圖ルヲ  
以テ目的トス

第二條 本法ニ於テ農地トハ耕作ヲ目的トスル土地ヲ謂フ

本法ニ於テ自作トハ農地ノ所有者自ラ耕作スルコト、賃貸借トハ農地ノ賃貸借、永小作權ト  
ハ農地ノ永小作權ヲ謂フ

本法ニ於テ自作地トハ自作ノ目的タル農地、小作地トハ賃貸借ノ目的タル農地、永小作地ト  
ハ永小作權ノ目的タル農地ヲ謂フ

第三條 自作地ノ創設維持、農地ノ使用收益關係ノ調整其ノ他農地ニ關スル事項ヲ處理スル爲

市町村ニ農地委員會ヲ置クコトヲ得

農地委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 農業ニ従事スル者ハ農地委員會ニ自作地ノ創設又ハ維持ニ關スル斡旋ヲ請求スルコト  
ヲ得

農地ノ所有者ハ農地委員會ニ農地ノ賣却ニ關スル斡旋ヲ請求スルコトヲ得

第五條 小作關係ノ當事者ハ合意ヲ以テ農地委員會ニ將來ニ向テ小作料其ノ他ノ小作條件ノ改  
定ヲ請求スルコトヲ得

裁判所ハ當事者又ハ小作官ノ申立ニ依リ農地委員會ノ決定著シク不當ナリト認ムルトキハ其  
ノ決定ヲ取消スコトヲ得此ノ申立ハ決定ノ通知アリタル日より二週間内ニ之ヲ爲スニ非ザレ  
バ其ノ效力ナシ

農地委員會ノ決定ハ取消ノ申立ナクシテ前項ノ期間ヲ經過シ又ハ申立ヲ棄却スル裁判ノ確定  
シタル日より當事者間ノ契約ノ内容ヲ成ス

第六條 道府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ定ムル團體ガ自作農創設維持ノ事業ヲ爲ス場合ニ於  
テハ命令ノ定ムル所ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス



前項ノ場合ニ於テ行政官應必要アリト認ムルトキハ農地ノ所有者ヲシテ農地處分ニ當リ自作農創設維持ノ事業者又ハ農地委員會ニ其ノ旨ヲ通知セシムルコトヲ得

本法ニ於テ自作農創設維持ノ事業トハ第一項ニ規定スル者ノ爲ス自作農創設維持ノ事業ヲ謂フ

第七條 前條第一項ニ規定スル者ガ農村ノ經濟更生ノ爲自作農創設維持ノ事業ヲ爲シ又ハ農地ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ要スル土地又ハ其ノ使用收益ノ權利ヲ取得スルノ必要アルトキハ行政官應ノ認可ヲ受ケ土地ノ所有者其ノ他之ニ關シ權利ヲ有スル者ニ對シ土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ノ設定若ハ讓渡ニ關スル協議ヲ求ムルコトヲ得

第八條 自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外行政官應ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ自作地ノ讓渡若ハ貸付ヲ爲シ又ハ之ニ付物權ヲ設定スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ同項ニ規定スル自作地ノ耕作ノ廢止ニ之ヲ準用ス

第九條 自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ガ前條ノ規定ニ違反シテ第三者ニ自作地ヲ引渡シタル場合、第三者ヲシテ自作地ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメタル場合又ハ自作地ノ耕作ノ廢止ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業者又ハ其ノ指定スル者ハ行政

官應ノ認可ヲ受ケ命令ノ定ムル金額ヲ以テ其ノ自作地ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得

前項ニ規定スル場合ニ於テハ事業者ハ自作地ノ創設又ハ維持ノ爲自作地ノ所有者ガ事業者ニ對シ負擔シタル債務ニ付期限ノ利益ヲ失ハシメ又ハ違約金ヲ請求スルコトヲ得

第一項ノ規定ハ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ノ所有者ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ創設又ハ維持ノ爲事業者ニ對シ負擔シタル債務ノ辨濟ヲ怠リタル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地ニ付テハ其ノ旨ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル自作地タルコトヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第一項ノ規定ニ依ル登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 賃貸借ハ其ノ登記ナキモ小作地ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ小作地ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ登記セザル賃貸借ノ目的タル小作地ガ賣買ノ目的ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 民法第三百九十五條ノ規定ハ抵當權ノ登記後ニ小作地ノ引渡アリタル賃貸借ニ之ヲ準用ス

第十三條 小作地ノ小作料ノ額其ノ他小作料ニ關スル條件ガ比隣ノ小作地ノ小作料ノ増減其ノ他ノ事情ノ變更ニ因リ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラズ當事者ハ將來ニ向テ小作料ニ關スル條件ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 賃借人ハ賃貸人ノ承諾アルトキト雖モ小作地ヲ轉貸スルコトヲ得ズ但シ疾病其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リテ自ラ耕作スルコト能ハザル爲一時轉貸スルハ此ノ限ニ在ラズ前項但書ノ場合ニ於テ賃貸人ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ轉貸ヲ拒ムコトヲ得ズ

第一項但書ノ規定ニ依ル轉貸借ノ終了ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項但書ノ規定ニ依ル轉借人ハ更ニ之ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ讓渡スコトヲ得ズ

第十五條 前條ノ規定ハ市町村其ノ他營利ヲ目的トセザル團體ガ賃借シタル小作地ヲ更ニ其ノ住民又ハ團體員ヲシテ使用又ハ收益セシムル場合ニハ之ヲ適用セズ

前條及第十六條ノ規定ハ前項ノ住民又ハ團體員ガ第三者ヲシテ小作地ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 賃借人ガ第十四條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ第三者ヲシテ小作地ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ賃貸人ハ賃貸借ノ解除ヲ爲スコトヲ得

轉借人ガ第十四條第四項ノ規定ニ違反シ第三者ヲシテ小作地ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ轉貸人又ハ賃貸人ハ轉貸借ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第十七條 賃借人ガ小作料ノ支拂ヲ爲サザル場合ニ於テ賃貸人ガ二月ヲ下ラザル期間ヲ定メテ其ノ支拂ヲ爲スベキ旨ヲ催告シ其ノ期間内ニ支拂ナキトキハ賃借人ニ宥恕スベキ事情ナキ限り賃貸人ハ賃貸借ヲ解除スルコトヲ得

第十八條 當事者ガ賃貸借ノ期間ヲ定メタルトキハ當事者ガ期間滿了前六月乃至一年内ニ相手方ニ對シ更新拒絶ノ通知又ハ條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ヲ爲サザルトキハ從前ノ賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ賃貸人ノ疾病ニ因リテ自ラ耕作スルコト能ハザル爲其ノ他特別ノ事由ニ因リテ一時賃貸借ヲ爲シタルコト明ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 賃借人ハ賃借人ニ信義ニ反シタル行爲ナキ限り賃貸借ノ解約ノ申入ヲ爲シ又ハ更新ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ土地使用ノ目的ノ變更又ハ賃貸人ノ自作ヲ相當トスル場合其ノ他正當

ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 永小作權ノ期間満了ノ後永小作人ガ耕作ヲ繼續スル場合ニ於テ永小作地ノ所有者ガ遲滯ナク異議ヲ述ベザルトキハ従前ノ永小作ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ存續期間二十年ノ永小作權ノ設定アリタルモノト推定ス

第二十一條 第十九條ノ規定ハ永小作地ノ所有者ガ前條ノ異議ヲ述ベタル後一月内ニ永小作人ガ其ノ農地ニ付賃借ノ申出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ申出ニ依リ成立スベキ賃借ノ條件ハ當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハザルトキハ申立ニ依リ裁判所之ヲ定ム

第二十二條 小作地又ハ永小作地返還ノ場合ニ於テ賃借人又ハ永小作人ガ權原ニ因リ作付シタル作物又ハ小作地若ハ永小作地ニ附屬セシメタル物アルトキハ賃借人又ハ永小作人ハ時價ヲ以テ之ヲ買取ルベキコトヲ請求スルコトヲ得但シ信義ニ反シ買取ラシムル目的ヲ以テ作付シ又ハ附屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 第十七條、第十八條及前條並ニ民法第六百八條、第六百十七條及第六百十八條ノ規定ニ異ル小作條件ニシテ賃借人又ハ永小作人ニ不利ナルモノハ之ヲ定メザルモノト看做ス  
第二十四條 農地ノ耕作ヲ目的トスル請負其ノ他ノ契約ハ之ヲ賃借ト看做ス但シ本法ノ適用

ヲ免ルル目的ニ出デザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ賃借ノ條件ハ當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハザルトキハ申立ニ依リ裁判所之ヲ定ム

第二十五條 第五條第二項、第二十一條第二項及前條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ小作地又ハ永小作地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

前項ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ第五條第二項ノ規定ニ依ル裁判ニシテ農地委員會ノ決定ヲ取消スモノニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

前項ニ規定スル即時抗告ノ期間ハ之ヲ二週間トス

第二十六條 本法ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズルモノトス

#### 附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 勅令ヲ以テ定ムル自作農創設維持ノ事業ニ依リ本法施行前創設又ハ維持セラレタル自作地ニ付テハ其ノ旨ノ登記ヲ爲スコトヲ得

第八條、第九條並ニ第十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル自作地ニ關シ之ヲ適用ス

第二十九條 第五條及第十一條乃至第二十三條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ存スル小作地ノ賃貸

借及永小作ニ之ヲ適用ス但シ本法施行ノ際現ニ存スル轉貸借ハ第十四條第一項但書又ハ第十  
五條第一項ノ規定ニ該當スルモノヲ除クノ外期間ノ定アルモノニ在リテハ其ノ殘存期間、期  
間ノ定ナキモノニ在リテハ本法施行ノ日ヨリ二十年ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ效力ヲ有ス  
第三十條 本法施行ノ際現ニ存スル小作地ノ賃貸借ニシテ本法施行後一年内ニ其ノ期間滿了ス  
ベキモノニ付當事者ガ其ノ期間滿了前一年内ニ相手方ニ對シテ爲シタル更新拒絶ノ通知又ハ  
條件ヲ變更スルニ非ザレバ更新セザル旨ノ通知ハ第十八條ノ期間内ニ爲サザルモノト雖モ之  
ヲ同條ノ期間内ニ爲シタルモノト看做ス

第三十一條 本法施行ノ際作株(小作權、土地代、甘土料、ザル代、鋤先等ノ名稱ヲ以テ賣買  
セラルルモノヲ含ム)又ハ永小作權ノ賣買ノ慣習アル地方ニ於テ現ニ其ノ慣習ノ存續スル小  
作地又ハ永小作地ヲ返還セシムル場合ニ於テハ相當ノ償金ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ償金ノ額ハ當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハザルトキハ申立ニ依リ裁判所之ヲ定  
ム

第二十五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル裁判ニ之ヲ準用ス

第三十二條 登録税法第十九條但書中「第八號、第九號」ヲ「第八號乃至第九號ノ三」ニ、「第十  
一號、第十二號」ヲ「第十一號乃至第十二號ノ二」ニ改ム

同法同條第八號中「自作農ノ創設維持又ハ」及「産業組合、産業組合聯合會、」ヲ削リ同號ノ次  
ニ左ノ一號ヲ加フ

八ノ二 農地法第六條又ハ第二十八條ニ規定スル事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登  
記

同法同條第九號ヲ左ノ如ク改ム

九 農地法第六條又ハ第二十八條ニ規定スル事業ヲ爲ス者カ自作農創設維持ノ事業又ハ同  
法第七條ニ規定スル農地ノ貸付ノ事業ノ爲ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲  
ニスル抵當權ノ取得ノ登記

九ノ二 農地法第六條第一項ニ規定スル者カ自作農創設維持ノ事業ノ爲又ハ同法第七條ニ  
規定スル農地ノ貸付ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記

九ノ三 農地法第六條又ハ第二十八條ニ規定スル事業ヲ爲ス者カ自作農創設維持ノ爲ニス  
ル抵當權ノ取得又ハ先取特權ノ保存ノ登記

同法同條第十二號ヲ左ノ如ク改ム

十二 農地法第六條又ハ第二十八條ニ規定スル事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ  
所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル事業者又ハ其ノ

指定スル同法第六條第一項ニ規定スル者ノ土地所有權ノ取得ノ登記  
十二ノ二 農地法第十條又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル登記

右ハ昭和十二年二月十九日本院ニ提出ス三月一日日本案ノ第一讀會ヲ開キ山崎農林大臣ハ左ノ趣旨  
辯明ヲ爲ス

只今上程セラレマシタル農地法提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、農地制度ノ改善ハ、農政上重  
要性ヲ有スル問題デゴザリマス、農地ノ面積ノ多少、農家ノ農地所有ノ關係、及び其貸借關係  
如何ハ、農業經營及ビ農村生活ニ重大ナル關係ヲ有シマスルコトハ御承知ノ通りデゴザイマ  
ス、我國ノ農村ノ狀況ハ、農家一戸當リノ耕作面積ハ一町餘ニ過ギナイノデゴザリマシテ、其  
大部分ハ是レ以下ノ狭小ナル面積ヲ耕作致シテ居ルノデアリマス、而モ自作農家ハ全體農家ノ  
僅ニ三割餘デゴザリマシテ、爾餘ノ約七割ニ當ル農家ハ、多少ノ差ハアリマスケレドモ、小作  
關係ニアルノデゴザリマシテ、小作地ハ全國ヲ通ジマシテ、全耕地ノ約半バヲ占メテ居ル次第  
デアリマス、而シテ是等ノ小作地ノ收穫ノ半バニ近キモノガ、小作料トシテ支拂ハレルモノデ  
アリマス、斯様ナ狀態カラ致シマシテ、御承知ノヤウニ、漸次小作爭議ガ各地方ニ増加致シテ  
參ッタノデアリマス、政府ニ於キマシテモ小作調停法ノ實施、自作農ノ創設維持ノ助成、其外  
ノ施設ヲ講ジマシテ、小作爭議ハ多少其緩和ヲ見タノデアリマス、特ニ思想的或ハ團體的傾向  
ノ強イ小作爭議ハ、稍、減少ノ傾向ヲ見セタノデアリマスガ、不幸ニシテ先年來ノ農村不況、  
各種災害等ノ影響モ加ッテ參リマシテ、小作爭議ハ再ビ著シク増加シタノデアリマス、殊ニ土  
地返還ニ關スル爭議ガ増加シテ參リマシテ、其解決ガ困難トナッテ參リマシタコトハ、洵ニ遺  
憾ニ存ズル次第デアリマス、此情勢ヲ此儘ニ放置致シマスルコトハ、農業及ビ農村ニ對スル各  
種ノ施設モ、其效果全キヲ得ザルヤノ憾ミガアルノデアリマス、隨テ是ガ改善ヲ圖リマスルコ  
トハ刻下ノ急務デアリマシテ、其方策ハ固ヨリ多方面ニ互ッテ之ヲ講ズルノ必要アルコトハ無

論デゴザリマスルケレドモ、鞏固ナル基礎ノ上ニ立チ、農事ノ改良發達ニ適シマスル所ノ、自  
作農及ビ自作地ヲ増加致シマスルコトガ必要デアルト考ヘマシテ、之ニ關スル計畫ヲ立テマシ  
テ、豫算ヲ本議會ニ提出致シタ次第デアリマス、即チ自作農創設維持ノ施設ヲ擴充致シマシ  
テ、二十五箇年ヲ一期トシテ毎年納四千萬圓、總額十億圓ノ資金ヲ之ニ融通スルノ計畫ヲ立テ  
マシテ、又新ニ未墾地開發ニ關スル施設ヲ爲シマシテ、自作地及ビ自作農家ノ増加ヲ圖ルコト  
ト致シタノデゴザリマスルガ、是ト併セマシテ農地ノ小作關係ノ調整ヲ圖ルノ方法ヲ講ジマシ  
テ、以テ地主、小作人間ノ關係ヲ圓滑ニ致シマシテ、小作紛争ノ豫防ト解決トニ資セントスル譯  
デアリマス、然ルニ現行ノ小作關係ノ法規ニハ不備ノ點ガゴザリマスルシ、小作慣行モ亦動モス  
レバ時代ノ推移ニ伴ハナイモノモナキニシモアラズデゴザリマスルコト、單ニ現行ノ小作調停法  
ノ活用ニ依ルダケデハ、圓滿ナル解決ヲ爲スコトハ困難デアルト信ズルノデアリマス、故ニ我  
國ノ醇風美俗ニ基イテ居リマスル小作慣行ノ保持ハ、之ヲ圖ルコトト致シマスルコトハ當然デ  
アリマスガ、是ト同時ニ農地ノ使用收益關係ノ法制ヲ整ヘマスルコトガ、肝要デアルト信ジタ  
次第デアリマス、此農地法案ハ互讓相助ノ精神ニ則リマシテ、一方ニハ自作地ノ創設維持、又  
一方ニハ農地ノ使用收益關係ノ調整ヲ圖リマシテ、農地ニ關スル事情ノ改善、農家ノ經濟及ビ  
生活ノ安定、農村ノ振興ヲ期スルコトヲ骨子ト致シマシテ、農地委員會ニ關スル事柄、自作農  
創設維持ノ事業、及び其事業ニ依リ創設維持セラレマシタル自作地ノ保持ニ關スル事項、轉貸  
借ノ制限、轉貸借及ビ永小作ノ存續及ビ消滅ニ關スル事柄、小作條件ノ變更ニ關スル事柄等ニ  
付キマシテ、規定ヲ設ケタ次第デアリマス、以上ノ理由ヲ以チマシテ本案ヲ提出致シタ次第デ  
ゴザリマスルガ、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致シマス

岡田喜久治君、宮崎一君、山邊常重君、河野一郎君、小畑虎之助君、西川貞一君、長野長廣君、  
天辰正守君、三宅正一君、小山亮君、石坂繁君及大石大君質疑ヲ爲シ山崎農林大臣及山脇整備局  
長應答ス而シテ本案ニ對スル質疑應答ハ本日及翌二日ノ二日間ニ互リ繼續セラル

三月一日ノ質疑應答左ノ如シ  
岡田喜久治君ノ質疑

本案ハ只今農林大臣ヨリ御説明ノ通り、其趣旨目的ト致シマスル所ハ、我國農政上ノ根本問題タル、農地及ビ小作關係ニ關スル多年ノ懸案ヲ解決セントスルモノデアリマスルカラ、政府ガ敢テ之ヲ立案提出セラレマシタニ對シマシテハ、先以テ其勞ヲ多トスル者デアリマス、殊ニ早クヨリ之ヲ提唱致シ、爾來其實現ニ努力シ來リマシタ我黨ト致シマシテハ、幸ヒ事案ノ解決ニ向ッテ一歩前進ヲ見ルニ至リマシタコトヲ快シトスル者デアリマス、併ナガラ此農地及ビ小作問題ハ、極メテ複雑多難ノ問題デアリ、一朝之ヲ誤リマスルナラバ、農村ノ興廢消長ハ固ヨリ、國家社會ノ安危ニモ關スル容易ナラヌモノデアリマスルカラ、本案ニ對シマシテハ、最モ慎重且ツ周到ナル用意ヲ以テ臨マネバナラヌ所デアリマス、儲テ本案ハ其名稱ヲ見マスルト云フト、農地法案ト唱ヘテ居リマシテ、如何ニモ農地制度ニ關スル根本的且ツ全面的ナル革新政策ヲ行フガ如ク見エマスルガ、其内容ヲ洗ッテ見マスルナラバ、要スルニ過去十箇年ニ互ッテ既ニ實施シ來リマシタ所ノ、彼ノ自作農創定維持助成事業ヲ擴大致シマスルト云フト、昭和六年時ノ濱口内閣ニ於キマシテ提出致シマシテ、衆議院ヲ通過致シマシタ歴史アル所ノ、彼ノ小作法ヲ燒直シ致シマシテ、此二ツノモノヲ組合セタ以外ノ何モノデモナイト云フヤウナ次第デアリマス、併ナガラ又此二ツノ問題ハ、共ニ農地政策ノ根幹ニ觸ル、モノデアリ、斯ル農地ニ關スル法制ハ、立法ノ如何ニ依リマシテハ、直チニ農地分配ノ上ニ、將又農村ノ社會及ビ經濟組織ノ上ニ重大ナル結果ヲ齎スモノデアリマスルカラ、本案ノ審議ニ付キマシテハ、先以テ政府ハ本法立案ニ付テ、果シテ如何ナル理想ノ下ニ斯ル制度ヲ設ケタカ、又斯ル制度ヲ樹立スルコトニ依リマシテ、將來如何ナル農地分配ニ依ッテ、如何ナル農村ノ社會及ビ經濟組織ノ實現ヲ期待スルモノデアリカト云フト明ニセネバナラヌト思ヒマス、是レ即チ私ノ茲ニ御尋セントスル第一問デアリマシテ、換言スレバ我國將來ノ農地制度ニ對スル根本觀念ハドウデアアルカト云フトデアリマス、只今モ政府ノ説明ニ依ッテ承リマスル所、本法實施ノ結果トシテハ、二十五箇年後ノ

將來ニハ、自作農家ハ現在ヨリモ約百万戸増加セシメル、其自作地ハ四十一万町歩程増大スル譯トナリ、其結果ト致シマシテ、現在全耕作地ノ四割八分ヲ占ムル小作地中ノ七分ノ一ヲ自作地化シ、現在ノ總耕作地ノ五分ノ三ハ之ヲ自作地タラシメ、残りノ五分ノ二ニ小作地ヲ減少セシメヨウトスルノガ、要スルニ本案ニ於テ目論マレタ所ノ結果デアアルヤウデアリマスガ、果シテサウデアルトスルナラバ、第一ニ茲ニ論ジタイコトハ、農地分配上ノ理想形態ト云フモノハ、此程度ノモノデ宜シイモノデアアルカ、ソレトモ是ハ當面ノ實施事業デアアルカラシテ、窮極ノ理想形態ハ別ニアル、斯クノ「デアルトスルナラバ、果シテ何ヲ以テ窮極ノ理想形態トセラ、モノデアアルカ、詳言スルナラバ、今日極メテ薄利デアリマシテ、收益ヲ兩分スルト云フヤウナ餘地ノナイ所ノ農業經營ノ事情トシテ、又耕地ガ極メテ寡少デアリマス所ノ我國ノ農村事情ト致シマシテ、全農地ニ對スル自作地ノ割合ト云フモノハ、出來ルダケ大ナラシムル程宜シイカラ、農地政策トシテハ畢竟自作農本位ヲ行クト云フノデアアルカ、又隨テ更ニ進ンデハ、或ハ與フベクンバ全體ノ農地ヲ自作地化セシムル、即チ彼ノ「アイルランド」ニ於テ實施致シマシタ如ク、全農地ノ自作地化ト云フトコトヲ以テ、窮極ノ理想トセラレルト云フヤウナコトデアアルカト云フトモ、茲ニ尋ネタイコトデアリマス、併シ斯様ナ窮極ノ理想ハ儲テ惜イテ、ソレトモ本案ニ依ッテ成就セントスル程度ノ自作地増成ヲ以テ、先ヅ今日ノ農村事情ニ適合スルモノデアアルカラ、是レ以上ノコトハ考ヘナイノデアアル、斯様ナ程度ニ於テ物ヲ考ヘテ居ラレルノデアアルカドウカ、又次ハ自作地ノ擴大ハ、理想上多々益、辨ズルト云フヤウナ工合ニ、多イ程宜シイト致シマシテ、然ラバ其創設維持ヲ助成スル手段方法ニ至リマシテハ、是ハ本法ニ於テ採ッタ所ノ其以外ニ幾多ノモノガアリ得ラウト思フノデアリマスガ、ソレ等ノ點ニ對スル所ノ研究ノ結果ハドウデアアラレタカ、譬ヘテ申シマスレバ、耕地ノ賣買價格ヤ、或ハ公定價格ヤ、或ハ小作料等ニ對シマシテ、ヨリ以上國家權力ヲ以テ之ヲ干涉スルト申シマセウカ、外國ノ立法例ニアリマスルガ如ク、或ハ公定價格ヲモ定メ兼ネマジキヤウナ、諸多ノ法制ヲ行フ所ノ例モアルノデアリマスガ、左様ナ事柄モドウ云フ風ニ考ヘラレルカ、又自作地以外ノ耕地、即

チ或ハ彼ノ不在地主ノ所有地デアリマス。ト云フモノニ對スル所ノ取扱、即チ課税問題等モド  
 ウ云フ風ニ考ヘラレルカ、斯様ナ手段ニ於テ自作地ヲ増成スル途ハ言フ迄モナクアリ得ルコト  
 デアリマス。カシテ、左様ナ手段ヲ併セ用フルト云フコトノ適否ハ、ドウ云フモノデア  
 ト云フコトニ關スル、政府當局ノ考ヘ方ヲ聽キタイノデアリマス、モウ一ツノ例ヲ以テ申シマ  
 スナラバ、現在ノ制度ハ御承知ノ通り一定限度以下ノ自作地ニ對シマシテハ、地租ヲ減免シ  
 テ居ルノデアリマスガ、此ノ免稅限度ト云フモノ、範圍ヲ、モウ少シ高メルト云フ所ノ必要ガ  
 アリハセヌカ、高メルコトニ依ツテ、即チ自作地増成ノ途ヲ達成スルト云フコトガ出來ル筈デ  
 アリマスガ、是等ノ點ニ對シマシテハ如何ナル考ヲ御持チデアアルカ、三番目ニハ、更ニ又農地  
 政策トシテハ假ニ自作、小作等ノ、要スルニ耕作農本位トセラレルコトヲ理想トセラル、トシ  
 テモ、茲ニ併セテ考慮セネバナラスコトハ、是ガ爲ニ大地主階級等ニ對スル其影響ヲ深ク顧  
 ミナケレバナラナイノデアリマス、若シ之ヲ單ニ非耕作者、即チ耕作ヲセザル所ノ地主デア  
 ト云フ故ヲ以テマシテ、其損害ヲ輕視スルト云フコトデアリマスレバ、是ハ我國特有ノ農村社  
 會構成ノ上カラ考ヘマシテ、言フ迄モナク由々シキ問題デアラウト思フノデアリマス、仍チ本  
 政策遂行上、是等ノ地主階級ニ及ボス所ノ影響ヲ、ドウヤウニ見ラレテ居ルノデアアルカト云フコ  
 トヲ伺ヒタイノデアリマス、又第四ニハ、本制度實施ノ結果ト致シマシテ、農地ノ地價ニ及ボ  
 ス所ノ影響ハ、ドウ云フ風ニナルモノト見透シラセラレテ居ルモノデアアルカ、又小作地ヲ漸次  
 少カラシムルト云フコトニナリマスルト、其結果トシテ、或ハ小作地不足ト云フ現象ヲ呈スルコ  
 トハ當然デアラウト思フ、是ハ或ハデハアリマセヌデ、必ズヤ斯様ナ結果ヲ招來スル筈デア  
 マスルガ、其曉ニ於テ人口多々益、過剩ナラントスル我ガ國情ニ於テ、其結果今度ハ小作問題  
 ト云フモノハ、果シテドウ云フ風ニナリ行クモノデアアルカ、之ニ對スル影響關係等ニ付テ伺  
 タイノデアリマス、殊ニ最近ハ御承知ノ通り米穀統制法ガ強化セラレマシテ、其結果トシテ  
 ニ角米價ノ向上及ビ安定ト云フモノガ保持セラレテ居ル關係デアリマス、又今回ハ地租ノ輕減  
 ニ向ッテ一大英斷ヲ斷行セラレテ居ルノデアリマス、斯様ナ兩箇ノ政策ハ、自然此儘ニ置イテ

モ地價其モノヲ高騰セシメルト云フ所ノ情勢ヲ誘致スベキ筈ノモノデアラウト思フノデアリマ  
 ス、而シテ今回更ニ之ニ加フルニ、此農地法ヲ實施スルト云フコトニナリマスルト、或ハ一層  
 此地價ノ吊上ヲ馴致致シマシテ、其結果トシマシテ、或ハ自作地ヲ獲得スルト云フコトガソレ  
 程利益デハナイ、即チ利害關係ニ對シテ考慮ヲ要セネバナラスコト云フヤウナ、將來結果ヲ持チ  
 ハシナイカ、其爲ニ本法ニ於テ豫定シ、計畫セラレツ、アル所ノ、曩ニ申シマシタヤウナ結果  
 ヲ果シテ作り得ルモノデアアルカドウカト云フコトモ一ツデアリマス、又一ツニハ此自作地ヲ獲  
 得シタ者ガ、是ガ爲ニ年賦金ノ償還ニ非常ニ困難ヲ感ズルト云フ結果ヲ起シハシナイカ、殊ニ  
 今回ノ計畫ハ從來ト同様ニ、其償還年限ハ二十五箇年ト云フコトデアアルノデアリマス、二十  
 五箇年ノ年限ハ、之ヲ長シト見レバ長イノデアリマスガ、曾テ政府ガ調査セラレタ所ヲ見マス  
 ト云フト、二十五箇年ヲ以テ標準トセラレタヤウデアリマスルガ、三十五箇年ニ對シマシテハ、  
 正ニ十箇年ヲ短縮致シテ居ルノデアリマス、隨テ言フ迄モナク、年賦金ノ額ニ於テ相當ノ是ハ  
 苦痛ヲ與ヘルベキモノデアリマス、以上ノヤウナ情勢ニ際會致シマシテ、茲ニ此年賦償還年限  
 ヲ敢テ二十五箇年タラシメタト云フコトデアリマス、右申ス通り、愈々以テ此點相當ニ是ハ  
 考慮セネバナラスコト思フノデアリマスルガ、之ニ對シマシテ如何ナル御考ヲ持ツモノデアラ  
 ルカ、以上ノ點ハ何レモ苟モ本案ヲ立案セラレルニ際シマシテハ、當然政府ガ考究セラレタ筈  
 デアラウト思フノデアリマス、隨テ是等ノ適否、當否、或ハ採否等ニ付キマシテ、十分ニ此際政  
 府ノ所信ヲ披瀝セラレマシテ、本制度、本立案ノ由ツテ來ル所以ヲ明カナラシムルヤウ望ム者  
 デアリマス、續イテ第二ノ質問トシテ御致シタイノハ、本法立案ノ態度、即チ此法制上ノ問  
 題ニ付テ御致シタイノデアリマス、言フマデモナク本法ハ農政上ノ立法デアリマス、共ニ、  
 所謂社會立法トシテ重大ナル意義ヲ持ツモノデアリマス、一體我國ノ農村問題ハ、農村問題即  
 社會問題ト申シテ宜シイノデハナイカト思フノデアリマス、是ガ我が農村問題ノ特長デア  
 マス、隨テ此立法ハ實際上對立關係ニアリマス所ノ大衆對小作者ト云フ、所謂勞資兩階級ニ對  
 スル複雜困難ナル所ノ利害關係ヲ調整シヨウトスルモノデアアルカラ、是ガ如何ナル立前ヲ以テ

シマシテモ、雙方ノ立場々々ニ依ッテ觀ル所ヲ異ニシ、是等雙面ノ挾撃ヲ受ケ、或ハ不滿ヲ買フト云フコトハ免レ難イ所デアリマス、故ニ立法上此間ノ苦心ハ察スルニ餘リアルノデアリマス、斯ル事情ノ然ラシメタ結果カドウカ知リマセヌガ、少シク本案ヲ仔細ニ檢討シテ見マス、本案ニハ殆ド一貫シタル指導精神ト云フモノガ缺ケテ居ルノデハナイカ、本制度ニ依ッテ近ク達成セントスル、到達點ガ何處ニアルカト云フコトヲ、私ハ疑ハザルヲ得ナイ感ガ致スノデアリマス、所謂左極右極スルト言ヒマセウカ、或ハ右顧左眄スルト申シマセウカ、兎ニ角勞資兩面ヲ互ニ窺ッテ居ルヤウナ立法態度デアリマスカラ、其結果實際此法文ノ上ニ現レタ所ヲ見マスト云フト、往々ニシテ其法律關係スラ明瞭ナラザル所ノモノガ少クナイノデアリマス、要スルニ全體ヲ通ジテ甚ダ不徹底ヲ極メ、是デハ果シテ所期ノ目的ヲ達成スルヤ否ヤラ疑問トセザルヲ得ナイノデアリマス、此點ニ付テハ問題個々ノ具體的ノ事例ニ付テ之ヲ論ズルト云フコトニナリマス、餘リニ多クノ時間ヲ要シマスカラシテ、私ハ委員會等ニ之ヲ讓リマシガ、併シ其中著シイ點ダケヲ指摘致シマシテ、茲ニ具體的ニ申シテ見マスルト、第一ニ本法ニハ勸告的辭令ヤ或ハ道義的言辭ヲ連ネマシテ、是ガ果シテ權利義務ヲ羈束スル法規デアるか、或ハ仁義道德ヲ律スル道德律デハナイカ、何デアるかト云フコトヲ疑フ程ノ字句ガアルノデアリマス、即チ法文中ニハ「信義ニ反シタル行爲」云々ト云フヤウナ言葉ヲ使ッテ居リマス、或ハ「何々ヲ相當トスル場合」ト云フヤウナ用語ヲ用ヒテ居リ、或ハ又「宥恕スベキ事情ナキ限り」云々ト云フヤウナ文句ヲ使ッテ居リマス、是等ノ場合、即チ是等ノ條件ノ如何ト云フコトノ認定ハ、總テ之ヲ裁判所トカ、或ハ農地委員會トカ云フ所ノ裁定ニ一任スルノ外ハナイヤウニナッテ居ルノデアリマス、或ハ之ヲ以テ政府ハ協調主義ノ特色デアルト言ハレルデアリマセウ、殊ニ全法條中ニ於テ一ツノ罰則ヲモ規定シテ居ラナイト云フノデアアル、是ハ一ツノ確ニ特色デアリマス、此點ハ見様ニ依ッテハ、是コソ我國獨特ノ社會立法トデモ申シテ宜シイノデアリマセウガ、併ナガラ斯ル重大ナル所ノ小作爭議關係ト云フヤウナモノヲ律スルニ際シマシテ、斯様な曖昧不徹底ナル立法ニ委セテ、果シテ宜イモノデアラウカドウカ、是デハ却テ中途半端ノ規

定ガアル爲ニ、右ニ惑ヒ左ニ迷フト云フヤウナ有様デアリマシテ、是ガ爲メ却テ一切ノ事件ヲ農地委員會ニ持出ストカ、或ハ裁判所ニ持出ストカ云フコトデナカッタナラバ、始末ノ付カナイト云フヤウナコトト相成リ、折角此小作爭議其他ヲ調整シ、ソレヲ安定セシメ、是等ノ件數ヲ少カラシメヨウト云フ目論ミノ下ニ立テタ法制ガ、却テ右申ス事情カラシテ事端ヲ繁カラシメ、爭議爭端ヲ醸成スルト云フヤウナ結果ニナラネバ宜シイガト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、第二ニハ、例ヘバ農地委員會ノ問題ニ付キマシテモ、其職司、權限等ニ付テハ一切之ヲ勅令ニ委ネテ居リマシテ、全ク規定スル所ガアリマセヌ、併シ法ノ上カラ見マスルト云フト、自作農地ノ創設ノ場合ヲ初メトシマシテ、町村内ノ耕地ニシテ賣物ニ出ル場合、即チ賣却セラルル場合等ニ於テハ、是ガ斡旋ヲスルトカ、又此當事者ハ雙方ノ合意ニ基キマシテ、小作料ノ改訂ト云フ重大問題ヲ、此農地委員會ニ持出ストカ出來、其斡旋ニ俟ツコトガ出來ルト云フヤウナコトニ相成ッテ居リマス、デ、アレモ是モト、此様ナ重大ナ問題ヲ此委員會ニ持込ムト云フ組立ニナッテ居リマスルガ、是デ果シテ此委員會ガコンナ重大ナ問題ヲ適切ニ達成シ、其使命ト職司トヲ果スコトガ出來ルデアラウカドウカ、餘程是ハ考ヘテ見ネバナラヌ問題デナカラウカト思フノデアリマス、尙ホ本法ニハ勅令トカ其他命令ニ委ネル箇所ガ多々アルノデアリマス、是ハ近來ノ斯様な産業立法ニ於テハ、何レモ斯ウ云フ傾向ヲ持ッテ居リマスルカラシテ、獨リ本案ニ付テ之ヲ云々スル譯デアリマセヌガ、併シ本案ハ餘リニ其場合、數ガ多イノデアリマス、斯様な點ヲ考察シテ見マスルト云フト、以上ノ諸點ニ付テ、法制的態度ニ付テ、私ハ大局カラ申シマスルガ、甚ダ之ヲ疑ハザルヲ得ナイ、隨テ其結果ト云フモノガドウアルモノデアラウカ、是デ所期ノ目的ヲ達成シ得ルデアラウカドウカ、此事ヲ一言ニシテ申セバ、是非トモ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、偕テ第三ノ質問ト致シマシテ御尋致シタイノハ、自作農創定事業ノ實施方針ニ付デアリマス、此自作農創定計畫ハ先ニモ申シタ通り、無論從來ノ事業方針ト云フモノニ則ッテ居ッテ、唯單ニ其規模ヲ擴大シタト云フニ過ギナイノデアリマス、其擴大ノ程度ノ如何ト云フコトハ暫ク別問題ト致シマス、併シ擴大ノ必要其モノニ付キマシテハ、我黨ハ多年之



ヲ本議場ニ於テ主張シ來タモノデアリマスルカラシテ、無論吾々ハ其點ニ對シテハ敬意ヲ表シマス、則チ敢テ論ジマセヌ、然ルニ之ヲ行フ所ノ手段方法、即チ實施方針ニ對シマシテハ、之ニ付テハ甚ダ吾々ハ疑ヲ抱カザルヲ得ナイ者デアリマス、此自作農創定事業ガ、過去十一箇年ニ互ツテ實施セラレタ經驗濟ミノモノ、試驗濟ミノモノデアリマスルカラ、吾々ハ從來ノ此自作農創定事業ニ對シマシテ、隨分從來色々ナ點ニ於テ一ツノ不滿モ考ヘ、或ハ不備缺陷ノアルコトヲ承知致シテ居ルノデアリマス、政府モ此點ハ言フ迄モナク多々之ヲ承知シテ居ル筈デアラウト思フノデアリマス、隨テ苟モ斯ノ如キ擴大的計畫ヲ立テ、寧ロ根本的ニ之ヲ實施シヨウト云フヤウナ際ニ際會致シマシテハ、當然此從來ノ經驗ニ徵シマシテ、是等ノ遺憾トスル諸點ヲ改ムルト云フコトガ、當然ナコトデヤナカラウカト思フノデアリマス、其不備缺陷ニ付テハ多々アリマスルガ、私ハ具體的ニ特ニ痛感スル四五ノ點ヲ茲ニ擧ゲマス、併シ之ヲ一々説明スルコトハ、非常ニ長ク時間ヲ要シマスカラ、説明ハ致シマセヌ、項目ダケヲ並ベテ見テ大抵政府ガ御承知下サルダラウト思ヒマスルカラシテ、項目ヲ列擧致シマスルガ、其一ツハ土地ノ購入ニ關スル標準價格ノ低下ト云フコトヲ必要トシヤセヌカ、及ビ其算定方式ト云フモノヲ相當ニ改正スル必要ガアリハセヌカ、此點デアリマス、是ハ實ニ重大ナ問題デアリマス、實ハ此點大ニ論ジタイノデアリマスルガ、右申ス通り是ハ委員會ニ讓リマスルガ、此一事ハ是非トモ政府ニ於テ考慮ヲ促シタイノデアリマス、第二ハ貸付利率ノ低下、又ハ此利率補給額ノ増加ノ必要ガナイカト云フ點デアリマス、此貸付利率ノ點ニ付キマシテハ、無論是ハ昨年ノ六月デアリマシタカ、昨今ノ低金利情勢ニ順應スベク之ヲ引下ゲテ居リマス、併ナガラ今日ノ低金利情勢ヲ以テシテハ、今一段ト是ガ引下ノ餘地ガアルデハナカラウカト思フノデアリマス、現ニ郵便貯金ノ如キハ二分四厘六毛デアリマス、斯様ナ低率ニ相成ツテ居ルノデアリマスルカラシテ、ソレニ比ベマスト云フト、三分二厘カノ最後ノ貸付利率ト云フモノハ、決シテ是ガ低下ノ餘地ナシトハ申セマセヌ、無論從來ノ貸付資金ハ簡易生命保險資金ヲ以テ融通致シマシタカラシテ、簡易生命保險ハ其性質上、或ハ最低利率ニ一定ノ限度ヲ置カネバナラヌカモ存ジマセヌ

ガ、必シモ是ハ簡易生命保險カラ融通スベキモノト限ラヌコトハ言フ迄モナイ、ダカラシテ寧ロ一般ノ低利資金ヨリ融通セシメマシテ、此利率ヲ一層低下セシメ、而モ此自作農創定事業ヲ安全ニシテ、且又之ヲ十分ニ伸張セシムルヤウ考慮スルト云フコトハ當然デナカラウカト思フ、又三ニハ償還ノ年限延長ノ件デアリマス、此點ハ曩ニ一寸觸レテ申シマシタカラ多ク言ヒマセヌ、又四ニハ、非常災害等ニ因ル場合ニ於テ、土地其モノヲ滅失スル場合ガアルノデアリマス、洪水デ以テ折角獲得シマシタ所ノ、自作地全部ガ押流サレテシマフト云フヤウナ場合ニ於テ、之ニ對シテ相當是ハ救濟シテヤラナケレバナラヌ、モウ既ニ土地ガ失ハレマシタ以上ハ、言フ迄モナク之ヲ基トシテ年賦金ヲ返スト云フ途ガナイノデアリマスルカラ、斯様ナ場合ガアリ得タ際ニハ、ドウシテモ之ヲ免除セネバナラヌト云フコトハ當然デアリマス、無論從來ハ屢々政府ハ之ヲ實際問題ト致シマシテ、彼ノ非常凶害等ニ對シテ、之ヲ免除スル等ノ扱ヲ致シテ居ルヤウデアリマスガ、其場合々々ニ於テ困難ナル問題ヲ惹起シテ、サウシテ之ヲ議會ノ議ニ付シ、若クハ資金運用委員會ノ議ニ上セマシテ、スツタ揉ンダ之ヲ解決スルト云フヨリモ、斯様ナ顯著ナル明カナル場合ヲ豫想致シマスルナラバ、豫メ之ヲ法定致シマシテ、之ヲ特免スルト云フコトハ當然デハナイカト思フ、是ハ獨リ斯様ナ土地ノ滅失ノ場合ニ限ラズ、或ハ之ニ類似シマシタ凶害等ニ對シテモ、相當考慮ヲ爲スト云フコトハ當然デナカラウカト思フノデアリマス、又五ニハ、町村ニ對スル貸付保證ノ問題デアリマス、此保證ヲ取ルト云フコトハ、申ス迄モナク資金回收ノ見地カラ申シマスナラバ、或ハ已ムヲ得ナイコトデアルカモ知レマセヌ、併シ財力微弱ナル所ノ其町村ニ、其責ヲ荷スルト云フコトハ、事實ニ於テ餘リニ無理デアリマス、ノミナラズ町村ハ之ニ怯エマシテ、ドウモ此自作農創定事業ニ向ツテ十分ニ力ヲ入レルト云フコトヲ、往々ニシテ避ケル場合ガアリ得ルノデアリマス、是ハ私ハ寧ロ輕イ言葉デ申シテ居リマスルガ、實情ハ寧ロ農林省ガ篤ト御承知ノ筈デアリマシテ、非常ニ此點ニ恐怖ヲ感ジテ、隨分之ヲ躊躇逡巡致シマス、ソレガ爲ニ折角ノ創定事業ノ公平ナル分配ヲ缺クト云フコトモアリマセウ、或ハ其發展助成ヲ妨ゲルト云フコトモアリマス、寧ロ私ハ斯様ナ保證問題ハ之

ヲ當然撤廢致シマシテ、已ムヲ得ズンバ府縣ノ保證程度デ止メルト云フヤウナコトモ必要デハナカラウカト思フ、斯様ナ問題ハ何レモ試驗濟ミノ問題デアリマシテ、今日之ヲ何人モ痛感シテ居ル問題デアリマス、ダカラシテ初メニ申ス通り、苟モ斯ノ如キ規模ニ於テ、斯ノ如キ國策ヲ提ゲテ立ツト云フ場合ニ於キマシテハ、以上ノ諸點ニ對シマシテ相當之ヲ改訂スルト云フコトハ、當然ナコトデハナカラウト思ヒマスニモ拘ラズ、何等此點ニ一指ヲモ染メナカッタト云フコトハ、私ハ之ヲ頗ル遺憾トセザルヲ得ナイノデアリマス、次ニハ自作農維持施設ニ對シマシテ一層ノ力ヲ注グベキデハナイノカ、之ニ對スル計畫ハドウデアアルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、是ハ多ク申スニ及バナイト思ヒマス、此一語ヲ以テ分ツテ居ルト思ヒマス、從來ノ事業施設ニ於キマシテモ、無論此事業ヲ包含シテ居リマスガ、實際ハ資金不足ノ關係等ガガアリマシテ、此大切ナル所ノ維持事業ニ向ツテハ力ガ伸ビテ居ラヌノデアリマス、現ニ其實行成績ヲ見マシテモ、僅カデアッタ筈デアリマシテ、一割チヨット二割ニ足ラヌヤウナ程度ニ過ギナイノデアリマス、併シ此小作農創定事業ノ本當ノ眞味ヲ味ツテ見マスト云フト、寧ロ此維持ヲ爲スト云フコトニ於テ、極メテ有用ナル必要ナル效果ノ問題ヲ考ヘザルヲ得ナイノデアリマスカラ、今回ハ幸ヒ此資金ガ非常ニ擴大セラレタノデアアルカラシテ、是非トモ私ハ此點ニ付テハ一大計畫ヲ立テテ、維持事業ニ向ツテ力ヲ注グ必要ガアルデアラウト思ヒマス、勿論此際考慮セネバナラヌ所ハ、維持ノ仕事ガ根本デアリマスガ、迂濶ニ之ヲ致シマス、往々ニシテ其弊害ヲ生ズルノデアリマス、故ニ此餘弊ヲ防止シ、而シテ適切ニ此維持事業ヲ助成スルト云フコトニ付テハ、餘程巧妙ナル立法ヲ要スルノデアリマス、隨テ斯様ナ立法的留意ヲ以テ、其維持事業ヲ進メルト云フコトガ當然デナケレバナラヌ、以上申ス通り此點ニ付テモ觸レラル、所ガナイノデアリマシテ、唯單ニ政府ノ手心ニ之ヲ委シテ居ル、斯様ナヤリ方ト云フモノハ、私ハ返ス返スモ申シマスガ、斯様ニ國策ニ準ズルト云フ場合ニハ、甚ダ之ヲ不徹底ト云ハザルヲ得ナイ、不完全ナリト感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、是等ニ對シテドウ政府ハ御考ニナツテ居ルカ、又次ニハ本制度實施ノ效果ヲ確實ナラシメル爲ニハ、私ハドウシテモ農地金

庫制度ト云フモノヲ必要トスルノデハナカラウカト思フ、少クトモ特別會計ニ關スル制度ヲ立テテ、的確ナル規模計畫ノ下ニ、此運用宜シキヲ得ルコトガ必要デアラウト思フ、併シ此點ハモウ此一語ヲ以テ御分リデアリマセウカラ説明ヲ申シマセヌ、然ルニ之ニ對シテサヘ、何等今回ハ其用意ガナカッタト云フコトハ、之ヲ以テ足レリトスルモノデアアルカドウカ、此點モ伺ヒタイノデアリマス、又此問題ニ付テ最後ニ御伺シタイノハ、未墾地開墾ニ關スル問題デアリマス、先刻農林大臣モ特ニ此點ニ力ヲ入レテ御説明ニナツテ居リマシテ、今回ハ新ニ未墾地ニ對スル開墾事業ヲ自作農創定事業トシテ、是非共獎勵シタイト云フコトデアリマス、是ハ洵ニ其趣旨ハ適切デアリマス、吾々ノ多年主張シ來ッタ問題デアリ、幸ヒ此處ニ手ヲ染メラレルト云フコトハ、洵ニ吾々ノ幸トスル所デアリマス、殊ニ此未墾地問題ハ東北方面、北關東方面ニ於テハ、隨分澤山ノ餘地ガアルノデアリマシテ、ドウシテモ是ハ開墾助成事業ヲ以テ、一面之ヲ援ケルト共ニ、併セテ茲ニ又自作農創定事業トシテ之ヲ助成スルト云フコトデアリマスカラ、將來段々人口増加、即チ過剩狀態ヲ呈スル我が國情トシテ、即チ又農地ガ益、不足スルデアラウト云フコトヲ考ヘネバナラヌ我國ノ農村事情トシテ、自作農創定事業ハ是非共未墾地開墾方面ニ大イニ力ヲ注グベキデハナカラウカト思フノデアリマス、殊ニ開墾事業デアアルナラバ、此未墾地開墾ハ要スルニ安クシテ土地ガ手ニ入ルコトデアリマスカラ、自作農創定トシテハ洵ニ好箇ノ事業ト言ハザルヲ得ナイ、此點ニ付テ是非共大イニ力ヲ入レラレント願フト共ニ、之ニ對シ如何ナル實際的ノ計畫ヲオ持ちニナツテ居ルカヲ御伺シタイノデアリマス、第四ノ質問ト致シマシテハ、小作立法ニ關スル點デアリマス、今回ノ立案ハ洵ニ簡單ヲ極メテ居ルノデアリマス、大體ガ殆ド農地法ノ附屬的立法トシテ取扱ヲ受ケテ居ルノデアリマス、是ハ形式ノコトデアアルカラ、ドウデモ宜イカモ知レマセヌ、併ナガラ斯ノ如ク簡約セラレタ所ノ此法規ヲ以テ、果シテ此重大ナル所ノ小作爭議ヲ調整スルト云フ目的ヲ達成シ得ルヤ否ヤ、簡單明瞭ハ法規ノ尊ブ所デアリマス、併ナガラ省略不明瞭ハ又法規ノ最モ嫌フベキ點デアリマス、不備ト缺陷トハ法規上最モ厭フベキ點デアリマス、是等ノ規定ノ内容ヲ檢討シテ見マスト、先ニ

モ申シタ通り、而モ道德的、勸告的の法文ヲ以テ滿チテ居ルト云フ有様デアリマス、甚ダ法律關係ガ不明瞭デアリマスノミナラズ、少シク其實際上ノ内容ヲ見マスルト、前回ノ小作法其モノニ之ヲ對比シテ見マス、色々ナ點ニ於テ極メテ後退的デアリ、逆轉的デアリマス、世論ハ之ヲ反動的ト申シテ居リマスガ、是ハ寧ロ本當ニ反動的ト申サザルヲ得ナイヤウデアリマス、如何ニモ耕作權ノ確立、或ハ小作權保護ノ問題ニ付テ、相當ノ規定ガナイデアリマスガ、耕作權確立ノ問題ニ對シテ、著シク或モノハ逆轉的デアルト云フコトヲ思ハザルヲ得ナイノデアリマス、固ヨリ斯様ナ重大ナ社會立法デアリマスカラ、地主對小作ノ執レニモ偏輕偏重ガナイヤウデナケレバナラヌト云フヤウナ考カラシテ、斯様ナ立法態度ガ生ジタノカモ知レマセヌガ、唯單ニ互讓相助ノ精神ニ則ルト云フヤウナコトヲ以テシテ、此重大ナル小作關係ヲ羈束シ統制スルコトガ出來ルカドウカ、或ハ又先刻モ說明ニ於テ力ヲ極メテ申述ベラレタ通り、我國特有ノ淳風美俗ニ依ツテ、小作慣行ヲ主トシテ行クト云フヤウナ考デアリマシテ、洵ニ其趣旨ハ結構デアアルガ、ドウモ其傾ト云フモノハ餘リニ甚シイノデアリマシテ、是ハドウモ到底眞ニ小作爭議其モノヲ調整スルコトハ困難デハナカラウカト思ハザルヲ得ナイノデアリマス、茲ニ私ノ後退的ト感ゼザルヲ得ナイ著シイ例ヲ擧ゲテ見マス、一ツニハ、小作地賣却ニ際シマシテ買取通知ニ關スル規定ガ、前小作法ニハアッタノデアリマスガ、之ヲ削除致シテ居リマス、二ニハ、又小作最短期間ノ法定主義ト云フモノヲ削除シテ居リマス、又小作契約更新ノ理由ヲ定メナカッタト云フコトデアリマス、小作契約解除ノ條件ヲ極メテ簡約ナラシメテ居ルト云フ點デアリマス、或ハ作離料トカ損害賠償ニ關スル規定ヲ削除シタト云フヤウナ點、或ハ小作料ノ猶豫及ビ減免規定ヲ削除シタト云フヤウナ點、或ハ檢見及ビ強制執行制限ノ規定ヲ削除シタト云フヤウナ點デアリマス、以上ノ點ハドウ考ヘテ見マシテモ、所謂骨拔立法デアルト云フ憾ヲ免レナイノデアリマシテ、以上私ガ申ス所ノ所感ヲ懷カザルヲ得ナイ所以デアリマス、惟フニ前年ノ小作法ハ昭和六年ノ本會議ニ於テ一旦既ニ通過致シテ居ルノデアリマス、殊ニ議會ガ認メテ以テ通

過セシメマシタ規定其モノデスラ、之ヲ一切骨拔キニシタ、削除シタト云フヤウナコトハ、果シテ如何ナル理由デアルカ、是ハ農村事情ノ變遷ニ基クモノデアルト云フコトデアリマス、併ナガラ考ヘテ見マス、先刻農相ノ說明セラレタ通り、今日我國ノ小作爭議ト云フモノハ、昭和六年ノ當時僅ニ二千五百件ニ過ギナカッタモノガ、將ニ六千件ノ多キニ達セントシツ、アル有様デアリマシテ、一層小作爭議ノ件數ヲ多カラシメテ居ルノデアリマス、ノミナラズ土地返還ニ關スル爭議ガ三千件ニモ近カラント云フヤウナ有様デアリマシテ、益ガ多キ歩合ヲ占メテ居ル、然ルニ此土地返還上最モ關係ノ深い、私ガ以上指摘シタヤウナ諸點ヲ削除スルト云フコトデアッタナラバ、是デハドウナルノデアラウカト云フコトヲ私ハ思フノデアリマス、是位ニ致シマシテ、最後ニ唯一ツノ質問ヲ申上ゲマス、今回ノ提案ハ一體急遽突發デアリマス、無論農地法案ノ制定ト云フコトハ、島田前農林大臣就任以來之ヲ聲明致シテ居ルコトデアリマス、農林當局トシマシテハ之ヲ研究モシ、準備モ致シテ居ッタデアリマセウ、隨テ今回提出セラル、カモ知ラナイト云フコトハ、一般ニ之ヲ豫想致サナイコトデアリマセヌ、然ルニ更ニ其草案スラ示サナイ、一體前回ノ小作法制定ノ状態ヲ考ヘテ見マスルト、御承知ノ通り前回ハ二箇年間ニモ互ツテ小作調査會ト云フモノヲ設ケマシテ、朝鮮ノ識者、名士ヲ網羅致シマシテ十分ニ檢討シ、批判シ、其結果トシテ彼ノ要項ヲ天下ニ發表、公示致シマシテ、廣ク之ヲ天下ノ輿論ニ諮ウタノデアリマス、サウシテ出來上ツタ要項ヲ主ト致シマシテ、殆ド其要項其儘ノモノヲ小作法ニ織込ンデ、之ヲ制定セントシタヤウナコトニナツテ居ルノデアリマス、殊ニ其調査會ニハ當時ノ町田農林大臣自ラガ會長トシテ、其調査ニ當ツテ居ルノデアリマス、サウシテ前後十四回ノ小委員會ヲ開キ、三十數回ニ互ル所ノ又更ニ小委員會ヲ開クト云フヤウナ、念ニハ念ヲ入レタ審議デアリ、其上更ニ其要項ヲ提ゲテ産業審議ノ議ニ付スルト云フヤウナ、各般ノ斯ノ如キ手段ヲ講ジテ、サウシテ之ヲ廣ク天下ニ公示シテ、各方面ノ意見ヲ徵シテ居ルノデアリマス、是ハ斯様ナ重大立法トシテ私ハ當然デアラウト存ジマス、併シ今回ハ此從來ノ小作法ニ對シテ一大異變ヲ加ヘタニ拘ラズ、右申上ゲルヤウナ、殆ド祕密裡ニ之ヲ調査研究致シ

テ居リマス、偶、以テ帝國農會ニ之ヲ諮問致シテ居リマスルガ、何等其要領ハ示サナイ、唯單ニ農地法ナルモノヲ制定スルガ、之ニ對スル御意見ハドウカト云フ、抽象的ノ大雜把ノ諮問ヲ以テ事ヲ濟マシテ居ル、斯様ナ有様デアリマス、要スルニ右申上ゲル通り、是ハ洵ニ私ノ遺憾トスル所デアリマシテ、如何ニ輿論ノ向背ニ超然トスル超然内閣デアルトハ云ヒナガラ、是デハ吾々ノ到底首肯シ難イ所デアルト思フデアリマス、以上ノ諸點、ドウカ、政府ニ於テ篤ト一ツ此際其所信ヲ披瀝セラレマシテ、明答ヲ與ヘラレンコトヲ玆ニ望ム次第デアリマス

山崎農林大臣ノ應答

岡田君ノ御質問ハ極メテ廣範圍ニ互ツテ居リマシテ、且ツ詳細ヲ極メラレタ譯デアリマスガ、此法案ニ付キマシテハ、多數ノ御質疑モオアリニナル豫定ニナツテ居リマスルノデ、甚ダ殘念デアリマスガ、御答ハ極メテ簡單ニ致スノ外ハナイノデアリマスカラ、此點ハ豫メ御諒承ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス、第一ノ御質問ハ、政府ノ此法案ヲ立テルニ當ツテ、理想トシテ考ヘテ居ル、農地分配ノ理想形態ヲ何處ニ置イテ考ヘテ居ルカ、斯ウ云フ點デアッタヤウデアリマスルガ、極メテ重大ナ問題デアリマスルト共ニ、極メテ困難ナ問題デアルトハ申ス迄モナイコトデアリマス、唯理想トシテハ色々ナコトヲ考ヘ得ルト致シマシテモ、現實ノ問題トシテ全國ノ農地ヲ何割何分ハ小作、何割何分ハ自作ガ理想デアルト云フヤウナ風ニ、全國ノ農地ニ互ツテ政府ガ一ツノ理想目標ヲ樹テルト云フコトハ、實際問題トシテハ殆ド不可能ナコトデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、併ナガラ時ノ情勢ニ應ジマシテ、農村ノ安定ヲ理想トシテ、ソレカラ割出シマシテ諸般ノ施設ヲ講ズル、此方法ヲ以テ進ムノ外ハナイカト存ジマス、隨テ此法律ハ全國ノ農耕地ヲ全部自作農化スルト云フ理想ヲ持ツテ居ルモノデハゴザリマセヌ、次ハ土地價格ノ公定、不在地主ノ課稅、自作農ノ免稅點ノ引上等ニ付テハ、ドウ考ヘテ居ルカト云フコトデアリマスガ、土地ガ適正ニ賣買セラレマスルコトハ、大切ナコトデアリマスケレドモ、併ナガラ土地ノ價格ヲ法ニ依ツテ定メルト云フヤウナ考ヘ方ハ持ツテ居ラヌノデアリマス、

ソレカラ不在地主ノ課稅ノ問題ハ、寧ロ地方稅全體ノ問題トシテ、或ハ考ヘル餘地ガアルノデハナイカトハ存ジマスケレドモ、此法案ノ立案ニ當リマシテ、其問題ニ付テノ點ヲ、政府ノ決ツタ考ヘ方ヲ申上ゲルノ運ビニハ至ツテ居リマセヌ、免稅點ノ引上モ、是モ自作農保護ト云フ見地カラ見レバ、免稅點ガ引上ゲラレルコトハ望マシイコトデアリマスケレドモ、併ナガラ是ハヤハリ一面ニハ國民ノ納稅ト云フ問題ト併セ考ヘナケレバナリマセヌノデ、單ニ自作農ト云フダケノ見地カラ、之ヲ引上ゲルト云フ譯ニモ參ラヌカト存ズルノデアリマス、此法ノ立案ニ依リマシテ、大中小地主ノ存在ヲ輕視スルコトハ宜シクナイト云フ御意見デゴザリマシタガ、固ヨリ政府ノ立案ニ當リマシテモ、敢テ小作ニ偏セズ、地主ニ偏セズ、岡田君ノ御意見ノ通りニ、決シテ土地所有者ヲ輕視致シテ居ルト云フ積リデハナイノデアリマス、ソレカラ此制度ノ運用ニ依ツテ、土地ノ價格ガ非常ニ騰貴スル虞ハナイカト云フ御意見デゴザリマシタガ、御承知ノヤウニ最近ニ於テ一箇年ニ耕地ノ賣買セラレマスルモノガ、約十九万町歩ニ達スルノデアリマス、數年ノ平均ガ——今回ノ自作農創設及ビ維持ハ、一箇年ノ計畫ガ約一万六千町歩ト云フコトニ相成ツテ居リマスルノデ、此計畫ニ依ツテ土地價格ノ騰貴ヲ來スノ憂ハナイカトハ存ジマスガ、尙ホ此點ニ付キマシテハ、農地委員會等ノ運用ニ依ツテ、極力御懸念ノヤウナ現象ノ起リマセヌヤウニ留意ヲ致シテ參リタイト思フノデアリマス、ソレカラ小作爭議ノ増加ト云フコトモ同様デアリマシテ、ソレノ減少ヲコソ希望シテ居リマスルガ、之ニ依ツテ小作爭議ノ増加ヲスルト云フ危険ハアルマイカト存ジテ居ルノデアリマス、次ハ此法案ハ徒ニ勞資兩方面ニ對シテ左顧右眄ヲシテ居ルノデハナイカ、一貫シタル指導精神ヲ缺イテ居ルヤウナ嫌ガアルト云フ御意見デアリマス、或ハ左様ナ御批評ガ出マスカモ知レマセヌガ、唯私共ノ考ヘ方ハ、農村ノ問題ヲ取扱フニ付テハ、之ヲ勞資兩方面ト云フヤウナ考ヘ方デハ臨ミタクナイノデアリマス、一般ノ産業ニ付テモ或ハサウ云フ傾向モアリマセウガ、殊ニ農村ノ問題ニ付キマシテハ、之ヲ一方土地所有者、一方小作者ト云フヤウナ、對立シタル觀念ニ依ツテ農村ノ問題ハ考ヘタクナイノデアリマシテ、私共ハ飽マデ全村一體トナツテノ農村ノ安定ト云フコトヲ、理想ト致シテ居ル考ヘ方デアアル譯デアリ

マヌルカラ、隨テ斯様ナ立法ニ當リマシテハ、餘リニ善良ナル慣行、或ハ舊來ノ慣行ト云フヤ  
 ウナモノニ、大キナル變化ヲ及ボサナイコトガ、寧ロ斯ノ如キ立法ノ理想トスベキモノデハナイ  
 カ、即チ善良ナル土地所有者、善良ナル小作、斯様ナ關係ニハ、立法ニ依ッテ寧ロ影響ヲ及ボサ  
 ザルコトガ、法トシテハ尊ブベキ點デアルト私ハ考ヘテ居ル者デアリマスルカラ、或ハ批評ノ  
 御立場カラ御考ヘニナリマスルト云フト、左顧右眄デアルトカ、或ハ生緩イト云フヤウナ御批  
 評ガ出ルカモ知レマセケレドモ、ソコガ寧ロ私ハ農村ノ問題ヲ取扱フ上ニ於テハ大切ナコト  
 デハナイカト、斯様ニ考ヘテ居ル譯デアリマス、併ナガラ斯様ナコトハ、寧ロ各箇條ニ涉リ  
 マシテ應答ヲ重ネマセケレバ明瞭シナイ點デアリマスカラ、寧ロ委員會等ニ於キマシテ詳細  
 ナル御質問ヲ願ヒマスレバ、政府モ亦其所信ヲ披瀝スルニ吝ナラヌ考デアリマス、自作農創設  
 ノ實施方針ト云フコトデアリマシテ、土地價格ノ低下或ハ利子ノ低下、償還年限ノ延長ト云フ  
 ヤウナ點デアリマスガ、土地價格ノ適正ナルコトヲ必要トスルコトハ、岡田君ノ御意見ノ通り  
 デアリマス、併ナガラ土地價格ノ低下ト云フコトガ、是ガ中々サウ簡單ニ參ラヌコトモ、亦岡  
 田君御承知ノ通りデアリマシテ、自作農創設ニ付キマシテハ、適當妥當ナル標準價格ヲ定メマ  
 シテ、且又農地委員會等ノ運用ニ依ッテ、價格ノ騰貴ヲ防イデ參ルト云フ用意ヲ有ッテ居ル次第  
 デアリマス、利子ノ低下モ固ヨリ必要デゴザリマスガ、是モ岡田君能ク御承知ノ通り、昨年デ  
 アリマシタカ、一昨年デアリマシタカ、利子ノ引下ヲヤリマシテ、今日デハ三分二厘ニ落著イ  
 テ居ル譯デアリマスノデ、三分二厘ノ利子モ決シテ安イトハ考ヘマセケレドモ、今日ノ事情  
 ニ於キマシテ、此程度ハ已ムヲ得ナイコトデヤナイカト考ヘテ居ルデアリマス、償還年限ハ  
 從來ハ三十年ト云フヤウナコトモ考ヘラレテ居ッタ譯デアリマスガ、今回ハ先刻申上ゲマシタ  
 ヤウニ、二十五年ノ償還年限ト定メテ居ル譯デアリマスガ、何分ニモ農業生産ニ依ッテ元利ヲ償  
 却スル關係ガアリマスルカラ、餘リニ償還年限ガ短イト云フコトモ、農家ニ取ッテハ如何デア  
 ラウカ、斯様ニ考ヘマスノデ、先ヅ此程度ハ御辛棒ヲ願ッテ宜シイノデアルマイカ、災害ニ因ル  
 農地ノ滅失ノ場合ニ付キマシテハ、過去二三年來ノアノ非常時期ノ際ニモ、種々問題ト相成ッタ

點デアリマシテ、是ガ救済ニ付キマシテハ、ソレノ手ヲ盡シタ譯デアリマス、斯様ナコトハ其場  
 合ニ於テ救済ノ策ヲ立テルノ外ハゴザリマセヌノデ、豫メ立法ノ手段ニ依ッテ之ヲ決メルト云フ  
 コトハ、頗ル困難ナコトデハナイカト思フデアリマス、ソレカラ農地金庫ノコトハドウデア  
 ルカト云フ御意見デアリマシタ、農地金庫ハ過去ニ於キマシテ相當論議セラレマシタルコト  
 ハ、岡田君ノ仰セノ通りデアリマスガ、是ハ一方金融全體ノ關係モ考慮ヲシナケレバナリマセ  
 スノデ、此考ヘ方ハ今回ハ採ラナカッタ次第デアリマス、未墾地開墾ノコトハ、寧ロ内容ニ涉ッテ申  
 上ゲル方ガ宜シイカト存ジマスカラ、委員會ニ於テ計畫内容ヲ御説明申上ゲルコトニ御許ヲ得タイ  
 ト思ヒマス、次ハ大體ノ御批評トシマシテ、如何ニモ小作立法ニ關スル條項ガ簡單ニ過ギテ、前  
 回ノ小作法ニ比シテ甚シク後退ノ色ガアルデヤナイカト云フ御意見デアリマシタ、是モ寧ロ何  
 故ニ前回ノ立法ニハ規定ガアッテ、今回ノ規定ニハ之ヲ規定スルコトヲ見合セタト云フコトヲ、各  
 條項ニ涉リマシテ詳細ニ申上ゲマスルコトガ適當デアルト思ヒマスカラ、甚ダ禮ヲ失スルヤウ  
 ナ嫌ヒモアリマスケレドモ、寧ロ此事ハ委員會ニ於テ、各項目ニ涉ッテ詳細ニ申上ゲマスル方ガ宜  
 シイカト思ヒマスガ、一言申上ゲマスレバ、先刻申上ゲマシタヤウナ根本精神ヲ一ツ持ッテ掛ッテ  
 居ル譯デアリマスノデ、餘リニ法ノ規定ガ具體的ニ過ギルト云フコトモ、是モ或ル場合ニ於テハ、  
 却テ是ガ爲ニ紛議ヲ醸スノ虞モアルデアリマスカラ、其邊ハ餘程緩急宜シキヲ制スルノ用意  
 ガ肝要ダト思フデアリマス、併ナガラ或ハ御考ヘ方ニ依リマシテハ、斯様ナ箇條ハ是非共ナ  
 ケレバナラヌト云フヤウナ點モゴザイマセウカラ、ソレ等ノ點ハ委員會等ニ於テ、御遠慮ノナ  
 イ御意見ヲ拜聽致シタク希望致シテ居ルデアリマス、ソレカラ最後ニ、前回小作法案ハソレ  
 ゴレノ手續ヲ經ラレマシテ、天下ニ豫メ曝シテ置カレタ、今回ハ餘リニ其順序ガ簡約ニ過ギタ  
 デハナイカト云フ御意見デアリマス、一應御尤ノ御意見ト存ジマスガ、何分ニモ今回ハ御承知  
 ノヤウナ測ラザル政變ニ遭遇致シマシタヤウナ關係モアリマスノデ、私就任以後ニ於テ、取急  
 ギ折角前内閣ニ於テ用意サレテ居ル、農村ニ取ッテ重大ナ問題デアリマスノデ、之ヲ議會ニ提案  
 モ致シマセヌデ置クト云フコトハ、是ハ私トシテ甚ダ相濟マヌヤウナ考モ持ッタデアリマス、

此問題ニ付キマシテハ、私モ前回在任ノ當時ヨリ多少手ヲ著ケテ居ッタ問題デアリマシテ、法案ノ大體ノ立テ方ハ、私共ノ考ト合致致シテ居ッタ譯デアリマスカラ、議會ニ提案ヲスルコトニ決意ヲシタ次第デアリマス、斯様ナコトデ議會提出前ニ、普ク各方面ニ御意見ヲ徵スルト云フ暇ガナカッタコトハ、ドウカ悪シカラズ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、隨テ私ハ當議會ニ於キマシテ、皆様ノ色々ナ方面カラ、色々ナ御議論ヲ廣ク拜聽スルト云フコトニハ、十分ノ敬意ヲ以テ伺ヒタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

宮崎一君ノ質疑

私ハ農地法案ニ關シマシテ、極メテ簡單ニ質問ヲ致サント欲スル者デアリマス、本法案ノ提案理由書竝ニ農林大臣ノ本日ノ御演說ニ從ヘバ、本法案ハ結局自作農創設維持ニ關スル事業ノ擴張強化、竝ニ土地ノ利用收益關係ノ調整、言換ヘレバ小作關係ノ調整ト云フコトヲ目的ト致シテ居ル法案デアリマス、所ガ自作農ノ創設維持ト云ヒ、小作關係ノ調整ト云フコトハ、重大ナル問題ニハ相違ゴザイマセヌガ、農地問題、土地問題全部カラ申セバ、其一小部分ノ問題デアリマス、仍テ私ノ第一ノ質問ハ、現内閣ノ土地政策ニ關スル全貌ト云フモノガ、如何ナルモノデアるかト云フコトヲ、御伺致シタイト存ズルデアリマス、農業ガ土地ニ依存スルト云フコトハ申ス迄モアリマセヌ、所ガ未ダ土地政策ト云フモノガ確立シテ居ラナイト云フコトガ、我國農業ニ取ッテ最モ遺憾ノ點ナノデアリマス、我國ノ農業ノ最大ナル惱ミハ何處ニアルカト云フト耕地ガ過少デアルト云フコトデアリマス、此耕地ノ過少ナルコト、或ハ土地飢饉ト申シテモ宜シイノデアリマス、ルガ、此土地飢饉ニ關スル所ノ對策ト云フモノガ、土地政策ノ根本義デナケレバナラヌデアリマス、耕地過少ト云フ問題ハ、半面カラ申セバ人口過多ノ問題ト相成リマスルノデ、此點ニ關シテハ第一ニハ移民ノ問題ガ考慮セラレネバナリマセヌ、更ニ土地自體ノ問題カラ云ヘバ、只今農林大臣竝ニ岡田君ノ御話ノアリマシタル、耕地ノ擴張ノ問題モ考慮セラレネバナリマセヌ、第三ニハ土地ノ利用價值ノ増進、狭イ耕地ヨリシテ多クノ收穫ヲ舉ゲルト云フコトガ、十

分考慮セラレネバナラヌ筈デアルト存ジマス、所ガ現内閣ニ於カレマシテハ、前内閣ニ於テ樹テラレマシタル計畫ノ中ニ、土地ノ耕地ノ擴張、土地利用價值ノ増進ニ關スル經費ヲ、多少ナリトモ輕減セラレタカニ存ジ上ゲマスルガ、若シ左様デアリマスルナラバ、此點ヨリ見テ、私ハ現内閣ガ土地問題ニ關シテ、十分ナル御認識ヲ有セラル、ヤ否ヤニ關シマシテ、危惧ノ念ニ堪ヘザル者デアリマス、此自作農創設ノ問題ニ付キマシテハ、各方面カラ之ヲ考慮セラレネバナラヌト思フデアリマス、第一ニ前ノ質問者カラモ此點ニ一寸觸レラタヤウデアリマスルガ、開墾助成法ヲ見マスルト云フト、實際ノ實施シテ居ル所ハ、資本案ノ企業ノミヲ助成シテ、地主ヲ助成シツ、アルノミデアリマスルシ、更ニ又國有地ノ處分ノ實際ヲ見マスルト云フト、是モ亦資本案ニノ土地ヲ得セシメテ、小資産者ノ耕地獲得ノ機會ヲ與ヘテ居ラヌデアリマス、是等ノ點ニ關シマシテ更ニ考慮ヲ要スルコトガアルノデアリマスマイカ、又自作農ナラント欲シテ耕地ヲ獲得スル者ノ爲ニ、登録稅竝ニ地方稅アル所ノ不動産所得稅減免ノ必要ト云フコトモ、十分考慮セラレネバナラナイノデアリマスマイカ、又自作農ノ世襲財產制度、歐羅巴ナドニハ家産法ナドト云フ法律ガ考ヘラレテ、自作農ノ世襲財產制度ト云フモノガ考慮セラレテ居ル所、現在ノ農業ノ狀態ニ於キマシテ、自作農ニ相續稅ヲ賦課スルト云フヤウナコトハ、十分各種ノ狀況ヲ考ヘテ見テ、是ハ妥當デハナイノデアリカ、此點ニ關シテ政府ハ十分ナル御考慮ヲ拂フコトハ必要デハナイカト存ゼラレマス、是等ノ點ニ關シテ何等ノ對策ヲ講ゼズシテ、農地ノ問題ヲ解決スルコトハ不可能デハナイカト存ゼラレマス、以上私ノ申述ベマシタル各點ニ觸レテ、現内閣ノ土地政策ノ全貌如何ト云フコトガ、質問ノ第一點デアリマス、私共ノ心配致シマスコトハ、官僚ノ秀才ノ方々ガ思付キノマニ、土地政策ニ關スル一定ノ「プラン」ヲ立テルコトナクシテ、斷片的ニ仕事ニ手ヲ觸レラレル、サウ云フ點ガ一番心配デアリマス、若シモ土地政策ニ對シテ一定ノ「プラン」ト云フモノガアツテ、其一部分トシテ斯様ナ法律案ガ提出セラレルヤウナ場合デアリマスルナラバ、時ノ前後等ハアリマシテモ、結局其一部分ト一部分トノ間ニ脈絡ガアリ、生命ガアル所ノ、有機的ナル所ノ政策ノ完成ガ出來テ、初メテ斯様ナル狀態ヲ綜合スレバ、將來ニ關シテ多數農民ハ明カナル明日ヲ約束セラレルコトガ出來ルノデアリマセウ、所ガ唯ボツリト其時々ノ思付

ノマニノノ政策ガ、バラノニ出現セラレルト云フコトデアリマシテハ、法ノ改廢ノミガアツテ、社會進展ノ實績ヲ見ルコトガ極メテ困難デアリマス、仍テ第一ニ、現内閣ノ土地政策ノ全貌ト云フコトヲ御伺シタイト云フコトガ第一點ナノデアリマス、第二ノ私ノ質問ハ、我國ノ小作農ノ將來ニ對スル政府ノ御所見竝ニ是ガ對策ト云フコト、又小作權強化ニ對シ、其限界ニ關シテ政府ノ御所見ヲ承リタイト存ズルノデアリマス、ト申シマスルノハ、本法案ノ中ニハ多少小作權ヲ強化スルガ如キコトガ意圖セラレテ居ルノデアリマスルガ、我國ノ將來ニ於テ——我國ノ將來ト申シマシテモ、今漸次文化ガ急速ナル勢デ普及シテ參リマシテ、國民ノ各層ガ生活ノ向上ヲ實際致シテモ居リ、又少クトモ生活ヘノ向上ヲ希望スル所ノ願望ガ、漸ク急激ナラントスル現狀カラ考ヘテ、將來小作農ノ方々ガ今ノ生活ニ甘ンジナイト云フコトニ直成ッテ來タ場合ニ於テ、尙ホ小作農ト云フモノノ存立ガ可能デアルト御認メニナッテ居ルカ否カト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、我國内此ノ農業ハ、今更申ス迄モナク、一戸平均耕作反別ト云フモノハ一町四畝歩ニ相成ッテ居リ、北海道ヲ除外シテ勘定シテ見マスルト云フト、一戸當リ僅ニ九段六畝歩ト云フ、世界無比ノ過小農デアリマス、此耕地ノ不足ト云フコトガ、是ガ我國ノ農業ノ最大ノ病根デアアルノデアリマスルガ、耕地ガ不足スレバ、ドウシタ所デ小作農ノ間ニ小作料ノ糶上ゲヲ招來シテ、小作農ハ自ラ其不利益ナル地位ニ陥ル結果トナルト云フコトハ、洵ニ已ムコトヲ得ナイヤウナ宿命デアルト申サナケレバナラヌ現狀ニアルノデアリマス、ソコデ去年カラ今年ニ掛ケマシタ狀態ヲ見テ、目前一時ノ有様カラ判斷シテ、小作農ノ將來ヲ忘レテ居ルヤウナ狀態デハ、非常ニ私ハ危險ダト思フノデアリマスガ、政府ガ現在竝ニ過去ニ於テ、我國ニ小作農ガ立派ニ存立シタト云フ事實カラノミ、此事ヲノミ根據トシテ、其小作農ノ將來ト云フコトヲ判斷セラル、ナラバ、是ハ極メテ危險ナコトデアリマス、近時私共ガ農村ニ參リマスルト云フト、農村ノ方ノ中ニ、小作農ノ方ガ地主ヨリ餘程樂ダト云フヤウナ御話ヲ承ルノデアリマスルガ、此事ハ十分考ヘテ見ネバナリマセヌ、是ハ小作農ノ生活ヲ現狀ノ儘ニシテ置イテ、其小作農デアアル人モ、其子孫ノ方々モ、生活ノ向上發展ノ資格ナキモノトシテシマッテ、人格的ニ對等ナラザ

ルモノト云フヤウナ判斷カラ出發シテ居ルノデアリマスマイカ、若シモ小作農ノ人々ガ更ニ人間ラシキ生活ヲ要望シ來リマシタ時、何人モ之ヲ阻止スルコトガ出來ナクナルト云フコトニナルノハ當然デアリマスルガ、其際ニハ此小作農ノ生活ガ向上シテ來レバ、私共ハ此小作農ノ存立ト云フモノガ、今ノ儘デハ出來ナクナルノデハナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマスルガ、政府ノ小作農ニ對スル將來ノ見透シニ關スル御所見ハ如何デアリマセウカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、此點カラ本法ニ於テ意圖セラレテ居ルカニ見エル所ノ、小作權強化ニ依ッテ小作農ヲ維持スルト云フコトニナルト、是ハ大變ナ問題ニナッテ來ルノデアリマス、土地過少ト云フ根本問題ノ爲ニ、小サナル地主モ小作農モ苦シンデ居ルノニ、土地過少ト云フ其根本ニ對シテ、非常ナル力ヲ入レテ救フト云フコトヲシナイデ、初メカラ足りナイ所ノモノニ付テ、小作權ノ強化ト云フコトヲスルダケデ、此問題ヲ解決スルト云フコトニ至リマスルナラバ、結局土地所有權ヲ空虛ナラシムル程度ニマデ、小作權ノ強化ガ進展致スト云フ結果ニ相成ルノデハナイデアリマセウカ、然ラバ是ガ果シテ小作關係ノ調整ヲ圖ル所以ト相成リマセウカ、非常ニ此點ニ關シテ疑ナキヲ得マセヌ、以上申述ベマシタルガ如クニ、我國農地問題ノ病源ト云フモノハ、耕地過少、土地飢饉ニ由來スルノデアリマスルガ故ニ、此病源ニ徹底セズシテハ、小作權強化モ自作農ノ創設維持モ、卒然トシテ其意義ヲ失フモノデハナイカト思フノデアリマス、仍テ第一ノ質問ニ關聯シテ小作農ノ將來、及ビ將來ニ於ケル小作權強化ノ限界ニ對スル政府ノ御意見ヲ伺ヒタイト存ズルノデアリマス、時間ノ關係上第三以下ハ更ニ省略シマスルガ、第三ノ質問ト云フト、實際ハ斯ウ云フ事ニナッテ居リマセウカ、一時耕地價格ヲ昂騰セシメルコトノヤウニ思ハレマス、是ハ岡田君ノ質問ニ對シテ、農林大臣ハ左様ナコトハナイヤウニ言ハレマシタガ、田舎ノ動カナイ土地、都會トハ違フノデアリマスガ、其處デ非常ニ自作農ガ創設サレテ土地ノ賣買ガ出來レバ、ドウシテモ茲ニ土地ガ昂騰スルト思ハレルノデアリマスガ、其結果ハ自作農トナツタル者ガ、是ガ爲ニ生ズルコトアルベキ負債ノ爲ニ、自繩自縛ノ窮境ニ陥ッテ、再ビ

小作農ニ顛落スルヤウナコトハナイカ、サウシテ顛落シタル場合ニ於テハ、從前ヨリ更ニ倍シタル悲慘ナル存在ニ化スルト云フコトハナイデアリマセウカ、此點ニ關シマシテ、私ハ左様ニナラナイコトヲ希望致シマスルガ、近ク過去ノ歴史ヲ調べ、現在ノ事實ヲ有ノ儘ニ見テミマスルト云フト、此小作農ノ人ガ無理ヲシテト言ウテハ惡イカモ知レマセヌガ、無理ヲシテ土地ヲ買ウテ、自作農ニナツテ、ソレガ又更ニ所謂小作農ニ顛落シタル所ノ狀況ト云フモノヲ、極メテ最近ノ事實ガ之ヲ物語ッテ居ルト云フコトヲ忘レルコトハ出來マセヌ、此點ニ關スル政府ノ御所見、竝ニ是ガ對策ヲ御伺シタイト存ズル次第デアリマス、第四ノ質問ハ斯ウ云フ事デアリマス、吾々ガ地方ニ居ッテ事實ヲ根柢トシテ見マスルト、自作農ノ創設維持ト云フコト、負債整理ト云フコトハ、實際ハ同一ノモノノヤウニ見エマス、名ハ變ルケレドモ、實際ノ働キハ同ジダト思ヒマス、然ルニ此兩者ニ付テ條件ヲ異ニシ、制度ヲ別ニセラレル理由ハ如何デアリマセウカ、此點ヲ御伺シタイノデアリマス、先ヅ自作農維持ノ點カラ申シマス、負債ノ重壓ニ非常ニ苦シンデ居ル農民ノ方々ノ其没落ヲ救ハウト云フノガ、結局自作農ノ維持ノ問題ナノデアリマスカラ、是ハ結局負債ノ整理ト同ジコトニ相成ルノデハナイノデアリマセウカ、然ラバ只今申上ゲマシタノハ、自作農ノ維持デアリマスガ、自作農ノ創設モ同様デハナイノデアリマセウカ、現實ノ問題トシテ自作農創設ノ尠カラザル所ノ例ヲ見マス、大概斯ウデアリマス、自作農ノ方ガ非常ニ困ッテ借金ヲスル、借金ヲスルニ抵當ト云フノデナクシテ、所謂抵當權ヲ設定セズシテ、賣渡抵當或ハ再賣買ノ豫約ニ依ッテ、自分ノ土地ヲ賣ッテシマフノデアリマス、サウシテ置イテ借金ヲ返スト云フコトニ非常ニ苦シンデ居ル所ヘ、コ、デ自作農ノ創設維持ト云フコトニナリマスルト、自分ガ抵當ニ入レテアル土地、名義上ハ賣買デ賣渡シニナツテ居リマスガ、賣渡シニナツテ居ル土地ヲ買戻スト云フノガ、自作農創設ノ今マデノ事例ノ大部分デアルカノ如クニ私ニハ考ヘラレマスガ、若シサウデアレバ、是ハ負債整理ト實質ハ同ジナルノデアリマスマイカ、ソレカラ又サウデナイ、現實ニ小作人ノ方ガ新ニ土地ヲ買ウテ自作農ニナラレルト云フコトモアリマスガ、其場合ニ於テハヤハリ借金ヲシテ、或ハ金ノ貸付ヲ得テ土地ヲ買フノデアリマシ

テ、サウ致シマス場合ニ、土地ノ購入資金ノ貸付ヲ得テ、結局後カラ言ヘバ、由テ生ジタル負債ノ整理ヲ爲サシムルト云フコトガ後ニ殘ル問題デ、是ガ即チ自作農創設ノ他ノ場合トナルノデアリマスカラシテ、自作農ノ創設モ自作農維持モ、理窟ハ何ト言ウテモ、農村ニ於ケル現實ノ事實、負債整理ト全然同一ノ場合ガ多イト思ハレマスルガ、斯様ナル状態デアリ、且又負債整理組合法ヲ見マスルト、負債整理組合法自體ニ於テ、自作農創設資金ノ貸付ヲ爲シ得ルコトヲ規定シテ居リマスルガ、斯様ニ實體ノ殆ド同様ナルモノニ、何故ニ別箇ノ制度ヲ設ケ、特ニ自作農創設維持資金ノ金利ノ方ハ安クシテ、負債整理ノ資金ノ方ガ利息ガ高イト云フヤウナ、差別待遇ガアルト云フヤウニ、其間ニ制度上區別ヲ設ケラレルト云フコトガ、ドノヤウナ状態カラ來テ居ルノデアリマセウカ、是等モ官僚ノ方々ガ物事ノ實質ニ觸レズシテ、名前ニ依ッテ其處置ヲ異ニスルト云フコトヤ、其時々ノ思付デアッテ、全體ニ融合統一セル所ノ計畫ヲ豫メ持ッテ居ナイガ爲ニ生ズル缺陷デハナイカト思ハル、ノデアリマス、此點ニ關スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ズルノデアリマス、農地ノ問題ハ先程岡田サンノ御話モアッタヤウデアアルガ、思想的ニハ、我ガ日本ノ堅實ナル思想ノ維持竝ニ發揚ニ重大ナル關係ガアル問題デアリマス、願クバ以上ノ四點ノ質問、殊ニ第一ノ現政府ノ農地政策ニ關スル所ノ全貌ト云フヤウナ問題ニ付テ、只今申上ゲマシタル所ノ質問ノ總テノ點ニ觸レテ、十分ナル御明答ヲ戴キタイト存ジマス、私ノ質問ハ一應此邊デ止メマス

山崎農林大臣ノ應答

宮崎君ノ御問ニ御答ヲ申上ゲマス、第一ハ土地政策ノ全貌ハドウデアアルカト云フ、極メテ廣汎ナ問題ノ御提供ガアッタ譯デアリマシテ、之ニ關シマシテ一言デ御答ヲ申上ゲルコトハ、殆ド不可能ナ問題デアアルコトハモウ御承知ノ通りデアリマス、我國ノ農村トシマシテ、一方ニハ人口ノ問題ガアリ、一方ニハ土地狭小ノ問題ガアル、是ハ御説通りデアリマス、農村問題ノ根本ハ、其調節ヲドウ付ケルカト云フ點ニアルコトモ、大體宮崎君ノ御考ノヤウナ工合ニ私モ考



ヘテ居ル一人デアリマス、隨テ之ニ對シマスル對策トシマシテハ、御説ノヤウニ或ハ移民ノ問題モゴザリマセウシ、或ハ正シキ工業ノ發展ニ依ツテ、農村人口ノ吸收セラレルト云フコトモ固ヨリ大切デアリマセウシ、同時ニ又一方ニハ農村ニ關スル諸般ノ政策ニ依ツテ、生産ノ増加、生産費ノ低下、或ハ災害ノ防除、或ハ御話ノアリマシタ耕地ノ擴大ト云フヤウナ工合ニ、各方面カラ考ヘテ參ラナケレバナラヌデアリマシテ、何時カモ申上ゲマシタヤウニ、農村問題ガ此手デ行クトカ、其手デ行クトカ云フヤウニ、一ツ二ツノ手段ニ依ツテ農村問題ハ考ヘ得ザルコトハ、モウ申ス迄モナイコトデアリマス、隨テ宮崎君ノ大體ノ御考ヘ方ニハ私ハ異存ハゴザリマセヌ、唯宮崎君ノ御懸念ニナリマシタノハ、今回ノ豫算ノ所謂實行見合セト云フ關係カラ、農林省ノ土地關係ノ經費モ幾ラカ減ツタノデヤナイカト云フ點ノ御心配デアリマスガ、此點ハ耕地ノ擴大ニ關スル經費ハ手ヲ著ケテナイノデアリマス、土地關係ノ經費デ極メテ少額ノ節減ハ致シテ居リマスガ、結果ニ於テ御心配ヲ仰グヤウナコトハナカラウト存ジマスカラ、ドウゾ御安心ヲ願ヒマス、ソレカラ税ノ問題モ、是モ農村ノ立場、農民ノ立場ト云フ點カラ考ヘマスレバ、宮崎君ノ仰セノ通り、或ハ自作農ノ相續税ノ問題デアルトカ、或ハ登録税、不動産所得税ト云フヤウナ點ハ、無論考フベキデアリマスケレドモ、税法全體ノ關係、國民ノ納税ト云フ關係カラ廣ク考ヘテ參リマスト云フト、唯農村ダケノ立場ニ於テ、此問題ヲ取扱フコトモ困難デアアル譯デアリマスカラ、宮崎君ノ御趣旨ハ十分諒ト致シマスガ、實際ノ取扱ノ問題ト致シマシテハ、中々御希望ノ通りニ參リ惡イト云フコトノ御察シヲ願ヒタイノデアリマス、小作農ノ將來ハドウ考ヘルカ、小作農ノ存續ハ困難デハナイカ、斯ウ云フ御意見デゴザリマス、小作農ノ關係ハ、農村ニ取リマシテ最モ大切ナコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、併ナガラ實際ノ問題トシマシテ、或ハ悉クヲ自作農ニスルト云フヤウナコトハ、言フベクシテ行ハレザルコトデアリマス、ドウシテモ農村ニ於テ小作農ガ小作農トシテ立行クヤウニ考ヘテ行クト云フ政策ヲ執ルノ外ハナイノデアリマシテ、之ニハ固ヨリ今回ノヤウナ法制ノ必要モゴザイマセウガ、大體ハ農村全體ノ政策ニ依ツテ、小作農ノ一面ニハ支出ヲ節減シ得ルヤウナ途モ考ヘ、一

面ニハ收入ノ増加ヲ考ヘルト云フヤウナ工合ニ、各方面ノ施設ニ依ツテ小作農ノ存續ガ出來ルヤウナ政策ヲ執ツテ行カナケレバナラヌト思ヒマス、小作農ノ強化ニハ一定ノ限界ガアルデヤナイカト云フ御意見デアリマスガ、ソレハ宮崎君ノ御考ノ通りデアリマシテ、私ハ先刻岡田君ニモ御答申上ゲマシタヤウニ、小作ト土地所有者ト云フモノヲ對立シタル觀念ニ於テ取扱フト云フ考ヘ方ヲ採リタクナイ、斯ウ云フコトヲ申上ゲテ置キマシタガ、ソレニ依ツテ類推シテ戴キマスレバ、自ラ私ノ考ヘ方ハ御諒解ガ願ヘルト思ヒマス、自作農ノ創設ハ宜シイガ、小作ニ顛落スル虞ハナイカト云フ御懸念デアリマス、是マデノ自作農ノ創設ニ付キマシテ、最近ノ三四箇年ノ農村不況ノ際ニ、自作農ガ種々困難ニ遭遇セラレタコトハ、御承知ノ通りデアリマス、之ニ對シマシテハ或ハ償還金ノ中間据置ヲヤリマスルトカ、色々ノ救済策ヲ執ツタ譯デアリマスルガ、是等ヲ除キマスルト云フト、全體カラ見マシテ創設セラレマシタ自作農ノ成績ハ、決シテ一部ガ御懸念ニナツテ居ルヤウニ、結果ガ惡イト云フコトハナイノデアリマス、相當ノ成績ヲ收メテ居ル譯デアリマスカラ、自作農創設ヲ擴張致シマシテ、之ヲ獎勵致シテ參リマシテモ、宮崎君ノ御懸念ノヤウニ自作農ガ段々小作ニ顛落シハセヌカト云フ御心配ハ、大シテナイヤウニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ自作農創設維持ト負債整理トハ、大體同ジヤウナモノデハナイカト云フ御意見デゴザリマシテ、是ハ仰セノ通り其性質ヲ究メテ參リマスレバ、餘程兩者似通ツタ關係ニアルコトハ、宮崎君ノ御指摘ノ通りデアリマス、併ナガラ同時ニ又兩者ガ同一ノモノデナイ、違ツタモノデアルト云フ事實モ、亦之ヲ認メナケレバナリマセヌガ、併ナガラ假令同一デアツテモ違ツテ居ルトシテモ、出來得ル限り、例ヘバ率トカ其他ノ條件ガ餘リ開キノナイト云フコトハ、希望スベキコトデアリマス、宮崎君ノ御指摘ノ通り、是マデ負債整理ノ方ノ率ガ稍高クナツテ居ル憾ミガアリマスノデ、此點ニ付キマシテハ、只今關係省トモ協議ヲ致シマシテ、種々苦心ヲ拂ツテ居ル點デアリマス、宮崎君ノ大體ノ此點ニ付テノ御精神ニハ、私ハ變ツタ考ヲ持ツテ居ラヌト云フコトダケハ申上ゲテ置キマス

山邊常重君ノ應答

諸君、私ハ只今議題トナッテ居リマスル農地法案ニ付テ、山崎農林大臣ニ御伺致シタイノデアリマス、其第一ハ、本法案ヲ檢討致シマスルト云フト、頗ル微温的ノモノデアリマシテ、此法律ダケデハ十分其效果ヲ擧ゲ得ナイト思フノデアリマス、此他ニ小作立法及ビ農業保險制度ヲ確立シナカッタナラバ、本法ノ效果ハ果シテドウデアリマセウカ、此點ニ付テ御伺シタイノデアリマス、殊ニ先程岡田君カラ申サレマシタガ、二十五箇年間デハ期間ガ短カ過ギマスカラ、是ハ少クトモヤハリ三十五箇年ノ程度ニシナカッタナラバ、自作農ヲ爲サル方ガ、其負擔ニ堪ヘナイデハナイカト云フ疑ガアルノデアリマス、理論上萬全ノ策モ、イザ實際ニナリマス中中思フヤウニハ參リマセヌ、郷ニ入ッテ郷ニ從ヘト申シマシテ、其土地々々ニ依リテ異レル習慣等ガアリマシテ、本法適用ノ上ニ於テ、餘程面倒ナ問題ガ起ルト思ヒマス、自作農ノ創設維持ニハ私共衷心カラ賛意ヲ表スル者デアリマスガ、自作兼小作農、自作農、小作農、地主ノ何レニモ偏セズ、其中庸ヲ縱斷セル法律ノ制定ハ中々困難カト存ジマス、而シテ現在デハ自作農維持ガ如何ニ困難デアルカハ、統計ニ依ッテ明ニ示サレテアルノデアリマス、即チ昭和六年ニ於ケル自作農家ハ、百七十五万六千三百九十九戸デアリマシタモノガ、昭和十年ニハ百七十三万二千八百六十六戸ニ減少シテ居リマス、其減少セル戸數ハ實ニ二万四千三百三十三戸トナッテ居リマス、之ニ反シマシテ小作農ハ年々増加ノ傾向ヲ示シテ居リマス、即チ昭和六年ニハ百四十九万五千三百十戸デアリマシタモノガ、昭和十年ニハ百五十一万八千八百八十一戸デアリマシタモノガ、昭和六年ニハ二百三十八万二千九百一十一戸デアリマシタモノガ、昭和十年ニハ三百三十六万三千四百十戸トナリマシテ、其減少セル戸數ハ二万一千七百五十一戸デアリマス、之ニ依ッテ見マスレバ、自作農及自作兼小作農ガ、如何ニ其經營ガ困難デアルカト云フコトヲ如實ニ物語ッテ居ルノデアリマス、更ニ之ヲ證據立テテ居ルノハ、耕作ニ從事セル地主戸數ノ減少デアリマス、即チ昭和六年ニ四百十三万八千四百九十戸デアリマシタノガ、同ジク昭和十年ニハ四百九

万二千四百二十六戸トナッテ居リマス、其減少數ハ四万六千六百四十四戸デアリマス、更ニ又耕作ニ從事セザル地主ガ年一年ト増加スルノデアリマス、即チ昭和六年ニ九十五万六千九百五十七戸デアリマシタノガ、昭和十年ニハ百五十四万九千八百八十六戸デアリマシタモノガ、其増加戸數ハ九万八千二百九十九戸デアリマス、此不耕作地主ノ増加ハ一體何ヲ物語ルモノデアリマセウカ、要スルニ引合ハナイカラデアリマス、殊ニ自作農ガ其土地ヲ喪失致シマシテ没落シツ、アリマスル其多クハ借金ノ爲デアリマス、即チ借金ノ抵當ニ其土地ヲ銀行若クハ債權者ニ取ラレテ居ルデアリマス、其實例ト致シマシテ日本勸業銀行ノ所有ノ土地ガ年々非常ナル數ヲ以テ増加シテ居リマス、昭和四年上半期ニ於ケル日本勸業銀行名義ノ地所ハ——是ハ段ヲ以テ單位トシテ申上ゲマス、三千六百六十二段デアリマシタモノガ、昭和十一年上半期ニハ實ニ十四万八千八百二十二段デアリマス、デアリマスルカラ其増加ノ割合ハ約三十倍デアリマス、是デハ勸業銀行モ困リマス、又銀行トシテ抵當流レノ地所ヲ有利ニ處分スルト云フコトモ中々困難カト存ジマス、幸ニ本法案ガ成立シ公布サレマシタ曉ニハ、何ヲ措イテモ先ヅ農地委員ノ努力ニ依リマシテ解決スベキ大キナ問題ト思ヒマスルガ、若シ解決ヲ誤リマスルト云フト、銀行ノ借金ガ政府ニ振替ヘラレル爲ニ利用スル虞ガアルノデアリマス、山崎農林大臣ハ此點ニ關シマシテ如何ナル御所見ヲ抱懷セラレテ居リマスルカ、御伺致シタイノデアリマス、第二ハ、本法案ノ第一條ニ「本法ハ互讓相助ノ精神ニ則リトアリマスルガ、是ハ申ス迄モナク醇風良俗デアリマス、今チヨツト能ク申上ゲマスルト、所謂李下ノ冠瓜田ノ履、此精神デアリマス、日本國民ガ全部サウ云フ精神デアリマスルナラバ、或ハ法律ハ要ラナイカモ知レマセヌ、併ナガラ世ガ進歩スルニ從ッテ中々サウハ參リマセヌ、殊ニ地主ト小作人トハ其立場ガ正反對デアリマス、即チ地主ハ權利者デアリマシテ、小作人ハ義務者デアリマス、又地主ト自作兼小作人トノ感情問題デアリマスルガ、是ガ中々旨ク參リマセヌ、小作人ガ途中デ地主ニ行キ逢ヒマスルト云フト、先ヅ冠リ物ヲ取ッテ丁寧ニ地主ニ御辭儀ヲ致シマスルノガ例ニナッテ居ル、併シ地主ハ帽子モ取ラズ鷹揚ニ挨拶ヲシテ居ル、ドウモ兩者ノ間ガシツクリ合ヒマセヌ、是ハ山崎農林大臣ハ大キナ地主デア

ラセラレマスルカラ、能ク御承知カト存ジマス、是ガ今日ノ地主ト小作人トノ間柄デアリマス、斯ノ如キ感情ノ行違ヒガアリマシテハ、假令此法律ガ制定致サレマシテモ、地主ハ、俺ハ小作人ニ地面ヲ賣ルコトハ厭ヤダト云フヤウナ氣持ガアリマスレバ、所謂互讓相助ノ效果ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、地主ニアラザレバ地主ノ心理ハ分リマセヌ、是ト同様ニ小作人ニアラザレバ小作人ノ心理ハ分リマセヌ、此點ニ付キマシテ私ハ子供ノ時カラ青年マデ小作人ノ子供デアリマシタガ爲ニ、其間ノ小作人タル心理状態ハ能ク體得シテ居ル者デアリマス、申上グル迄モナク農繁期ニナリマスレバ、朝ハ鷄鳴ニ起キテ田畑ヘ參リ仕事ニ掛リマス、サウシテ夕刻ハ月ヲ見、星ヲ戴イテ歸リマス、家ヘ歸リマス云フト、體ハ綿ノ如ク疲レテ居リマス、然ルニ明日モ亦其翌日モ其勞働ヲ續ケルコトガ、丁度水車ノ如ク續ケルノデアリマス、其結果愈々秋ノ穫入レニナル、而モ其穫入レマシタ穀ヲ乾カシテ之ヲ玄米ニシテ、之ヲ地主ニ小作トシテ持ッテ行クノデアアル、四斗俵ノ目方ガ十六貫五百匁以上ナケレバ、ドウモ地主ハ好イ顔ヲ致シマセヌ、是ハ米一升四百匁ト致シマシテ、四斗即チ十六貫、外ニ俵ヲ四五匁ト見テ居リマスカラ、地主ハ十六貫五百匁以上ナケレバ承知ヲ致シマセヌ、是ガ豊年ノ時ニハ良ク實ッテ居リマスルカラ、四斗カキキリ入レマシテモ十六貫五百匁以上アリマス、ケレドモ少シ不作ノ時ニナリマスレバ、四斗二升入レマシテモ十六貫五百匁切レマス、而モ地主ハ好イ顔ヲシナイ、小作人トシテハ四斗ニ對スル二升ノ増加ハ、實ニ血ノ涙ガ出ルノデアリマス、地主ハ好イ顔ヲシナイ、小作人ハ血ノ涙ヲ流ス、此摩擦ガ激シニ激シテ、詰リ小作爭議ガ起ルノデアリマス、而シテ小作爭議ヲ起ス人ハ、相當ニ強イ人デナケレバ出來ナイ爭議デアリマス、何故カト申シマスルト、若シ地主ト爭ッテ小作地ヲ取上ゲラレシマヘバ、今年ハ宜イケレドモ、來年ハ作ル田ガナイカラ食フコトガ出來ナイ、此點ニ小作人ガ思ヒヲ致シテ參リマスレバ、涙ヲ吞ンデ地主トノ爭議ヲ避ケルノデアリマス、斯ウ云フ小作人ノ數ハ、小作爭議ヲ起ス小作人ヨリ、遙ニ其數ガ多イカト私ハ存ジテ居ルノデアリマス、而モ小作人ノ實收ノ五割乃至五割五分ハ地主ノ所得トナリマス、残り四割五分乃至五割ガ小作人ノ所得デアリマス、此残りヨリ肥料

代其他ヲ差引キマス、其残りガ小作人ノ勞銀トナルノデアリマス、此勞銀ハ米一石三十圓ト見積リマシテモ、一日ノ勞銀僅カ四十錢ニ滿タナイノデアリマス、實ニ悲慘デアリマセヌカ、今日農村救済問題ガ日ヲ逐ウテ其聲ノ益、大ナラントスルノハ是ガ爲デアリマス、今日只今大問題トナッテ居リマスル地方財政調整交付金増額問題ハ、恰モ大旱ニ際シ將ニ枯ナントスル稻ノ爲ニ、農民ガ天ニ向ッテ雨ヲ乞フ所ノ聲デアリマシテ、實ニ農民諸君ノ心臓ヨリ絞リ出ル所ノ血ノ聲デアルト私ハ思フノデアリマス、特ニ農相ニ申上ゲマス、此地方財政調整交付金問題ニ付テハ、特別ノ御考慮ヲ御願致シタイノデアリマス、第三ハ、今日ノ農村ノ疲弊困憊ハ其極ニ達シテ居リマス、本案ニ依リマシテ多少緩和ハ出來マセウガ、ソレハマダホンノ一部分ニ過ギナイト思ヒマス、農村民ノ中デ食フ爲ニ働ク人ハマダ上ノ部デアリマス、既ニ食ッテシマッタ爲ニ働ク人ガ、本當ニ食フコトノ出來ナイ人デアルト私ハ思フノデアリマス、更ニ悲慘極マルコトハ、マダ農村ニ參リマス云フト、小學校ニ缺食兒童ガアリマス、子供ハ育ッ盛リデアリマス、而モ缺食シテ學校ヘ行ク、友達ニキマリガ惡イカラ、空ノ辨當ヲ持ッテ學校ニ行ッテ、食ハナイデ食ッテ振リヲシテオ晝ヲ濟マス、其生徒ノ心持ハ如何デアリマセウカ、饑サト悲シサトガ小サイ胸ニ交錯致シマシテ、定メテ私ハ辛イコトト思フノデアリマス、其結果子供心ニ先ヅ第一ニ金持ヲ美ミ、地主ヲ美ム、其心持ガ段々重ナリ重ナッテ、其人達ヲ怨ムヤウニナリマス、ドドノ詰リガ所謂思想惡化ノ原因ニナルノデハナイデセウカ、殊ニ小作人ノ子供ハ義務教育ガ終ッテカ終ラナイ内カラ家事ノ手傳ヲ致シマス、本法案ニ依ッテ此點モ多少緩和ハ出來マセウガ、併シマダ是ダケデハ十分デアリマセヌ、申上ゲル迄モナク、地方ニ於ケル小作人ノ子供ハ實ニ悲慘ナル生涯ヲ送ッテ居リマス、ツイ先月モ私ノ選舉區ニ、子供五人ヲ殺シテ七人心中ヲシタ人ガアリマスガ、之ヲ調べテ見マスト云フト、ヤハリ小作人デアリマス、デアリマサルカラ、ドウシテモ社會政策上本法ヲ十分ニ活用致シマスルニハ、小作立法及ビ農業保險法ヲ制定スルコトガ必要デアルト思フノデアリマス、山崎農林大臣其御決心ガアルカドウカ、御伺致シタイノデアリマス、第四ノ問題ハ、作不作ニ拘ラズ、毎年一度ノ時期ニ農地委員立合ノ上

ニ田ノ坪刈ヲ致シマシテ、小作料ヲ取決メルコトガ必要カト存ジマス、之ニ依ッテ小作爭議モ相當緩和サレルト思ヒマス、次ニ地主ト小作人、自作兼小作人ノ互讓融和デアリマスルガ、此融和ヲ圖ラナケレバ百ノ本法ヲ制定致シマシテモ、其效果ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、此融和ヲ圖リマスルニハ、先ヅ第一ニ上ノ方カラ範ヲ示スコトガ必要カト存ジマス、サウ致シマスルニハ、現在ノ如キ先ヅ官吏獨善主義ハ第一ニ排撃シナクテハナリマセヌ、地方ニ參リマスルト云フト、未ダニ官尊民卑ノ惡風ガ殘ッテ居リマス、併シ私ハ官吏ヲ尊ブナトハ申シマセヌ、ソレハ尊キ國法ヲ取扱フガ爲ニ官吏ヲ尊ブノデアリマシテ、是ハ官吏ガ尊キニアラズシテ國法ガ尊イノデアリマス、此意義ガ一般國民ニ徹底致シマスレバ、官尊民卑ノ惡風モ解消致シマシテ、地主ト小作人、自作兼小作人共ニ融和シテ、且ツ其分ヲ盡スコトガ出來ルト思ヒマス、農相ノ所見果シテ如何デアリマスルカ、是モ御伺致シタイノデアリマス、第五ニハ、先程宮崎君モ申サレマシタガ、本法ヲ十分ニ活用致シマスルニハ何ト申シマシテモ農村ノ負債整理ヲシナケレバナリマセヌ、農村ノ負債總額ハ約五十億圓アルサウデアリマス、其中ノ半額二十五億圓ハ抵當ガアリマスルガ、残り半額ハ是ハ抵當ガアリマセヌ、デアリマスルカラ負債整理ヲ合法ヲ今少シク問題ノ根本ニ觸レテ改正ヲ致シマシテ、債權者モ債務者モ共ニ相助ケ、相助ケラレテ、債務ノ返済ノ出來得ル便法ヲ講ジナケレバ、本法ノ效果ハ十分發揮スルコトガ出來ナイノデアリマス、幸ニ今日ハ低金利時代デアリマス、故ニ庶民金融ヲ設立致シマシテ、農家ニ對シテ金融ノ途ヲ開クコトガ必要カト存ジマス、前内閣ノ馬場財政ハ此點ニ注意セラレマシテ、庶民金融ノ豫算ヲ計上致シタノデアリマスルガ、現内閣ニ依ッテ之ヲ削除サレマシタコトハ洵ニ遺憾ノ至リデアリマス、而モ現在ノ農家ニハ金融ノ途ガナイノデアリマス、御承知ノ如ク小サイ銀行ガ段々ト大銀行ニ合併サレマシタ結果、今日ノ農村民ハ信用組合ヨリ金ノ融通ヲ受ケルヨリ外途ガナイノデアリマス、然ルニ現在ノ信用組合ノ多數ハ、殆ド開店休業ニ近イ状態デアリマスルガ故ニ、如何トモ致方ガナイノデアリマス、更ニ附加ヘテ申上ゲマスルガ、併シ地主ノ立場モ決シテ樂デハアリマセヌ、ソレハ村稅、縣稅、國稅等ガ相當ニ嵩ミマシテ、非常

ナ苦境ニ立ッテ居ラレルコトモ事實デアリマス、ソレガ爲ニ地主ノ方ハ自分ノ土地ヲ擔保ニ入レテ借金ヲシテ一時ノ凌ギヲ付ケル、其結果現在ノ日本國內ノ田畑ノ約八割ハ擔保ガ附イテ居リマス、中ニハ二番、三番ノ抵當モ附イテ居リマスカラ、均ラセバ全部抵當ガ附イテ居ルコトニナルノデアリマス、幸ニ本法ヲ十分ニ活用致シマシタナラバ、是カラ長年ノ所謂癘ヲ切取ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、之ヲ要スルニ地主モ、自作農モ、自作兼小作農モ、又小作人モ共ニ行詰ッテ居リマス、此行詰リヲ打開スル上ニ於テハ、本法ハ相當ナ效果ガアルト信ジマスルガ、併シ如何ニモ其金額ガ少イ、今少シク増加シテ、サウシテ此地主、自作農、自作兼小作農ノ此行詰リヲ打開スルコトガ最モ必要カト存ジマス、國ノ力ニ依ッテ此打開策ヲ講ジマスレバ、其後ハ農村ソレ自身ノ自力更生ニ依ッテ、相當ノ實績ヲ擧ゲ得ルト信ジマス、實績サヘ擧ゲマスレバ、國ハ富ミマス、國ガ富メバ兵隊モ強クナリマス、又現在ノ非常時局ノ打開モ、決シテ難事デナイト私ハ確信致シマス、以上申述ベマシタ五點ニ付キマシテ、山崎農林大臣ヨリ御答ヲ聽クコトガ出來マスレバ、私ハ勿論ノコト、地方農民諸君モ定メテ喜ブコトト思フノデアリマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ打切りマス

山崎農林大臣ノ應答

山崎君ニ御答ヲ申上ゲマス、第一ニ御述ベニナリマシタ、農業保險ノ制度ヲ確立スル必要ガアルデヤナイカト云フ、質問デアリマスガ、此點ニ付キマシテハ先般モ申上ゲマシタヤウニ、今回ハ取敢ヘズ山林火災保險ト漁船保險ノ解決ヲ圖ルコトト致シマシテ、一般ノ農作物保險ハ次ノ議會マデニ成案ヲ得タイト云フ考ヲ以チマシテ、若干ノ調査費ヲ計上致シテアル譯デアリマス、次ハ自作農ノ維持ハ餘程困難デハナイカ、現ニ銀行等ノ土地所有ガ非常ニ激増シテ居ルト云フ點デアリマスガ、此點ハ山崎君ノ御懸念ノヤウニ、私共モ心配ヲスル一ツノ問題デアリマス、申ス迄モナイコトデアリマスガ、農村ノ立場カラ考ヘマスルト、出來得ル限り農村ノ農耕地ヲ農村人ノ手ニ留メルト云フコトガ、是ガ農村政策トシテハ非常ニ大事ナ點デアルト、私

ハ平素カラ考ヘテ居ルモノデアリマシテ、近時段々ト銀行等ニ依ツテ土地所有ガ増加シテ行ク  
ト云フ傾向ハ、是ハ憂フベキコトデアリマス、斯様ナコトヲ出來得ル限リ少ク致シテ  
參ルト云フコトガ、即チ先刻申上ゲマシタヤウニ、出來ルダケ農耕地ヲ農村人ノ手ニ留メルト  
云フ政策ヲ各方面カラ助長シテ行クコトガ、私ハ非常ニ大切ト思フ譯デアリマスカラ、隨テ或  
ル意味ニ於キマシテハ、銀行ノ肩替リヲスルト云ツタ風ナ見方ヲスレバ、何ダカ面白クナイヤ  
ウナ氣持モ起リマスケレドモ、左様デナク、銀行ノ手ニアルモノモ農民ノ手ニ返ス、或ハ銀行  
ノ手ニ流ルベキモノヲ流サナイデ、農村人ノ手ニ農耕地ヲ止メルト云フコトハ、是ハ私ハ非常  
ニ大切ナコトダト思フデアリマシテ、今回ノ自作農ノ創設擴張ノ計畫ナドモ、主トシテ左様  
ナ點ニ對スル一ツノ備ヘデアリマシテ、今回ノ自作農ノ創設擴張ノ計畫ナドモ、主トシテ左様  
ウナコトヲ言ウテ居ルケレドモ、中々地主ニハ地主ノ心理ガアリ、小作ニハ小作ノ心理ガア  
リ、ソレガ延イテ小作爭議トナルト云フ御懸念デアリマスガ、左様ナ御懸念ヲナサルコトモ、  
私ハ無理カラヌト存ジマス、併ナガラ先刻申上ゲマスヤウニ、私ハ飽マデ農村ハ農村一體ノ立  
前デ進マナケレバナラヌト云フ考ヘ方ヲ持ツテ居ルデアリマシテ、又左様ニ相成リマスルコ  
トガ、農村ノ國家構成上ノ重要性ヲ確保スル所以デアリマス、是モ御懸念トハ考ヘマセヌ、私共モ出來ルダ  
ケ此問題ニ付キマシテハ、只今考慮ヲ拂ツテ居ル所デアリマス、農村疲弊ノ緩和ハ、此法ノミ  
ニ依ツテ期スルコトハ出來ナイデヤナイカト云フ御懸念デアリマスガ、是ハ其通りデアリマス、  
先程來申上ゲマスヤウニ、農村ニ對スル對策ハ殊ニ複雑デアリマシテ、多角的政策ヲ立テルノ外  
ハアリマセヌ、唯今回ノ施設ハ、其中ノ有力ナル一ツノ働キヲ爲シ得ルモノト云フニ過ギナイ  
コトハ申ス迄モナイコトデアリマス、互讓融和ヲ圖ルガ爲ニハ、上カラ其範ヲ垂レナケレバナ  
ラヌト云フコトハ、全ク仰セノ通りデアリマス、負債整理ノ重要ナルコト是モ、モウ御話ノ通  
リデアリマシテ、此點ニ付キマシテハ、只今折角取急イデ案ヲ整理致シテ居ル所デアリマシテ、  
出來得ベクンバ餘リ期日ヲ經過セザル中ニ、皆様ノ御審議ニ供シタイト考ヘテ居ルデアリマ

ス、ソレカラ庶民金融ノコトニ付キマシテハ、只今是ハ——大藏省カラ申上ゲベキコトデアリ  
マスガ、便宜私ヨリ御取次ヲ申上ゲマスガ、大藏大臣ノ手許ニ於テ種々考究シテ居ラレト云  
フコトデアリマス、ソレカラ一般ノ政府ノ施設ヲ更ニ大イニ擴大スルコトガ必要デハナイカト  
云フ點デゴザイマシテ、此點ハ政府トシテ財政ノ許ス限度ニ於キマシテ、出來得ル限リ農村ニ  
關スル諸般ノ施設ノ擴充ニ努メタイト考ヘテ居リマス

河野一郎君ノ質疑

私ハ只今提案セラレテ居リマスル本法案ハ、現内閣ガ吾々農村ニ對シテ全政策ノ根幹ヲ成スモ  
ノトシテ、提案セラレタモノト思フデアリマス、即チ其案ノ内容ハ十五億、二十五箇年ノ  
長期ニ亙リ、最近ノ政府ノ提案ト致シマシテハ劃期的ノ大ナル政策デアリマス、農村ニ對スル  
政策ト致シマシテモ、最近米穀政策、其他各種ノ政策ガ續々提案セラレマシタケレドモ、惟  
ニ本法案ノ如クニ、農業經濟ノ根幹ニ觸レタル立法ト致シマシテハ、本案ヲ最初ト致スノデア  
リマス、隨テ私ハ本案ヲ通ジマシテ、現内閣ガ農村ニ對シテ如何ナル認識ヲ持ツテ居ルモノデ  
アルカト云フ、其根幹ニ付テノ御尋ヲ先ツ致シテ見タイト思フデアリマス、諸君、我國ノ  
農村ガ近時各部門ヨリ有ユル壓迫ト申シマスルカ、總テノ不況ノ根源ヲ爲シマシテ、如何ナル  
政策ヲ以テ致シマシテモ、如何ナル方策ヲ以テ致シマシテモ、是ガ根本的救濟ニハ中々效果ヲ舉  
ゲルコトノ出來マセヌコトハ、今更私ガ申上ゲル迄モナイコトデアリマス、其根本ノ原因ガ、  
只今モ農林大臣ヨリ述ベラレマシタル通り、土地ノ狭イコトデアリマス、農家戸數ノ多イ所  
ニ農耕地ガ少イコトデアリマス、之ヲ一戸當リニ換算致シマスルナラバ、全國土ヲ通ジテ一町  
七段デアリマス、而モ此中ニハ北海道ノ非常ニ廣汎ナル面積ヲ含ンダ場合ニ於テ、斯ノ如キ數  
字ガ出ルデアリマス、隨テ若シモ北海道ヲ加ヘザル所ノ、内地ノ農家ニ對スル一戸當リノ農  
耕地ハ、非常ニ僅少デアリマス、所ガ斯ノ如ク僅少ナル農耕地ヲ以チマシテ、今日ノ如ク世界  
經濟共通ノ場合ニ立チマシテ、一例ヲ申シマスナラバ、亞米利加ノ小麥ノ値段ト、我ガ農家ノ生

産致シマスル小麥ノ値段ハ、何レモ共通デアリマス、其他肥料ニ於キマシテモ、總テニ於テ何レモ世界經濟ノ共通性ヲ持チマシテ、此競争場裡ニ立チマス我國ノ農家ト致シマシテハ、ドウシテモ此農耕地ノ僅少デアルト云フ問題ヲ解決致シマセヌ以上ハ、絶對ニ農村振興ヲ期スルコトハ困難デアルト思フデアリマス、然ルニ近時御承知ノ通り、我國ハ世界ノ眞只中ニ立ッテ、海ニ、陸ニ、國防ノ重大性ニ直面致シテ居リマス、國防ノ充實ニ向ッテ政治ノ第一義ヲ置カナケレバナラヌ場面ニ直面致シテ居リマス、即チ申上ケル迄モナク、國軍充實ノ第一ハ、健全ナル農家ノ子弟ニ依ッテ期セラレルト私ハ信ズル者デアリマス、多數ノ健全ナル農家子弟ヲ送出スコトニ依ッテ、國軍ノ充實ノ先ヅ第一ガ期セラレルト信ズル者デアリマス、斯ク致シマスルト、此狭イ農耕地ニ多數ノ農家ヲ生存セシメテ、是ヨリ健全ナル多數ノ農家子弟ヲ送り出スコトガ、國防上絶對ニ必要ナリト云フ、國防の見地カラ見マシタル所ノ、農村問題ガ考ヘラレナケレバナラヌト思フデアリマス、即チ前段申上ゲマシタル通りニ、農村ソレ自體ヨリ致シマスルナレバ、斯ノ如ク狭イ農地ニ多數ノ農家ヲ農業經營セシメルコトガ無理デアル、ガ併シ難クテ國防の見地カラ考ヘマスナラバ、此狭イ農地ニ多數ノ農民ヲ農業經營セシメルコトガ絶對ニ必要デアルト云フ、斯ノ如キ「チレンマ」ニ陥ッテ居ルト思フデアリマス、此見地ニ立チマシテ、政府ニ於カレマシテハ、一日モ速ニ此矛盾ヲ如何ニ解決スルカト云フ點ニ、思フ致サナケレバナラヌト思フデアリマス、即チ農家戸數ノ減少ニ依ッテ、農耕地ノ割合ヲ餘裕ヲ持ツヤウニスルカ、乃至ハ農家戸數ノ増加ヲ期シテ、尙且ツ農業經營ノ立ツヤウニ、徹底的ナル農村救濟、農村振興ノ方策ヲ講ズルカ、其ノ何レカ一ヲ採ラナケレバ相成ラヌト信ズル者デアリマス、然ルニ今同提案ヲ見マシタル此法案ニ依リマスルナラバ、唯狭イ土地ニ多クノ農家ガ居リマスル其土地ヲ、現狀ノ儘ニ置イテ分配ヲセントスル案デアリマシテ、頗ル私ハ不徹底ナルモノガアルト思フデアリマス、少クトモ此法案ニ依ッテ、現在ノ農業經營ノ實體ガ根本的ニ解決セラレルトハ、斷ジテ信ズルコトハ出來ナイノデアリマス、此點ニ於キマシテ、山崎農林大臣、軍當局ヨリ率直ニソレ々ノ御意見ヲ承リタイト思フデアリマス、即チ繰返シテ申シマ

スナラバ、農村ニ對シ國防上ノ見地ヨリ如何ナル方策ヲ持ツカ、農林大臣ハ此問題ニ對シテ、農業經營上如何ニシテ之ヲ解決スルカト云フコトニ對シテ、先ヅ御答辯ヲ願ヒタイト思フデアリマス、第二ニ御尋致シタイ點ハ、私考ヘマスルノニ、現下庶政一新ヲ提唱致シ、昭和ノ維新ヲ斷行致シ、總テノ方面ニ於テ根本的ナ政策ヲ確立致シマシテ、所謂日滿經濟ノ統制ニ依リ、日滿支三國ノ提携ニ依ッテ、大亞細亞主義ノ政策ニ基イテ、飛躍的發展ヲ遂ゲナケレバナリマセヌ今日ノ我が國情ニ於キマシテ、徒ニ現狀ニ囚ハレタル所ノ農村政策ガ如何ナルモノデアリマセウカ、率直ニ私ヲシテ言ハシムルナラバ、此農地法案ハ滿洲事變以前ノ法案デアッテ、斷ジテ滿洲事變以後ノ法案デハナイト信ズル者デアリマス、更ニ率直ニ申シマスナラバ、日韓合併以後ニ於キマシテ、朝鮮ニ對スル所ノ農業政策、我が内地ニ對スル農業政策、此兩者相關聯シテ進ムコトヲ失敗致シマシタル爲ニ、吾々近時非常ニ難關ニ逢著致シテ居リマス、米穀政策ノ如キハ、明ニ此日韓合併以後ニ於ケル農業政策失敗ノ結果デアルト私ハ信ズル者デアリマス、少クトモ滿洲事變以後ニ於キマスル我國ノ農業政策ト致シマシテハ、滿洲ト内地、日滿ノ間ノ本當ノ農業政策ヲ確立致シマシテ、片々個々ナル問題ニ囚ハレズシテ、大方針ヲ確立シタ上ニ樹テタル法案デナケレバ、斷ジテ相成ラヌト思フデアリマス、先程モ申サレマシタ通り、移民ノ政策モ結構デアリマセウ、併ナガラ簡單ニ移民ノ政策ヲ以テ、滿洲移民ヲ獎勵致サレマスルナラバ、滿洲ノ移民ニ依ッテ内地ノ農業ガ壓迫セラレルト云フコトモ考ヘナケレバナラヌデアリマス、斯ノ如クソレヤ是ヤ思合セマスル時ニ、如何ニ致シマシテモ、此庶政ヲ一新セント致シマスル現在ニ於キマシテハ、現在我國ガ直面致シテ居リマスル此實情ヲ眞ニ正視、直視致シマシテ、本當ノ根本的、飛躍的ノ政策ヲ樹テナケレバナラヌト信ズル者デアリマスルケレドモ、今日提案セラレテ居リマスル所ノ此農地法ハ、餘リニ現狀ニ囚ハレテ、特ニ露骨ニ申シマスルナラバ、田中内閣時代ニ作リマシタル所ノ農地金庫法案、町田農林大臣當時ニ作ラレマシタル所ノ小作法案、少クトモ前世紀ノ遺物ノ合作デアルトサハ私ハ見ル者デアリマス、斯ノ如キ法案ヲ以テ今日ノ農村ノ實情ヲ打開シ、農村經濟ヲ打開スルコトハ、斷ジテ

困難ナリト信ズル者デアリマスルガ、之ニ對スル農林大臣ノ御所見ヲ承リタイト思フ者デアリマス、更ニ若シモ此法案ヲ實行セント致シマスルナラバ、私ハ今日ハ其時期ガ適當デナイト云フ一點ニ付テ私見ヲ申述ベテ、農林大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フデアリマス、凡ソ地主ト小作間ニ於テ起リマスル所ノ問題ノ解決ニ當ツテハ、常ニ此兩者ノ勢力、地位ノ關係ガ平衡ノ場合ニ、提案ヲシ、立法ヲセナケレバナラヌト信ズル者デアリマス、今日ノ如クニ御承知ノ通り農村ニ餘剩ノ勞力ガ非常ニ殖エテ參リマシタ結果ト致シマシテ、全國各農村ニ於テ起リ居リマスル所ノ小作爭議ハ、何レモ地主側カラ仕向ケル所ノ小作爭議ガ多イデアリマス、是ハ從來ノ所謂只今申上ゲタ町田元農林大臣時代ニ立法セラレマシタ、小作法制定計畫當時ノ小作爭議ノ實情トハ全ク違フデアリマス、當時ハ小作人側ヨリ地主側ニ向ツテ要求致シタル所ノ爭議デアリマス、最近ノ實狀ハ地主側カラ小作地返還ヲ要求スル其主體ガ、爭議ノ中心トナツテ居リマス、斯ノ如クニ小作人側カラ仕向ケル時代デモ、私ハイカヌト思ヒマス、況シテ地主側カラ小作人側ニ仕向ケル所ノ小作爭議ガ多イ時代ニ立法セントスルガ如キ、是亦頗ル平衡正鵠ヲ失スル嫌ヒガアルト信ズル者デアリマス、故ニ相成ベクハ斯ノ如キ法案ハ、地主側ニモ小作人側ニモ、何レモ其條件ガ平衡ノ場合ニ考慮シ、提案シ、審議決定スベキモノデアルト考ヘルデアリマスルガ、之ニ對スル農林大臣ノ御所見如何デアリマスカ、次ニ御尋致シタイノハ、私調査致シマスル所ニ依リマスルト、産業組合、信用組合關係ノ所謂農村資金ガ、非常ニダブ付イテ居ルノガ今日ノ現狀デアリマス、主ナル數字ヲ申上ゲマシナラバ、中央金庫ニハ九千一百万圓ノ手許金ガアリマス、更ニ全國ノ各信用組合ノ、信聯ノ手許資金ヲ合計致シマスルナラバ一億八千万圓アリマス、是等ハ何レモ取モ直サズ農村ソレ自身ノ資金デアリマス、斯ノ如クニ農村ソレ自體ガ信聯若クハ中央金庫ニ資金ヲ有シ、是等ハ何レモ證券ヲ買ツテ、ソレノ信用組合、中央金庫ガ有ツテ居ルノデアリマス、是ハ農林大臣、農林當局ノ行政手段如何ニ依ツテハ、何レモ之ヲ直チニ農村ニ還元シテ、ソレノ必要ニ應ジテハ自作農創定ノ資金トナルモ宜シイ、何レ農村金融ノ圓滑ヲ期スル爲ニ使ハレナケレバ相成ラヌ資金ト信ズル者デアリマス、斯ノ如ク自作

農創定其他ニ向ツテ、若シ必要アラバ是等ノ資金ヲ先ヅ第一義的ニ動員シ、ソレノ農村自體ニ於テ、自作農ノ創定ヲソレノ致スベキデアリマス、然ルニ農林當局ハ是等ノ指導監督ノ立場ニ在リナガラ、斯ノ如クニ多額ノ資金ヲソレノ機關ニダブ付カセテ置クコトハ、甚ダ遺憾千萬デアリマス、更ニ昨日モ豫算ノ委員會デ問題ニナリマシタル通り、此組合運動ノ中心ノ地位ヲ占メテ居ラレマスル所ノ某氏ノ如キハ、此資金ヲ有チ、是等ノ力ヲ背景ニシテ、事モアラウニ政治運動ニ加擔スルト云フヤウナコトサヘ耳ニスルノデアリマス、斯ノ如キハ絕對ニ避ケナケレバ相成ラヌノデアリマス、少クトモ今日農民ノ一部ニ於テハ、組合運動ヲ過信致シ、信用組合ニ、産業組合ニ、有ユル組合運動トサヘ名ガ付ケバ、何ヲヤツテモ宜シイト云フヤウナ考サヘ有チ、非常ニ間違ッタ考ノ方ガアルヤウデアリマス、速ニ是等ノ各位ハ是等ノ手許資金ヲ動員シテ、ソレノ地方ノ農村ニ是等ノ資金ヲ還元シテ、農村資金ノ運轉ノ圓滑ヲ期セナケレバ相成ラヌト思フデアリマス、先ヅ農林當局ハ、是等ニ對シテ如何ナル御考ヲ御有チデアアルカ、伺ヒタイト考ヘマス、次ニ御伺致シタイノハ、今日我國ノ農村ノ實情ガ、果シテ斯ノ如キ法案ヲ要求致シテ居ルカドウカト云フ問題デアリマス、私ハ此機會ニ率直ニ申上ゲマス、我國ノ全農民ガ農林行政ニ對シテ如何ナル期待ヲ有ツテ居ルカ、何ヲ農林當局ニ欲シテ居ルカト云フ根本ノ問題ニ付テ、一言私見ヲ申述ベテ、農林當局ノ御所見ヲ質シタイト思フデアリマス、一言ニシテ申シマスナラバ、我が農林當局ノ行政手段ニ依ツテ、農村ニ對スル影響ト致シマシテハ、有ユル農民勞力ヲ總動員致シテ、成ベク低廉ナル所ノ農産物ヲ社會ニ供給セシメルト云フコトガ、其結果ト相成ルヤウニ私ハ信ゼラレルノデアリマス、之ヲ別ノ觀點カラ見マスルナラバ、大凡政治ノ要諦ハ國民ニ幸福感ヲ與ヘルコトニナケレバ相成ラヌト信ズル者デアリマス、少クトモ政治ハ國民ニ幸福ヲ與ヘルモノデナケレバナリマセヌ、然ルニ今日農村ニ對スル各種ノ政策ニ依ツテ、果シテ農民ハドレダケノ幸福ヲ享樂スルコトガ出來マセウカ、總テノ政策ハ何レモ百姓ヨ働ケ、百姓ヨ稼ゲ、百姓ヨ作レ、サウシテ安イ物ヲ全國民ニ提供セヨ、社會ニ提供セヨト云フコト以外ニ何物ガアリマセウ、是ガ私ハ眞ニ政治ノ衝ニ在ル人ハ、十分ニ御考

ニナラナケレバナラヌ點デアラウト思フノデアリマス、即チ此農地法案ニ依リマシテモ、土地ヲ各自ニ持タセタナラバ一層能ク働クダラウ、土地ヲ農家自身ニ持タセタナラバ一生懸命ニ働イテ、多クノ生産物ヲ作出スデアラウト云フコトガ、狙ヒドコロデアラウト思フノデアリマシテ、少クトモ政府當局ハ百姓ヨ働ケ、サウシテ出來タモノヲ高ク賣レルヤウニシテヤルゾト云フ所マデ一貫シナケレバ、全農民ハ幸福ヲ感ズルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)唯働ケ働ケノ政策ハ、吾々ハ斷ジテ満足スルコトハ出來マセヌ、然ルニ今日農林當局ガ種々御提案、御立案ニナリマスル所ノ農村政策果シテ如何、具體的ニ實例ヲ申シマスナラバ、米穀政策如何デアリマス、米ハ生産費ヲ保障スル、作ッテ働クダケノコトハ保障スルガ、利益ノ點ニ付テハ保障ハ致サヌノデアリマス、先日本議場ニ提案サレマシタ所ノ蠶絲政策果シテ如何デアリマス、是ハ生産費サへ保障セラレナイノデアリマス、其他各種ノ政策ニ致シテ、果シテ農民ヲシテ眞ニ幸福感ニ浸ルコトノ出來ル政策ガアリマシタナラバ、堂々ト御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、私ハ甚ダ心外千萬ニ考ヘテ居ルノデアリマスカラ、少クトモ庶政一新ヲ提唱セラレマスル現内閣ニ於キマシテハ、從來ノ農林行政ノ根本的觀念ヲ徹底的ニ御改メヲ願ヒマシテ、是等ノ根本政策ニ觸レル所マデ御進ミアランコトヲ御願致スト同時ニ、御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、次ニ最後ニ一言軍當局ニ御尋致シタイノデアリマス、即チ五・一五事件、二・二六事件ニ致シマシテモ、ソレ等ノ根本原因ニ付キマシテハ、何レ各方面ヨリ觀點ノ相違ニ依ッテ種々ノ原因ハゴザイマセウケレドモ、其具體的ニ軍當局ヨリ御發表ニナリマシタル所ニ依リマシテモ、多數農村子弟ガ軍ニ現役トシテ出テ參ル、是等ノソレノ家庭ノ事情ニ付テ調ベテ見ルト、如何ニモ氣ノ毒デアル、是デハ銃後ノ政策ガ徹底致サヌ、政治ハ斯ノ如クニ不公平デハイカヌ、農村ニ對スル徹底的ノ救済策ヲ講ジナケレバ相成ラヌト云フコトガ、其理由ノ一ツニ相成ッテ居ルコトハ、今更辯ヲ要スルマデモナイコトデアリマス、一言デ申シマスナラバ、五・一五事件、二・二六事件ノ原因ニ、農村振興策ノ徹底的必要ト云フコトガアッタコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス、然ルニ現内閣ノ如キ、二・二六事件ノ善後處理ヲ致スベキ

最初ノ議會ニ臨ムニ當ッテ、農村對策果シテ如何デアリマス、申上ゲルマデモナク今日全國ノ農村ニ於キマシテハ、町村長ハ何レモ辭表ヲ懷ロニ入レテ、農家負擔ノ均衡、町村財政調整交付金ノ増額ヲ希望シテ立上ッテ居リマス、斯ノ如クニ全國的ノ此大運動ニ對シテ、二・二六事件、五・一五事件ノ結果ヲ處理スル現内閣ト致シマシテ、果シテ如何ナル御所見ヲ御持合セデアリマスルカ、軍當局ハ是等ニ對シテ如何ナル御考ヲ御持合セデアリマスルカ、率直ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、以上申上ゲテ御答辯ヲ伺ヒマシテ、更メテ御尋ヲ致シマス

山崎農林大臣ノ應答

河野君ニ御答ヲ申上ゲマス、農村對策トシテ人口、土地、其他ノ關係カラ餘程拔本的ノ對策ガナケレバナラヌデヤナイカ、農地法ハ餘リニ現狀ニ因ハレ過ギテ居リハシナイカト云フ點ガ第一ノ御問デアッタヤウデアリマスガ、是ガ同時ニ最後ノ結論ニモ關聯ヲシテ御述ベニナッタヤウデアリマス、農村對策ト一口デ申シマシテモ、中々サウ簡單ニ之ヲ取裁クコトガ出來ナイコトハ先刻來申上ゲタ通りデアリマス、或ハ河野君ノ御考ノ中ニ我國ノヤウナ狭イ土地、多數ノ人口ヲ包容シテ居ル農村トシテ農地法ミタヤウナモノヲヤッテモ詰ラヌデハナイカ、寧ロ他ニ大キナ政策ガアルノデハナイカト云フ、或ハ御趣意デハナイカトモ想像致シマシタガ、私ハ其點ニ付キマシテハ私ノ想像ガ間違ッテ居レバドウゾ御叱ヲ願ッテ差支アリマセヌガ、若シ私ノ想像スルヤウナ意見ヲ河野君ガ御持チニナッテ居ルトシマスレバ、私共トハ大分考ヘ方ガ違フト申上ゲルノ外ハアリマセヌ、土地ハ狭小デアリ、人口ハ多イト云フコトハ、是ハ事實デアリマス、併ナガラ斯様ナ問題ヲドウ云フ政策ニ依ッテ一舉ニシテ解決シ得ル名案ガアルモノデアアルカ、即チ此事實ハ事實トシテ、此前提ニ於テ農村ノ安定ヲ圖ルト云フ政策ヲ考ヘテ行クコトガ、私ハ我國ノ農村對策トシテハ大事ナ點デアアル、時間ガアレバ色々申上ゲタイヤウナ心持モ致シマスケレドモ、ソレハ此處デハモウ省略ヲ致シテ置キマス先刻來申上ゲマスヤウニ、我國ノ農村對策トシテハ決シテ簡單ニ或ル手段、或ル政策ニ依ッテ解決スルト云フヤウナ譯ニハ參ラヌノデアアル、



色々ノ方面カラ政策ヲ實施致シテ行ッテ、ソレ等ガ綜合セラレタル働キニ依ッテ、農村全體ノ安定ヲ期スルト云フ方法ヲ執ッテ行クノ外ハナイト、私共ハ信ジテ居ルノデアリマシテ、斯様ナ意味ニ於キマシテ、今回ノ農地法ト云フモノガ農村對策トシテ極メテ重要性ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ確信スルノデアリマス、次ニ河野君ノ御問ハ農地法ヲ制定スルトシテモ、今ノヤウニ地主ヨリ仕掛ケル土地返還ト云フコトガ主タル原因トナッテ小作爭議ガ起ル時代デアルカラ、時機ガ適當デナイデヤナイカト云フ御考ヘ方ノヤウデアリマス、斯様ナ時期デアリマスレバコソ、一方ニ自作農創設ト云フヤウナ計畫ヲ大規模ニ行ヒマシテ、之ニ依ッテ農耕地ヲ農村人ノ手ニ留メルト云フコトヲ獎勵致シテ行クコトガ必要デアリマスルト共ニ、又一面ニハ小作權ノ基本トナルベキ點、即チ物權ノ效力ヲ小作契約ニ認メルト云フヤウナ基本ニ關スル點ヲ茲ニ立法ヲスルト云フコトハ極メテ必要デアリマシテ、私ハ今日ノ時機ガ立法ニ不適當デアアルナドトハ少シモ懸念ハ致サヌノデアリマス、産業組合等ノ資金ガダブツイテ居ルノデヤナイカ、是ハ河野君ノ御心配ノヤウニ少シ資金ガダブツイテ居ル現象ハ私モ認メテ居ルノデアリマス、出來得ル限り是等ノ組合自體ノ活動ニ依リ、又農村自體ノ要求ガ喚起セラレマシテ、サウシテ成ベク資金ガ農村ニ有效ニ、有利ニ還元セラレルト云フコトハ、河野君同様私共モ希望スベキコトト認メテ居リマス、最後ノ政治ハ農民ニ幸福ヲ與ヘナケレバナラヌガ、ドウ云フ幸福ヲ與ヘタカト云フコトデアリマスガ、私ハ諸般ノ政策ハ悉ク農村ヲ對象トシ、農民ヲ對象トシテ、其利益ノ増進ヲ念トシテノミ考ヘラレル問題デアルト信ズルノデアリマス、其效果ガ十分ナリヤ否ヤハ、無論時ニ依リ事ニ應ジテ差異ガ起ルコトハ、已ムヲ得ナイコトデアリマスケレドモ、苟モ政府ノ施設トシテ考ヘマスルコトガ、農村ノ利益、農民ノ幸福ヲ目度トセザル場合ハ考ヘラレナイノデアリマス、最後ニ御述ニナリマシタ政策ガ不徹底デアアル、根本策ノ解決ヲ圖レト云フ點ニ付キマシテハ、冒頭ニ申述ベマシタコトニ依ッテ御類推ヲ願ヒマスレバ私ノ考ハ大體御諒解ヲ願ヘルコトト思ヒマス

山脇陸軍省整備局長ノ應答

御答ヲ致シマス、第一ノ御質問ニ付キマシテハ、只今農林大臣ノ御答辯ニナリマシタ趣旨ニ依リマシテ、農地法ノ實行ニ伴ッテ農村ノ健全ナル發達ト農民生活ノ安定ヲ期スルコトガ出來マシテ、健全ナル農村人口ノ收容量ヲ増大スルコトトモナリマシテ、延イテ國軍ノ素質ノ向上ヲ得ルノハ勿論、銃後ノ憂ヲ少クスルコトガ出來ル所以ト考ヘテ居リマス、尙ホ人口問題ノ根本的解決ニ付キマシテハ、滿洲ニ大量ノ移民ヲ送ル等、大陸發展ノ必要ヲ認メテ居リマス、最後ノ御質問ニ付キマシテハ、陸軍ハ農村問題ニ對シマシテハ大ナル關心ヲ有ッテ居ルノデゴザイマシガ、尙ホ將來大イニ研究ヲ要スル事柄ト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

河野君ノ再質疑

簡單ニ申上ゲマス、山崎農林大臣ノ私ノ質問ニ對スル御答辯ノ中ニ、オ前ノ想像ハ斯ウデアラウト思フガト云フコトヲ前提トシテ御答ニナリマシタガ、其通りデアリマス、ソコデ更ニ重ネテ御尋致シタイノハ、若モ此法案ガ十五億ノ金額ト二十五箇年ヲ要スル農村ニ對スル近頃見受ケルコトノ出來ナイヤウナ根本的大政策ガナケレバ、私ハ敢テ斯ウ云フコトハ申サナイノデアリマス、斯ノ如クニ多額ノ經費ヲ要スル施設デアリマスルガ故ニ、斯ノ如キ政策決定ニ當ッテハ、他ニモウ少シ本當ニ根本的、徹底的ニ考ヘル問題ハナイカドウカ云フコトヲ私ハ申上ゲルノデアリマス、即チ私ヲシテ言ハシムルナラバ、現下ノ我國ノ農村ノ實情カラ考ヘマシタナラバ、輸出農産物ノ獎勵ヲヤルコトモ必要デアリマセウ、有畜農業ノ獎勵ヲヤルコトモ必要デアリマセウ、更ニ又本當ニ根本的、徹底的ニ考ヘマシタナラバ、山林治水ノ問題ノ如キモ、本當ニ農村トシテ是非共一日モ速ニヤラナケレバナラヌ問題デアリマス、斯ノ如ク他ニ根本的、徹底的ニ是非共急イデヤラナケレバナラヌ問題ガアリナガラ、斯ノ如キ政策ニ手ヲ御著ケニナッタコトニ付テ、私ハ認識ヲ異ニ致シマスガ故ニ、御所見ヲ質シタイノデアリマス、重ネテ此點ニ對シテ御意見ガアリマスルナラバ御承リ致シマス同時ニ、軍當局ノ御答辯ニ對シテ重ネテ申上

ゲマス、茲ニ參考トナリマスル數字ヲ讀上ゲマス、我國ノ農村人口三千万ト致シマシテ、其死亡率ニ付テ計算ヲ致シマスルト、千人ニ付テ、我國ノ全人口ノ平均ガ十六人餘ニナツテ居リマス、而シテ都會ハ十五人餘デアリマシテ、農村ハ十九人餘ト云フ數字ニナツテ居リマス、此死亡率ハ果シテ何ヲ物語ルカト云フコトヲ、少シク御研究願ヒタイト思フデアリマス、少クトモ私ハ我國ノ農村ニ於キマシテハ、都市ニ對比シテ非常ニ生存ガ困難デアルコトヲ物語ッテ居ルノデハナイカト思フデアリマス、如何ニ農村ニ生活スルコトガ困難デアルカト云フコトヲ物語ッテ居ルト思フデアリマス、隨ヒマシテ現在政府ノ認識致シテ居ラレマスルヤウナ程度ノ農村政策ヲ以テ、更ニ一層大ナル、農村ヨリ健全ナル農村子弟ヲ要求爲サルコトハ困難デアルト私ハ信ジマス、故ニ私、前段ニ質問致シマシタル通り、我國ノ農村ニ對シテハ、國防上ノ觀點カラ致シマスルナラバ、更ニ一層徹底的ナル農村振興、農村救済ノ政策ヲ軍當局ハ政府ニ向ッテ要求セラレナケレバ、軍ノ意圖セラレル如キ農村子弟ヲ出スト云フコトハ困難デアルト云フコトヲ申上ゲテ御考慮ヲ煩ハス次第デアリマス、之ヲ以テ質問ヲ終了致シマス

山崎農林大臣ノ應答

別ニ御答申上ゲル必要モナイカモ知レヌト思ヒマスケレドモ、重ネテノコトデアリマシタカラ御答申上ゲマスガ、第一ノ點ニ付キマシテハ、ドウモ河野君ノ御考ヘ方ト私共ノ考ニハ少シ距離ガアルヤウニ思ヒマス、是ハ大キナ問題デアリマシテ、簡單ニ論ジ去ルコトハ適當デナイト思ヒマスカラ、私ハ申上ゲマセヌデシタガ、唯結論ダケヲ一言申上ゲテ見マスト云フト、私ハ我國ノ農村ノ人口問題ニ付テス様ナ實ハ考ヘ方ヲ持ッテ居ルノデアリマス、農村ノ生活ニ緩ミヲ付ケルガ爲ニハ、成程土地ガ狹過ギテ人多過ギル、斯ウ云フ考ヘ方ノ起ルコトハ無理カラヌコトデアリマス、併ナガラ同時ニ我國ノ國家組織ノ健全性ヲ保持スルガ爲ニハ、私ハドウシテモ相當數ノ人口ヲ農村ニ保有スルコトガ必要デアルト云フ考ヘ方ヲ持ッテ居ルノデアリマス、隨テ私ハ一部ノ人々ガ御論議ニナル程、土地狹小ト云フ問題ヲ悲觀的ニハ實ハ考ヘテ居ラヌ者

デアリマス、隨テ政府ノ農村施設トシテハ、此前提ノ上ニ立ッテ、尙ホ農村ノ生活ガ安定ヲ得ルヤウニ、一方ニハ農産物ノ増産ト云フコトモ必要デアリマセウシ、又一方ニハ農業ニ關スル生産費ノ低下ヲ圖ルト云フコトモ必要デアリマセウシ、一方ニハ又價格政策ト云フ必要モ起ッテ參リマセウガ、ソレ等ノ諸般ノ政策ヲ綜合シテ、先刻申上ゲマシタ此前提ヲ前提トシテ認メツツ、農村生活ノ安定ヲ圖ル、是ガ私ハ我國ノ農村政策ノ立前トシテハ妥當デアラウ、斯ウ云フ考ヘ方ヲ持ッテ居ルノデアリマシテ、隨テ河野君ノ御考ヘ方トハ、或ハ距離ガアルカモ知レマセスケレドモ、是ハドウモ致方ガナイト考ヘルノデアリマス

小畑虎之助君ノ應答

既ニ多數ノ先輩諸君ヨリ有ユル角度、又各種ノ觀點ヨリ質問ガ繼續セラレ、農林大臣其他ノ懇切ナル答辯ニ依ッテ、私ガ是ヨリ質問致サント致シマスルコトハ、殆ド既ニ申シ盡サレタ所デアアルノデアリマス、併ナガラ自ら觀點ヲ異ニ致シマスルガ故ニ、其御積リヲ以テ御聽取リヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、固ヨリ農村對策ハ今日ノ時局ノ上カラ申シマシテ、極メテ重要ナルモノデアッテ、根本塞源のナル對策ノ樹立ヲ必要ト致シマスコトハ、申上ゲル迄モアリマセヌ、各種ノ産業立法ノ間ニ於ケル脈絡アリ系統アル所ノ組織的立法ノ必要ナルコトモ、亦申上ゲル迄モナイノデアリマス、併ナガラ私ハ、只今ハ茲ニ提案ヲ致サレマシタル本法ノ成文ニ依ッテ示サレタル範圍ニ於テ私ノ所見ヲ申上ゲ、一般の質問ヲ行ヒタイト存ズルノデアリマス、先ヅ私ハ第一ニ本法ト本法附屬ノ命令トノ關係及ビ其命令ノ内容ニ付テ御伺ヲ致シタイト思フノデアリマス、第二ニハ農地委員會ノ立法的價值竝ニ其活用價值ニ關スル問題ニ付テ御伺ヲ致シタイト思フノデアリマス、更ニ第三ニ於キマシテ轉貸借ト永小作ノ差別ヲ著シク設ケマシタル點ニ付キマシテ政府ノ指導原理ヲ拜承致シタイト思フノデアリマス、最近法律ガ其規定ヲ命令ニ委ネマスル範圍ノ漸次擴大シテ參リマシタルコトハ、甚ダ立法上ノ近代ノ傾向デアアルノデアリマス、前刻岡田君ヨリ申サレテ居ッタヤウデアリマスルガ、命令委任ノ範圍ガ、益々擴大致

シテ參リマスルコトガ、我國近代立法ノ特色デアリ、又我國ノ特ニ産業立法ノ特色デアルトモ見ルコトガ出來ルノデアリマス、本法ノ全體ヲ通覽致シマシテ、私ハ特ニ其感ヲ深ク致ス者デアリマス、先ヅ簡單ニ引例ヲ致シマスルナラバ、農地委員會ニ關スル規定ヲ擧ゲテ勅令ニ一任致シマシタルコト、道府縣市町村其他ノ團體ガ、自作農創設維持ノ事業ヲ爲ス場合ハ命令ニ準據スルコト、自作地ノ所有者ガ自由ニ其土地ノ處分ヲ爲シ得ベキ場合ハ、命令ニ定ムル場合ニ限ララルコト、若シ之ニ反シテ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ、命令ノ定ムル金額ニ依ッテ、其土地ヲ賣却スルコトヲ強制セラル、ノ規定、自作地ノ所有者ガ事業者ニ對シテ、負擔致シテ居リマスル所ノ債務ノ辨濟ヲ怠リタル場合ニ於テモ、亦命令ノ定ムル金額ニ依ッテ、其土地ノ賣却ヲ強制セラレルノデアリマス、貸借借人ガ疾病其他已ムヲ得ザル事由ニ因ッテ一時轉貸ヲ爲シタル場合ニ於ケル貸借借終了ニ關スル事項ハ全部命令ヲ以テ之ヲ定ムト云フノデアリマス、私ハ農地委員會ノ存立價值ニ付キマシテハ後ニ述ベマスルガ如ク、頗ル大ナル疑問ヲ有シテ居ルノデゴザイマスルケレドモ、若シ政府ノ言ハル、ガ如ク、今日ノ農村政策ノ上ニ於テ爾ク重大ナル役割ヲ演ズルモノデアッタト致シマスルナラバ、農地委員會ノ構成、竝ニ其活動ノ態様ハ、本法ニ所謂農地ニ關スル事項ノ處理、及ビ小作關係ノ調整等ノ結果ニ、至大ノ影響ヲ及ボスモノデゴザイマシテ、本法ニ依ッテ委任スル所ノ命令ノ内容如何ハ、直チニ以テ農地委員會ノ存立價值ヲ決定スル所ノ重大ナル部分デアルト云ハナケレバナラヌト思フノデアリマス斯ノ如キハ其規定ノ内容ガ憲法上ノ立法事項ニ屬スルト否トニ拘ラズ、苟モ其實體規定ハ本法ノ成文中ニ之ヲ規定致シマスルガ適當デアルト考ヘルノデアリマス、次ニ自作地ノ所有者ガ自由ニ自己ノ土地ヲ處分シ得ベキ場合ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限ル、而シテ之ニ反シテ自己ノ土地ヲ處分シタル場合ニ於キマシテハ、命令ノ定ムル金額ニ依ッテ事業者ニ土地ヲ賣渡サナケレバナラヌト云ツタ規定ヲ設ケテ居ルノデゴザイマスルガ、果シテ斯ノ如キ規定ガ實質的ニ於テ適當デアルカ、而モ之ヲ命令ニ委任致シマスルガ適當デアルカ否ヤノ問題デアルノデアリマス、恐ラクハ現行ノ農林省令、自作農創設維持補助規程ノ條項ニ準據致シタモノデアルト思フノデアリマス、政府ノ御

考ニ依リマスルト云フト、現存自作農ノ創設維持獎勵ノ爲ニ、農林省令ヲ以テ補助規程ヲ發シ、之ニ依ッテ補助ヲ與フル條件ト致シマシテ、若シ自作地ノ所有者ガ、農林省令ニ規定スル所ニ違反ヲ致シマシテ、土地ヲ賣却致シマシタラバ、命令ノ定ムル金額ヲ以テ、事業者ニ土地ヲ賣渡サナケレバナラヌト云フ所ノ規定ガ存スルガ故ニ、本法施行ノ曉ニ於テモ、此規定ト同様ナル命令ヲ發スレバ足ルノデアアル、今日マデ農林省ノ補助規程ニ依ッテ圓滑ナル事業ガ行ハレルモノデアアルカラ、今後ト雖モ本法施行ノ曉ニ於テモ、此命令ニ依ッテ圓滑ナル事業ガ行ハレルモノデアアルト御考ヘニナツテ居ルノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、併ナガラ右農林省令ニ定ムル所ハ、政府ハ自作農ノ創設維持ノ補助ヲ爲スニ當リマシテ、其補助ヲ與フル條件トシテ、自作農創設維持ノ事業者ト、自作地ノ所有者、即チ資金借受人トノ間ニ於ケル契約ノ準則ヲ規定セラレタルモノデアリマセウガ、一般的ニ之ヲ強制スル意味ハ含シデハ居ナイノデアリマス、私ハ農林省ノ補助政策ハ、今日ノ農村對策ノ上カラ申シマシテ洵ニ必要デアリ、是ガ永久ニ存續致シマスルコト、又益々強化擴大センコトヲ望シデ已マザル者デアリマスルケレドモ、併シナガラ到底農林省令ハ一箇ノ命令デアアルノデアリマス、政府ノ單獨意思ニ依ッテ何時改廢ガ行ハレルカモ分ラナイノデアリマス、此一箇ノ農林省令ノ成文アルガ故ニ、本法ニ於テモソレト同様ノ命令ヲ發スレバ、從來ト同ジク自作農創設維持ノ事業ガ安全ニ行ハレルト御考ニナリマスルコトハ、正シク本末顛倒ノ議論デナクテハナラヌト思フノデアリマス、政府ノ御考ニ依リマスルト云フト、本法ガ實施セラレマスル際ニ於キマシテハ、現行農林省令ノ内容ト同様ノ内容ヲ備ヘマシタル所ノ命令ヲ發シテ、而シテ本法ノ運用ヲナサント御考ニナルモノデアラウト思フノデアリマス、若シ此會議若シクハ委員會等ニ於テ、其命令ノ内容ヲ説明セラレ、議會ガ之ニ協贊ヲ與フルト致シマシテモ、命令ハ飽マデ命令デゴザイマスルカラシテ、將來政府ガ更迭致シマスル場合ニ、政府ノ一部少數者ノ短見ニ依ッテ、其命令ガ改廢セラレル所ノ虞ガアルノデアリマス、今茲ニ引例ヲ致シマシタ事例ノ如キハ所有權ノ得喪ニ關スル極メテ重大ナル事例デアアルノデアリマス、斯ノ如キ所有權ノ得喪ニ關スル事案ガ一

片ノ命令ニ依ッテ將來政府ノ單獨ナル意見ニ依ッテ左右セラレルト云フコトニ相成リマシタナラバ、憲法ガ所有權ヲ保護スル其精神ニモ悖ルナキヤラ虞ルモノデアリマス、是等ノ引例ヲ致シマスレバ、本法成文中ニハ多數ニ同様ノ規定ガ含マレテ居ルノデアリマス、苟モ所有權ノ得喪變更ニ關スルガ如キ、重大ナル國民ノ權利ニ屬スル問題ハ、法律ノ成法中ニ規定スルノガ正當デゴザイマシテ、本法規定スル所ノ、此種ノ大部分ノ問題ハ決シテ命令ニ一任スベキモノデハナイト考ヘラレルノデアリマス、政府ハ果シテ斯ノ如キ立法ノ形式ヲ以テ、妥當ナリト御考ニナルカ否カヲ御伺フ致シタイノデアリマス、一部少數者ノ獨善の專權ニ依ッテ、容易ニ改廢セラレベキ命令ガ、將來ニ於テ變更セラレタル場合ハ、即チ本法ノ實體的內容ヲ變更スルモノデゴザイマシテ、茲ニ官僚ノ獨善政治ガ行ハレル所ノ機會ヲ醸成スルコトニ相成ルノデアリマス、常ニ憲法恪循ノ政治ヲ高調セラレ、議會政治ノ尊重ヲ聲明致サレマスル所ノ今日ノ政府ハ、以上私ガ述べマシタル法律ト命令トノ關係ニ付テ、果シテ如何ナル見解ヲ有セラシヤ御明答ヲ煩ハシタイト思フノデアリマス、尙ホ時間ト御都合ガ許シマスレバ、本法審理ノ前提トシテ、以上ノ命令ノ內容ニ關スル輪廓デモ御示ヲ願ヘレバ結構ダト思フノデアリマス、第二ノ質問ト致シマシテ、私ハ農地委員會ナルモノノ立法的價值及ビ其活用價值ニ付テ一言御伺フ致シタイト思フノデアリマス、農地委員會ノ目的ハ「自作地ノ創設維持、農地ノ使用收益關係ノ調整其ノ他農地ニ關スル事項」ト極メテ廣汎ニ定メラレテ居ルト思フノデアリマス、併ナガラ私ハ本法ハ立法ノ技術ニ於テ、大イナル矛盾ガ茲ニ含マレテ居ルト思フノデアリマス、即チ目的ニハ「其ノ他農地ニ關スル事項」ト極メテ廣汎ニ規定サレテ居ルニ拘ラズ、具體的ナル農地委員會ノ事業トシテ掲ゲル所ヲ見マスノニ、第一ニ自作農創設維持ニ關スル斡旋、第二ニハ農地ノ賣却ニ關スル斡旋、第三ニ小作條件改定ノ請求ニ應ズルコト、此三ツヲ農地委員會ノ事業トシテ、規定ヲ致シテ居ルノデゴザイマスルガ、本法規定スル農地委員會ノ目的ト、農地委員會ノ事業トヲ比較對照致シマスナラバ、目的ニ所謂自作農ノ創設維持ト云フコトハ、事業ニ所謂自作農創設維持ノ斡旋デアアルノデアリマス、又目的ニ所謂使用收益關係ノ調整ト申シマスルノ

ハ、事業ニ所謂小作條件改定ノ要求ニ應ズルコトデアアルノデアリマス、次ニ目的ニハ其他農地ニ關スル一切ノ事項ヲ規定シテ居ルノデアリマスルケレドモ、事業トシテ規定ヲ致シマスル所ハ、殘ル所農地ノ賣却ニ關スル斡旋ダケデアアルノデアリマス、私ハ茲ニ立法上ノ非常ナル矛盾ヲ指摘スルコトガ出來ルノデゴザイマスガ、農地委員會ノ目的トシテ、農地ニ關スル事項ト廣ク規定ヲ致シテ置キナガラ、本法規定スル所ノ事業ハ、之ニ該當スルモノハ農地ノ賣却ノ斡旋ダケデアアル、其外ニモ何カ農地委員會ガ爲スベキ事業ガアルノデアリマスルカ、私ハ本法案ノ內容ヲ拜見致シマシテ、本法案ノ成文ニ現レタル所ニ依リマシテハ、之ヲ發見スルコトガ出來ナイノデアリマス、唯是等ニ付テハ命令ヲ以テ規定スルノデアルト云フナラバ、是モ亦大イナル立法上ノ矛盾デアリマス、大イナル誤解デアリマス、或ル一ノ機關ノ爲スベキ事業ヲ、一部ハ法律ヲ以テ規定シ、一部ハ命令ヲ以テ規定スルト云フガ如キハ立法ノ體制ヲ紊リ、立法ヲシテ、法令ヲシテ錯雜化セシムル所以デアリマシテ、立法技術ノ極メテ拙劣ナルモノデアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス、今日ノ賢明ナル政府ハ斯ノ如キ方策ヲ御執リニナラナイコトハ明デゴザイマスルガ故ニ、私ハ恐クハ農地ニ關スル事項ト、廣ク目的ニ定メラレタルコトハ誤デゴザイマシテ、先般豫算總會ニ於ケル陸軍大臣ノ答辯ノ御言葉ヲ拜借致シマスルナラバ、文章ヲ作ル上ニ於テ、所謂抑揚頓挫デアッタノデハナイカト私ハ思フノデゴザイマス、斯様ニ考ヘマスルガ故ニ、疑ハゴザイマスルケレドモ、私ハ本法ニ規定スル事業ノ範圍ガ、即チ農地委員會活動ノ全範圍ナルコトヲ前提ト致シマシテ、農地委員會ガ果シテ立法的價值アリヤ否ヤノ議論ヲ進メタイト思フノデアリマス、本法ニ規定致シマスル所ノ事業ガ、即チ農地委員會ノ事業ノ全部デアルト致シマスルナラバ、其第一デアアル所ノ自作農創設維持ノ斡旋、第二ノ事業デアアル所ノ農地ノ賣却ニ關スル斡旋ニ付キマシテハ、是ハ所謂斡旋デゴザイマシテ、何等法律上ノ拘束力ヲ有スルモノデハナイノデアリマス、又斯ノ如キ所謂斡旋ト云フガ如キコトハ、行政上ノ手段ニ依ッテモ十分ニ其目的ヲ達シ得ルモノデゴザイマシテ、敢テ成法ノ成立ノ必要ヲ俟ツマデモナイト思フノデアリマス、次ニ殘ル所ハ小作條件ノ改定デゴザイマスルガ、

小作料其他小作條件ノ改定ニ付キマシテ、其決定ノ効力ハ當事者間ノ契約ノ内容ヲ成スト定メラレテアルノデゴザイマシテ、一見法律上ノ確定力或ハ拘束力ヲ有スルガ如ク見エラレドモ、イマスケレドモ、是モ畢竟ハ同論デゴザイマシテ、本法規定スル所ハ小作條件ノ改定ノ請求ハ、當事者ノ合意ヲ要スルト定メラレテアルノデアリマス、當事者ノ合意ヲ以テ改定ノ請求ヲスル、而シテ其改定ノ結果ハ、當事者間ノ契約ノ内容ヲ成スト云フノデアリマス、若シ當事者ガ合意ヲ以テ第三者ノ裁定ニ一任シ、第三者ノ裁定ノ内容ヲ以テ吾々ノ契約ノ内容ト爲スト云フ所ノ意思表示ノ下ニ、第三者ニ委任ヲ致シマシタラバ、法律上如何ナル結果ヲ生ズルモノデアルカ、私ハ此場合ニ於テハ當事者間ノ意思表示ニ依ッテ、即チ第三者ノ決定ガ當事者間ノ契約ノ内容ヲ當然成スモノデアアル、何等法律上ノ規定ヲ必要トシナイト考ヘルノデアリマス、唯本法ニハ農地委員會ノ決定著シク不當ナル時ニ於ケル救済規定ガ定メラレテアルノデゴザイマスルガ、是トテモ同論デゴザイマシテ、若シ當事者ガ農地委員會ノ裁定ノ内容ヲ以テ、當事者間ノ契約ノ内容ト爲シ、若シ萬一其裁定ガ、決定ガ著シク不當ナル場合ニ於テハ、無効トスト云フ所ノ意思表示ノ下ニ、其決定方ヲ委任ヲ致シマシタラバ、詰リ本法規定スル所ト同一ナル法律上ノ効力ヲ生ズルモノデゴザイマシテ、是モ亦敢テ成法ヲ俟ツ迄モナイコトデアアルト考ヘラレラレドモ、私ハ斯ノ如キ觀點カラ致シマシテ、農地委員會ニ關スル本法ノ成文ハ何等立法上ノ價值ナキモノト考ヘルノデゴザイマスルガ、何カ私ノ考ヘマスル以外ニ於テ、農地委員會ヲ立法化セザルベカラザル積極的理由ガアルノデゴザイマシタラバ、御伺ヲ致シタイト思フノデアリマス、唯私ハ寧ろ農地委員會ヲ市町村ニ設置スルコトヲ強制スルノデアアルナラバ、ソコニ立法化スル所ノ價值ガアルト思フノデアリマス、併シ遺憾ナガラ、本法案ハ市町村ニ農地委員會ヲ設置スルコトヲ得ト規定サレタノデゴザイマシテ、何等強制スルノ意義ヲ持ッテ居ナイノデアリマス、即チ農地委員會ヲ設置スルヤ否ヤ市町村ノ任意ニ委ネ、而モ設置セラレタル農地委員會ノ權限ハ、何等法律上ノ拘束力ヲ有セズ、法律上ノ拘束力ヲ有スト定メラレタル事項ハ、法律ノ規定ヲ要セザル當然ノ事項ナリト致シマシタナラ

バ、何處ニ農地委員會ヲ立法シナケレバナラヌ所ノ理由ガアルノデアアルカ、私ハ御伺ヲ致シタイト思フノデアリマス、次ニ私ハ農地委員會ノ活動價值、或ハ利用價值ニ付テ御伺ヲ致シタイト思フノデアリマス、本法制定ノ曉ニ於テ、農民ガ果シテ農地委員會ヲ利用スルヤ否ヤノ問題デアリマス、自作地ノ創設維持、農地賣却ノ斡旋ニ付テ見マスルノニ、是等ノコトハ從來既ニ各市町村ガ中心ト相成リマシテ、府縣ノ助成、指導、獎勵ニ依ッテ、或ハ自ら自作農創設維持ノ事業ヲ行ヒ、又是ガ斡旋ヲ行ヒ來ッテ所デゴザイマシテ、農村經濟更生ノ爲、有ユル角度ヨリ之ヲ助成、獎勵致シマシテ、今ヤ著々實效ヲ收メツ、アルノデアリマス、勿論農村經濟ノ現狀ヨリ致シマシテ、之ヲ以テ満足スベキモノデアリマセヌ、此種ノ活動ガ今後一層要求致サレマスルコトハ必然デゴザイマスケレドモ、茲ニ農地委員會ナル別箇ノ機關ヲ設置致シマシテ、是等ノ活動ヲ爲サシメント致シマスルコトハ、所謂屋上屋ヲ架スルモノデゴザイマシテ、徒ニ手續ノ煩瑣ト混雜ヲ來スノミデアルト考ヘラル、ノデアリマス、私ハ飽マデ農地委員會ノ實益ノ存否ニ付テ疑ナキヲ得ナイノデアリマス、小作條件改定ノ請求ニ付テハ、一見大イニ頻繁ニ活用セラル、感ガアルノデゴザイマスガ、本法ハ之ニ付テ當事者ノ合意ノ請求ヲ必要ト致シテ居リマスルコトハ、前述ノ如クデアアルノデアリマス、是ニ於テ當事者一方ノ申請ヲ以テ、足レリト致シマス所ノ小作調停法ト比較ヲ致シマシテ、小作關係ノ當事者ガ小作調停法ヲ利用スルヤ、或ハ本法規定スル所ノ農地委員會ヲ利用スルヤ否ヤノ問題ヲ、先ヅ研究ヲ致サナケレバナラヌト思フノデアリマス、農村ノ醇風美俗デアリマスル所ノ互讓相助ノ精神ニ則ッテ、農村生活ノ表裏ヲ體驗致シマシタル郷土ノ人達ニ依ッテ組織致シマシタ、農地委員會ニ依ッテ、紛議ノ圓滿ナル解決ヲ行ハシメテ、累ヲ後ニ貽サザルコトヲ念願致サレマスル所ノ、政府ノ御議論ト御趣旨ニハ、大イニ諒トスベキモノガアルノデゴザイマスルケレドモ、悲シキ哉本法小作條件改定ノ請求ガ、合意請求ヲ必要ト致シテ居リマスルガ故ニ、其處ニ農地委員會ノ不活用性ノ原因ガアルト私ハ思フノデアリマス、小作關係ノ兩當事者ガ合意ヲ以テ小作條件改定ノ請求ヲ爲ス位デゴザイマスルナラバ、先ヅ問題ハナイノデアリマス、左様ナル場合ニ於テハ當事者直

接ノ交渉ニ依ルカ、或ハ個人タル第三者ノ介入ニ依ツテモ、解決セラルベキ問題デアアルノデア  
 リマス、滔々タル時流ノ中ニ人情輕薄ニ流レタリト雖モ、マダ幸ニシテ吾々ノ農村ハ昔ナガラ  
 ノ醇風美俗ヲ維持致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ場合ニ於キマシテハ、所謂温情主義ニ依  
 テ解決セラル、コトガ多イト私ハ考ヘルノデアリマス、當事者ノ合意ガ出來マスル場合ニ於  
 テ、何ヲ苦シンデカ各方面ノ衆智ト勢力ヲ集メタ所ノ、一ツノ機關ヲ作ラナケレバナラヌノデ  
 アルカ、斯クテハ却テ徒ニ紛争ヲ錯雜化致シマシテ、之ニ拍車ヲ掛ケル所ノ虞ガ十分ニアルト  
 思ハレルノデアリマス、當事者ガ小作條件ノ改定ヲ一ツノ機關ニ請求致シマスル多クノ場合  
 ハ、當事者間ニ既ニ可ナリ深刻ナル感情的又ハ經濟的摩擦ヲ生ジテ居ルコトヲ想像致サナケレ  
 バナラヌト思フノデアリマス、多クハ既往ノ問題ニ付テ小作争議ノ招來シテ居ルノデアリマシ  
 テ、合意請求ト言ッタヤウナ生ヤサシイ問題デハナイノデアリマス、私ハ小作關係ノ當事者  
 ガ、之ニ向ツテ小作條件ノ改定ヲ請求スル場合ニ於テハ、本法規定スル所ノ農地委員會ニ頼ラ  
 ズ、小作調停法ニ頼ツテ來ルト確信スルノデアリマス、勿論農地委員會ニ對シテ請求ヲナシ得  
 ベキ事項ハ、將來ノ小作條件ノ改定デアツテ、小作調停法ニ依ル調停ノ申請ハ、既發ノ争議ニ  
 關スルモノデアリマスルコトハ勿論デゴザイマスルケレドモ、實際ヲ解セザル單ナル机上ノ論  
 ト致シマシテハ、概シテ農地委員會ノ取扱事項ト、小作調停ノ事項トニハ、截然タル區別ガア  
 リ、目的モ自ラ異ルモノデアリマスルケレドモ、實際問題ト致シマシテハ、小作争議ハ常ニ將來  
 ノ小作條件ヲ目標ト致スモノデアリ、而モ小作調停ノ内容又ハ結果モ、必ズ將來ノ小作條件ヲ  
 内容ト致シテ居ルコトハ、從來幾多ノ實例ガ示ス所デゴザイマシテ、實際問題ト致シマシテハ  
 之ヲ否ムコトガ出來ナイノデアリマス、隨テ農地委員會ノ取扱事項ト小作調停事項トハ、完全  
 ニ競合スルモノデアルト見ルノガ實際デアルト思フノデアリマス、私ハ當事者ガ小作條件改定  
 ノ請求ヲ爲スニ付テ、農地委員會ヲ利用セズシテ、小作調停法ヲ利用スルト云フ所ノ理由トシ  
 テ、二ツヲ尙ホ附加シテ置キタイト思フノデアリマス、即チ農地委員會ニ對スル請求ハ改定ノ  
 委任デアリマシテ、當事者ノ意思ヲ拘束致シマス、之ニ反シテ小作調停法ニ依ル調停ハ、當事

者ノ意思ヲ拘束セズ、當事者ガ各自ノ判斷ニ依ツテ調停ヲ成立セシムベキヤ否ヤヲ決定スル所  
 ノ自由ガ保留サレテアルノデアリマス、次ニ農地委員會決定ノ效力ハ、當事者間ニ於ケル契  
 約ノ内容ヲ成スニ止ツテ、裁判上ノ效力ヲ有スルモノデアリマセヌ、併ナガラ之ニ反シテ小  
 作調停ノ結果ハ、裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有スルト云フノデアリマスルカラ、是等ノ諸點  
 ヨリ觀察致シマシテ、農地委員會活動ノ機會ハ、極メテ狭小デアルト私ハ存ズルノデアリマ  
 ス、而モ之ニ對シテ何等國庫ニハ豫算ノ計上ガナク、地方自治體モ亦是等ノ經費ヲ支辨スル所  
 ノ能力ハ有セナイノデアリマス、近來内閣ノ更迭致シマスル度ニ、思付キニ依ツテ色々ノ事業  
 ヲ地方自治體ニ命ズルガ爲ニ、地方自治體ハ經費ノ増大ニ苦シンデ、其苦痛ヲ愬ヘテ居リマ  
 スコトハ、最早一箇ノ國論デアルト見ルベキデアルト思フノデアリマス、政府ハ以上各種ノ場合  
 ニ於テ農地委員會ノ活動ニ十分ノ期待ヲ御持チニナルノカドウカト云フコトヲ御伺致シタイ  
 デアリマス、時間ガナクナリマシタノデ一言ダケ簡單ニ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマ  
 ス、第三ニ貸借ト永小作ニ付テ著シク其取扱ヲ異ニ致シマシタル點ニ付テ、御伺ヲ致シタイ  
 ト思フノデアリマス、其指導原理ヲ御伺致シタイト思フノデアリマス、本法ニ於テ貸借及ビ  
 永小作權ニ付テ規定スル所ハ、民法ニ對スル特別法ト致シマシテ、此兩者ノ效力ニ民法ニ於ケ  
 ル以上ノ著シキ差別ヲ設ケタノデアリマス、固ヨリ貸借ガ債權デアツテ、永小作權ガ物權デ  
 アル性質上ノ區別ハ概ネ之ニ出發シタルモノデアリマスルケレドモ、本法ニ於テハ此點ニ關スル一  
 定ノ指導精神ヲ發見スルコトヲ得ナイノデアリマス、從來起リマシタ幾多ノ小作争議ノ事案ニ  
 付テ見マスルニ、概ネ争點ノ中心ハ權利關係ノ性質ヲ前提ト致シテ居ルコトヲ見通シテハナラ  
 ヌト思フノデアリマス、即チ權利關係ガ貸借デアルトカ、永小作權デアルト云フコトヲ前提  
 トシテ争ヒタル實例ヲ屢見ルノデアリマス、申ス迄モナイコトデゴザイマスルガ、我國ノ小  
 作關係ニ於テ、其權利關係ガ貸借ナリヤ永小作權ナリヤノ問題ハ、概ネ慣習ヲ基礎トシテ判  
 斷スベキ場合ガ多イノデゴザイマシテ、現實ノ事案ニ臨ンデハ、極メテ難解ノ問題デアアルノデ

アリマス、若シ一定ノ指導精神ナク、徒ニ此兩者ノ效力ニ甚シキ差別ヲ設ケマシタル場合ニ於テハ、一層此點ニ對スル爭ヲ助長セシムル結果ヲ招來スルコトヲ惧ル、ノデアリマス、右兩者ノ距離ヲ民法以上ニ一層甚シクセザルベカラザル理由ト、之ニ關スル指導原理ヲ拜承致シタイト思フノデアリマス、以上御答辯ヲ願ヒマス、御答辯ノ次第ニ依ッテハ重ネテ御伺ヲ致シマス、詳細ニ至ッテハ委員會ノ逐條審議ニ讓リタイト思ヒマス

山崎農林大臣ノ應答

此法律ト委任命令ノ關係ニ付テ、大分詳シイ御論議ヲ拜聽致シマシタガ、尙ホ又命令ノ内容ヲ宜ケレバ示シテ呉レト云フ御話デアリマシタガ、命令ノ内容ハ大體準備ハ出來テ居リマス、併シ此處デ申上ゲマスコトハ、非常ニ煩瑣ニナリマスカラ、慣例ニ依リマシテ委員會ニ於テ御配付ヲ申上ゲル積リデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス、一體ニ此委任命令ガ多過ギハセヌカト云フ意味ノ御意嚮デゴザイマシタガ、今回ノ農地法ニ於テ若干ノ委任命令ハアリマスガ、併シ是ハ別ニ多過ギルトハ私共ハ考ヘテ居リマセヌ、御論ノ通り物ニ依リマシテハ、餘リニ委任命令ヲ多クスルコトハ弊ガアルト云フ事實ハ認メマス、殊ニ身體或ハ自由ニ關スルヤウナ、所謂人權ニ關スルヤウナ立法ニ於テハ、特ニ注意ヲ要スルト思ヒマスガ、斯様ナ産業立法、即チ助長行政ニ屬スル立法ニ付キマシテ、或ル程度ノ委任事項ヲ設ケルト云フコトハ、寧ロ私ハ非難スベキコトデハナイダラウト思ヒマス、餘リニ劃一ニ陷ラナイヤウニ致シテ行クコトガ、産業助長行政ニ於テハ必要デアリマスカラ、隨テ此種立法ニ付テ委任命令ガ相當ニアルト云フコトハ、是ハ別ニドウモ、今ノ人權ニ關スルヤウナ問題トハ性質ガ違フ譯デアリマスカラ、御議論ハ御議論トシテ承ッテ置キマスケレドモ、ソレ程御懸念ニハ及バヌヂヤナイカト思ヒマス、併ナガラ只今申シマシヤウニ、其内容ヲ一應委員會等ニ於テ十分御參考ニ供スルコトハ當然デアリマス、第二ハ農地委員會ニ關スル規定ト、立法ノ必要ガナイヂヤナイカ、立法事項デハナイヂヤナイカト云フ意味ノ御尋デアリマシタガ、是モ一ツ御考ヲ願ヒタイト思ヒマスコトハ、前段

ニ申シマシタヤウニ、産業助長行政ニ於テハ一面ニハ委任命令等モ已ムヲ得ナイ事情ガアリマス同様に、此種ノ立法ニ付テ、法律家ノ所謂立法事項ニ限定スルト云フヤウナ考ヘ方ハ、私ハ當ラスト思ヒマス、寧ロ左様ナ窮屈ナ考ヘ方ヲ採ラズニ行クコトガ、最近ニ於ケル立法ノ趨勢ダト私ハ心得テ居ルノデアリマス、農地委員會ノ利用價值ハドウデアアルカト云フ點デアリマスガ、農地委員會ニ付キマシテハ、此法律トシマシテハ極メテ重要ナ任務ヲ考ヘテ居ル譯デアリマス、先刻來段々申上ゲルヤウニ、私共ハ農村ノ問題ハ協調デ進メル限リハ協調デ解決ヲ致シタイ、斯様ナ考ヘ方ヲ持ッテ居リマスカラ、今回ノ立法ニ於ケル農地委員會ノ利用價值ハ、相當大ナルモノアリト信ジテ居リマス、第三ノ永小作權ト賃貸借ニ付テ、餘リニ民法以上ノ開キヲ認メテ居ルノハドウデアアルカト云フコトデアリマスガ、法律家ノ御立場カラ見レバ左様ナ御疑ノ起ルコトモ御尤デアリマスガ、實際問題トシテハ、御承知ノヤウニ永小作權ハ極メテ微々タルモノデアリマシテ、農村ノ大多數ハ賃貸借デアアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、隨テ永小作ノ關係ニ付キマシテハ立法ヲ要スル關係ガ極メテ簡單ニ相成リマスト云フコトモ必然的ノコトデアルト思フノデゴザイマス

小畑君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今農林大臣ノ御答辯ヲ承ッタノデアリマスルガ、第一ニ私ハ委任命令ガ必シモ惡イト申上ゲタノデハナイノデアリマス、近來産業立法ニ於テ委任命令ノ數ガ益、多クナッテ參リマシタコトニ付テ、命令ハ實質的ニハ法律ノ内容ヲ成スノデアリマスルガ故ニ、實體的規定ハ少クトモ法律ノ成文中ニ成ベク規定ヲ致シマスコトガ適當デアアル、斯様ナ考カラ農林大臣ノ御答辯ヲ求メタモノデアアルノデゴザイマスルケレドモ、私ノ言辭ノ盡サル所以デゴザイマスルカ、只今ノ御答辯ハ私ノ質問ノ見當ヲ外レテ居ルノデアリマス、又委員會ニ於テ其内容ヲ説明スル爲ニ、一應參考マデニ其内容ヲ説明ヲスルノデアルト、農林大臣ハ申サレタノデアリマス、私ハ言葉尻ヲ拾フノデハゴザイマセヌガ、委員會ニ於テ一應參考ノ爲ニ命令ノ内容ヲ説明ヲスルト

仰シヤイマシタ所ノ、其農林大臣ノ御言葉ガ、即チ委任命令ヲ極メテ簡單ニ御取扱ニナルト云フ所ノ、精神カラ出タモノデアルト思フデアリマス、何トナラバ、本法ヲ審議スル上ニ於キマシテ、本法ニ規定スベキ事項ヲ委任サレタル命令ノ内容ヲ明ニ致サナケレバナラヌト云フコトハ、審議ノ條件トシテ當然ノコトデアリマス、之ヲ委員會ニ於テ一應參考ノ爲ニ説明ヲスルデアルト云フヤウナ、極メテ輕々シキ御考ヲ以テ御取扱ニナリマスルコトガ、聽テ之ヲ敷衍致シマスルナラバ、本法成立ノ曉ニ於テ、單ニ官僚ノ獨善ナル自由意思ニ依ッテ命令ヲ改廢シ、ソレニ依ッテ延イテハ、本法ノ實質的内容ヲ改廢スルコトニモ相成ルデアリマス、私ハ斯ノ如キ點ハ十分ニ御注意ヲ願フ所ノ必要ガアルト思フデアリマス、一言申上ゲテ置キマス、尙ホ次ニ農地委員會ノ立法的價値ノ問題ニ付テハ、御答辯ヲ承ツタデアリマスガ、是モ私ガ申上ゲマシタコトトハ、見當ガ違ッテ居ルデアリマス、私ハ法律ヲ以テ規定スベキ事項ハ、立法事項ニ限ルト云フ議論ヲ致シタノデハナイノデアリマス、立法事項ナラザルガ故ニ、法律ヲ以テ規定スベカラズト云フ所ノ議論ヲ行ツタノデハナイノデアリマス、唯農地委員會ハ行政上ノ手段ニ依ッテモ其目的ヲ達シ得ラレルコトデアッテ、實行上ノ手段ニ依ラザルベカラザル、何等カノ積極的意義ガアルカドウカト云フコトヲ御伺致シタノデアリマス、之ニハ答ヘラレズシテ、農林大臣ハ單ニ法律ニ規定スルコトハ、必シモ立法事項ニハ限ラナイノデアルト云フ御趣旨ノ御答辯ガアリマシタコトハ、私ハ甚ダ其意ヲ得ザルモノデアルト思フノデアリマス、尙ホ貸借ト永小作權ト取扱上ノ差別ノ問題ニ付キマシテ、農林大臣ハ、法律家ノ立場ヨリ見ルナラバ左様デゴザイマセウケレドモ、實際問題トシテハ、全國ニ永小作地ト云フモノハ少イノデアルト云フコトヲ申サレタデアリマス、私ハ農林省ニ於テ全國ノ永小作地ニ關スル統計ヲ御取リニナツテ居ルコトモ承知致シテ居リマス、併ナガラ先刻モ申上ゲマシタル通り、永小作權ナリヤ或ハ賃借權ナリヤハ、概ネ慣習ニ依ッテ決定スベキ場合ガ多イノデゴザイマシテ、爾ク截然タル統計ノ數字ニハ現ハレテ來ルモノデハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、實際上ノ小作爭議ノ問題ト致シマシテモ、常ニ權利關係ガ中心トナツテ、其爭議ガ續ケラレル

所ノ事實カラ、私ハ立論ヲ致シマシテ御伺ヲシタノデアリマスガ、是モ答辯ガ要領ヲ得ナカッタコトヲ甚ダ遺憾ニ存ジマス、私ハ總テヲ委員會ニ讓リマシテ、之ヲ以テ私ノ質問ヲ打切りマ

西川貞一君ノ質疑

諸君、私ハ今日ノ如ク農村生活ガ全面的ニ不安動搖ノ中ニアリマスル時ニ際シマシテハ、本法ヲ以テマシテ自作農ヲ創設致シマシテモ、小作關係ノ調節ヲ圖リマシテモ、ソレノミニ依ッテ決シテ農村生活ノ安定ヲ圖ルコトハ出來ナイト思フデアリマス、故ニ現在ノ經濟情勢下ニ於キマスル農村ノ情勢ニ即シ、之ニ對シマスル農政當局ノ根本方針ニ付キマシテ、二三ノ質問ヲ申上ゲタイノデアリマス、最近ニ於ケル、我國ノ農村ノ實情ニ對シマシテハ、過日來本議場ニ於キマシテ屢々問答ガ繰返サレマシタ、私モ現在ノ農村ノ事情ガ、昭和六七年ノ不況時ニ比較致シマシテ、其生産價格ノ増大、農民所得ノ増加等ニ於キマシテ、相當面目ヲ改メツ、アルコトヲ否認スルモノデアリマセヌ、併ナガラソレニ依ッテ若シ農村生活ガ安定性ヲ増シツ、アルモノデアルト思フ者ガアリマシタナラバ、ソレハ大ナル見當違ヒデアリマス、即チ現在ノ經濟ハ「インフレーション」ニ依ッテ水膨レニナツテ居リマス、此「インフレーション」ハ世界的傾向デアリマスルガ、我國ノ「インフレーション」ノ特殊性トシテ注意ヲ要シマスルコトハ、我國ノ「インフレーション」ハ外國ノ多クノ國ニ於テ行ハレツ、アリマスル如キ、一ツノ計畫ト統制ニ基ク所ノ「インフレーション」ニアラズシテ、國防ノ充實擴張ト云フモノニ引摺ラレテ行ク所ノ「インフレーション」デアリマスガ故ニ、其當然ノ結果トシテ、甚シク跋行性ヲ有ツテ居ルコトヲ免レナイノデアリマス、世上ヨク公債ノ増發ニ關シマスル論議ヲ聞イテ居リマス、現在ノ公債ハ、現ニ市場ニ在ル資金ヲ政府ガ掬ヒ上ゲルモノデアアルカノ如キ議論ヲ聞クノデアリマスガ、現在ノ公債ハ政府ノ信用ニ依ッテ新ナル資金ヲ創造シ、購買力ヲ注入スルモノデアリマシテ、即チ軍需「インフレ」ニ於キマシテハ、政府ノ創造



致シマシタル莫大ナル購買力ヲ、軍需關係ノ事業ニ新ニ注ギ込ムノデゴザイマス、故ニ此注ギ込マレタ購買力ニ依ッテ水膨レニナツテ居リマスルモノヲ、之ヲ農村其他ノ方面ニ、或ハ租稅制度ヲ以テ、或ハ交付金、助成金ノ制度ヲ以テ還元ヲシナカッタナラバ、其跛行「インフレ」ニ依リマシテ、農漁村ノ總體的貧窮化ハ益々増大サレルノデアリマス、故ニ我國ノ豫算ガ十八億圓カラ二十億圓ニナリ、二十三億圓ニナリ、更ニ三十億圓ニ膨レ、公債ノ發行額ガ五億カラ七億、十億ト増大ヲ致シマスル半面ニ於テ、我國農村ノ總體的貧窮化ハ益々深刻化シツ、アルノデゴザイマス、是ガ現在ノ農村生活ノ上ニ如何ナル影響ヲ與ヘツ、アルカト申シマルスト、最近ニ於ケル農村ノ實情ガ如何ニ陰慘ヲ極メテ居ルカト云フコトニ付キマシテ、昨日私ハ郷里ノ村長カラ受取りマシタ手紙ノ一端ヲ茲ニ讀ムルコトヲ許シテ戴キタイノデアリマス、其手紙ニ此村長ハ斯ウ申シテ居リマスル「昭和七年小生就職ノ當初マデハ五百三十六戸ノ戸數ガ、昭和十年五月四百八十戸トナリ、現在ハ四百五十戸足ラズニ減ジ、加フルニ殘レル農家中ニモ、殘ルハ老幼ノミニテ、青年男女ノ商工都市ニ走レル家頗ル多ク、耕地モ之ニ比例シテ次第ニ荒廢致シ、特ニ畑地ノ如キハ、帳簿面積二百町歩ノ中耕作セラル、ハ百町歩ニ足ラズ、此一事ノミヲ見テモ、農山村ガ將ニ亡ビントシツ、アルコトガ領首シ得ラル、事ト存ジ候、而モ物質的窮乏ニ加フルニ、衣食足ラズシテ、正義モ禮節モ忘レ、精神的ニ頹廢セントシツ、アル事コソ、由由シキ問題ニアラズヤト存ジ候、今ヤ醇厚美俗ハ地ヲ拂ハント致シ、唯物質ノミヲ求メテ、而モ物質ニ反カレ、利己ニ走リテ、相剋ノ風次第ニ甚シク、互ニ傷ツキ、將ニ餓鬼道ニ墮セント致シツ、アリ」云々ト申シテ居ルノデアリマス、是ガ現在ノ農村ノ本當ノ姿デアリマス、斯ノ如キ陰慘ナル空氣ノ農村ニ、從來ノ農民ハ隋力デ生活ヲシテ居ッタノデアリマスルガ、次ノ世代ヲ擔ウテ立チマスル所ノ青年ガ、果シテ此法律ニ依ッテ土地ヲ購入シテ自作農トナリ、又ハ小作關係ニ依ッテ斯ノ如キ農村ニ生活シテ行カウト云フ心持ヲ持テ得ルノデアリマセウカ、私ハ之ヲ疑フノデアリマス、斯ノ如キ氣分ヲ一掃シ、農村生活ヲイマ少シ明朗ニ致シマスル爲ニハ、思切ツテ政府ガ農本政策ヲ行フヨリ外ニ途ハナイ、是ハ小サイ問題デアルカモ知レマセ

スガ、農民トシマシテハ切實ナ要求デアリマスルガ、セメテ「ラヂオ」ノ無料聴取、彼等ノ乏シキタノ食卓ヲ賑ハス濁酒ノ自家用醸造、或ハ自家用ノ葉煙草ノ栽培位ハ許スダケノ誠意ガ政府ニハナイカ、是等ニ對シテ農林當局ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ラレマスルカヲ御伺シタイノデアリマス、現内閣ハ物價政策ニ付テ大聲疾呼ヲシテ居ラレマス、其物價政策ノ爲ニハ、可ナリ無理ヲシテ豫算ノ削減ヲ行ハレマシタ、私ハ此「インフレ」財政政策ノ一ツノ安全瓣ト致シマシテ缺クコトノ出來ナイ、地方財政調整交付金ヲ御削リニナツタコトハ、是ハ非常ナ問題デアルト思フノデアリマス、ソレハ更ニ後ニ論ズルコトニ致シマシテ、無理ヲシテ無暗ニ豫算ノ數字ダケ減ラセバ、ソレデ物價ガ下ルヤウニ思ウテ居ラレマスルト、是ハ大變ナ間違デアツテ、私ハ物價政策ヲ呼號シテ生レタ此内閣ガ、物價政策ノ爲ニ倒レルヤウナコトニナリハシナイカト懸念シテ居ル者デアリマス、ソレハ別問題デアリマスルガ、東京ニ私住ンデ見マシテ、物價ガドウ云フ状態ニ於テ國民生活ヲ壓迫シテ居ルカト申シマスルト、或ハ木炭ガ高イ、野菜モ米モ高イ、魚モ皆高イト云フノデ、臺所カラ頻々ト悲鳴ガ擧ッテ居ルノデアリマス、所ガ是等ノ品物ヲ生産致シマスル所ノ農漁村ハ、果シテソレ等ノ生産ニ依ッテ満足スベキ代價ヲ得テ居ルデアリマセウカ、現ニ是等ノ生産ニ依ッテ、農漁村民ハ引合フダケノ價格ニ依ッテ之ヲ賣ッテ取ッテハヤハリ引合ハナイ値段デアアル、現ニ木炭ノ如キハ、昨年ノ暮ニ相當ニ相場ガ高カッタノデ、山村ノ者ハ非常ナ増産計畫ヲシタノデアリマス、所ガ今年ノ正月ニナリマスルト、氣候外レノ暖氣ノ爲ニ木炭ノ消費ガ減退ヲ致シマシテ、市場ニハ滞貨ガ悶ヘマシテ動キガ取レナイ、木炭ハ造ッタケレドモ一ツモ賣レナイ、是ガ爲ニ山村ニ於テハ木炭恐慌ヲ起シテ居リマス、炭燒キト雖モ炭ヲ食フ譯ニハ行カナイ、ケレドモ炭ヲ金ニ代ヘルコトガ出來ナイカラ、文字通り臥薪嘗膽ノ苦ミヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ要スルニ販賣機關ガ完備致シテ居ナイ爲デアアル、運輸配給ノ機關ニ缺陷ガアル爲デアリマス、現内閣ガ物價騰貴ニ因ル所ノ國民生活ノ壓迫ヲ憂慮サル、ナラバ、先ヅ第一ニ是等ノ點ニ手ヲ著ケテ、消費者モ助カリ、生産者モ

亦救ハレル途ヲ講ゼラレナクテハナラナカッタノデアリマスル、窃ニ聞ク所ニ依リマスルト、農林省ニ於キマシテハ、昭和十一年度ノ豫算編成ノ際ニ、慥カ山崎農相ノ下ニ於キマシテ、内地ノ主要都市ニ、政府ノ手ニ依ッテ農漁山村生産物ノ販賣機關ヲ設立スルヤウナ計畫ガアッタヤウニ聞クノデアリマスルガ、物價騰貴ヲ憂慮セラル、所ノ現内閣ハ、一面ニ是等ノ生産者ノ立場ヲ考ヘテ、斯ウ云フ方面ニ先ヅ手ヲ觸ル、ベキデアッタト思フノデゴザイマスル、是等ニ對シマシテ用意ハナイノデアリマスルカ、此點ヲ御伺ヲシタイノデアリマス、是ハ極メテ重大問題デアリマスルガ、現在ノ經濟情勢ハ「インフレーション」ノ進行ヲ必至ナラシメ、國內物價ノ高騰ノ必然性ヲ持ッテ居ル時ニ、結城財政ガ對外爲替ノ相場ヲ無理ニ維持セント致シマスルコトハ、非常ナ危険ガアルト私ハ思フノデアリマス、政府ハ近ク正貨ノ現送ヲ行ハレル由デアリマスルガ、斯ノ如キ政策ハ、往年ノ井上財政ノ下ニ、農漁村ガ破滅的危機ニ追込マレタト同ジ性質ノ——サウ云フ幅ト深サヲ持ッテ來ルカドウカハ分リマセヌケレドモ、其性質ニ於テ同ジ惡影響ヲ農漁村ガ受ケ、跛行「インフレ」ニ因ル農村ノ被害ヲ益々大ナラシムルノ虞ガアルデアリマス、之ニ關シマシテ結城藏相ガ斯ノ如キ政策ヲ御行ヒニナルコトハ、其立場上、結城藏相ノ經歷上、サウナッテ來ルト思フノデアリマスルガ、之ニ對シテ農政當局トシテ山崎農林大臣ノ御識見ヲ御伺シタイ、此内閣ノ經濟政策ノ根本ニ對シテ、農民ノ立場ニ於テ、農林大臣ハ如何ナル考ノ下ニ、内閣ニ於テ大政輔弼ノ責任ヲ分タレルノデアリマスルカ、此點ニ對スル御見識ノ程ヲ伺ッテ置キタイノデアリマスル、次ハ自作農問題ニ極メテ關係ノ深い負擔問題デアリマス、農村ニ於テ小作農ガ土地ヲ購入致シマスルト、直チニ負擔ノ重壓ガ加ハル、國稅ノ如キハ實ハ言フニ足りナイノデアリマスガ、町村費ハ固ヨリ、神社トカ寺院其他ノ寄附、是等ガ自作農ニナルト非常ナ重壓ヲ加ヘテ來ルノデアリマス、今日農村ニ於キマシテ如何ニ寄附ガ多イカ、是ハ恐ラク東京市ナドニ居住サレテ居ル方ニハ、想像ノ及バナイコトデアルト思フノデアリマス、學校ヲ建設致シマシテモ、道路ヲ改修致シマシテモ、駐在所ヲ一ツ作りマシテモ、消防ノ「ポンプ」ヲ一臺購入致シマシテモ、悉ク皆寄附ニ依ルノデアリマス、ソレ等ノ寄附ハ、

今日農村ノ中堅的耕作農民ガ最モ重イ負擔ヲ蒙ルノデアリマス、特ニ最モ苦痛ヲ感ジテ居リマスルノハ戶數割ノ負擔デアアル、先般來此問題ニ付キマシテハ、都市ト農村ノ負擔關係ヲ色々ト論議サレタノデアリマスガ、私ハモット重要ナ問題ハ、農村内部ニ於テモ、町村毎ニ甚シク不均衡デアルト云フコトデアリマス、私ノ山口縣ノ如キニ於キマシテモ、其高キモノハ三十圓——一戶當リ三十圓デアリマス、其最モ安キモノハ一戶當リ八圓四十錢デアリマス、之ヲ平面的ニ比較致シマシテモ、四倍位ニナッテ來ルノデアリマスルガ、更ニ之ヲ其一戶當リ收入ト比較致シマシテ、立體的ニ之ヲ比較致シマスルト、一戶當リ三十圓ノ戶數割ヲ負擔致シテ居リマス其村ノ一戶當リノ收入ハ、僅ニ三百圓シカナイノデアリマス、三百圓位ノ收入デドウシテ一家ノ生活ガヤッテ行ケルカ、御疑ヒニナル方ガ多クアルデアリマセウガ、實際ニ三百圓位シカアリマセヌ、其中ニ於テ一〇%ニ相當スル三十圓ヲ戶數割ニ取ラレテ居ルノデアリマス、所ガ戶數割ノ負擔ガ僅ニ八圓四十錢シカアリマセヌ所ノ其町ハ、一戶當リノ收入ガ千圓以上ニ上ッテ居リマス、是ハ僅ニ一%ニシカ相當シナイノデアリマス、唯上ッ面ノ數字ダケヲ見マシテモ、斯ノ如キ不公平ガアリマスルガ、更ニ之ヲ擔稅力ト比較致シマスル時ニ、其不公平實ニ見ルニ忍ビナイモノガアルノデアリマス、所ガ更ニ皮肉ナコトハ、戶數割ハ町村費デアリマスカラ、高イ負擔ヲ致シマシテモ、マダ慰メルコトガ出來ルノデアリマスケレドモ、甚ダ皮肉ナコトニ、戶數割ノ安イ町村ハ大抵能ク設備ガ整ウテ居リマス、戶數割ノ高イ町村ニナル程設備ガ整ハナイノデアリマス、私ノ縣ハ教育ニハ相當熱心ナ縣デアリマス、小學校ノ講堂ノ如キハ、ドノ村ニ行キマシテモ能ク設備シテ居ルノデアリマスルガ、戶數割ノ最モ高イ三十圓ノ負擔ヲシテ居ル村、其次ノ二十七圓ノ負擔ヲシテ居ル村、其次ノ二十七圓ノ負擔ヲシテ居ル二箇村、ソレカラ二十五圓ノ負擔ヲシテ居ル村、其二十五圓以上ノ負擔ヲシテ居ル村ニハ全部講堂ガアリマセヌ、詰リ現在僻陋地ニ居住致シテ居リマスル所ノ農民ハ、不自由、不便ナ生活ヲ致シ、貧乏ヲシテ居ルガ故ニ、其罰ニ高イ公租公課ヲ徵サレルト云フ結果ニナッテ居ルノデアリマシテ、世ニ

是程馬鹿々々しい話ハナイト思フノデアリマス、故ニ是ガ根本對策ヲ講ジナカッタラバ、如何ニ枝葉末節ノ方策ヲ講ジマシテモ、農民ノ生活ハ安定致シマセヌ、農村青年ハ左様ニ馬鹿ナ處ニ長ク居住スルト云フ希望ヲ持チ得ナイノデアリマス、政府ハ稅制改革ニ當リマシテ、單ニ表面的ナ數字ノミヲ見ズニ、其數字ノ背後ニアリマスル農村ノ生活狀態ヲ能ク調査ヲ致シ、部落費用ハ勿論ノコト、諸種ノ寄附金等モ十分ニ睨ミ合セタ上デ、根本的ニ負擔ノ權衡ヲ圖ルノ用意ガアリマスルヤ否ヤ、農民生活ノ問題ニ付テ責任ヲ持ツテ居ラマスル所ノ農林當局トシテ御所見ヲ、此機會ニ伺ツテ置キタイノデアリマス、廣田前內閣ノ稅制改革ハ、色々ノ點ニ於テ批判ノ餘地ガ多クアリマシタケレドモ、此問題ニ關スル限リ、一應其核心ニ觸レテ居リマシタノデ、都市對農村ノ負擔ノ權衡ト云フヨリモ、寧ロ自治體相互ノ間ニ於ケル不公平ヲ除クト云フ點ニ於テ、農民ノ心ヲ捉ヘタノデアルト思ヒマス、農民ハアノ改革案ノ成立ニハ多大ノ期待ヲ繫イデ居リマシタ際ニ、是ガ林內閣ニ送リマシタガ爲ニ、此改革案ガ關カラ關ニ葬ラレタコトニ對シマシテ、農民ノ持ツテ居リマスル所ノ忿懣ノ念ハ、洵ニ形容スベカラザルモノガアルノデアリマス、私ハ此問題ニ付キマシテハ、政府當局ニ於テ現在交付金ノ増額問題ニ付テ御考慮中ト聞キマスカラ、此問題ハ其點深ク觸レマセヌガ、是ガ農民ノ心理ニ與ヘタ惡影響ニ付キマシテハ、農林當局トシテ將來農政上深ク御考慮ニナラナケレバナラヌコトガ多クアルト思フノデアリマス、農林行政ハ他ノ行政トハ多少趣ヲ異ニ致シマシテ、農民ノ信賴ヲ繫ギ、農民ノ支持共鳴ヲ得ナクテハ、其成績ヲ舉ゲルコトハ出來マセヌ、先年來行ハレテ居リマスル經濟更生計畫ノ運動モ、負債整理ノ問題モサウデアリマス、只今議案トナツテ居リマスル所ノ農地制度ノ問題モ、農民ノ信賴ヲ繫ギ、農民ノ支持協力ヲ得ルコトガ出來ナカッタラバ、決シテ其成績ヲ舉ゲ得ルモノト思ハレナイノデアリマス、其點ニ付キマシテ私ハ深ク政府當局ニ御注意ヲ願ヒタイコトハ、林內閣ガ廣田內閣ニ代リマシテモ、結城大藏大臣ガ馬場大藏大臣ニ代リマシテモ、農民ノ頭ニ畫イテ居リマスル政府ト云フ觀念ニ何等ノ變リハアリマセヌ、御上ト云フ農民ノ持ツ觀念ニハ何等ノ變リハナイ、然ルニ前內閣ハ斯クノコトヲシテ居ル、ソレ

ヲ內閣ガ送ツタカラ之ヲ根本カラ覆スト云フコトハ、ソレガ政黨內閣デアリマシテ、其政策ガ國民ノ批判檢討ヲ受ケ、國民ノ批判檢討ノ結果ニ於テ取變ヘラレルノナラバ、是ハ當然デアリマスガ、超然內閣ガ斯ノ如キ國策ト呼號シテ決定シマシタルコトヲ取變ヘマスコトハ、國民ノ心理ニ非常ナル惡影響ヲ與ヘテ居ルト云フコトヲ否認スルコトハ出來ナイノデアリマス、農林當局ハ如何ニ今後善政ヲ御布キニナリマシテモ、此問題ニ依ツテ與ヘマシタル所ノ農民ニ對スル非常ナル忿懣ノ念ヲ慰メ、之ニ依ツテ起リマシタル所ノ政治ニ對スル不信ノ觀念ヲ拭ヒ去ルコトガ出來ナカッタラバ、決シテ農政ノ效果ヲ舉ゲルコトハ出來ナイト思ヒマス、惟フニ結城大藏大臣ハ、現在農民カラ非常ニ怨マレテ居リマスガ、併シ冷靜ニ考ヘテ見ルト、今マデノ言ウタケレドモ與ヘハシナカッタ、ケレドモ多ク實際ハ與ヘナガラモ、其態度ガ農民ノ信賴ヲ裏切ルカラ、非常ニ怨ミヲ買ツテ居ルノデアリマス、是ハ金額ノ問題デアリマセヌ、豫算ヲ餘計取レバ宜イト云フ問題デナシニ、農政ノ解決ニ當リマシテハ、此政府當局ノ態度ニ非常ナル御注意ヲ爲サレナクテハナラヌト云フコトヲ、私ハ甚ダ僭越デアリマスルケレドモ、御注意ヲ申上ゲ、之ニ對スル現農林當局ノ御考モ伺ツテ置キタイノデアリマス、其他直接此法律ニ關シマスルコトハ、既ニ先輩議員ノ質問ニ於テ大體盡キテ居リマス、唯私ガ御伺ヲ致シタイト思ヒマスノハ、此法律ニ依ツテ小作權ノ保護ガ行ハレマスルコトハ、非常ニ私共喜バシク思フノデアリマスルガ、而モ其一番大切ナ點ガ骨抜キニナツテ居ルノデハナイカト云フコトデアリマス、私共ノ地方ハ、近年工業ガ勃興致シマシテ、工場ノ敷地ト致シマシテ、地主ハ其所有地ヲ相當高價ニ賣ツテ居リマス、之ニ依ツテ地主ハ莫大ノ利益ヲ得テ居ルノデアリマスルガ、而モ小作人ニ對シテハ何等ノ救濟ヲシナイ、冷酷ナ地主ガ非常ニ多イノデアアル、然ルニ此法律ニ依リマスルト「貸賃人ハ賃借人ニ信義ニ反シタル行爲ナキ限り貸賃借ノ解約ノ申入ヲ爲シ、又ハ更新ヲ拒ムコトヲ得ズ」一應ノ保護ハ致シテ居リマスケレドモ、「但シ土地使用ノ目的ノ變更」此土地使用ノ目的ノ變更ニ付テデアリマスガ、今マデノ耕作地ヲ工場ノ敷地ニ變更致スコトガ、此

但書ノ條項ニ該當スルノデアリマスルナラバ、地主ガ高價ニ自分ノ所有地ヲ工場敷地ニ賣ッタ時ニ、小作人ハ何等保護サレル規定ガ無イ、是ハ重大ナル缺陷デアリマス、更ニ賃貸人ノ自作ヲ相當トスル場合デアリマスガ、此自作ト云フ概念ハ、如何ナルコトヲ意味致シマスカ、現在ノ自家勞力ノ消化ト云フコトノ範圍内ニ於テノ自作デアリマスルナラバ、別ニ異議ハアリマセヌガ、雇傭勞力ヲ本位トスル自作ニ是ガ當嵌リマスルナラバ、地主ハ小作契約ヲ解除シテ、農業勞働者ヲ雇傭シテ、自分ノ手ヲ耕作ヲシテ自作ニ移スト云フ虞ガアル、即チ現在ノ小作農民ヲ一介ノ農業勞働者、「ルンペン」プロレタリアニ顛落セシメマシテ、農村社會ノ將來ニ甚ダ喜バシカラザル傾向ヲ助長スルノ虞ガアルト思ヒマスルガ、之ニ對スル當局ノ所見ハ如何デアリマスカ、其他尙ホ微細ノ點ニ涉リマシテハ、委員會ニ於テ御伺スルコトニ致シマシテ、以上ニ對スル御答ヲ御願シタイノデアリマス

山崎農林大臣ノ應答

西川君ノ御熱誠ナ農村全般ニ付テノ御意見ハ十分傾聴致シマシタ、尙ホ農村ニ關シマス私ノ大體ノ考ヘ方ハ、先刻來度々此壇上ニ於テ申上ゲマシタコトニ依ッテ、凡ソ御諒解ガ出來ルノデハナイカト思ヒマスカラ、先ヅ西川サンノ御話ヲ十分伺ッテ置キマシタ、斯ウ云フコトヲ申上ゲマシテ御答ニ致シマス、唯具體的ノ御質問トシテ、工場敷地等ノ爲ニ耕地ヲ失フ場合ノ、所謂作離料ノ問題デアリマスガ、此點ハソレ々御異議ガアラウカト想像ヲシテ居ル點デアリマスガ、政府ノ立案ノ趣旨ヲ申上ゲマスト、今日全國ノ小作慣行ヲ見マシテ、作離料ニ付テハ區々デアアルコトハ、西川君御承知ノ通りデアリマス、固ヨリ作離レノ場合ニ相當ノ補償ヲ與ヘラレルト云フコトノ必要ハ、當局ニ於テモ十分認メテ居ル譯デアリマスケレドモ、之ヲ直チニ法ノ規定ヲ以テ律シマス程、全國ノ慣行ハマダ熟シテ居ラヌ、是ハ餘程注意シテ取扱ヒマセスト云フト、却ッテ小作農民ノ利益ヲ害スルヤウナ虞モアル譯デアリマスノデ、是ハ主トシテ小作慣行及ビ其地方々々ノ諸種ノ情勢ニ依ッテ、圓滿ニ解決セラレルコトヲ期待致シテ居ル譯デアリマ

ス、其意味ニ於キマシテ法文中ニハ作離料ニ關スル規定ヲ設ケナカッタ譯デアリマスガ、併シ色々御議論ハアラウカト思ヒマスカラ、是等ハ十分委員會等ニ於キマシテ拜承致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス

西川君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

私ハ農林大臣ニ更ニ御質問ヲ申上ゲタイノデアリマス、只今ノ作離料ニ關シマスル所ノ御答辯ハ、此問題ニ對シマスル農村ノ慣習ガ熟シテ居ナイ、デアルカラ法律ニ依ッテ之ヲ規定スルコトハ、却テ宜シクナイト云フ御意見デアアルノデアリマスガ、併ナガラ斯ノ如キ曖昧ナ態度ガ、即チ小作爭議ヲ誘發スルノデヤナイカ、吾々ガ小作法ノ規定ニ依ッテ、小作人ヲ非常ニ保護スル場合ニ、考ヘナクテハナラヌノハ、地主ノ立場ト云フモノモ相當ニ苦シイト云フコトハ考ヘナクテハナラヌノデアリマスルガ、併シ斯ウ云フ場合ニ於テハ地主ハ非常ニ利益ヲ得テ居ル小作人ニ對シテ相當ノ補償ヲシテヤルダケノ力ハ十分ニ有ルノデアリマスカラシテ、斯ノ如キ場合ニ對シテコソ、法ガ明確ニ其基準ヲ定メテ置クコトガ、小作爭議ヲ防止スルコトニナルト思フノデアリマス、此點ハ根本的ニ考ヲ異ニ致シテ居リマスト云フコトヲ申述ベテ置キマス、ソレカラ農政一般ニ關シマスルコトハ、御聽置キ下サルト云フコトデ、満足スルヨリ外ハ仕方ガナイト思フノデアリマスルガ、併シ現在ノ農民ノ立場ト財閥資本家ノ立場ハ明確ニ相對立スル、財政政策ノ根本的態度精神ニ於テ、必然的ニ相對立スルノデアリマスカラ、此政治ノ上ニ農民ノ立場モ相當ニ反映ヲシナクテハナラヌ、ソレヲ反映セシムル爲ニ、農林大臣ガ如何ナル觀念ヲ持ッテ居ラレルカト云フコトハ、私ハ聽カナクテモ宜シイノデアリマスケレドモ、全國三千万農民ハ大イニ聽キタガッテ居ルノデアリマシテ、此點ハマダ時間モ多少アルヤウデアリマスルカラ、此機會ニ農林大臣ガ御所見ノ一端ヲ御披瀝下サイマスルコトガ宜カラウト思フノデアリマス

右終ルヤ松永東君ハ本案ニ對スル殘餘ノ質疑ハ日程ト共ニ延期シ本日ハ是ニテ散會スヘシトノ動議ヲ提出シ院議異議ナク之ニ決ス

三月二日ノ質疑應答左ノ如シ

長野長廣君ノ質疑

私ハ農地法案ニ付キマシテ、第一ニ小作關係ノ事項、第二ニ自作農維持創定ニ關スル事項、二ツニ分ケマシテ農林大臣ノ御答辯ヲ求メタイト存ジマス、儲テ本法案ハ農業ノ根本基礎ヲ成シマスル土地ニ關スル法令ヲ規定シタモノデゴザイマス、土地ニ關スル法令ハ、農民ヲシテ土地ニビツタリ結付ケテ、サウシテ土地ノ上ニ農家ガ安ラカニ樂シク農業經營ノ出來ルヤウナ法律デナクテハナラヌト存ジマス、然ルニ本法案ヲ眺メテ見マスルニ、其重要ナル點ニ於テ大ナル缺陷ガアルト存スルノデゴザイマス、若シ本法案ニシテ其缺陷アリト致シマスルナラバ、我國ノ農業者ハ本法案實行ノ後ニ於テ土地ヨリ離レルト云フ状態ニナルノデアリマス、土地ノ上ニ泣キ、土地ノ上ニ不安ヲ懷キ、土地ノ上ニ抗爭ヲ演ズルト云フ結果ヲ招來セヌトモ限ラヌノデアリマス、此意味ニ於キマシテ私ガ第一ニ御尋致シタイコトハ、第一條ニ於テ「互讓相助ノ精神ニ則リ自作地ノ創設維持及農地ノ使用收益關係ノ調整ヲ圖ルヲ以テ目的トス」ト規定セラレテ居リマス點デゴザイマス、實際内容ヲ見テ見マスルニ、本法案ハ極メテ劃一的ノモノデアリマシテ、殊ニ地方々々ノ實情ニ能ク適合セシムルベキ慣習ヲ忽諸ニ付シテ居ルノデゴザイマス、現ニ明治初年ニ於キマシテ、我が日本ノ各地ニ土地問題ニ付テ種々ノ抗爭ヲ起シマシタ、就中高知縣ニ於キマシテ、明治初年ニ於キマシテハ、地方ノ永小作問題ニ關スル慣習ヲ無視シマシテ、永小作權ト地主ノ所有權、之ヲ統一スベク指令ヲ發シマシタ、爲ニ地方ノ農民ニ一大紛議ヲ起シ、民論勃發ヲ致シマシテ、遂ニ時ノ内務卿木戸孝允、又大藏卿ノ大隈ト、此兩卿ハ訓令ヲ發シマシテ、其政府ノ指令ヲ取消シタノデゴザイマス、斯ノ如ク土地法案ヲ地方ノ實情ニ

合致セシメ、地方ノ慣習ヲ尊重セシムルト云フ點ニ注意ヲ怠リマシタナラバ、必ズ地方ニ斯ル問題ヲ生ズルノデアリマス、本法案ヲ眺メテ見マスルニ、慣習ヲ尊重シテナイ、慣習ニ一向眼ヲ著ケテ居ラナイノデゴザイマス、嘗テ町田農林大臣ノ頃ニ於キマシテハ、到ル處デ重要ナル諸點ニ慣習ヲ重シタル法案ヲ作りマシテ、衆議院ヲ通過セシメタコトガアルノデアリマス、此點ニ非常ナ本法案ノ缺陷ヲ認メルノデアリマス、果シテ斯ル法案ヲ以テ地方ノ小作關係ヲ調整シ得ルヤト云フニ、私ハ斷ジテ出來ナイト思ヒマス、之ニ對シテ農林大臣ハ如何ノ御考ヲ持タル、カ御答辯ヲ御願致シマス、第二ニ我が小作問題ノ中デ特ニカヲ注グベキモノハ、私ハ永小作ノ問題デアルト思ヒマス、從來永小作問題ニ於キマシテハ、盡スベキヲ盡サズ、法令民法等ニ於キマシテモ極メテ缺陷ガアッタノデゴザイマス、必ズヤ本法案ニハ此點ニハカヲ注ガレテ居ルト思ヒマシタガ、豈圖ランヤ、僅ニ二箇條、三箇條ヲ以テ糊塗セント致シテ居ルノデゴザイマス、高知縣下ノ一例ヲ取リマスルト云フト、高知縣下ノ永小作權ハ有名ナル特色ヲ有スルモノデゴザイマス、ソレハ土地ノ永小作地ノ所有權、ソレカラ永小作人ノ持ツ權利、此二ツヲ比較シテ見マスルト、永小作權ハ所有權ノ移轉シタルモノト關聯スベキ性質ノモノデゴザイマス、隨テ此永小作權ノ解決ヲスルニ付キマシテハ、相當慎重ナル態度ヲ執ラナクテハナラヌ、永小作權ニ對シテハ殆ド永久ノ權利ヲ與ヘルコトガ必要デアルノデアリマス、然ルニ此法案ニ付テ見マスルニ、永小作權滿了ノ後僅ニ二十年ノ猶豫ヲ與ヘテアルノデアリマス、斯ル短期間ニ於テ認メルコトニナリマスナラバ、必ズヤ斯ル習慣ノアル地方ニ於テハ大問題ヲ勃發スルコトヲ豫言スルニ難クナイノデアリマス、殊ニ農業經營ノ何物ナルヤヲ認識スル人デアリマシタナラバ、斯ル二十年ナント云フヤウナ規則ハ作ラヌ筈デアアル、農業ノ中ニハ春播イテ秋穫ル稻モアリマスケレドモ、本年植エテ二十年、三十年、乃至ハ七十年ノ後ニ漸ク收穫ヲ擧ゲ得ル所ノ、良イ品質ノモノヲ澤山穫リ得ル作物、梨トカ、蜜柑トカ云フヤウナ果樹類ガアルノデゴザイマス、是等ノ作物ヲ永小作地ニ植エル場合ニ於キマシテ、二十年、三十年ノ後ニ早クモ永小作權ガ消滅スルト云フコトヲ想起スル時ニ於テ、我が日本ノ永小作人ハ安心シテ果樹

栽培ヲスルコトガ出來マセウカ、況ヤ我が日本ノ國ノ天然地質ト云フモノハ、申ス迄モナク果樹栽培ニ適當シテ居ル、此適當シテ居ル我が日本ノ果樹園藝ニ依ッテ生産シタルモノヲ、大陸地方ニ大イニ輸出セナケレバナラヌト云フ意味ニ於テ、我が日本ノ國ノ農業ノ特色ヲ發揮シナケレバナラナイノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、永小作權ニ於テ僅ニ二十年ノ猶豫ノ期間ヲ置クト云フガ如キハ、此本質ヲ誤ルモノデアリマスマイカ、斯様ナ意味ニ於テ私ハ此永小作權ニ關スル規則ト云フモノガ、極メテ不適正ナルモノデアルト云フコトヲ斷言スルニ憚ラナイノデゴザイマス、果シテ農林大臣ハ之ニ對シテ如何ノ御考ヲ持ッテ居ラル、カ、更ニ凡ソ小作問題ニ認識ヲ持ッ人ガ此農地法案ヲ見ルナラバ、啞然トシテ驚クデアリマセウ、何トナレバ此法案ノ内容ノ中ニハ、最モ使用收益ノ調整ヲ圖ル上ニ必要ナル問題ガ脱却サレテ居ルノデアリマス、例ヘバ小作條件ノ變更デアルトカ、或ハ小作地ヲ賣買スル場合ニ於テ、地主ガ先ヅ小作人ニ一應ノ德憑ヲ爲シテ、買取ラナイカト德憑ヲスル問題デアルトカ、或ハ水害其他ノ不作ノ場合ニ於キマシテ、一時的ニ小作料ヲ減免スル問題デアルトカ、所謂小作爭議ノ原因ニナルベキ問題ニ付キマシテハ、十分ナル規定ヲ爲サナクテハナラヌ筈デアアル、然ルニモ拘ラズ是ガナイノデアリマス、或ハ農林當局ハ左様ナコトニ付テモ種々考ガアルト申サル、カモ知レマセウケレドモ、眞ニ之ヲ認識スルナラバ、モウ少シ明確ナル規定ガナケレバナラヌ、殊ニ最近農林當局ガ發表セラレマシタ農地制度要綱ナルモノヲ眺メテ見マスルニ、斯ウ云フコトガ書イテアル「小作爭議ハ未曾有ノ多數ニ上リ、就中小作地引上ニ關スル爭議ノ激増ヲ見ルハ、眞ニ憂慮ニ堪ヘザルナリ」トアルノデアリマス、或ハ無條件ニ自作ヲ爲スト稱シテ土地ヲ取上ゲタリ、或ハ又種々ノ言草ヲ以テ、權力ヲ以テ取上ゲ、此爲ニ起ル爭議ガ最近非常ニ多クナッテ居ル、所謂小作爭議ハ勞資關係デ、小作人ガ共同シテ地主ニ當ルト云フ時代ハ過去ノモノデアリマシテ、今ヤ地主ノ權力ヲ以テ小作爭議ヲ起スト云フ時代ニナッテ居ルノデゴザイマス、而モ農林當局ハ之ヲ認メテ居ル、認メテ居ルニ拘ラズ、何故ニ之ヲ忽諸ニ付セラレタノデアルカ、是ガ私ノ御尋シタイ所デゴザイマス、更ニ又既ニ前ニ小作立法トシテ此衆議院ヲ通過シタル法案ノ

アルニ拘ラズ、之ヲ十分ニ參考トシ、之ヲ十分ニ尊重シテ居ラナイ、殊ニ此法案ノ出來ル爲ニハ、嘗ニ政府當局ノミナラズ、全國ノ學者、實際家、有ユル人ヲ網羅シテ長イ間研究ヲ遂ゲタルモノデアリマス、左様ナコトヲ農林省ハ嘗テヤリナガラ、今此法案ヲ見ル所ニ依ルト、ソレ等ノ貴重ナル研究ヲ忽諸ニ付シテ居ル何處ニ誠意ヲ認メ得ルカ、私ハ當局ノ誠意ヲ疑フノデアリマス、凡ソ世界ヲ舉ゲテ、又日本ヲ取ッテ來マシテモ、土地制度ノ改革ハ一國社會制度ノ大改革デアアル、所謂我が日本ノ國體ニ基キマシテ、サウシテ如何ニ我國ノ土地制度ヲ改メルカト云フコトニ付テハ、大化ノ革新ト云ハズ、明治初年ノ改革ト云ハズ、大イニ研究ニ研究ヲ重ネテヤッテ居ル、重大ナル社會ノ根本ニ關係アル經濟問題デアアル、此經濟問題、政治問題ヲ扱フニ、斯ノ如キ輕々シキ態度ヲ執ラレタト云フコトハ、私ノ尊敬スル山崎農林大臣トシテハドウモ合點ガ行カナイ、恐ラク何カ別ニ理由ガアリハシナイカト思フ、其理由ヲ御伺致シタイノデゴザイマス、第二ニ自作農問題ニ付テ少シク御伺ヲ致シテ見タイノデゴザイマス、小作人ガ政府カラ金ヲ借りテ、融資ヲ受ケテ土地ヲ買取ル、茲ニ今マデハ地主小作人關係デアッタモノガ、其地主ノ立場ハ政府ニ移ッテ、政府對作人ノ關係ニナルノデアリマス、是ニ於テ二十五年ノ後ニハ四十一万何千町歩ト云フモノガ、政府ガ地主ニナル、ソレヲ創設サレタル自作農ト云フモノガ、小作人ト云フ立場ニナッテ來ルノデアリマス、斯ク致シマスルト、茲ニ大キナ問題ガ起ッテ來ル、所謂自作農創設ノ根本精神、指導精神ト云フモノヲ今ヨリ研究シナクテハナラヌ、否確定シテ置カナケレバナラヌノデアリマス、之ヲ農林大臣ニ御伺致シタイノデゴザイマス、此小作問題ヲ見ルニモ二ツノ見方ガアル、一ハ日本精神ニ立脚シタル見方、一ハ唯物史觀ニ立脚シテ、勞資關係トシテ見ルノ見方デアリマス、今マデ御承知ノ通り我が日本ノ勞資、地主、小作人ノ關係ニ於キマシテハ、申ス迄モナク勞資關係ノ觀念ヲ以テスル者ガ多クカッタノデアリマス、然ルニ政府ニシテ若シ斯ル觀念ノ下ニ小作問題ニ對スルトシタナラバ、如何ナル結果ヲ呈スルデアリマセウカ、嘗テ農業不況ノ場合ニ於キマシテ、御承知ノ如ク農民ハ此自作農創定ニ關スル年賦償還ノ金ヲ納メル力ガ無イコトニナッタ、此場合ニ農民ハ泣イタノデアリマス、

然ルニ之ヲ取立テル側ノ關係ニ於キマシテハ、隨分強烈ナル方法ヲ以テ取ツタノデアリマス、現ニ私ガ農村ヲ經營シ、又全國農村ヲ廻ッテ、サウシテ圍爐裏ヲ挾ンデ農民ノ聲ヲ聽ク際ニ於テ、隨分ト悲痛ノ叫ビヲ聽イタノデアリマス、ソコデ問題ガ政府ニ移ッテ來ルノデアリマス、若シ斯ル態度、斯ル物質的態度ガ強烈ニ小作人ニ向フ際ニ於テ、明ニ地主ハ政府ニ移リ、小作人ハ作人ニ移リマシテ、農民對政府ノ抗爭トナルノデゴザイマス、僭テ諸君、徳川時代ニ於テサハ農民ノ塗炭ノ苦ミヲ見ルニ忍ビズ、地主階級ノ佐倉宗五郎ハ斯ル農民ト一體トナリマシテ、政府ニ上訴シタデハアリマセヌカ、洵ニ斯ル現象ガ起ルト云フコトヲ、場合ニ依ッテハ否定スルコトハ出來ナイノデアリマス、茲ニ私ハ是非共我ガ日本ノ政府ノ自作農創定制度ニ於キマシテハ、政府ガ斯ノ如キ物質主義、所謂勞資關係ト云フコトヲ離レテ、日本精神ニ立脚スベキモノナルコトヲ主張スル者デゴザイマス、政府ハ親デアリ、農民ハ子デアアル、親ト子トノ關係、此關係ニ於テ慈愛溢ル、精神ヲ以テ政府ガ農民ヲ啓導シ、農民ガ不景氣ノ爲ニ困窮スル時ニハ、或ハ各種ノ例ヘバ年賦償還ノ猶豫ヲ與ヘルトカ、或ハ大イニ期限ヲ延長スル、二十五年ト云フヤウナ短イ期間デハイカナイ、四十年、五十年ノ期間ヲ與ヘテ、農民ヲ助ケル慈愛溢ルル態度ヲ以テ行クト云フコトガ必要デハナイカ、斯様ニ考ヘマスルガ、農林大臣ハ日本精神ニ立脚シテ之ヲ行フ考ナリヤ、又勞資關係、唯物史觀ニ立脚スルノ考ナリヤ、之ヲ御尋シタイト存ジマス、次ニ私ハ此自作農創設運動ヲ愈、政府ガ展開スル時ニ於キマシテ、直チニ根本問題トシテ私共ノ頭ニ入ッテ來ルモノガアリマス、ソレハ果シテ農民ハ此土地ヲ買取ルダケノ經濟力アリヤ否ヤト言フ問題デゴザイマス、申ス迄モナク此土地ヲ買取ルニハ、或ハ三百五十圓ト云ヒ、六百圓ト云ヒ、一反歩ニ付テ巨額ノ金ヲ拂ハナクテハナリマセヌ、農民ハ塗炭ノ苦ミヲシテ居リマス、殊ニ今日ハ現ニ私ノ知りタル村デハ、鹽ヲ副食物トシテ嘗メテ生活シテ居ル者ガゴザイマス、更ニ又甚シキハ魚肉ヲサヘ食フコトノ出來ナイ者ガアリマス、斯ル状態ニ於キマシテ一反歩數百圓ヲ投ズルノ經濟能力アリヤ、殊ニ又斯ル説明ガアッタ場合ニ於テモ考ヘラレマス、併シソレハ政府カラ金ヲ貸スノダ、貸シテモ是ハ拂ハナクチャナラヌ、他日ニ於テ

全ク農民ヲ泣カシメ、困窮ニ陥レシメルコトヲ想起シナケレバナリマセヌ、斯ル農村悲痛ノ場合ニ於キマシテハ、實ニ此制度ハ洵ニ危險ナルモノデアルト考ヘナクテハナリマセヌ、併ナガラ若シ政府ニシテ農村ヲ能ク理解シ、農民ニ善政ヲ布クナラバ、農民ハ出來ザル間ニモ努力シテ、サウシテ此土地ヲ獲得スルノ仕事ヲスルノデアリマセウ、僭テ然ラバ如何ナル點ニ注意スベキヤ、私ハ第一ニ交付金問題、又都市ト農村ノ負擔ノ均衡問題ヲ解決ヲシテ、農民ガ現ニ悲憤慷慨ノ状態ニアルモノニ對シテ、オ前等ヲ助ケルゾト云フ態度ヲ政府ガ執ルコトニナリマスレバ、成ラザル間ニモ之ヲ爲シ遂ゲントスル感激ガ起ル、農民ハ感激ニ生キテ居リマス、此感激ニ投ズルモノコソ、正ニ今日政府ノ執ルベキ途デアルト考ヘマスルガ、新聞紙等ニ現レル所ヲ見マシテモ、又色々政府ノ御答辯ニ依リマシテモ、此決意ヲ披瀝スルコト中々困難ナノデアリマス、若シ茲ニ山崎農林大臣ニシテ、シツカリシタ御態度ヲ披瀝セラレルコトガアリマスナラバ、全國四千万ノ農民ハ必ズヤ感激シテ、此法案ノ實施ヲ翹望スルデゴザイマセウ、斯ク私ハ信ズル次第デゴザイマス、山崎農林大臣ハ此農村疲弊ノド底ノ際ニ於キマシテ、農村政策ニ對シ、殊ニ交付金問題等ニ對シテ如何ナル御態度ヲ示サル、カ、明確ナル御答辯ヲ御願致シタイノデゴザイマス、最後ニ私ハ總理大臣ニ一言御尋ヲ致シタイノデゴザイマス、從來我ガ日本ノ政策ハ商工業ニ偏シ、農村ニ對シテ稍、力ヲ抜イテ居ルカノ感ガアルト云フコトヲ、世間デ能ク唱ヘラレテ居リマシタ、然ルニ先般大藏大臣ハ施政演說ノ中ニ於キマシテ、商工ニ偏セズ又農村ニ偏セズト云フ意味ノ御話ガアッタノデゴザイマス、是ハ明ニ商工ト農民ヲ對立シタ關係ニ於テ考ヘラレテ居ルノデアリマス、是ガ抑、農村政策ノ輕ンセラレル根本原因デアアル、私共ノ見解ヲ以テスルナラバ、農ハ有ユル産業ノ根本デアアル、大地ノ中ヨリ出ヅル生命力、是ガ米トナリ、麥トナリ、材木トナル所ニ、有ユル産業ガ起ッテ來ルノデアリマス、之ニ奉仕スル農民ノ魂ノ中カラ日本魂ガ生レ出テ來ルノデゴザイマス、此精神、此物質ト云フコトヲ考ヘマスルナラバ、農ハ正ニ有ユル産業ノ根本デアアル、此有ユル産業ノ根本デアアル農業ヲ振興シテコソ、茲ニ物質的産業モ興隆セラレ、精神的振興アリ、更ニ國防問題ノ解決モ、殆ド大部分

之ニ依ッテ解決爲シ得ルト私ハ信ズルモノデゴザイマス、然ルニモ拘ラズ從來ノ政策ハ農業ニ輕キニ過ギタト思フノデス、此法案ヲ眺メテ見マシテモ、法案自體ガ農民ヲ侮辱シテ居ル、私ハ斯ク信ズルモノデゴザイマス、斯ル法案ヲ作ル觀念デアレバコソ、從來ノ國家ノ産業政策ト云フモノガ、常ニ農業ニ輕ク、農業ヲ輕ンズルト云フコトニナッタノデアリマス、此法案亦然リデアリマス、總理大臣ハ、此我ガ日本ノ國ノ産業政策ト云ハズ、有ユル政策ヲ執ル上ニ於テ、農業ニ對シテ如何ナル態度ヲ持ッテ居ラレルカ、之ニ對シテ明確ナル御答辯ヲ希望スル次第デゴザイマス、以上ハ私ノ此農地法案ニ對スル直接間接ニ政府ニ向ッテ御尋ヲシタイト思フ要點デアリマス、何卒明確ニ、具體的ニ、極メテ満足ノ行クヤウナ御答辯ヲ願ヒタイ、殊ニ是レ一長野ニ對スル答ニアラズ、全國四千万ノ農民ニ對スル答デアルコトヲ認識セラレ、何卒何卒御親切ナル御説明ヲ御願スル次第デゴザイマス

山崎農林大臣ノ應答

長野君ニ御答ヲ申上ゲマス、第一ハ、小作立法ニ於テハ慣行ヲ尊重シナケレバナラヌノデアアルガ、今回ノ法案ニハ慣行ヲ尊重スルノ跡ガ少イデヤナイカト云フ御趣意ノヤウデアリマシタガ、是ハ能ク法案ヲ御覽ヲ願ヒマスルト、長野君ノ御疑ハ直チニ氷解スルト存ジマス、昨日來度々此席ヨリ申上ゲマシタヤウニ、小作關係等ニ付キマシテハ飽マデ醇風美俗ヲ保持致シマシテ、法律ノ規定ニ依ッテ定メマスルコトハ、出來ルダケ之ヲ簡單ニスルコトガ適當デアルト考ヘテ居ルノデアリマシテ、其點ハ長野君ノ御精神ト合致イタシテ居ルト存ジマス、御心配ノヤウナ點ハナイト心得テ居ルノデアリマス、第二ハ永小作ノ整理ノ問題デアリマスルガ、永小作ノ關係ニ付キマシテハ、先年ノ小作法ニ規定ヲ致シタノト同一程度ノ規定ヲ、今回ノ立法ニ於テモ置イテ居ルノデゴザイマス、御承知ノヤウニ、民法施行法等ノ關係ガゴザイマシテ、マダ相當ノ期間ガ殘サレテ居リマスルガ、永小作ニ付テノ根本的ノ整理ハ、是ハ別ニ考慮スルコトガ適當デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、第三ハ小作料ノ減免其他各種ノ事項ニ付テノ規定ガ

少イデヤナイカト云フ御意見デアリマシタガ、此點ハ第一ノ點デ申上ゲマシタヤウニ、又長野君モ御指摘ニナリマシタヤウニ、小作關係ノ規定ハ餘リニ煩瑣デナイ方ガ宜シイ、出來得ル限リ地方ノ慣行ニ依ッテ、之ヲ社會正義ノ觀念ニ依ッテ處理セラレルコトヲ希望スル譯デアリマスノデ、寧ロ長野君ノ御精神ニ合致スル意味ニ於テ規定ハ簡略ニナッテ居ルト、斯ウ御諒解ヲ願ヒタウゴザイマス、其次ハ、此重大ナル法案ヲ取扱フニ付テ用意ガ缺ケテ居ルノデヤナイカト云フ御懸念デアリマスガ、成程先年小作法ヲ立案致シマシタ際ニハ、小作調査會等ノ設置ガ出來マシテ、極メテ慎重ナ態度ヲ以テ、アノ法案ガ出來タ譯デアリマス、爾來農林省ニ於テハ數年ニ互リマシテ、此問題ハ研究ヲ續ケテ來テ居ッタ譯デアリマシテ、謂ハバ今回ノ法案ハ先年提出セラレマシタ小作法ヲ基礎トシマシテ、之ヲ土臺トシテ長イ間農林省ノ事務當局ニ於テ研究ヲシテ、サウシテ今日ノ時勢ニ照シテ、此程度ノ立法ガ適當デアラウト云フ結論ガ付イテ初メテ提案シタ、斯ウナッテ居ル譯デアリマシテ、決シテ突如トシテ今回ノ農地法ヲ立案シタト云フ譯デアリマセヌ、謂ハバ先年ノ小作法ガ基礎トナッテ、其基礎ニ基イテ社會ノ各方面ノ情勢ニ適應スルヤウニ手ヲ加ヘテ今回提案ヲシタ、斯ウ云フ經過ニナッテ居リマスカラ、唯今度出マシタト云フコトダケヲ御取リニナッテ、如何ニモ突如トシテ提案サレタト云フヤウナ御觀測ハ、私ハ御改メヲ願ヒタイト存ジマス、自作農ノ創設維持ニ付テ、小作ノ關係ヲ飽マデ勞資ノ關係ト見ルコトハ適當デナイト云フ御意見デアリマシテ、其點ハ昨日モ此席デ申上ゲマシタヤウニ、私モ同様ニ考ヘテ居ル者デアリマス、唯自作農ノ創設ニ付テ、二十五年ヲ期限ト致シマシタコトハ、餘リ是ガ長クナッテモイケマセヌシ、餘リ短クテモ宜シクアリマセヌノデ、償還能力等ヲ參照致シマシテ、此程度ナラバ適當デアラウ、斯ウ考ヘテ居ル譯デアリマス、尙ホ既往ニ於ケル自作農ノ實績カラ考ヘテ見マシテモ、此程度ノ期限デアリマスレバ、餘リ無理ガナク、又餘リ冗漫ニ流レナイデ、適當ノ期限デアルト信ジテ居ルノデアリマス、自作農創設ノ計畫ヲ立ッテモ、農民ニ土地買收ノ資力ガアルカト云フ點デアリマスガ、是ハ現在ノ自作農創設ニ對シマシテ、各方面カラノ希望ノ申込ノ狀況等カラ考ヘマシテ、今回立テマシタ一箇年一万六



千町歩ヲ目標トスル自作農創設ハ、是ハ優ニ實行ガ出來ルモノト考ヘテ居リマス、一般ノ農村對策ニ付キマシテハ、是ハ昨日來度々此席ニ於テ御質問ニ應ジテ申上ゲマシタカラ、之ニ依ッテ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマスシ、尙ホ交付金問題ニ付キマシテハ、昨日モ申上ゲマシタヤウニ、只今十分考慮ヲ致シテ居ル所デアリマス、最後ニ總理大臣ニ對スル御質問デゴザリマシタガ、今日ハ總理大臣ハ此席ニ出席ヲ致シテ居リマセヌノデ、何レ適當ノ機會ニ總理カラ御答ヲ申上ゲルコトトハ思ヒマスケレドモ、念ノ爲ニ若シ其機會ガナクナツテモイケマセヌカラ、私カラ一言ヲ致シテ置キマスガ、成程日本ノ明治以來ノ政治ノ傾向ヲ考ヘマスト、長野君ノ御心配ニナリマシタヤウナ嫌ヒガナカッタトハ申サレヌト思ヒマス、併ナガラ是ハ我國ノ維新後ニ於ケル國是、我國ノ世界ニ於ケル地位、其他ノ點カラ考ヘマシテ、或ル意味ニ於テハ已ムヲ得ザル點モアルカト考ヘルノデアリマス、併ナガラ長野君ノ仰セノ通り、農村ハ國ノ組織ニ於テ、又國民ノ精神ニ於テ、産業ニ於テ、總テ基礎トシテ之ヲ考ヘテ行カナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ政府ニ於テ少シモ異存ノナイ點デアリマシテ、飽マデ農村ニ對スル政策ハ慎重ヲ期シ、苟モ農村尊重ノ精神ニ缺クル所ノナイヤウニ留意ヲ致スベキコトハ、申ス迄モナイコトデアリマシテ、此點ハ私共モ長野君ト全然同一ノ意見ヲ有ッテ居リマスコトヲ、御諒解ヲ願ッテ置キタイト思ヒマス

天辰正守君ノ質疑

私ハ只今上程サレテ居リマス農地法案ニ對シマシテ、極ク簡單ニ數點ノ質疑ヲ試ミタイト思ッテ居リマス、先ヅ最初ニ本法案ヲ御提案ニナリマスル農林大臣ノ御信念ヲ伺ヒタイノデゴザイマス、本法案ハ御提案ノ趣旨ヲ完ウシマスニ付キマシテ、洵ニ不徹底デアルト思ヒマス、御承知ノ通り時代ノ趨勢ハ時々刻々ニ進展シ、今日ノ法律ハ明日ノ法律トシテ時勢ニ適應セザルニ拘リマセズ、將來二十五年モ先ヲ見越シテ、而モ十億ノ國幣ヲ使ッテ自作農ヲ創定サレント爲サレル御努力ノ御親切ハ感謝ニ堪ヘマセヌガ、斯ノ如キ不徹底ナ法案デハ、農村ノ生活安定、

農村ノ振興、共ニ達シ得ラレナイト思フノデゴザイマス、政府ハ本法案ニ依ッテ御提案ノ趣旨ノ農村ノ現状ニ鑑ミ、農村生活ノ安定及ビ農村ノ振興ヲ期スルコトガ出來ルト云フ御信念ノ下ニ御提案ニナツタノデアルカ、私ハ將來二十五年ノ内ニハ非常ナル時勢ノ變遷ヲ見テ、或ハ法律ノ力ニ依ッテ、地主ノ土地所有ノ最高限度ヲ取極メルヤウナ法制ガ、確立ヲ見ナイトモ限ラナイト思フノデゴザイマス、本法案ノ如キハ後ニシテ、農村ノ生活ノ安定トカ、農村ノ振興ト云フヤウナ事ナドニ對シマシテハ、マダ研究スベキ問題ガ多々アルデハナイカト思フノデゴザイマス、嘗テ政府ガ普通選舉ノ叫ビニ對シテ、我國ニ於テ洵ニ仕様ノナイ所ノ陪審制度ヲバ設ケテ、普選ノ聲ヲバ回避シタコトゴザイマス、ソレト同様ニ小作人ノ苦痛ヲ叫ブ所ノ小作立法ヲ回避センガ爲ニ、斯ノ如キ洵ニ要領ヲ得ザル所ノ農地法案ヲ御提案ニナツタノデハナイカト、疑ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、私ハ第二點トシマシテ、本農地法ノ最も重要ナル機關ヲ成シテ居リマスル所ノ、農地委員會ニ付キマシテ御尋シタイト思ヒマス、農地法ニアル農地委員會ナルモノハ、如何ナル人々ガ委員ニ選バレルカ、是ハ勅令ニ依ラナケレバ分リマセヌガ、從來農業者ノ利益ヲ増進スル爲ニ組織サレマシタ各種團體、即チ農會、產業組合、負債整理組合等ノ役員又ハ委員ハ、悉ク地主又ハソレ等地主ニ諒解ノアル者デアアルノデゴザイマス、今回ノ農地委員モ恐ラクソレ等ノ人々ガ委員ニ選バレルノデハナイカト心配致スノデゴザイマス、サウデナクトモ、若干ノ小作人ノ代表ガ加ハリマシタト致シマシテモ、利害相反スル、而モ地主ニ對シテ平素頭ノ上ラナイ所ノ小作人デアリ、地主ノ爲ニ抑ヘラレテ來テ居ル所ノ小作人ガ、地主ト對等ニシテ協定ヲスルコトハ、頗ル困難デハナイカト思ヒマス、其爲ニ却テ兩者間ニ紛爭ヲ捲起ス所ノ原因ニナルノデハナイカト思フノデゴザイマス、當局ハ之ニ對シマシテ如何ナル考ヲ御持チデゴザイマスルカ、次ニ小作人ノ絶叫シテ居リマスル所ノ、小作法ノ立法ニ付テ御伺シタイノデゴザイマス、御承知ノ通り地主ハ土地ヲ所有スル所ノ、強力ナル所有權ヲ持ッテ居リマス、反對ニ小作人ハ土地ヲ借地シテ耕作スル、至ッテ微力ナルモノデアリマス、此兩者ノ間ノ契約ハ自由ト平等ノ望マレマセヌコトハ申スマデモナイコトデゴザイマス、農地法ハ自

作農ヲ創定スルコトガ、其目的ノ一ツデアルヤウデアリマスガ、我國全部ノ農民ヲシテ自作農トナスコトハ頗ル困難ナコトデアリマス、是ハ昨日農林大臣モ申サレマシタ所デゴザイマシテ、現在ノ小作農ノ大部分ハ、ヤハリ小作農トシテ殘サレナケレバナライコトハ申スマデモナイコトデゴザイマス、然ラバ本法案ノ如キモノヨリモ以前ニ、先ヅ小作農ノ地位ヲ法律上向上セシムルト云フコトガ私ハ先決ノ問題デハナイカト思ヒマス、農林大臣ノ農村ノ麗ハシイ醇風美俗デアル所ノ相互妥協ノ精神ニ依ッテ、地主、小作農ガ一體トナッテ、自作地ノ創設ヲ見ナケレバナライ旨ノ御答辯ヲ、昨日來拜聽シタノデゴザイマス、農林大臣ハ小作農ト云フモノハ地主ニ常ニ抑ヘラレ、サウシテ小作農ハ地主ニ對シテ常ニ奴隸的關係デナケレバナライト云フコトハ、小作農ノ宿命的デアルト云フ御認識デハナイカト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、實際我國ニ於テ假ニ奴隸制度ノ遺物ガアリトシマスルナラバ、私ハ地主ト小作農ノ關係ヨリマダ以上ニ、精神的、物質的ニ奴隸的關係ニアルノデゴザイマス、昔徳川幕府ノ封建政治ハ、百姓ノ上納搾取ヲ唯一ノ財源トシテ、サウシテ搾レバ搾ル程油ノ出ルモノダトシテ、頻リニ時ノ幕府ハ百姓ヲ搾取シタノデアリマス、此昭和ノ有難イ御代ニナリマシテモ、小作農ハ地主ヨリ搾取サレルト共ニ、政府ヨリ重壓サレテ居ル有様デアリマシテ、小作農ト地主トノ關係モ、昔ト大シタ違ヒハナイノデアリマス、此說明ヲ要スルマデモナキ顯著ナル事實ニ對シテ、農林大臣ハ農村ハ互讓妥協ノ精神ニ依リ云々、又ハ農村ハ地主小作農一體トナリテ云云、如何ニモ小作農ノ法的地位ノ向上ヲ回避サレルガ如キ感ヲ深クスルノデゴザイマス、農林大臣ノ考ヘラル、ヤウニ、地主ト小作農トノ間ニ於テノ互讓妥協ハ、決シテ精神的ニ旨ク行クモノデアリマセヌ、唯形ノ上ノ妥協ニ過ギナイト思ヒマス、左様シマスレバ何レカノ機會ニ於キマシテ直チニ勃發スルノハ、火ヲ賭ルヨリモ明カナコトデゴザイマシテ、彼等ニ若シ妥協アリタリトシマシテモ、所謂心中ハ不平滿々ノ妥協ニ過ギナイモノデアルト存ズルノデゴザイマス、自作農ノ創設維持モ、農地ノ使用收益モ、要スルニ法律上ノ契約ニ過ギナイノデゴザイ

マス、然ラバ契約ノ自由ノ原則カラ申シマシテモ、強大ナル所有權ヲ有スル地主ト、何等ノ權利ヲ有シテ居ナイ小作農トガ、公平自由ナ氣持デ果シテ契約ガ出來マセウカ、私ハ今日ハ昔ノ温情主義カラ一步進メテ、小作農ニモ小作權ヲ認ムル小作農法制ガ、先ヅ先決問題ダト思フノデアリマス、斯ノ如キ不徹底極マル農地法ニ於テハ、却テ小作農ヲ惹起サシムル機會ガ多分ニアルト思フノデゴザイマス、同時ニ前ニモ申上ゲマシタヤウニ、提案ノ御趣旨ヲ達成スルニハ不完全極マルト考フルノデゴザイマス、政府ノ意ノアル所ヲ御伺シタイノデゴザイマス、次ニ自作農創定ニ依ッテ創定サレマシタ自作農ハ、自ラ小作農デアリマシテ、小作農デアリマシタ時ヨリモ公租公課ガ高クナリマシテ、經濟的ニ不利益デアルト云フコトハ、農家經濟調査ニ依ッテ明カナル事實デアリマス、加フルニ作物ガ風水害又ハ病蟲害等ニ依ッテ殆ド無收穫ノ場合ニモ、公租公課竝ニ地代ノ償還金ハ納付セネバナライノデゴザイマス、假ニ其納付方ガ次年度ニ繰越サレタトシマシテモ、二箇年分ヲ一時ニ納付シナケレバナライト云フコトニナリマシテ、却テ益々小作農ハ困難ニ陥ルコトハ申スマデモナイコトデアリマス、斯ル際ニ自作農ノ創設ヲ受ケタル者ガ他カラ融資ヲ仰グトシテモ、別段他ニ財產ガアラウ筈ガナイ、金目ニナルノハ其自作地デアリマス、其田地ハ讓渡モ出來ナケレバ、他ニ貸付モ出來ナイシ、又第三者ニ抵當權ヲ設定スルコトモ出來マセヌ、ソレデ非常ニ困ッテ、二進モ三進モ出來ズ、自作農ハ元ノ苦シイ小作農ノ時ヨリモ悲惨ナル境遇ニ顛落スル、是ハ自作農タラントシテ非常ナ苦境ノ種ヲ背負込ダト云フ實例ハ澤山アルノデゴザイマス、又極メテ無智ナ農民ノ多イ、サウシテ經濟的劣位ニアル農民ニ對シテ、相當費用ヲ要スル所ノ農地委員會ニ願フトカ、行政官廳ノ認可ヲ受ケナケレバナラヌトカ、非常ニ面倒ナ煩瑣ナ手續ヲ果サナケレバナリマセヌ農地法ハ、農民ノ苦痛トスル所デアリマス、是等ヲ綜合シテ考ヘマスト、自作農ノ創設維持ヲ擴充スルトシマシテモ、却テ政府ノ趣旨ニ反スルヤウナ結果ヲ齎スノデハナイカト思フノデゴザイマスガ、是等ノ點ニ關シマシテ政府ノ御意見ヲ御伺シタイノデゴザイマス、次ニ自作農獎勵ノ爲ニ自作地ノ

公租公課ノ減稅ヲ說明シテ、御意見ヲ伺ヒタイノデゴザイマス、自作農創設維持ヲ受ケタル者ニ對シ、其土地ニ對シテ公租公課ハ、自作農獎勵ノ爲メ輕減サレル御意思ハ、政府ニ御持合セナイカヲ御伺シタイノデゴザイマス、實ハ昨日モドナタカラカ、自作農ノ土地ニ對シテ免稅點引上ノ意思ハナイカト云フコトヲ御當局ニ御尋ニナリマシタガ、私ハ更ニ進ンデ、自作地ノ公租公課ノ減稅ヲ求メントスル者デゴザイマス、モウ一ツ當事者ノ合意ガナケレバ、其農地委員會ニ於テ、依然トシテ當事者ノ合意ト云フコトガナケレバ、要求ガ出來ナイト云フコトニナツテ居リマスカラシテ、小作料ノ増額——小作條件ノ改定ト云フコトガ出來ナイト云フコトコトガ、結局出來ナイト云フコトニナルノデゴザイマス、此點ヲ御尋シマシテ當局ノ御意見ヲ御伺シタイノデゴザイマス、本法案ニ依リマスレバ、小作條件等ニ關シテハ「當事者ハ合意ヲ以テ農地委員會ニ」云々トナツテ居リマス、地主ハ自己ニ不利ナル時ハ、自作農ノ創設ヲ受ケタル者ノ要求ニ對シテ、一々同意ヲ與ヘルトハ思ハレナイノデゴザイマス、サウシマシタナラバ、本農地法案ニ依ツテハ、當事者雙方ノ合意ノ下ニ農地委員會ニ向ツテ將來ノ小作料其他ノ小作條件ノ改定ヲ請求スルト云フコトガ、絕對不可能トナルノデゴザイマス、左様シマシタナラバ、政府ノ考ヘテ居ラル、ヤウナ農村生活安定トカ、又ハ農村ノ振興ト云フコトハ、本農地法案ニ依ツテハ依然トシテ不安定ニナルト思フノデゴザイマス、政府ノ本法御提案ノ理由ハ到底目的ヲ達セラレナイト思フノデゴザイマス、其點ニ對スル御意見ヲ承リタイノデゴザイマス尙ホ最後ニ一點御尋申上ゲタイノデゴザイマス、申ス迄モナク我國ノ農村對策樹立ハ、最モ急ヲ要スル問題デアリマシテ、今日ノ儘之ヲ放置シマスルコトハ、是ハ疲弊ニ次グ疲弊ニ陥リマシテ、農村ノ振興ハ決シテ望マレナイト思ヒマス、而モ農家戸數ハ加速度的ニ減少ノ一路ヲ辿リツ、アリマスコトハ、政府當局勿論御承知ノ通りデゴザイマス、明治四十三年ニ於キマシテ、我が農家戸數ハ全國戸數ノ約六割三分デアッタノデゴザイマスルガ、今日デハソレガ四割四分ニ減少シテ居ルノデゴザイマス、之ヲ放置シテ置クト云フコトニナリマスト云フト、三割或ハ

二割ト段々ソレガ減少シテ行クコトハ、是ハ火ヲ賭ルヨリモ明カナルコトト思フノデゴザイマス、此農家戸數ノ減少ハ色々原因モアリマセウ、事情ヲ申上ゲマスルナラバ、農村ノ最モ惡稅トセラレル所ノ戸數割、是ハ標準モナイ所ノ一種ノ見込デゴザイマスルガ、農村ノ大キイ地主ナドハ、此惡稅ノ戸數割ノ重壓カラ逃レル爲ニ、農村ヲ去ツテ都市ニ移住スル、後ニ殘ツタ多數ノ農民ハ、地主カラ搾取サレ、公租公課ニハ重壓サレテ居ル所ニ、今マデ大キナ戸數割ヲ負擔シテ居タ地主ノ負擔額マデモ、分擔額ヲ負擔シナケレバナラナイト云フ事情ニナリマスルカラ、隨テ農村ノ疲弊ト云フモノハ一層酷イモノニナルノデゴザイマス、ソレ等ガ一ツノ原因ヲ成スノデハナイカト思ヒマス、一例ヲ申上マスレバ、私ノ郡ノ或村デ縣下デ一二ノ富裕ナ村ガゴザイマシタガ、其處ノ大地主ガ二人マデモ市ニ轉住シマシタノデゴザイマス、一人ノ大地主ガ村ヲ去ツタ爲ニ、其村ノ農民ノ一人ノ頭數ニ三十錢ノ割ノ戸數割ガ增加負擔サレタト云フ實例ガアルノデアリマスルガ、斯ル例ハ到處ニアルト思ヒマス、爲政者ハ大イニ考ヘラレナケレバナラナイ點ト思ヒマス、農村ハ收入ガ不確定ダシ、支出ハ増加シマシテ、連モ農村ノ子弟ヲシテ遊學セシムルコトノ出來ル農家ハ、餘程ノ所デナイト出來ナイノハ申ス迄モナイノデゴザイマス、斯ル有様デアリマスルカラ、農村ノ子弟ガ農業ヲ捨テテ他ニ轉業シ、又ハ都會地ヘ流レ行クノデアアルト思フノデゴザイマス、古來我國ハ富國デハナイガ、民ハ強健ナル者デアルト申シテ居リマシタガ、其強健ナル者ノ表徵ト云フベキモノハ、國民ノ中デモ農民デアッタト思フノデゴザイマス、此農民ノ減退問題ハ、經濟上又ハ思想上、殊ニ國防上看過スルコトノ出來ナイ重大ナル問題デアルト思フノデゴザイマス、殊ニ農村ノ著シキ疲弊ハ、政治的ニモ、社會的ニモ、經濟的ニモ、皆都會中心主義ニ偏シタルコトヲ、既ニ全國ノ農民ガ自覺シテ居ルノデゴザイマス、此際政府ハ今日マデノヤウニ、唯温情主義、温情主義ト云フコトダケデ行クノデハ、決シテソレハ圓滿ナル吾々ノ希望スルヤウナ農村ノ振興トカ、農村ノ生活安定ト云フコトハ、私ハ望マレナイト思ヒマス、デアリマスルカラシテ、今日ノ農村ニ對シ、小作民ニ對シ與フベキモノハ與ヘ、サウシテ認ムベキモノハ認メ、是正スベキモノハ是正シナケレバ

ナラナイト思ヒマス、政府ハ農家戸數ノ過速度的減少ガ、ドウ云フ原因、又ドウ云フ風ニシテ防止サルレバ宜イカト云フコトニ付テノ御考ト、且ツ都市ト地方トノ負擔ノ不均衡ヲ如何ニ是正サレントナサレルカノ御意思ヲ承リタイノデゴザイマス、私はダケ質疑ヲ申上ゲマシテ、山崎農林大臣ノ御親切ナル御答辯ヲ希望致シマス

山崎農林大臣ノ應答

天辰君ニ御答ヲ申上ゲマス、第一ハ此法案ハ不徹底デアツテ、是デ農村ノ安定ヲ期スルコトハ困難ヂヤナイカト云フ御意見デアリマスガ、此點ハ昨日來度々申上ゲマシヤウニ、農村ニ關スル政策ト云フモノハ、或ル一ツノ政策ヲ執ツテ、ソレデ以テ農村ノコトヲ總テヲ解決スルト云フヤウナ名案ハアルモノヂヤアリマセヌ、是ハ各種ノ施設ヲ併セ講ジテ行ツテ、初メテ農村ノ安定ハ期シ得ル譯デアリマス、固ヨリ今回ノ此法案ダケデ、農村ノコト萬事終レリト云フヤウナ考ヘ方ハ、當局モ持ツテ居ラヌノデアリマス、第二ハ農地委員會ノ問題デアリマスガ、農地委員會ノ組織ガ土地所有者ニ偏セナイヤウニト云フ御意見ハ、當然ノ御意見デアリマシテ、私共モ全ク左様ナ考ヘ方ヲ持ツテ居ルノデアリマス、隨テ是ガ組織ニ付キマシテハ、決シテ土地所有者ニ偏ルト云フヤウナ弊ニ陥ラヌヤウニ、出來得ベク公平ナ立場ニアル人々ノ參加ヲ求メルコトガ、望マシイコトデアアルト考ヘテ居ルノデアリマス、第三ハ、今回ノ法律ハ小作立法トシテハ缺陷ガ多イノヂヤナイカト云フ御疑念デアリマシテ、此點ニ付キマシテハ或ハ天辰君ノ御考ヘ方ト私共ノ考ノ間ニハ相當ノ開キガアルカモ知レマセヌ、天辰君ハ法律家ノ立場ニアラレマシテ、出來得ル限り小作關係ヲ詳細ニ立法スルコトガ適當デアルト云フ御考ノヤウデアリマス、所謂温情主義ト云フモノハ、今後ニ於テハ行ハレルモノデナイカラ、權利關係ハ詳細ニ法ニ依ツテ規定スルガ宜シイ、斯ウ云フ御考ヘ方ノヤウデアリマスガ、其點ハ私共ハ左様ニハ考ヘテ居リマセヌ、何ト申シマシテモ農村ノ基礎ハ農民ノ共同一體ニアルノデアリマス、農村ノ尊キ所以モ亦其處ニアルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、之ヲ相對シタル二ツノ勢

力ニ分ツト云フヤウナ考方ハ、決シテ私ハ適當デナイト信ズルノデアリマス、此點ハ私ハ誤ツテ居ラヌト實ハ信ジテ居ルノデアリマシテ、無論私共ト違ツタ御意見ノアルコトモ是モ已ムヲ得マセヌ、已ムヲ得マセヌガ、農村ガ對立シタル一ツノ階級ミタヤウニナツタ場合ヲ考ヘテ見マシタ場合ニ、農村ノ姿ハドウナルノデアリマスカ、私ハ農村ヲ尊重スルガ故ニ、農村ヲ愛スルガ故ニコソ、益々此農村ノ一體主義ト云フモノハ、固ク執ツテ進ミタイト思ノデアリマス、自作農ノ關係デアリマスガ、是ハ天辰君ノ御心配ニナルヤウナコトモナイデハゴザイマセヌ、自作農ガ或ハ小作ニ顛落スルト云フヤウナ現象モ相當ニアルノデアリマスガ、併ナガラ是マデ政府ノ獎勵ニ依リマシテ創設セラレマシタ自作農ニ付テ考ヘマスト云フト、餘リ是ガ失敗ニ歸シタヤウナ事例ハ少イノデアリマシテ、此點ハ決シテ天辰君ノ御心配ニナル程ノコトハナイト思ヒマス、大體今回ノ計畫ヲ遂行シテ行クコトハ、サシテ心配ハナイト考ヘテ居リマス、其次ハ自作農ニ付テハ國稅ヲ一切免除シタラバドウカト云フ御意見デアリマスガ、自作農獎勵ノ立場カラ申セバ、稅ノ課カラヌ方ガ宜イニ違ヒアリマセヌケレドモ、昨日モ申上ゲマシタヤウニ、稅ノ問題ハ國民トシテノ負擔均衡ノ關係モ考ヘナケレバナリマセヌノデ、唯自作農ト云フダケノ立場カラ、此問題ヲ取扱フコトハ適當デナイノデアリマスノデ、政府トシテハ現在行ハレテ居リマスル免稅點ヲ設ケルト云フ程度ノ所ガ、妥當デアラウト考ヘテ居リマス、最後ハ結論的ニ御述ニナリマシタ農家戸數ノ漸減ノ問題デアリマスガ、農家ノ人口問題ハ昨日モ申上ゲマシタヤウニ、國ノ組織トシテハ極メテ重大ナ問題デアリマス、唯天辰君ノ御指摘ニナリマシタ計數ハ、歩合的ニ申セバ天辰君ノ仰セニナルヤウナコトニナリマスガ、併ナガラ實質ヲ探ツテ見マスト、無論村人口ト云フモノノ絕對數ハ、大シタ移動ガナク維持サレテ居ルト云フ點デアリマス、無論全體ノ國民ノ人口ノ増加ガアリマスカラ、ソレニ對スル比率カラ申シマスト、若干ノ低下ヲ見マシケレドモ、絕對數トシテハ大體ニ出入ガナク維持シテ居ルト云フ點デアリマス、之ニ付キマシテハ農村政策ヲ考ヘテ居リマスル學者其他ノ方面ニ於テモ、色々ノ考ヘ方ガアルコトハ事實

デアリマスガ、私ハ昨日申上ゲマシタヤウニ、此絶對數ガ大體ニ於テ維持セラレルト云フ限度  
デ、先ヅ考ヘテ行クコトガ適當デハアルマイカ、一部ノ人々ノ言フヤウニ、餘リニ農村ノ戸數  
ガ減ル方ガ宜イト云フヤウナ考ヘ方ハ私ハ採リマセヌ、又同時ニ又農村デアライ多數ノ戸數ヲ  
包容スルト云フコトモ、是モ中々農村ノ經濟ノ實情カラ言ヘバ困難ナコトデアリマシテ、此問  
題ニ付キマシテハ色々考ヘ方モアル譯デアリマスガ、私ハ昨日申上ゲマシタヤウナ考ヘ方  
ヲ採ッテ居リマス云フコトダケヲ、申上ゲテ置キタイト思ヒマス

天辰君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今農林大臣ノ御答辯ノ中、第一點ノ御答辯ハ、私農林大臣ガ少シク私ノ質問ヲ履違ヘテ居ラレ  
ルノデヤナイカト思フノデゴザイマス、農林大臣ノ農村政策ニ對スル御意見ハ、昨日來拜聽シマ  
シテ能ク分ッテ居リマス、私ガ此處デ先刻御尋シマシタノハ、茲ニ御提案ニナッテ居リマス所ノ農  
地法案、此不徹底ナル農地法案ニ依ッテ果シテ農村ノ振興、農民生活ノ安定ガ出來ルカドウカト云  
フ點ヲ御尋シタノデゴザイマス、次ニ農林大臣ガ天辰君ト吾々トハ少シク見解ガ違ッテ居ルト云フ  
ヤウナコトヲ申サレマシタガ、勿論私ハ昨日カラノ農林大臣ノ各質疑者ニ對スル御答辯、竝ニ只  
今私ノ質疑ニ對シマシテノ御答辯カラ考ヘマスルト云フト、農林大臣ト私トノ思想的見解ノ相違  
ハ大變ナモノデゴザイマス、今後爲政ノ任ニ立タル、御方ハ唯恩情、恩情——恩情ト云フ言葉ハ、  
ソレハ口デ言ヒ易クシテ行ヒ難イ所ノモノデゴザイマス、親切、親切ト言ッテモ、其親切ハ口デハ  
言ヒ易イガ、ソレノ實行ハ中々ムヅカシイ、デアリマスルカラシテ、私ハ其恩情モ、其親切モ惡  
イトハ申上ゲマセヌ、併ナガラ法治國ニ於ケル所ノ吾々國民ハ、出來ルダケ法律的ニ權衡ヲ保タ  
ナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ當然ナコトデゴザイマス、弱者ガ當リ前ノ位置ニ引上ゲラ  
レルト云フコトハ、是ハ當然ナコトデゴザイマス、法律ニ依ッテ地主ノ如キ強力ナル所有權ヲ持ッ  
テ居ル者ト、何等ノ權利ヲ持タナイ所ノ小作人トガ、一ツノ契約ヲ締結スルニ當ッテ、法律ガ要求  
シテ居ル所ノ自由ナ、公平ナ立場ニ於テノ契約ガ出來マセウカ、私ハ斷ジテ不可能ダト思ヒマス、

三宅正一君ノ質疑

ソコニ親切トカ、同情トカ云フヤウナコトヲ持ッテ來マシテモ、私ハ法律ノ上ニ於テハ親切モ  
同情モ現レテ來ナイト思ヒマス、私ハ是ダケヲ申上ゲマシテ、マダ質疑申上ゲタイ點ハゴザイ  
マスルケレドモ、追テ委員會其他ニ於キマシテ、又重ネテ質疑ヲ申上ゲタイト思ヒマス

農地法案ハ現内閣ノ本議會ニ提出サレマシタ法案ノ中ニ於キマシテ、農村關係ノモノト致シマ

シテハ、最モ重要ナルモノデアルト考ヘマスルガ故ニ、私ハ本法ニ對シマスル質疑ニ入りマ  
スル前ニ、大局的ナ見地カラ現内閣ノ農村政策ニ對スル質問ヲ先ヅ試ミタイト考ヘルノデゴザ  
イマス、前マデノ質問者ニ依ッテ申サレマシタル通り、日本ノ國ニ於テ農村問題ハ政治上ニ於  
キマシテ、常ニ虐待サレテ參ッタノデアアル、政治上ニ於テ農村問題ガ重要性ヲ帯ビテ參リマシ  
タノハ、五・二五事件以後デアルト私ハ解釋シテ居ル五・一五事件ニ依リマシテ、初メテ救農臨時  
議會ヲ開キ、漸ク政治上ニ於テ農村問題ヲ重視シテ參ッタノデアリマスルガ、五・一五事件ハ軍ノ  
一部ニ於ケル大陸政策ヲ斷行シヨウトスル人々ノ憤激、之ヲ原因トシテ居ルコトハ明白デアアル  
ケレドモ、其外ニ徵兵制度ノ我國ニ於テ、農村ノ窮乏ガ青年將校ニ反映シタ一面ガ之ヲ起シタ  
ノハ、明白ナル事實デアルト私ハ考ヘル、彼等ガ農村ノ窺見ルニ忍ビズト叫ンデ起チマシタ  
所以モ其處ニアルト考ヘル、然ルニ五・一五事件以後俄然トシテ政治的ニ重大性ヲ持ッテ參リマ  
シタ農村問題ノ取扱ニ於テ、我國ノ政府ハ如何ナル取扱ヲシタカ、五・一五事件以後救農臨時議  
會ヲ開キ、農村問題ハ政界ノ花形トナッタケレドモ、之ニ依ッテ行ハレマシタル農村政策ト云フ  
モノハ救農土木工事ノ如キ應急對策ヲ別問題ト致シマシテ、産業組合ヲ中心トスル農村更生運  
動、或ハ米穀自治管理法其他ニ依ル農産物價格吊上ゲ政策、若クハ農林省ノ御得意ノ各種ノ所  
謂補助政策、勸業政策等ガ總テ農村ニ於ケル少數ナル地主ノ利益ハ擁護シタカモ知レナイケレ  
ドモ、多數ノ貧農大衆利益ヲ擁護スル點ニ於テハ、却テ不利益ニ陥レツ、アツタト云フ事實ヲ、  
農林大臣ハ御認メニナルカドウカト云フコトヲ第一點トシテ承リタイノデアアル、諸君、産業組

合運動ヲ中心ニ致シマスル農村更生運動ノ如キモ、之ヲ其内容ニ付テ批判致シマスルナラバ、産業組合ヲ中心ニシテ多クハ増産計畫デアアル、増産計畫ヲ十分ニヤリ遂ゲマスル爲ニハ、相當ナル耕地ヲ持チ、相當ナル資金ヲ持ツタ中農以上ノ者ハ、之ヲ利用スルコトガ出來ルケレドモ、貧農ハ繩ヲ焔フ十五圓ノ繩焔機械サヘ之ヲ買フコトガ出來ズシテ利用出來ナイト云フ點ニ、所謂農村更生運動ノ限界アリト私ハ考ヘル、又米穀自治管理法ノ如キ高物價政策、高米價政策ガ、一體貧農ニ對シテ如何ナル影響ヲ與ヘテ居ルカト云フ點ニ對シテ、私ハ事實ヲ擧ゲテ農林大臣ノ御所見ヲ承リタイト考ヘルノデアアル、此ノ點ニ付テハ獨リ私ガ言フダケデハナイ、内閣調査局ノ專門委員デアアル勝間田清一氏ガ、農村ノ實際ヲ見テ來ラレマシテ、此點ヲ報告書トシテ出シテ居ラレルノヲ私ハ承知シテ居ル、其報告書ヲ讀ミマスルト、幾ツモノ點ガアルガ、其中デ純小作ノ、農村ニ於ケル眞ノ小作農ノ聲トシテ書イテ居ラレマスルノガ諸點アル、之ヲ讀上ゲマスルト、私達小作人ハ學問モナイ者デ、何トシテ十分ナ説明モ亦苦痛ノ訴ヘモ出來マセヌガ、村役場ノ方、縣廳ノ方、東京ノ御役人ノ方ハ是非一生涯ハ私達貧乏人ノ實情ヲ見タリ、聞イタリシテ戴キタイ、凶作カラ是非私達ヲ救ツテ下サイ、私ハ昨年凶作ノ爲ニ四十四俵ノ米シカ穫レナカッタ、其中三十俵地主ニ拂ヒマシタノデ、僅ニ十四俵手ニ殘ッタノデス、是デハ連モ肥料代モ拂ヘズ、老父母、子供モ養フテ行ケナイノデ、或ル晩家族皆集ツテ、今晚此村ヲ逃ゲテ都會ヘ行クコトヲ許シテ貰ヒタイ、都會ヘ行ッタラキツト一生懸命働クカラト申シタ所、老父ハ「此年齡ニナツテ住ミナレタ村ヲ離レルノガ厭ダカラ御飯ヲ減ラシテモ宜イカラ此處ニ置イテ吳レト」言ハレタ、其次ハ米穀自治管理法ガ出來ルノデ、近頃村ノ者ガ集ツテ居ルガ、私達小作人ノ生活トドシナ關係ガアルカト云フコトヲ聞イテ居ル、其次ニハ米價ガ上ルト私達小作人ハ困ツテシマフ、而モソレニ連レテ物價ガ上ツテ尙ホ困ル、更ニ其次ニハ納メガ遅イカラ土地ヲ返セ、納米ガ悪イカラ土地ヲ返セ、土地ヲ賣ルカラ土地ヲ返セデ、私達ハ浮草稼業デス、一生懸命働ケバ直グ小作料ヲ引上ゲラレルト云フコトヲ言ツテ居ル、自作農創設資金ヲ貸シテ吳レルコトハ宜イガ、土地ガ高クテ困ル、又土地ヲ中々賣ツテ吳レナイ地主ガアル、山ハ皆地主ガ

持ツテ居テ、炭ガ安イカラト言ウテ炭ヲ燒カシテ吳レナイ、私達ハ炭ヲ燒キタクモ山ガナイ、私達ハ子供ニ立派ナ學問ヲサセタイガ、金ト暇ガナイ、六年ノ義務教育ガ八年ニナツタラ私達ハドウシタラ宜イデセウカ、斯ノ如キコトヲ報告シテ居ルノデゴザイマスガ、農林大臣ハ、五事件以後ニ於テ行ハレマシタ農村政策ト雖モ、我國農村政策ノ傳統ニ外レズシテ、皆地主本位デアツテ、貧農本位ノ政策デハナカッタト云フ事實ヲ御認メニナルカト云フコトガ、私ノ第一ノ質問デアリマス、第二ノ私ノ農林大臣ニ問ヒタイ點ハ、農林大臣ハ我國ノ農村ヲ如何ニ認識シテ居ラレルカト云フ點デアアル、我國ニ於ケル農村ノ人口構成ヲ見ルナラバ、小作農並ニ零細農民ノ數ガ壓倒的多數デアアル、昭和九年我國農村ノ總戶數五百六十一萬戶ノ中、其七割デアアル三百八十八萬戶ハ小作農デアアルト云フ事實ハ、是ハ統計ニ依ツテ明白デアアル、而シテ此五百六十一萬戶ノ農民ノ中ニ於キマシテ、五反未滿ノ猫ノ額ノヤウナ土地ヲ耕作シテ居ル農家戶數ハ、實ニ百九十一萬戶ニ及ンデ居ル、一町以下ノ耕作者ニ至ツテハ、三百八十四萬戶ニ及ンデ居ルノデアアル、斯ノ如キ小作農ノ壓倒的多數、竝ニ我國農業ノ本質ガアリ、我國農業ガ零細農業デアアルト云フ點ニ付テハ、統計ガ之ヲ明白ニシテ居ル、此認識ノ上ニ立タナケレバ、我國ノ農業政策ハ痒イ所ニ手ガ届クヤウニハ行カヌ統計ニアル——隨テ斯ル大多數ノ零細農ハ、米ヲ作ツテ居ルケレドモ米ヲ買ハナケレバナラナイノデアアル、御承知ノ通り百姓デ米ヲ買ツテ食ツテ居リマスル農民ハ、全農家ノ四〇%、二百三十萬戶ニ及ンデ居ルト云フコトハ、農林大臣ガ御承知デアラウト思フ、即チ二百三十萬戶ノ米ヲ買フ農民ニ取ツテハ、米ノ値段ガ上ルコトハ、街ノ勞働者ト同ジニ苦シマナケレバナラナイ問題デアアルト云フコトヲ、農林大臣ハドウ御考ニナルカト私ハ聽キタイノデアアル、而シテ農村ニ於キマシテ耕作ヲシナイ耕地所有者ガ六%アル、僅カ六%ノ農村ニ於ケル米ヲ耕作シナイ農民ガ一五%ノ米ヲ賣ツテ居ルノデアアル、此諸君ハ米ノ値段ガ上ルコトヲ喜ブカモ知レナイケレドモ、大多數ノ貧農ハ、米ノ値段ガ上ルコトハ却テ苦痛デアアルト云フコトハ明白デアアル、更ニ私ハ此點ニ付テ重大ナル注意ヲ喚起シタイノデアアルガ、中農層以下ノ農民ノ收入ハ、農業ノ收入ヨリハ勞働收入ノ方ガ多イト云フ一點デアアル、農林省其他カラ出

テ居リマスル統計ヲ私共ハ集メマシタガ、中農以下ノ農民ノ農業ニ依ル純收入ハ三割五分、其  
 他ノ六割五分ト云フモノハ賃銀勞働ノ收入デアアル、小作人ハ何處カラサウ云フ六割五分ノ賃銀  
 收入ヲ持ツテ來ルカ、農林省ノ調査ニ依レバ、或ル小作ノ家デハ長男ガ出稼ギシテ其仕送り、  
 或ル小作人ノ家デハ、弟ガ家ニ居ルノハ一箇月デ、他ノ十一箇月ハ年奉公ニ出テ居ル、或ル  
 小作人ノ家デハ、次男二十歳ガ出稼ギニ行キ、三女十八歳ガ奉公ニ出  
 テ居リマシテ、農家ノ收入ヨリハ此勞働收入ノ方ガ實ニ六割五分ノ多數ヲ占メテ居ルト云フ事實  
 ヲ農林大臣ハ御認メニナルカドウカ、サウ云フ點ヲ私ハ聽キタイノデアアル、即チ最近ニ於テ  
 ハ、我國ニ於ケル農民ハ農業「プロレタリア」ニ落チタノデアアル、農業「プロレタリア」ニ落チテ  
 居ルガ、其農業「プロレタリア」ノ勞働賃銀ハドウナツテ居ルカ、物價ト勞働賃銀トノ點ヲ私ハ  
 申上ゲル、宮澤胤勇君デアアルトカ、或ハ結城大藏大臣ハ、農村物價ノ値上リニ依ツテ、農村ハ  
 潤ツテ居ルト言ハレテ居ルケレドモ、斯ノ如キ認識不足ハ、私ハ農村ヲ知ラザルモ甚シイト考  
 ヘテ居ルノデアアル、諸君、昭和四年ノ農産物ノ値段ハ百デアッタ、昭和四年ヲ百ト致シマスル  
 ト、昭和十年ニハ農産物ノ値段ハ九十一ニ戻ッタ、ダカラ賣ル物ハ、兎ニ角百ノモノガ九十  
 一ニ戻ッタ位ダカラ宜シイケレドモ、勞働者ノ日儲收入ハ、昭和四年ガ百ノモノガ六十三ニシカ  
 ナツテ居ナイノデアアル、物ノ値段ハ九十一ニ上ツテ收入ハ六十三ニシカナイト云フ、此所謂差ガ即  
 チ農村ニ於ケル「プロレタリア」ノ苦ミデアルト云フコトヲ、農林大臣ハ御認メニナルカドウカ、  
 斯ノ如キ状態ニナツテ居リナガラ、而モ御承知ノ通り農村ニハ仕事ガナイ、失業状態ナノデア  
 ル、此過剩人口ハ、仕事ガナイ、土地ガナイト云フコトデ以テ、土地ヲ得ル爲ニ争フノデア  
 ル、而モ今日ノ法律ハ、天辰君ガ申サレマシタ通り、所有權偏重デアツテ、小作人ノ耕作權ハ  
 是バカシモ認メテ居ラナイノデアアル、隨テ地主ハ勝手ニ土地ヲ取上ゲル、小作人ハ土地ガ足リ  
 スカラ競争スル、此状態ノ爲ニ、小作料ハ唯サヘ世界デ一番高イ小作料ガ、年々歳々上リツ、  
 アル現勢ニアルト云フコトヲ、農林大臣ハ御認メニナルカドウカ、現ニ本年ニ於ケル勸業銀行  
 ノ調査ニ供リマスレバ、昭和十年ニハ四百十五圓デアッタ普通田地ガ、一年シテ昭和十一年ニハ

四百三十五圓ニ上ツテ、地價ハ二十圓上ツテ居ルノデアアル、地價ガ二十圓上ツテ居ルト云フコト  
 ハ、小作料ガ凶作ニモ拘ラズ段々上リツ、アルト云フ、此状態ヲ認メナケレバ、地價ト云フモノ  
 ノハ上ラヌト思フガ、農林大臣ハドウ御考ニナルカ、隨テ最近ニ於ケル農村ノ現狀ト云フモノ  
 ハ土地飢饉デアアル、仕事難デアアル、而シテ不當ニ高クナツタ小作料ト、而モ資本主義ノ壓迫ニ  
 依ツテ中小地主ガ没落シツ、アル、此中小地主ノ没落ト、斯ノ如キ状態ガ農村ヲ破局的困難ニ  
 陥レテ居ルノデアアル、而モ土地問題ノ關係ニ於キマシテ、負債ノ爲ニ、土地抵當負債ノ償還困  
 難ノ爲ニ、中小地主ガ没落シテ、其土地ガ銀行へ入り、無盡會社へ入り、産業組合へ入り、而  
 シテ村内ニハ地主ガ無クナツテ、不在地主ガ殖エル、村外地主ガ殖エル、サウシテ土地ガ村外  
 へ流れ出ル、斯ノ如キ状態ノ下ニ地主ガ土地ノ引上ゲヤル、「プロレタリア」ガ横行スル、小作  
 料ガ上ルト云フノガ、土地ヲ中心ニシテ今起ツテ居ル所ノ農村ノ實情デアルト私ハ考ヘテ居ル  
 ノデアアル、諸君、小作爭議ハ此結果年ト共ニ激増致シマシテ、其大部分ガ土地取上ノ爭議デア  
 ルト云フコトハ、農林省ノ言ツテ居ラレル通りデアアル、大正十二年ニハ千九百十七件ノ爭議ノ  
 中ニ於テ土地取上ハ二十四件デアッタガ、昭和十年ニハ爭議件數五千五百十二件ノ中土地取上  
 ガ二千七百十七件、五〇%ニ及ンデ居ルト云フコトハ、如何ニ農村ニ土地不安ガ迫ツテ居ルカト  
 云フコトヲ證據立テルモノデアルト私ハ考ヘル、諸君、農業ハ土地ノ上ニ立ツ産業デアアル、而  
 シテ農民ノ生命線ハ土地デアアル、然ルニ土地ハ今日奪ハレ、明日奪ハレテ、實ニ不安極マリナ  
 キモノデアアル、關東ノ大震災ハ百年ニ一遍シカ來ナイケレドモ、今日農村ニ於テハ、毎日立ッ  
 テ居ル基礎デアアル土地ハ、毎日震災ニ襲ハレテ居ルト云フ危険ニアルト云フコトヲ、農林大臣  
 ハ御認メニナルカドウカ私ハ聽キタイノデアアル、而モ私ガ尙ホ注意ヲ申上ゲタイ點ハ、今日  
 マデ斯ノ如キ事實ニ對シテ、政府モ、産業組合モ、農會モ、何等無力爲ス所ヲ知ラナカッタト  
 云フコトデアアル、此間ニ於テ農民ノ利益ヲ少シデモ擁護シテ、農民ガ土地ヲ取ラレルコトヲ防  
 ギ、小作料ノ上ルコトヲ防イデ參リマシタノハ、皆サンカラ彈壓ヲサレタケレドモ、實ニ小作  
 人自ラノ團結デアアル農民運動其モノデアルト云フコトヲ、農林大臣ハ御認メニナルカドウカ

聽キタイト思フ、私ハ新潟縣ニ於キマシテ、小作農運動ノ尖端ニ立ツテ、選舉違反デハ刑務所ニ行カナイガ、小作爭議デハ刑務所ヘモ入ッテ居ル、併ナガラ私ハ此農民運動ノ、所謂生産力増加ニ及ボシタ影響ト云フコトニ付テ、科學的ナ御考ヲ願ヒタイト思フ、或ル時新潟縣警察部ニ於テ農民運動ヲ彈壓シタ、私ハ小作人ヲ引率致シマシテ新潟縣警察部長ニ會ツタ、其時ニ小作人ガ斯ウ云フコトヲ言ツタ、今マデ農民運動ガ起ルマデハ、土地ハ何時取ラレルカ分ラナカッタ、作ガ良ケレバ小作料ヲ上ゲラレタ、デアルカラ自作農ノ田地ハ、肥料ヲ入レテ、一反ニ付テ二石五斗ナリ三石ナリ穫レマスル時ニ、小作ノ田地ハ肥料ヲ入レナイカラ、一反一石カ一石五斗シカ穫レナイ、農民運動ガ盛ンニナツテ參リマシテ、モウ土地ヲ取ラレル心配ハナクナツタ、サウシテ小作料モ下ツタノデ、肥料ヲ入レラレルト云フコトニナリマシタ結果ハ、今マデ自作ノ田地ガ二石五斗穫レテ、小作ノ田地ガ一石五斗シカ穫レナカッタノガ、今デハ自作農ノ土地モ小作農ノ土地モ同ジニ穫レルヤウニナツタ、一反ニ付テ二俵ヅ、生産ガ殖エレバ、新潟縣下十萬ノ小作人ガ一町ヅツノ田地ヲ耕シテ居ルトスレバ、百萬石位ノ米ガ殖エルカラ、農民運動ガ農會ヨリモ技術員ヨリモ米作增收ノ一番良イ方法デアリマス云フコトヲ、其警察部長ニ申シマシタ、所ガ警察部長ハ此貧農ノ聲ニ對シマシテ、頭ヲ垂レテ傾聽シテ居ラレタ事實ガアルガ、農林大臣ハ此點ニ付テ如何ニ考ヘテ居ルカラ御伺シタイノデアル、隨テ私ハ今日我國ノ農業政策ハ一大方向轉換ヲ遂ゲルベキ時機デアルト考ヘテ居ル、即チ今日マデノ所謂少數ノ爲ノ農業デナクシテ、農村政策ハ一部地主ノ政策カラ土地ヲ耕シテ米ヲ生産シツ、アル所ノ勤勞農民ノ生活安定ノ爲ニ方向轉換ヲ遂ゲナケレバナラナイ時機デアルト考ヘルガ、農林大臣ハドウ思フカ、第二ノ點ハ今日マデ明治以來日本ヲ支配シテ參リマシタ技術的改良ノ政策、耕地整理ヲヤルトカ云フヤウナ、或ハ新品種ヲ發明スルトカト云フヤウナ技術的改良ノ政策カラシテ、土地制度、小作制度ノ改革、生産ノ問題カラ分配ノ調整ニ向ツテ農民政策ノ方向ヲ轉換シナケレバナラヌ時機デアルト考ヘルガ、農林大臣ハ如何ニ御考ニナルカ、第三ノ點ニ付テハ、私ハ我國ノ農業ノ特質ニ付テ考ヘネバイカヌト思フノデ

アル、私ハ此點ニ付テ農林大臣ガ私ト相談スル積リヲ以テ御聽キ願ヒタイト思フ、私ハ今申シマシタ通り、我國ノ農業ノ特質ガ零細農デアアル、此零細農ガソレデヤ町ヘ來テ仕事ガ出來ルカト云フニ、河野一郎君ガ言ハレタ如ク、移住ガ澤山出來ルカ、移住問題デモ、町ヘノ移轉問題デモ、植民問題デモ、是ハ宜イカモ知レナイガ澤山出來ナイ、サウスレバ此零細農ノ農村ニ於ケル生活ヲ安定サセルコトデアアル、デアルカラ私ハ此零細農ニ對スル特別保護法ヲ制定スルコトニ依ツテ、彼等ノ土地ト生活ト健康トヲ護ルコトヲ、我國ノ農業政策トシテ、特別立法ニ依ツテ爲スコトガ必要デアルト考ヘルガ、農地法ナドハ此際撤回サレテ、斯ウ云フ方向ニ方向轉換ヲオヤリニナル御意思ガアルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイノデアアル、偕テ私ハ斯ノ如キ前提ノ下ニ、今回提案サレマシタ農地法ノ批判ニ入りタイト考ヘルノデアアルガ、今回提案ノ農地法ハ三點ヨリ成ルト考ヘテ居ル、第一ノ點ハ自作農創設維持、第二ノ點ハ開墾獎勵ニ依ル内地植民、第三ノ點ハ小作關係ノ調整、此三ツノ點ニ要約スルコトガ出來ルト思フ、而シテ一番政府ノ目指シテ居ラレル重心點ハ自作農創設維持デアアル、是ハ島田農林大臣以來ノ決ツタ政策デアルト私ハ考ヘテ居ル、小作關係ノ調整ノ如キハ、ホンノ申譯的ニ、刺身ノツマノヤウニチヨッピリ出サレタ形デアルト云フコトハ、否定スルコトノ出來ナイ事實デアルト私ハ考ヘルノデアアル、然ルニ此自作農創設維持ノ政策ニ付テハ、大正十五年ニ自作農創設維持トシテ出サレマシタ、アノ施設其儘ノ延長デアアル、デアルカラ農地法ガ良イカ惡イカハ、大正十五年ニ出サレマシタ自作農創設維持施設、是ガ成績ヲ舉ゲテ居ルカドウカノ批判ヲスレバ明白デアルト私ハ考ヘル、然ルニ大正十五年出サレマシタ所ノ自作農創設維持ハ、大體ニ於テ全然失敗デアッタ、サウシテ種々有害ナル反作用ヲ農材ニ起シマシテ、却テ逆效果ノ方ガ多カッタト云フコトヲ、私ハ事實ヲ舉ゲテ質問致シマスルガ、農林大臣ハ之ヲ認メラレルカドウカヲ承リタイノデアアル、諸君、一體大正十五年ニ自作農創設維持ヲ何故政府ガ出シタカ、私ノ觀ル所ヲ以テ言ヘバ、當時小作爭議ガズツ起キタ、之ニ對シテ小作爭議ヲ本當ニ無クスル根本法規ヲ作ル誠意ナクシテ、應急的施設ヲ二ツヤッタ、即チ自作農創設維持ト小作爭議調停法ノ制定デアアル、小



作爭議ニ際シテ印紙ヲ貼ラナクテモ裁判所ヲ利用出來ルヤウニシテ地主ヲ助ケタノハ、小作爭議調停法デアル、自作農創設ニ依ッテ小作爭議ヲ緩和シテ、小作料ノ下ルノヲ助ケ、地主ノ土地賣逃ゲヲ便利ニサシタノガ、大正十五年ニ出サレタ自作農創設維持施設ノ中ニ隱サレタ姿デアッタト考ヘルガ、農林大臣ハドウ御考ニナルカ、之ヲ私ハ統計ニ就テ申上ゲル、大正十五年カラ昭和十年ニ互リ一億四千有餘圓ノ金ヲ御使ヒニナッテ、十七万四千三百戸、七万六千六百餘町歩ノ自作農ヲ創設維持サレタト云フ御報告ヲナサッテ居ラレルケレドモ、大正十五年ト昭和九年ヲ比較シテ見ルト、ソレデヤ自作農ハ殖エタカ、殖エテ居ナイ、我國ノ自作地ハ七万七千五百二十九町三段減少シテ居ル、一億數千萬圓モ使ッテ七万町歩ノ自作地ヲ減シタ所ノ自作創設維持政策ト云フモノハ、是ハ「ド・ン・キ・ホーテ」ノ國ニ行カナケレバ見ルコトノ出來ナイコトデアルト私ハ考ヘル、而モ却テ小作地ハ逆ニ三万五千二百二十二町七段殖エテ居ル、而シテ戸數ニ付テ言ヘバ、自作農家ハ八千三百九十戸増シテ居ル、戸數ガ殖エテ反別ガ減ッタノデアルカラ、我國農家ノ特質デアアル零細農化、益、農民ガ小サクナッタト云フコトヲヤッタダケデ、何ノ役モ爲シテ居ラナイト考ヘルノデアアル、而モ自作農零細化ト云フ不健全ナル状態ト共ニ、小作農家ハ斯ノ如キ施設ニモ拘ラズ、五万四千三百九十戸モ増シテ居ルトスレバ、アノ失敗ノヤツヲ其儘持ッテ來タツテ、益、失敗ノ擴大、再生産ニ終ルダケデアラウト云フコトハ、私ハ明白ナル事實デアルト考ヘルガ、一體斯ウ云フ點ニ付テドウ云フ御信念ヲ持ッテ御提出ニナッタカラ承リタイノデゴザイマス、私ハ此點ニ於テ農林大臣ト所見ヲ異ニ致シマスルノデ、農地法ニ付テハ私ノ不審ト考ヘル點ヲ承リタイノデゴザイマス、第一ノ點ハ我國現在ノ土地制度ハ、土地私有ノ原則ト契約自由ノ原則ノ上ニ立ッテ居ル所ノ、地主主義ノ制度デアルト私ハ考ヘルガ、農林大臣ハドウ考ヘルカ、モウ一遍申シマス、我國ノ現在ノ土地制度ハ、土地私有ノ原則ト契約自由ノ原則ノ上ニ立ッテ地主制度デアルト考ヘルガ、之ニ對シテ御承認ニナルカナラヌカ、而シテ是ガ善イカ惡イカハ別トシテ、之ヲ改革スル方法ハ三ツアル、即チ第一ハ土地國有ノ方向デアアル、第二ハ自作農創設、第三ハ小作制度改革ノ方向デアアル、而シテ此自作農創設論ト云フ

モノハ、ドウ云フモノデアアルカト言フナラバ、小作農ヲ自作農ニセシメルコトニ依リマシテ、小作ト稱スル企業形態ヲ絶滅シテ、國ヲ舉ゲテ自作農化セントスルノガ即チ自作農創設政策デアアル、土地國有論トハ正反對ノ立場ニ立ッテ、土地私有ノ原則ヲ堅持シ、其長所ヲ發揮セシムル政策デアアルコトハ明白デアアル、ケレドモ自作農創設政策ハ今ノ之ヲ徹底致シマスルト云フト、一ツノ重大ナル點ガアル、不勞地主ノ土地所有ト云フコトヲ禁止スルト云フコトデアアル、耕サザル者ガ小作料ダケ懷手テ取ルモノヲ禁止スルト云フ點ニ於キマシテ、此自作農創設政策ノ一ツノ革命性ガアルト云フコトヲ認メテ居ルノデアッテ、ソコデ今回ノ農地法ニ依ル自作農創設ノ指導精神ガ何處ニアルカ、小作爭議ガ激シクナッタカラ、其緩衝地帯ヲ作ル爲ニ少シ自作農ヲ殖セト云フノガ、今回農地法制定ノ精神デアアルカ、ソレトモ徹底シタ自作農創設政策ニ依ッテ、小作制度ト云フモノヲ全廢シヨウト云フ大キナ方向ニ向ッテオヤリニナルノガ、今回ノ農地法ノ指導精神デアアルカ、ソレヲ承リタイト考ヘルノデアアル、而シテ自作農創設政策ガ成功スル爲ニハ、土地ノ價格ガ高イカ安イカト云フコトガ決定的問題デアアル、第二ハ年賦金ノ貸付ノ條件ガ寛イカ寛クナイカト云フコトガ決定的問題デアアル、第三ハ金利ノ問題、此點ガ旨ク行カナケレバ自作農創設ハ決シテ成功シナイ、ソコデ所謂農地法ニ於ケル年賦金ノ原則ハドウデアアルカト云フナラバ、私ノ考ヘル所デハ年賦金償還金ハ少クトモ是レ以上デアッテハ失敗シテシマフ、即チ其土地カラ生ルベキ毎年ノ總收益中ヨリ、小作人ノ生活費ト、農業經營ノ經常費ト、税金諸掛ト、更ニ火事ガ起キタリ、病氣ガ起キタリ凶作等ニ對スル保險ノ費用トヲ控除シテ、其殘額ヲ以テ支拂フコトガ出來ル程度ニ止メナケレバ、自作農創設ハ成功シナイト考ヘル、然ルニ今回ノ政府ノ考ヘテ居ラレル農地法ハ、是ガ資金ヲ借受ケテ自作農地ノ購入又ハ維持ヲ行フ所ノ者ノ年額負擔ハ、公租公課及ビ償還金等ヲ含メテ、現在ノ小作料ヨリモ高カラシメザルコトニシ、若クハ近所ノ普通土地ノ賣買價格平均ヨリモ高クシナイト云フコトヲ原則ニシテ、價格ヲ決定スルト云フテ居ラレルノデアアルガ、今ノ日本ノ小作料ハ相當ナル小作料ニアラズシテ、殊ニ土地飢饉ト地主ノ權力ニ依ッテ、不當ニ吊上ゲラレタル、不當高額ナル小作料デアルト云フコトヲ

忘レテ居ル點ニ於テ、私ハ此自作農創定ニ關シテ、價格決定ノ點ニ於テ一大缺點ガアルト云フコトヲ言ハザルヲ得ナイノデアリマスガ、山崎農林大臣ハ如何ニ御考ヘニナルカ、而モ今回ノ自作農創定政策ハ、各質問者ニ依ッテ言ハレマシタ通り、極メテ不徹底デアアル、私ハ學者ノ申シマスル通り、自作農創定主義ニハ直接自作農創定主義ト、間接自作農創定主義トアリ、直接自作農創定主義トハ、國家ガ土地ヲ買上ゲテ、其土地ヲ小作人ニ分ケテヤルノガ、直接自作農創定主義デアアル、而モ之ニ強制力ヲ加ヘルノガ直接強制自作農創定主義デアアル、然ルニ今回ノ農地法ハ、國家ハ農地委員會ヲ通ジテ自作地ヲ斡旋シテヤルダケデアアル國家ハ土地ノ「ブローカー」ノ役ヲスルダケデアアル、而シテ自作農創定ヲシヨウトシテモ、地主ガ厭ダト言ヘバ土地ハ買ヘナイ、即チ之ヲ學者ノ言葉ヲ以テスレバ、間接自由創定主義ト云フノガ、今回自作農創定ノ方針デアアルト思フ、コンナ方針ヲ以テヒヨロ／＼トオヤリニナッタラ、結局ハ小作人ハ土地所有慾ニ依ッテ地價ガ段々上ツテ、小作料ガ段々上ツテ、サウシテ小作人ガ苦シムノミナラズ、借金ヲシテ土地ヲ買ッタノガ、終ヒニハ償還金ガ拂ヘナイデ、首吊リニ終ルコトガ、今マデノ經驗カラ言ウテ當然デアアルト思ヒマスガ、此點ニ付テ農林大臣ハ如何ナル御所見ヲ持ッテ居ラレルカ、一體世界各國ニ於ケル自作農創定ノ事例ヲ吾々ガ調べテ見マスルノニ、小作人ハ土地所有慾ニ馳ラレテ高イ土地ヲ買ツタノデハ、駄目ダカラ、之ヲ非常ニ警戒シテ居ル、ダカラ政府ノ政策ニ於テ、進ンデ土地ノ値段ヲ段々引下ゲマシテ、安クシテ置イテ買ハセルノガ、世界各國ニ於ケル自作農創定ノ定石デアリマス、デアリマスカラシテ、先ヅ第一ニ政府ハ自作農創定ヲ本當ニオヤリニナラウトスルナラバ、小作料ノ輕減ヲ圖リ、之ニ依ッテ土地價格ヲ漸次ニ下落セシムルコトデアアル、其爲ニハ、先刻天辰君ガ言ハレマシタ通り、自作農創定法ヲ出サレル前ニ、完全ナル小作料法ヲ制定サレマシテ、小作料制度ヲ改革シテ、小作關係ニ於ケル地主ノ權利ヲ著シク縮小スル、サウシテ相當ノ小作料ト云フモノヲ決定致シマシテ、土地ヲ持ッテ損デアアルト云フコトニシナケレバ、自作農創定政策ハ私ハ出來ナイト云フコトヲ、農林大臣ガ御認メニナルカナラヌカト云フコトヲ御聽スル、即チ自由契約ノ埒外ニ於テ國家ガ一ツノ目的ヲ以テ遊ンデ居ッテ小作料ヲ

取ッテ居ルト云フ制度ハ惡イカラシテ、働ク者ガ土地ヲ所有スルト云フ自作農制度ニ變ヘヨウトスルナラバ、今日ノ契約自由ノ形式ヲ破棄シテ、所謂此契約自由ノ原則ノ外ニ於テ、公正ナル値段ヲ以テ耕作地ヲ買上ゲルヤウニ致サレマスノガ、私ハ適當ナル態度デアアルト考ヘマスガ、事茲ニ出デズシテ、再ビ三たび重大ナル失敗ヲ繰返サントスル農林大臣ノ政治的責任ニ於テ、如何ナル御認識ヲ持ッテ居ラレルカ、承リタイト考ヘルノデアリマス、「アイルランド」ノ自作農創定法ニ於テモ小作料ヲ標準トシテ土地ノ購入價格ヲ制限スル、其購入價格ハ一體幾ラデアアルカト言フナラバ、土地委員會ノ定メマシタ相當小作料ニ依ッテ居ルノデアアル、即チ從來ノ競爭小作料ノ半分ニ引下ゲテ「アイルランド」ニ於テヤッテ居リマス事實ハ、皆サンガ能ク御承知ノ所デアアルト考ヘルノデアリマス、デアリマスカラ今ノ法律ガ此儘通ッタラドウ云フ結果ヲ來スカ、土地飢饉ト土地不安デ惱ンデ居リマス小作人ノ土地ノ所有慾ト云フモノハ、是ハ盲目的ナノデアリマス、無批判的ナノデアリマス、ダカラ土地ガ欲シクテ叶ハナイ小作人ニ、土地ヲ買ヘト言ッテ「パン」ヲ御出シニナル、其「パン」ノ中ニハ毒ガ入ッテ居ル、毒ガ入ッテ居ルケレドモ、腹ガ減ッテ叶ハナイ、「子供ト同ジダカラ、ソレニガブリトカブリ付ク、自分ハ金ヲ持ッテ居ラヌケレドモ、低利デ長期ノ年賦金ヲ貸シテヤルト云フコトダカラ、嚙リ付イテ高イ値段デ土地ヲ買ヒマス、結局ニハ償還金ヲ拂ヘズシテ、終ヒニハ夜逃ゲテヤッタリ、差押ヲサレタリ、最後ニ首ヲ吊ッタリシテ、土地ハ取ラレテシマッテ、元ノ小作人ニナッタ時ハ借金バカリ殘ッタト云フ結果ニナルコトハ明白デアリマスガ、此點ニ付テ農林大臣ハ如何ナル見透シヲ御持ニナッテ居ルカ承リタイノデゴザイマス、更ニ私ガ承リタイ點ハ、農地法後半ノ小作關係ヲ調整サレル問題デアアル、小作關係ヲ調整サレル問題ハ、前年議會ヲ通過シタ小作料法ヲ其儘持ッテ來タト言ッテ居ラレマスガ、私共モ是ハ前ノ質問者ガ言ハレマシタ通り、後退的デ問題ニナラナイ、第一本法ニハ小作期間ノ存續ガ定メテナイ、第二ニ小作料ノ減免ニ付テ生活ヲ中心トシタ基準ガ定メテナイ、第三ニハ相當小作料ヲ決定スルニ付テノ規定ガナイ、第四ニハ作離料ノ賠償ニ關スル規定ガナク、第五ニハ立毛差押、立入禁止假處分等、強制執行制限ノ規定ガナイノ

デアリマシテ、コンナフラノノ法規ヲ以テ、政治的實力ナク、社會的實力ナキ小作人ノ利益ハ守リ得ナイノミナラズ、所謂知事任命ノ農地委員會ト云フモノガドンナ働ヲスルカ、天辰君ノ言ハレマシタ通りデアアル、農地委員ヲ知事ガ任命シテ、サウシテ地主ノ無料番頭ノ役目ヲ此農地委員會ガスルト云フコトニナッタラ、アナタ方ノ親切ナル御計ヒハ、結局小作人ノ首ヲ締メルコトニナルト考ヘルノデアリマスガ、農林大臣ハドウ御考ニナルカ、私ハ本當ノ農地法ヲ御作リニナルナラバ、社會的ニ小作人ト地主ヲ對等ノ地位ニシナケレバナラヌ、角力ダツテ横綱ト禪擔キデハ角力ヲ取ツテモ見テ面白クナイ、地主ト小作人トデハ獅子契約ト同ジデ「ライオン」ト羊デアアル、「ライオン」ト羊ガ契約シタツテ、公正ナル契約ガ成立タナイコトハ分ツテ居ル、小作人組合ヲ認メナサイ、小作人組合ヲ作ツテ、小作人組合トノ團體契約ニ依ツテ、地主ノ力ト同ジニシテ、第三者タル國家ガ加ツテ、之ヲ調整スル所ニ、私ハ本當ノ意味ノ小作關係調整ガアルト思フガ、小作人組合ヲ承認サレル意思ガアルカドウカト云フコトヲ農林大臣ニ承リタイノデアリマス、私ハ斯ウ云フ意味ニ於テ今回ノ農地法ナドハ、農民ノ爲ニハ何モナラヌモノデアルト考ヘルガ、ソレデハ今ノ農民ハ何ヲ要求シテ居ルカト云フコトヲ、此際農林大臣ニ言ツテ置キタイ、農民ハ飯米ガ窮乏シテ甚ダ飯米ガ欲シイノデアアル、米ハ作ツテ居ルガ、小作料ニ取ラレテシマフカラ、日本ニ於ケル中農以下ニハ飯米ガゴザイマセヌ、私ハ不吉ナル豫言ヲスルヤウデアリマスガ、コ、暫ク後ニ於テ、若シ物價ノ昂騰ニ依ツテ、米騒動ノ如キモノガ起ルト致シマスナラバ、都會カラ起ラズシテ、米ヲ作ル農村カラ食糧暴動ガ起ル形勢ガアルト云フコトヲ、私ハ此機會ニ於テ農林大臣ニ警告ヲシテ置クノデゴザイマス、第二ニ小作料ヲ下ゲルコトヲ要求シテ居リマス、第三ニ小作料ヲ確立スルコトヲ要求シテ居ル、第四ハ團結ノ自由ヲ要求シテ居ル、組合法ヲ認メラレルコトヲ要求シテ居ル、而シテ第五ハ肥料ヲモット廉クシテ貰ヒタイト云フコトヲ要求シテ居ル、吾々ハ肥料統制法ガ出來タ時ニ、今ノ農林省ノ構成ヲ以テシテハ、結局資本案ニヤラレルカラ駄目ダト反對シタガ、果シテ硫酸ノ値段ガ筥棒ニ上ツテ農民ハ困ツテ居ル、農林省ノ之ニ對スル壓力ガ甚ダ微弱ナルモノデアルト云フコトヲ、農林大臣

ハ自ラ御認メニナラザルヲ得ナイト思フガ、此點ニ付テ農林大臣ハ如何ニ御考ニナルカ、第六ハ借金ニ對スルモット徹底シタ整理ヲ要求シテ居ルノデアアル、斯ノ如キ爲ニナルヤウナ政策ヲヤツテ貰ヒタイ、玩具ノヤウナ事ヲヤツテ戴イテモ、此農村ノ深刻ナル疲弊状態ヲ緩和スルコトハ出來ヌト考ヘル、私ハ此意味ニ於テ農林大臣ニ承リタイノデアアルガ、農政ハ斯ノ如キ方向ニ依ツテヤツテ貰ヒタイ、第一ニ徹底シタ小農保護法ヲ作りナサイ、自作農ヲ幾ラ作ツタツテ今ノ制度デハ駄目デス、農林大臣ハ舊慣行ヲ考ヘナサイ、明治以前ノ慣行ヲ御考ニナルナラバ、農村ニハ入會地ト云フモノガアツタ、三反シカ持タヌ貧乏ナ農民モ、所謂入會地ニ行ケバ薪炭ハ只持ツテ來ラレタ、有畜農業ニ依ツテ馬ヲ飼フナラバ、其秣ト云フモノハ、入會地ヘ行ケバ只持ツテ來ラレタノデアアル、四反位ノ自作農ガ、秣モナケレバ、炭モ買ハナケレバナラヌト云フコトデハ、自作農維持ナドハ出來ナイノデアアル、私ハ庶政一新ヲ政策トシテ居ラレル現内閣ガ、此事ヲ考ヘラレルナラバ、日本ノ農村ニハ斯ノ如キ立派ナ慣行ガ澤山アルト思フノデアリマス、即チ小農保護法ヲ作ツテ、部落ニ貧乏ナ農民ガ行ツテ薪ヲ採レル所ヲ御作リナサイ、秣ヲ採レル所ヲ御作リナサイ、サウシテ小作人ノ僅ノ土地ヲ分ケテ遣ツテモ駄目ダカラ、昔ノ割地制度ノ如ク、總有制度ノ如ク、部落總體デ土地ヲ持ツテ居ツテ、耕サナイ者ハ作レナイ、耕ス者ハ地主ト同ジ權利デ作ル、而モ此處ニ一畝、彼處ニ二畝ト云フバラノ耕地分配デナク、有利ニ協同的ニ耕作シツ、尙ホ立地農業ノ見地ニ立ツテ工業ト關聯セシメルコトノ出來ルヤウナ地主制度ヲ無クシタ共同の農業經營政策ヲ御探リニナツテ、之ニ小農保護法ヲ御作リニナルナラバ、私ハ其時初メテ我國ニ於テハ不勞地主ナシト云フ者ノ階級ガナクナルノデアラウト云フコトヲ考ヘルノデアツテ、農村ハソレニ依ツテ立ツト考ヘルガ、農林大臣ハ如何ニ御考ニナルカト云フコトヲ御伺ヒ致シタイノデゴザイマス、以上ノ點ニ付テ、私ハ今迄農林大臣ノ答辯ヲ拜聽致シマスルト、非常ニ御親切デアルケレドモ親味ガナイ、モウ少シ答辯ズレノシナイ眞劍味ノアル答辯ヲ願ヒタイト云フコトヲ御願シテ、私ハ此壇ヲ降りマス

山崎農林大臣ノ應答

三宅君ノ御質問ハ大分多岐ニ互ッテ居ッタヤウデアリマシテ、中ニハ御意見トシテ十分伺ッテ置キタイト思フ點モアリマスシ、強ヒテ御答ヲ御求メニナル意味デハナカリサウニ考ヘラレマシタ點モアリマスカラ、其點ハ省略ヲ致シマス、第一ハ政府ノ近頃ヤッテ居ル農村政策ハ、地主ノ利益ヲ本位トシテヤッテ居ルノデハナイカ、例ヘバ米價問題ノ如キモ其一ツデアルト云フ意味デアリマシタ、政府ノ執ッテ居リマスル諸般ノ政策ヲ御點檢ヲ願ヒマス、決シテ是ガ土地所有者ノ利益ヲ擁護スルコトヲ本位トシテ居ルモノデナイ、農村全體ヲ對象トシテ、言換ヘテ見レバ直接生産者モ、土地所有者モ、總テノ利益ヲ擁護スルト云フ精神カラ出發致シテ居ルコトハ明瞭デアルト思ヒマス、例ヘバ米穀自治管理案ニ於ケル米價問題ノ如キニ於テモ、三宅君ノ御議論ノヤウナ御議論ハ數回伺ッタノデアリマスガ、私共ハ其然ラザル所以ヲ是亦數回ニ互ッテ申上ゲテ居ル積リデアリマス、此處デ此問題ヲアナタト議論ヲスルコトハ差控ヘタイト思ヒマス、答辯ハ只今致シマス、第二ハ農村ニ對スル考ヘ方デアリマシテ、三宅君ガ御覽ニナリマス所ハ、我國ノ農村ハ零細農ガ基礎ニナッテ居ルト云フ點デアリマス、是ハ三宅君ノ御指摘ノ通りデアリマシテ、私モ此點ニ付テハ他ノ機會ニ於テ私ノ意見ヲ或ル方法ヲ以テ發表致シテ居ルコトモアルノデアリマシテ、我國ノ農村ガ零細農デアルト云フコトハ、是ハ好ムト好マザルトヲ問ハズ、避ケルコトノ出來ナイ事實デアアル、隨テ農村政策ハ、我國ノ農村ガ零細農デアルト云フ前提ニ於テ、諸般ノ農村政策ヲ割出スベキモノデアルト云フコトハ、三宅君同様私モ左様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其根本ノ考ヘ方ニ於テハ、別ニ變ッテハ居ラヌ積リデアリマス、唯此農地法ノ關係ヲ三宅君ノ御認識ノ問題ト結付ケテ御考ニナリマシタ、其御考ノ筋道ニハ、ドウモ少シ考ヘ方ガ違フノデアリマス、三宅君モ申サレマシタヤウニ、今日ノ小作爭議等ノ多クハ、土地返還ガ原因トナッテ居ルコトハ、是ハ三宅君ノ御説ノ通りデアリマス、土地ノ返還ガドウシテ起ルカト申シマス、固ヨリ一部ハ從來ノヤウナ小作ノ滯納ト云フコトガ原因トナッテ居ル場合モ少クアリマセヌガ、最近ニ増加致シマシタノハ、寧ロ土地賣買ニ原因スル土地

返還ガ大キナ原因ヲ成シテ居ルト思ヒマス、而シテ其土地賣買ノ傾向ヲ見マスト、三宅君ノ御覽ニナリマス通り、或ハ擔保流レデアアル、或ハ銀行ノ手ニ、或ハ町ノ人々ノ手ニ土地ガ流レ込ムト云フヤウナ場合ガ少クナイノデアリマス、私ハ昨日モ申上ゲマシタヤウニ、農村ノ安固ヲ期スル爲ニハ、出來得ル限り農耕地ヲ農村人ノ手ニ收メルト云フコトガ一番大事デアアル、斯様ナ考ヘ方ヲ持ッテ居リマス、ソコ迄ハ恐ラク三宅君モ御同感デアラウト私ハ信ジマスガ、其前提カラ考ヘマスト、今回計畫致シマシタ自作農創設計畫ヲ擴張スルト云フヤウナコトハ、正ニ私共ノ憂トシテ居ル點ヲ除去スル爲ニ、相當ノ效果ガアルト私ハ信ズルノデアリマシテ、其結論ノ付ケ工合ニ於テ、三宅君ノ御採リニナッテ論法ハ、ドウモ私ハ腑ニ落チ兼ネルノデアリマス、第三ハ農村對策ガ——是ハ第一ノ御質問ト同様デアッタヤウデアリマスガ、小作本位ニ轉換ヲシナケレバナラヌト云フ御意向デアリマス、此點ハ第一ノ御答ニ依ッテ御諒解ガ出來マスルガ、更ニ附加ヘテ申上ゲマスレバ、三宅君ノ御考ヘ方ニハ強ヒテ私ハ異論ハ申上ゲマセヌ、殊ニ今後農林省トシテ諸般ノ施設ヲヤッテ行ク場合ニ、恐ラク三宅君ノ期待サレルヤウニ、主トシテ直接生産ニ從事スル人々ノ、或ハ生産費ヲ低下スル、或ハ生産條件ヲ改善スル、或ハ災害ヲ防除スル施設ヲ講ズルト云フヤウナコトニ、最モ力ヲ入レナケレバナリマセヌガ、ソレ等ノ政策ノ利澤ノ及ブ所ハ、寧ロ土地所有者ヨリモ直接ノ農耕者ニアル譯デアリマシテ、三宅君ノ唱ヘラレマス御精神ニハ、私共モ決シテ異存ハナイノデアリマス、第四ハ自作農創設計畫ハ失敗デアッタト云フ御言葉デアリマス、是ハ寧ロ事實ヲ擧ゲマシテ、委員會等ニ於テ御考ノ材料ヲ差上ゲタ方ガ宜カラウト思ヒマスガ、結論ヲ申上ゲマスレバ、私共ハ第一次計畫ノ自作農創設計畫ハ、決シテ失敗ニ非ズト信ジテ居ルノデアリマス、第五ノ御質問ハ、農地法ノ制定ハ土地私有ノ原則ノ上ニ立ッテ居ルデヤナイカ、契約自由ノ原則ノ上ニ立ッテ居ルデヤナイカト云フ御考デアリマスガ、其通りデアリマス、私共ハ土地國有論ニハ贊成ヲ致シ兼ネル一人デアリマス、隨テ又三宅君ノ御期待ニナリマスヤウニ、總テノ小作ヲ無クシテ、全國ノ小作ヲ總テ自作農ニスルト云フ指導精神ヲ採ッテ居ルカト云フ御言葉デアリマスガ、左様ナ指導精神ヲ採ッテ居ル譯デアアリマセヌ、其

事モ昨日申上ゲタ通りデアリマスガ、凡ソ斯様ナ問題ハ——三宅君ノ御一考ヲ願ヒタイト思フコトハ、斯様ナ長イ間ノ歴史ノ上ニ立チ、社會組織ノ一ツノ特徵ヲ持ッテ居ル場合ニ於テ、此種ノ問題ヲ一ツノ理論ニ依ッテ全部ノ變革ヲ考ヘルト云フコトハ、是ハ私共ノ探ラザル所デアリマス、ソレカラ自作農創設ニ付テハ年賦金ノ關係ガ困難デハナイカト云フ點デアリマスガ、此點ハ三宅君ノ仰セノ通り、出來ルダケ注意ヲシナケレバナラヌ問題デアリマスケレドモ、既往ノ實績ニ徴シテ見マスレバ、今回ノ計畫ノ程度ノコトハ差支ハナイト考ヘテ居ルノデアリマス、自作農ノ創設ニ付テ強制收用ヲスル必要ガアルノデハナイカト云フコトデアリマスガ、昨日來申上ゲマスルヤウニ、年々土地賣買ハ約二十万町歩ニ及ンデ居ル譯デアリマスカラ、其中一万五六千町歩ノ自作農創設ニ付テ土地ヲ強制收用スルト云フヤウナ、左様ナ非常手段ヲ執ルノ必要ハナイト考ヘマス、次ハ小作ニ關スル規定ガ不徹底デアルト云フ御議論ハ、昨日來伺ッテ居ル所デアリマスガ、是ハ如何ナル規定ヲ何故ニ規定ニ加ヘナカッタト云フコトヲ、各箇條ニ付テ具體的ニ御説明ヲ申上ゲル方ガ宜カラウト思ヒマシテ、ソレハ詳細ヲ委員會ニ於テ申上ゲルト云フコトニ致シタイト存ジマス、最後ニ農村ノ問題トシテ、或ハ小作料ノ低下ヲ希望スルトカ、或ハ肥料ノ問題デアルトカ、負債整理ノ問題トカ云フコトニ付テ、地方農民ノ聲トシテ御述ベニナリマシタコトハ、是ハ謹ンデ拜承致シテ置キタイト思ヒマス

三宅君ハ再ヒ發言ヲ爲ス

只今農林大臣ノ御答辯ヲ承リマシテ、私ハ結局農林大臣ノ如キ現狀維持ノ立場ニ立ッテ居ラレル人ノ農業政策ニ依ッテハ、日本ノ農村ハ救ハレナイト云フ確信ヲ得タノデゴザイマス、山崎農林大臣ノ如キ考ヲ持ッタ人ヲ農林大臣ノ位置カラ追ッテ、サウシテ吾々ガ其位置ニ坐ラナケレバ、結局ハ農村問題ハ解決シナイト云フ感ジヲ私ハ持ッタノデアリマス、唯併ナガラ農林大臣ノ御注意ヲ喚起シテ置キタイ點ガ二三アルノデゴザイマス、ソレハ何デアルカト申上ゲマスルナラバ、自作農創設政策ハ成功シタト云フコトヲ言ッテ居ラレマスケレドモ、ソレハ地主ノ立

場カラ見タナラバ成功シタカモ知レナイケレドモ、小作人ノ立場カラハ全然大失敗デアッタト云フ點デアアルノデゴザイマス、私ハ時間ガアリマセヌカラ、茲ニ持ッテ居リマス農民カラノ具體的ナ材料、新聞ニ出テ居リマス農民ノ夜逃ヲシタ材料等ハ、今日ハ此壇上カラ申上ゲマセヌケレドモ、此點ニ付キマシテハ私ノ認識ノ方ガ、農村ニ居ルダケニ適當デアルト云フコトヲ、農林大臣ニ御返シヲシテ置クノデアリマス、ソレト共ニ私ハ我國ノ土地制度ニ付テ、土地國有ヲ必シモ宜イト言フノデハナイ、私共ハ土地國有モ所謂翻譯的ナ土地國有デハ駄目ダシ、大化ノ革新ノ時ノ土地國有デモ駄目ダ、土地國有ト自作農創設トヲ辨證法的ニ統一シタ、今ノ時代ニ即シタ新シイ土地ノ總有制度ト云フモノヲ考ヘルコトガ、今日ノ時代ニ適切デアルト云フコトヲ考ヘテ居ルノデゴザイマス、山崎農林大臣ハ御記憶ニナッテ居ルカドウカ知リマセヌケレドモ、明治維新前ノ徳川時代ニ於ケル農村ニ於キマシテハ、懷口手デ食ッタ地主ト云フモノハ一人モナカッタト云フコトヲ、私ハ御注意ヲ申上ゲテ置キタイノデゴザイマス、御承知ノ通り徳川時代ニ於キマシテハ、幕府ガ農民カラ取上ゲマスル上納米ガ非常ニ多カッタ爲ニ、徳川時代ニ於ケル幕府ノ取分ハ、國家ノ取分ハ、總收穫ノ三割七分、地主ノ取分ガ二割四分、小作人ノ取分ハ三割九分デアアル、是ハ或ル學者ノ調デゴザイマス、然ルニ明治維新ノ地租改正ノ際ニ於テ、明治政府ハ當時租稅ノ八割ヲ地租デ以テ賄ッタノデアリマス、外ニ產業ガナイカラ地租ニ依ルノ外ハナカッタノデアアル、今ノ租稅ニ於イテハ、所得稅ニ於テモ、營業收益稅ニ於テモ大キイモノデアアルガ、明治初年ニ於テハ、實ニ地租ガ全租稅ノ八割デアッタカラ、金納ヲ以テ納メサセル地主ノ地位ヲ保護スルコトガ、當時ノ政府ノ政策トシテハ必要デアアル爲ニ、小作人ノ持ッテ居ル慣行ヲ全部奪ッタノデアアル、日本全國ニ於ケル小作人ノ耕作權ヲ奪ッタノハ、明治維新ニ於ケル政府ノ態度デアッタト云フコトヲ、アナタ方ハ御認メニナルカドウカ、其結果學者ノ調ニ依リマスレバ、當時徳川時代ニハ國家ガ三割七分取ッテ居リマシタノガ、明治十一年カラ二十年頃ニナルト政府ノ取ル地租ハ金納デアリ、地主トナル小作料ハ物納デアリマス爲ニ、國家ノ取分ハ總收穫ノ中ノ一割一分、地主ハ總收穫ノ中ノ五割六分五厘、即チ徳川時代ニハ地

主ハ總收穫ノ二割四分シカ取ラナカッタガ、明治二十年頃ニハ、地主ガ五割六分五厘モ取レルヤウニナリマシタ結果ト云フモノハ、土地ヲ持ッテ居ルノガ有利デアラカラ、大地主ヲ續發セシメタト云フ事實ヲ御考ヘ願ヒタイト思ヒマス、其結果岐阜縣ニ起キマシタ小作爭議ニ付テ私ハ知ッテ居ルノデスガ、昔ハ働イテ居ッタ地主ガ、小作料ノ收入ガ殖エタカラ、三町位ノ猫ノ額程ノ土地ヲ持ッテ、懐ロ手デ遊ンデ居ッタコトガ、即チ小作爭議ヲ起シタ所以デアアル、日本ニ於ケル農村ト云フモノハ五反百姓ガ絶對的ニ多數デアアル、五反ノ百姓ガ一反デ二石ノ收穫デアッタナラバ、五反デハ十石デナイカ、石二十五圓トシテ全部デ二百五十圓ノ收入ヲ、地主ト小作人ト分ケテ居タナラバ、小作人ガ食ッテ行ケナイノハ明白ナ事實デアアルト私ハ考ヘマス、五反バカリノ猫ノ額ノ土地ヲ、兩方デ分ケルコトガ間違デアッテ、土地ノ上ノ利益ヲ分ケルコトヲ少クシテ、小作人ダケニ與ヘル、作ル者ダケニ與ヘテ働カナイ者ニハヤラナイト云フ制度ニシナカッタナラバ、日本ニ於ケル零細農ハ維持出來ナイ、是ガ農村政策ノ中心點ガアルト云フコトヲ、私ハ強ク農林大臣ノ御注意ヲ喚起シテ置キタイト考ヘルノデアリマス

小山亮君ノ質疑

農村問題ノ解決ニ對シマスル所ノ結論ハ、土地問題ノ解決ニアルト云フコトハ、今日最早論議ノ必要ノナイ位明白ナル事實デアリマス、即チ多年虐ゲラレ、蹂躪セラレタル所ノ、悲ミモ憤リモ、口ニ表現シ能ハザル無告ノ民ニ對シテ國家ノ恩惠ヲ與ヘルト云フコトガ、政ノ妙諦デアルトスラバ、虐ゲラレタル小作農民ニ對スル所ノ最モ必要ナル小作法ヲ設定スルト云フコトハ、何ノ論議ノ必要モナイ位明白ナル事實デアリマス、然ルニ庶政一新ヲ高調セラレル此議會ニ於テ、今更ニ小作法ガ提出セラレテ、徒ラニ不徹底ナル所ノ今回ノ農地法ノ如キモノガ論議セラレルコトハ、私ハ最モ遺憾ニ考フル次第デアリマス、申ス迄モナイ、土地ハ農民收入ノ資源デアリマス、又農村生活ノ基礎デアリマス、即チ土地ニ依ッテ生活ヲシ、土地ヲ耕スコトニ依ッテ其收入ヲ得テ居リマスル所ノ農民ガ、收入ノ最モ大切ナル資源デアアル農地ノ、耕作地ノ

安定ナクシテハ、斷ジテ生活ノ安定ガナイト云フコトハ、最早言フ必要ノナイ位明白ナルコトダラウト思フ、現下ノ農村ノ問題トシテ先程山崎農林大臣ガ御答辯ニナリマシタル御言葉ノ中ニ、現在ノ農村ニ於テ最モ憂フベキ事態ハ小作對地主ノ爭鬭デアアル、是ガ最モ憂フベキ問題デアラカラ、此小作對地主ノ爭鬭ノ激化ヲ爲サシメザルヤウニ非常ニ心配ヲシテ居ル、カレガ故ニ今回ノ農地法ヲ制定シタノダト云フ風ナ意味合ノ御答辯デゴザイマシタ、私ハ實ニ今日農村問題ニ對シテ、農林大臣ガ最モ認識不足デアラレルコトヲ甚ダ悲シム者デアリマス、即チ大正七八年頃ニ小作爭議ノ件數ト云フモノハ、僅ニ百數十件ニ過ギナカッタノデアリマスガ、昨年ノ統計ニ依レバ、小作爭議ノ件數ハ七千件ヲ突破シテ居ルノデアリマス、年ト共ニ現在ノ農村ニ於ケル所ノ地主對小作ノ關係ト云フモノハ尖銳化致シテ參リマス、此尖銳化シタル所ノ小作對地主ノ關係ヲ根絶セシメ、之ヲ緩和セシムル爲ニ、小作法ノ制定ト云フコトガ必要ニナッテ來ルノデアリマス、即チ之ヲ緩和セシムルガ爲ニ、徹底シタル所ノ小作法ノ制定ヲ行ハズシテ、不徹底ナル今日ノ農地法ヲ提出シテ、之ヲ以テ地主對小作ノ爭鬭ノ激化ヲ緩和スルヤウナコトヲ御考ニナルトスレバ、如何ニ農村ニ對スル認識ガ不足デアアルカト云フコトガ明瞭デアリマス、斯ノ如キ農林大臣ガ、今日ノ非常時日本ノ農村ノ窮乏ヲ打開スルガ爲ニ、農林省ノ樞要ナル地位ニ就カレルト云フコトヲ、私ハ悲マザルヲ得ナイノデアリマス、現在ノ農村ニ於ケル所ノ最モ憂フベキ現象ハ何デアアルカト申シマスレバ、農村ノ中堅階級デアアル所ノ自作農家ノ没落デアリマス、之ニ對シテ統計ヲ以テ申上ゲマスルト、大正八年カラ昭和九年迄ノ間ニ、日本全國ノ小作農家ガドノ位戸數ガ殖エタカト申シマスルト、總戸數ニ於テ二十万六千戸増加致シテ居リマス、又十町歩以上ノ地主ニ於テハ、日本全國ニ於テ約六千軒増加致シテ居リマス、然ルニ五反歩以上ノ土地ヲ有シ、三町歩以下ノ土地ヲ有スル所ノ自作階級ハ、大正八年カラ昭和九年迄ノ間ニ、實ニ四万七千戸没落ラシテ無クナッテ居ルノデアリマス、即チ農村ノ中堅階級デアアリ、健實ナル階級デアアル所ノ中農ガ、年ト共ニ没落シテ行ッテ居ルノデアリマス、サウシテ殖エマシタ所ノ地主ノ中デ、最近顯著ナル實例ハ、所謂銀行地主ト云フ地主デアリマス、長野縣

ノ統計ヲ例證致シマスルト、長野縣デハ昭和五年ノ一月ノ統計ニ依リマス、長野縣全縣下ノ銀行ノ所有シテ居リマスル土地ノ總額ハ、九百七十町歩ニ過ギナカッタノデアリマスルガ、昭和十年ノ一月ノ統計ニ依リマスルト、長野縣全縣下ノ銀行ノ所有シテ居リマスル土地ノ總額ハ、二千五百四十二町歩ト云フ夥シイ數字ニ上ツテ居リマス、最近五箇年ノ間ニ、農民ノ手カラ奪取ラレテ、銀行ノ所有地トナリマシタル土地ノ總額ハ、五年ノ間ニ千五百七十二町歩ト云フ莫大ナル額ニ上ツテ居ルノデアリマス、即チ土地ヲ生命トシ、土地ヲ耕スコトニ依ツテ生活ヲ立テテ居ル農民ノ手カラ、何等土地ヲ必要トセザル、何等耕サザル銀行地主ノ手ニ、農民ノ生命トモ頼ム所ノ土地ガドン／＼ト奪取ラレテ居ルノデアリマス、此狀態ヲ以テ推移致シマスレバ、近イ將來ニ長野縣ノ中堅階級デアル所ノ自作農ハ、悉ク没落ノ運命ニアルト云フコトハ明白デアリマス、是ガ思想的ニドウ云フ影響ヲ招來スルカト申シマスレバ、此點ハ内務省ノ調査ニ依ツテ明白デアリマセウガ、數年以前ニ起リマシタル長野縣ノ共產運動、或ハ昨年起リマシタル「アナキズム」運動等ノ實情ヲ見マシテモ、斯ル矯激ナル運動ノ先端ニ立チ、其ノ尖銳的闘士トナツテ居ル者ハ、決シテ一坪ノ土地モ持タザル所ノ小作人ノ階級ニアラズ、又數十町歩ノ土地ヲ持ツテ居ル所ノ大地主ノ中カラ其數ガ出ズシテ、農家ノ中堅トシテ相當ノ生活ヲシ、相當ノ農家ノ指導的立場ニアツテ、而モ打續ク不景氣ノ爲ニ此搾取經濟ノ犠牲ニナリ、サウシテ生命ト頼ム耕地ガ競賣ニ付セラレ、祖先傳來ノ家財ガ競賣ニ付セラレルト云フ風ナ悲惨ナ事實ニ立至リマシタ、其大ナル衝撃ヲ受ケタ所ノ人々——此土地ヲ中心トシタル生活不安定ヨリ生ジマシタル所ノ刺戟ニ依ツテ、純真ナルウラ若イ青年ガ、其純真ナル頭腦ヲ刺戟サレマシテ、ソレ等ノ人々ガ矯激ナル所ノ運動ノ中心人物ニ飛込デ居ル事實ハ、内務省ノ統計ニ依ツテ明白ニ御分リニナル筈デアリマス、又國防ノ見地ヨリ論ジマシテモ、今日ノ農村問題ガ如何ニ重大デアルカト云フコトガ明瞭デナケレバナラヌノデアリマス、之ニ對シテハ私ハ一ツノ實例ヲ御話申上ゲナケレバナラヌノデアリマス、昭和九年カラ昭和十年ニ掛ケマシテ、長野縣下ノ農村ハ第十四師團ニ所屬シテ居リマシテ、十四師團ノ兵士ハ滿洲ノ最前線ニ出征シテ居

リマシタ、其滿洲最前線ニ出征シテ居リマシタ兵卒カラ、私ノ所ニ涙ノ出ルヤウナ手紙ガ來テ居ルノデアリマス、其手紙ニハ斯ウ云フコトガ書イテアル、自分ハ國家ノ爲ニ滿洲第一線ニ於テ働イテ居ルケレドモ、今日故郷カラ届ケラレタル手紙ヲ見レバ、自分ノ家ハ勸業銀行ノ爲ニ競賣ニ付セラレマシタ、家財ガ競賣ニ付セラレマシタ、サウシテ自分達一家ト云フモノハ、殆ド其住ンデ居ル家ヲ追出サレナケレバナラヌ運命ニ立至ツテ居ル、斯ウシタ哀レナ手紙ヲ故郷カラ受取ツテ居ル、自分ハ晝間ハ國家ノ爲ニ劍ヲ執ツテ前線ニ立ツテ我身ヲ忘レテ居ルケレドモ、夜ニナツテ營舎ニ歸ツテ來テ、藁ノ中ニ入り込デ寢ヨウトスル時ニ、自分ハ此藁ノ中ニ寢ラレルケレドモ、殘サレタル故郷ノ自分達ノ兄弟ハ、此寒空ニ藁ノ中ニ寢ラレナイデ、ドウシテ寢テ居ルカト云フコトヲ考ヘタナラバ、自分ハドウシテモ寢テ居ラレナイノダ、サウシテ所屬ノ部隊長ニ其由ヲ申告シタケレドモ、尙ホ徹底シタ所ノ方策ガ執ラレナイカラ、ドウカアナタ方ノ力デ、自分達ノ家族ガセメテ自分ガ歸ルマデハ、其家ヲ奪取ラレナイヤウニ心配シテ呉レト云フ手紙ヲ私ニ寄越シテ居リマス、モウ一ツハ、其北佐久郡下ノ或村ニ於テ一人ノ兵士ガ出征シタ、其留守宅ニハ年老ヒタル六十數歳ノ父親ト目ノ見エナイ母ガ殘ツテ居ッタ、ソレガ爲ニ一番働キ人デアアル所ノ子供ガ滿洲ニ出兵シマシタ爲ニ、殘サレタ所ノ年寄ガ、自分ノ借リテ居ル所ノ小作地ノ手入レガ出來ナイ、其手入レガ出來ナイト云フコトヲ口實ニ、田ヲ荒シタト云フコトヲ口實ニ、其出征兵士ノ田畑ヲ地主ガ奪取ツタノデアアル、サウシテ年寄ノ生活ヲ食ヘナイヤウニシマシタガ爲ニ、其年寄ガ自分ノ窮境ヲ滿洲ニ居ル所ノ兵隊ニ懇ヘタ、其兵隊ガ再ビ私ノ所ニ手紙ヲ寄越シテ、ドウカ自分ガ歸ルマデハ田畑ガ取上ゲラレナイヤウニ何トカ保護シテ呉レト云フ、哀レナ手紙ヲ寄越シテ居リマス、是等ノコトハ私ハ松本憲兵隊ノ司令部ニ申告シマシタカラ、憲兵隊司令部ハ御承知ノ筈デアラウト思フノデアリマス、今日陸軍ハ廣義國防ノ立前ニ於キマシテ、兵農一致ト云フコトヲ唱ヘマシタ、併ナガラ現實ニ日本ノ農村ガ此窮境ニ在ル時ニ、陸軍ハ之ニ對シテドウ云フ處置ヲ執ラントスルノデアリマスカ、廣義國防ト云フコトガ、陸軍ガ唯國民一般ノ人達ヲ欺ク所ノ宣傳ニ過ギナイノデナイナラバ、恐ラクハ今回ノ如キ

此林内閣ノ税制修正ニ對シテハ、閣議ニ於テ此修正案ヲ陸軍ガ御承知ニナル筈ハナイト思ヒマ  
 ス、然ルニ陸軍ハ此林内閣ニ於ケル所ノ結城財政ノ修正案ニ賛成シマシタ、農村ノ負擔ノ均衡  
 ハ依然トシテ依然タル儘ニ、負擔ノ重壓ノ儘ニ放置セラレマシタ、徒ラナル物價ノ昂騰、物價ノ  
 三割以上ノ昂騰ノ爲ニ、三四年ノ間苦シミニ苦シミマシタ窮乏ノ中ニ、更生計畫ヲ樹テ、參リ  
 マシタル農村ノ負擔整理、及ビ各村々ノ經濟更生計畫ハ、此物價騰貴ノ爲ニ全面的ナル崩壊ノ  
 運命ニアルト云フコトハ、火ヲ賭ルヨリモ明カナルコトデアリマス、即チ此儘ニ放置スルナラ  
 バ、近い將來ニ長野縣或ハ其他ノ養蠶縣ヲ初メトシテ、各縣ノ農家ノ經濟更生計畫ト云フモノ  
 ハ、全面的ニ崩壊ヲ致シマス、又負擔ノ不均衡デアルト云フコトハ、是ハ私ガ議論スルマデモ  
 ナク、内務省初メ明瞭ニ其實實ヲ認メテ居ラレル、即チ直接國稅百圓ノ負擔ヲスル人ガ東京ニ  
 居リマスレバ、地方稅總額ハ僅ニ五十六圓ニ過ギマセズ、大阪ニ居レバ七十六圓ニ過ギマセ  
 ス、然ルニ同ジク直接國稅百圓拂フ人ガ鹿兒島縣ニ居レバ、四百二十四圓ノ地方稅ノ負擔ヲシ  
 ナケレバナラナイ、青森縣ニ參リマスレバ四百五十一圓ノ多額ナル所ノ負擔ヲシナケレバナ  
 ナイ、即チ都會ニ生活スル人ト農村ニ生活スル人ガ、如何ニ負擔ノ不均衡デアルト云フコト  
 ハ、私ガ申上ゲル迄モナイ、政府自身ガ發表シテ居ル所ニ依ッテ明瞭デアリマス、是等ノコト  
 ヲ考慮ヲセズ、如何ナル農村對策ヲ御立テニナラウトスルノデアリマスカ、山崎農林大臣ガ先  
 程仰シヤイマシタ言葉ニ、農村問題ハ一朝一夕デハ解決出來ル問題デハナイ、種々ナル政策ヲ  
 並行セシメテ、ソレニ依ッテ解決ヲ付ケルノデアルト仰シヤイマシタ、種々ナル政策ヲ並行セ  
 シメルト云フナラバ、ドウ云フ具體的事實ガオアリデアリマスルカ、今回ノ結城財政ニ依ッテ  
 馬場財政ガ修正セラレマスルト、農林省ノ計畫シマシタル所ノ總テノ案ニ對スル所ノ豫算、千  
 八十一萬圓ヲ削減サレテ居リマス、負債整理等ニ對スル所ノ徹底の方策ヲ講ズルナドト言ヒナ  
 ガラ、不徹底ナル政策ニ於テスラモ、尙ホ其費用ヲ減額サレテ居ル、經濟更生ノ特別助成金モ  
 根コソギ之ヲ切取ラレテ居リマス、總テノ政策ヲ並行サシテ農村ノ更生ヲ圖ルナドト仰シヤル  
 ガ、自分ノ管轄下ニ於ケル所ノ總テノ費用ヲ悉ク打切ラレテ、サウシテ尙ホ口ニ農村ノ經濟更

生ヲ叫ブナドト云フコトハ、私ハ慮外千萬ノコトデアルト言ハナケレバナラヌト思フノデアリ  
 マス、茲ニ農村ノ農民生活ノ徹底ノ安定ヲ圖ルガ爲ニハ、徹底シタル所ノ小作法ノ制定ノ必要  
 ナルコトガ第一デアリマス、第二ニハ、是ト並行致シマシテ、徹底シタル所ノ負債整理ヲ斷行  
 スルコトガ第二デアリマス、第三ニハ、直チニ負擔ノ均衡ヲ圖ルヤウナル政治ヲ行フコトガ  
 其第三デアリマス、是ナクシテハ農村問題ナドト云フ所ノ問題ヲ口ニスル所ノ資格ハ無イト、  
 私ハ斷言シテ憚ラナイノデアリマス、如何ニ忠勇ナル所ノ國民ト雖モ、其生活ノ安定ナクシテ  
 ハ、内ニ規律ヲ守リ、外ニ秩序ヲ守ルコトハ、出來ナイノデアリマス、過グル昭和八年ノ八月  
 ニ、米價ノ昂騰ニ連レマシテ、全國ノ農民ハ米ヲ食ハセヨト云フ所ノ叫ビ聲ヲ舉ゲテ、是ガ圖  
 ラズモ全國ヲ通ズル所ノ大キナ運動トナリマシタ、今日ノ物價ノ昂騰負擔ノ不均衡、及ビ負債  
 ノ償還ノ不可能ニナツタコト、及ビ經濟更生ガ全面的ニ崩壊シマシテ、サウシテ農民ノ明日ニ  
 對スル所ノ希望ヲ失ヒマシタル時ニ、生キンガ爲ニ、食ハンガ爲ニ、痛烈ナル叫ビ聲ヲ舉ゲナイ  
 トハ誰ガ果シテ斷言スルコトガ出來ルデセウ、少クモ私ハ若シ斯ノ如キ不祥事ガ突發シタトス  
 ルナラバ、是ハ今日ノ農村ニ對スル認識ヲ誤ツタ所ノ農林大臣、竝ニ大藏大臣及ビ軍部大臣ノ  
 責任デアルト、私ハ明瞭ニ言ハザルヲ得ナイノデアリマス、悲シミモ憤リモ口ニ表現シ得ズシ  
 テ、而モ虐ゲラレ、蹂躪ラレタル所ノ生活ノ中ニ、尙ホ己レノ郷里ヲ愛シ、己レノ隣人ヲ慈シム  
 所ノ、此素朴純情ナル所ノ農民ノ生活ヲ無視シテハ、其生活ヲ洞察スルノ卓見ナクシテハ、今  
 日ハ輔弼ノ重任ヲ擔フ所ノ大臣タルノ資格ハナイト私ハ斷言スルノデアリマス、明治大帝ノ御  
 言葉ニ、億兆ノ民一人トシテ其所ヲ得セシメザレバ是レ朕ガ罪ナリト仰セラレテ居リマス、今  
 日多クノ農民ガ其所ヲ得ズシテ怨嗟ノ聲ヲ舉ゲ、悲シノ聲ヲ舉ゲテ居リマス、其聲ヲ聞キ得ザ  
 ル所ノ大臣デアラナラバ、私ハ輔弼ノ重責ヲ擔フ所ノ其資格ナシト斷言セザルヲ得ナイノデア  
 リマス、負擔ヲ輕減スルガ如キ所ノ言葉ヲ使ッテ、朝ニ農民ヲ歡喜ノ夢ニ酔ハセテ、夕ニ其農  
 民ヲ絞殺スルヤウナ政治ヲ行フ所ノ大臣ガアッタトスルナラバ、其大臣ノ責任ハ重大デアルト  
 言ハナケレバナラヌノデアリマス、今日ノ事態ハ爲政者ガ一度其處置ヲ誤レバ、實ニ救フベカ



ラザル所ノ危難ヲ招來スルコトヲ惧レザルヲ得マセヌ、山雨將ニ至ラントシテ風樓ニ滿ツト云  
フヤウ、險惡ナル事態ヲ孕ンデ居リマス、此時ニ當ッテ大臣ガ餘程慎重ナル考ヲ以テ、確固タ  
ル所ノ信念ヲ以テ、此事態ヲ洞察スル所ノ先見ヲ有シ、而モ正シキコトニ向ッテ斷乎トシテ之  
ヲ遂行スル所ノ勇氣ヲ御持チニナラナケレバ、私ハ今日ノ此國難ヲ克服シテ行クコトハ出來得  
ナイコトダラウト考ヘルノデアリマス、此點ニ對シマシテ陸軍大臣及ビ大藏大臣、竝ニ農林大  
臣等カラノ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、以上ヲ以テ私ノ質問ト致シマス

山崎農林大臣ノ應答

小山君ヨリ大藏大臣、陸軍大臣等モ含メテノ御質問デアリマシタガ、問題ハ一本ノ問題ノヤウ  
デアリマスカラ、私カラ御答ヲ申上ゲタイト存ジマス、小山君ノ農林ニ關シマシテ色々御心配  
ニナッテ居リマス御精神ハ、十分諒ト致スノデアリマス、唯アナタガ御心配ノ餘リデアラウト  
ハ思ヒマスケレドモ、御舉ゲニナリマシタ種々ノ政府ノ施設、或ハ之ニ對スル御批評等ハ、一  
一事柄ヲ舉ゲテ申上ゲレバ御納得ガ行クカト思ヒマスケレドモ、アナタノ下サレテ居リマス結  
論ハ、少シク獨斷ニ過ギタルヤノ感ガ實ハアルノデアリマス、唯左様ナ點ニ付キマシテ、事細  
カニ、是ハ斯ウ、ソレハサウト云フコトヲ、例ヘバ來年度ノ農林省所管ノ豫算ノ各内容等ニ付テ  
申上ゲマスコトハ、非常ニ煩瑣ニ互リマスノデ、遺憾ナガラ差控ヘマスガ、アナタノ御心配ニ  
ナルヤウナコトデナイト云フコトダケ、一言申上ゲテ置クノデアリマス、唯全體ニ付テノアナ  
タノ農林ニ對スル御心配、憂、御考ヘ方、之ニハ私ハ別ニ異存ハ持チマセヌ

石坂繁君ノ質疑

諸君、農地法案ニ對スル私ノ質疑ノ要旨ハ、先ヅ第一ニ只今提案サレタル法案ノ内容ヲ以テ致  
シマシテ、果シテ其趣旨、目的ヲ達成シ得ルヤ否ヤト云フコトデアリマス、即チ之ヲ細カク區  
分致シマスルト、一ツニハ、政府ノ從來ノ自作農創設維持ノ政策ハ、決シテ成功デハナカッタ

ト思フ、農地法案ガ從來ノ此規則ノ缺陷ヲ排除シテ、法案ガ期待致シテ居ルガ如キ自作農創設維  
持事業ノ擴充強化ニ十分ナリヤ否ヤ、二ツニハ、農地委員會ノ組織、其選任ノ方法及ビ權限如  
何、若シ是ガ適當デアリマセヌデシタナラバ、或ハ此委員會ハ地主的ニ偏ル、或ハ政黨的ニ偏  
頗ニナル、其他一方ノ勢力ニ偏シマスル結果ハ、其機能ヲ十分ニ發揮スルコトガ出來ナイ憂ガ  
アルカト思フガ、果シテ如何、サウシテ三ツニハ、農林ノ現狀カラ致シマスレバ、小作立法ノ完  
備ハ極メテ重要ナリト考ヘルガ、法案ハ其點ニ於テ頗ル不徹底デハナイカ、而シテ更ニ私ハ第  
二ニ、農地ニ關シテ當局ハ他ニ根本的國策ノ用意ハナイモノデアラウカト云フ點ニ付テ、御伺  
ヲ致シタイノデアリマス、儲テ本法案提出ノ理由ハ、其理由書及ビ前日ノ山崎農林大臣ノ御説明  
ニ依リマシテ、農村ノ現狀ニ鑑ミ、農村生活ノ安定及ビ農村ノ振興ヲ期スル爲メ、自作農創設維  
持事業ヲ擴充強化スルト共ニ、農地ノ使用及ビ收益關係ヲ調整スル爲メデアルト云フコトヲ承  
知致シマシタ、而シテ又法案ノ目的ハ、其第一條ニ明カデアリマスルガ如クニ、互讓相助ノ精  
神ニ則ッテ、自作地ノ創設維持及ビ農地ノ使用收益關係ヲ調整スル爲メデアルト云フコトモ承  
知致シタノデアリマス、其提案ノ理由及ビ目的ハ、私共直チニ之ニ賛成ヲ表スルニ各ナルモノ  
デハアリマセヌ、私共豫テ國家ノ興隆ハ先ヅ農村ノ基礎ノ上ニ立ッテ爲サナケレバナライ、廣  
義ノ國防、廣義ノ産業、總テノ國家發展ハ先ヅ農村ヨリ立直スベキモノデアルト云フコトヲ考  
ヘテ居リマスガ、斯ノ如ク致シマスル爲ニハ、農村ノ精神の指導、農村ノ精神の更生ヲ必要ト  
スルト同時ニ、是ガ經濟更生ヲ圖ラナケレバナラス、此二ツノ方法ヲ選バナケレバナラヌト考  
ヘテ居ル者デアリマス、而シテ今日ノ農村生活ノ基調ヲ私共今少シク精神のノモノタラシメ、  
其生活ノ基礎ニ於テ、鄰保扶助ノ間ニ傳統的ノ醇風美俗ヲ復活センコトヲ希望致シテ居ル者ト  
致シマシテハ、本法案ハ其立法ノ精神ニ於テ適當ナリト考ヘル者デアリマス、併シナガラ先程  
カラモ段々議論ガアリマシタガ如クニ、此互讓相助ノ精神ニ則ッテノ問題ノ解決ハ、今日ノ如  
ク動モスレバ思想ガ偏ッテ參リマシテ、動モスレバ勢力ノ對立抗爭ヲ來サントシテ居ル所ノ農  
村ニ於テ、果シテ爾ク容易ニ此事ヲ實現シ得ルデアラウカドウカ、私共ハ互讓相助ト云フコト

ハ洵ニ結構デアルケレドモ、此事ハ言フベクシテ中々困難デアルコトヲ感ズルノデアリマス、果シテ然ラバ、當局ハ此點ニ於テ如何ナル指導ノ方法ヲ以テ臨マル、デアラウカ、而シテ又此法案ノ内容ガ期待シテ居ル所ノ自作農ノ創設、其擴充強化ト云フ如キ事柄ニ對シマシテモ、此法案ノ内容ヲ以テシテ、果シテ達シ得ルヤ否ヤト云フコトガ問題デアアルノデアリマス、抑、日本ノ農業ノ最大要素ハ農地ト、之ヲ使用收益シテ直接ニ農業生産ニ從事致シマスル所ノ耕作農トデアリマス、隨ヒマシテ農地ヲ中軸トシテ、其所有者タル地主ト、是ガ使用收益スル所ノ小作人トノ關係ニ於テ、農地制度ノ改革ノ方策ガ樹立サレナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、而シテ土地私有ノ原則、契約自由ノ原則、此二大原則ノ上ニ打立テラレテ居リマス所ノ、地主主義ヲ基調トシタ、現在我國ノ農地制度ノ改革ニ對シマシテハ、先程三宅君御所論ノ如ク、私ハ先づ第一ニハ農地國有ノ問題ガアル、第二ニハ自作農創設ノ問題ガアル、而シテ第三ニハ小作制度改革ノ問題ガアルト、斯様ニ信ジテ居ルノデアリマス、政府ハ此農地法案ニ依リマシテ、私ガ只今申上ゲマシタ所ノ第二、第三ノ問題ノ整調ヲ目標トシテ居ラル、如クデアリマスルガ、私ハ今日ノ現狀ニ照シ、農村各般ノ事情ニ照シマシテ、先以テ小作關係ノ問題ヲ第一トシナケレバナラヌト考ヘル者デアリマス、然ルニ此法案ニ現レマシタ所ノ農地對策ハ、自作農政ガ主デアリ、小作關係ノ問題ハ、辛ウジテ從屬ノ之ニ附加サレタ如ク見エテ居リマスルコトハ、洵ニ私共ノ遺憾ニ考ヘル所デアリマス、是ハ後ニ述ベマスルコトニ依ッテ、自ラ判明致スト思ヒマスルガ、洵ニ本末顛倒ノ立法デアアル、是ガ法案提出ノ趣旨ニ合致スルモノナリト考ヘルナラバ、全ク農村ノ現實ノ事情ニ對スル所ノ認識不足ノ結果ナリト言ハナケレバナラヌノデアリマス、先程カラ段々此點モ議論ニナツタノデアリマスルガ、大正十五年現行ノ自作農創設維持補助規則ト云フモノガ施行セラレマシテカラ今日マデ約十年間、其間ノ成績ニ徴シテ見マスルニ、其方策ハ結局ニ於テハ地價ノ吊上ゲト云フコトニ作用致シ、地主ニ取リマシテハ明ニ利益デアッタカモ知レマセヌガ、其半面ニ於テ自作農創設其モノハ決シテ成功デハナカッタノデアリマス、此點私共農林大臣ト其事實ノ觀察ヲ異ニ致シテ居リマス、尤モ農林當局ノ御發表ニナツテ居ル所ヲ見マス

ルト云フト、昭和十一年十一月農務局發表ノ昭和九年度自作農創設維持事業成績、此第八頁カラ九頁ニ掛ケマシテ、貸付後ノ狀況ト云フ項目ガゴザイマスルガ、ソレニハ自作農創設後ノ極メテ顯著ナル成績ヲ謳歌サレテ居リマス、非常ニ農村ハ之ニ依ッテ喜ンデ農民經濟ハ向上シタ、處ニ依ッテハ記念碑マデモ建テタト云フヤウナコトガ謳ハレテ居ルノデアリマス、成程農林當局御示シノ如クニ、左様ナ事例モアルニハアッタノデアリマセウケレドモ、私共ノ調査致シマスル所ニ依リマスト云フト、事實ハ全ク此農林當局御發表ノ反對ノ結果ニナツテ居ルノデアリマス、元來我國ノ農地ハ、其ノ價格ハ所謂土地飢饉ノ結果ニ依ッテ常ニ吊上ゲラレントスル傾向ニアルコトハ御承知ノ通りデアアル、現行ノ自作農創設ニ於ケル所ノ土地ノ購入價格ハ、同規則第六條ニ依リマシテ、一定ノ算式ニ依ッテ算出セラレマシタ、標準價格ヲ超過シテハナラヌト云フ規定ニハナツテ居リマスルガ、實際ニ於テハ常ニ價格ノ吊上ゲヲ誘發シテ參ッタバカリデナク、恐慌ニ因ル所ノ米價ノ下落、風水冷旱害等ニ因ル所ノ農產物收穫ノ激減、是等ノ原因ニ依リマシテ、土地購入當時ノ土地收益ト、現存ノソレトハ著シキ開キヲ來シテ居リマス、毎年ノ償還金額ハ土地收益ニ比シマシテ甚シク高率デアアル、現ニ創設自作農ハ以前ニモ増シテ窮狀ヲ呈シテ居ルト云フヤウナ狀態ニ立至ッテ居ルノデアリマス、償還年賦額未納ガ全國的ニ巨額ニ達シテ居リマスル事實モ、此窮狀ヲ物語ルモノデアリマシテ、先ニ述ベマシタ農林省發表ノ事例ニ反シマシテ、全國各地ノ農村ニ於キマシテハ、年賦償還ニ絡マル所ノ悲惨ナル實例ガ幾多アルノデアリマス、現ニ農林當局モ昭和五年以來、或ハ農村不況對策トシテ、災害應急對策ト云フヤウナ名目ノ下ニ、年賦金償還ノ延期、輕減、補助等ヲ實現シ來ッテ居ル、此事實ハ是等ノ農村窮狀ヲ諒トセラレタ所ノ處置デアラウト考ヘルノデアリマス、此點モ農林省發表ノモノニ詳細ニアルノデアリマスルカラ省略シマス、斯ノ如ク觀察ヲ致シテ參リマスト云フト、創設自作農ハ非常ニ現在ニ於テハ困ッテ居ル、而モ現行規則ニ依リマスル貸付總額一億二千五百六十万圓、田畑其他六万七千町歩、貸付戸數十三万六千戸ト稱シテ居リナガラ、果シテ自作農ハ増加シタデアリマセウカト申シマスルト、結果ハサウデハナイノデアリマス、農林省

發表ニ依リマシテモ、自作農ハ却テ一万六千戸ノ減少ヲ來シテ居ル、其半面ニ於テハ小作農一萬三千戸ノ増加ヲ見テ居ルノデアリマス、此點ハ昨日山邊君ノ計數ノ御指示ガアリマシタカラ省略致シマスガ、斯様ナル結果ニナツテ居ルノデアリマシテ、農家ノ土地喪失ハ、此自作農ノ減少、小作農ノ増加ト云フヤウナ、是等ノ數字ニ依リ現レタモノバカリデナク、農家ノ土地ノ喪失ハ部分的ニ徐々ニ參ルノデアリマスルカラシテ、一舉ニ小作農ニ顛落ハ致シマセヌマデモ、其顛落過程ニアル所ノ者ハ、夥シイ數ニアルト見ナケレバナラヌノデアリマス、シテ見レバ自作農ガ創設サレル所ノ地方ニハ、是ヨリモ以上ノ速度ヲ以テ自作農ノ崩壊ト中農ノ没落ガ起リツ、アルト見ナケレバナラヌノデアリマス、斯ル結果カラ致シマスレバ、自作農創設維持ノ政策ハ事實上寧ロ失敗デアリマス、ソレハ唯地主擁護ノ作用シカナク、且ツソレハ創設自作農ソレ自體ト、爾餘ノ小作農ノ犠牲ニ於テ遂行サレタト申上ゲテモ過言デハナイト私ハ考ヘル、却テ中小農民ニハ此制度ハ喜バレズニ、寧ロ怨嗟ノ聲マデモ私共ハ聞クト云フ實情デアアルノデアリマス、政府ノ言明セラル、所ニ依リマスルト云フト、此農地法ノ施行ニ依ッテ二十五年間ニ十億圓ノ金ヲ融資スル、サウシテ小作農家ノ約四分ノ一ニ當ル所ノ百萬戸、小作地ノ約七分ノ一ニ當ル四十一萬七千町歩ヲ、自作農創設維持ノ助成ヲ爲スト言ッテ居ラレルケレドモ、過去ノ成績カラ見ルナラバ、恐ラク其期間内ニソレ以上ノ自作農地ガ實質的ニ小作農地化シ、其半面ニ自作農ノ没落ガアリ、又政府ノ助成金ハ農家ニ對スル金融家ノ懐ニ入ッテ、自作農ヲ助成シタル結果ニナラズシテ、ソレ等ノ金融家ヲ助成スルノ結果ニナリハシナイノデアラウカ、私共懸念ニ堪ヘザル次第デアリマス、政府ハ本法案ヲ以テ自作農創設維持事業ヲ擴充強化スルト言ウテ居ラレル、然ラバ本法案ヲ提案致サレマシタ所ノ政府ノ肚ハ、從來ノ自作農創設ノ方法ガ、所謂間接自由創設主義デアッタ、私共モ曩ニ申上ゲテ居リマス通り、直接創設主義ト云フモノニハ賛成スル者デハナイノデアリマス、ヤハリ是ハ自作農ノ創設ハ間接創設主義ヲ適當ト考ヘルノデアリマスルガ、間接自由創設主義デアアル結果ハ、從來ノ規則ト同様ノコトヲ是ハ繰返サナケレバナラヌ、サウ致シマスルト云フト、茲ニ所謂強制創設主義ヲ加味シナケレバ

ナラヌノデアリマスルガ、此法案ニ依ッテ自作農創設維持ノ擴充強化ヲ圖ラントスル所ノ政府ノ肚ハ、從來ノ態度ヲ改メテ茲ニ間接強制主義ヲ加味サレントシテ居ルモノデアリマセウカドウデアリマセウカ、私共外國ノ立法例ニ考ヘ及ビマスルノハ、彼ノ「アイルランド」ノ自作農創設法デアリマスガ、彼ノ國ノ自作農創設法ハ、御承知ノ通りニ千八百七十年ノ地主及ビ小作農法以來、幾多ノ立法ヲ經テ、政府ハ小作農法制定ノ制度、此方法ニ依ッテ土地ノ價格ヲ相當自動的ニ下落セシメテ、サウシテ尙ホ其上ニ資金貸付ノ場合ヲ制限致シマシテ、同時ニ一面地主ガ小作農ニ對シテ賣却スル小作地ノ價格ニ付テハ、相當ノ獎勵金ヲ交付スルト云フヤウナ方法ヲ講ジマシテ、即チ斯ノ如キ間接ノ強制方法ヲ講ズルコトニ依ッテ、非常ナ成績ヲ擧ゲ得テ居ルノデアリマス、而シテ彼ノ「アイルランド」ノ土地委員會ヲ聯想致シムルガ如キ本法案ノ農地委員會ハ、其爲スベキ事柄ハ、法案第三條ニ謂ウテ居リマスル如クニ、農地ニ關スル事項ノ處理、第四條ノ謂ウテ居ル所ノ斡旋ト云フコトデアリマスガ、其事柄ノ處理及ビ斡旋ハ抑、何ヲ指スモノデアラウカ、其組織、選任ノ方法ヲ誤ルナラバ、十分ニ機能ヲ發揮セザル虞アリト私ハ先程申シマシタガ、此農地委員會ノ所謂機能ヲ發揮スルコトニ依ッテ、「アイルランド」ノ創設法ニ髣髴タルガ如キ、何モノカノ強制的方法ヲ講ゼラレル御趣旨デアリマセウカ、此點ニ付テ御伺致シタイノデアリマス、私共ノ見解カラ致シマスレバ、此自由創設主義ニ加フルニ強制主義ヲ加味シナカッタナラバ、到底政府ガ考ヘテ居ラレルガ如キ、自由創設主義ニ加フルニ強制主義ハ不可能ナリト考ヘテ居ルノデアリマスガ、本法案ハ實質ニ於テ、只今私ガ申上ゲルヤウナ自由創設主義カラ強制創設主義ヘノ轉向デアアル、而シテ又當局ハ果シテ此法案ガ從來ノ規則ノ不合理ヲ排除シテ、サウシテ農地問題ノ解決ニ副フニ十分ナリト御考ニナツテ居ルカドウカ、此點ヲ御伺致シタイノデアリマス、私ノ卑見ヲ以テ致シマスレバ、土地價格ヲ下落セシメ得ルコトハ、自作農創設維持政策ノ必要ノ前提デアアルノデアリマシテ、土地價格ノ高イコトハ、獨リ小作農ヲ苦シメル所以デアアルバカリデハナク、延イテ是ガ資金調達者デアアル政府ノ財政負擔ヲ重カラシムル所以デアアル、之ヲ制限致シマセヌナラバ、此自作農創設政策ハ行詰ラザルヲ得ナイノ

デアリマス、故ニ私ハ先以テ小作關係ノ根本的改革ヲ斷行シ、特ニ小作權ヲ確立シ、寡少農地ノ競合ニ依ル所ノ小作料ノ吊上、隨ヒマシテ土地價格ノ昂騰ヲ抑ヘルト共ニ、土地收益ヲ無視シタル所ノ高率小作料ヲ是正スルト云フコトガ、自作農創設維持ノ前提的要件デアルト考ヘルデアリマス、然ルニ小作立法ハ小作料、小作機關及ビ小作地ニ對スル諸權利ニ付テ、適正ナル考慮ヲ拂ハナケレバナラヌデアリマス、而シテ理想的の小作法ハ、地主、小作人ノ雙方ニ出來得ル限リノ満足ヲ與ヘテ、之ニ依ッテ農業ノ隆盛ヲ來シ得ルモノデナケレバナラヌデアリマス、分配上ノ正義ヲ實現シツ、之ニ依ッテ爭議ノ發生ヲ未然ニ防グモノデナケレバナリマセヌ、少クトモ直接耕作ニ從事スル所ノ小作人ニ向ッテ、耕作ニ對スル所ノ十分ノ安心ト興味トヲ與ヘ、眞ニ農民ヲシテ天ニ親ミ地ニ安ジテ、其天職ヲ果サシムルモノデナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、實力ノ相違アル地主ト小作人トノ法律關係ハ、契約自由ノ原則ニ放任シテ置イテハ駄目デアアル、政府ノ社會政策的見地カラスル所ノ干渉ガ必要デアラウト思ヒマス、茲ニ私共ハ小作立法ノ確立ヲ要望スル所以デアアルノデアリマスガ、法律ヲ以テ小作人ノ權利ヲ確立スルト云フコトハ、決シテ地主、小作人ノ日常關係ヲ法律的ニ冷酷ナラシムル趣旨デハナイノデアリマス、ソレハイザト云フ場合ニ、惡イ地主ガ出タ時、冷酷ナ地主ノ出現ニ脅サレタル所ノ、小作人ヲ保護セントスルモノニ外ナラヌデアアル、斯ル觀點カラ致シマシテ、私ハ本法案ヲ眺メマスルナラバ、法案第十一條ニ「賃貸借ハ其ノ登記ナキモ小作地ノ引渡アリタルトキハ爾後其ノ小作地ニ付物權ヲ取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ」ト云フ規定ガアリ、茲ニ小作權ノ所謂物權化ニ進ミマシタコトハ、私ノ贊成致ス所デアリマス、併ナガラ法案ハソレ等ノ點ニ付テモウ數歩ヲ進ムベキデアッタト思フノデアリマス、第五十九議會ノ小作法案ヨリモ、少カラズ後退致シテ居リマスルコトハ、私共ノ了解シ得ザル所デアリマス、例ヘバ、昨日西川君ヨリ御指摘ニナリマシタ如ク、作離料ノ規定ヲ缺クガ如ク、或ハ第三十一條ニ謂フガ如ク、小作權ノ賣買或ハ作株、或ハ開墾權ト稱スル如キ、其賣買ノ慣習ノアル地方ニ於キマシテハ、小作地返還ノ場合ニ償金支拂ノ義務ヲ認メテ居ル、此法案ガ小作權ノ賣買、其慣習アル地方ニ於テ、小作人

ヨリ小作人ヘノ賣買讓渡ヲ認メザルハ何故デアリマセウカ、又小作地賣買ノ場合ハ、出來ル限リ其小作人ヲシテ買取ラシムルト云フコトガ、農業經營ニ變動ヲ來サザラシムル點カラ申シマシテモ、小作農民間ノ土地爭奪ヲ回避スル點カラ申シマシテモ、適當デアラウト思フノデアリマスルガ、此規定ヲ缺如致シテ居ルノデアリマス、斯ル場合ニ於キマシテハ、地主ヲシテ先ヅ小作人ニ、アノ土地ヲ俺ハ賣ラウト思フガト云フコトノ通告ヲ爲サシムル必要ガアラウト思フ、其通知ノ義務ヲ規定シテ居ラナイノハ、又ドウ云フ譯デアリマセウカ、而シテ又小作爭議ノ激增ヲ眞ニ憂慮ニ堪ヘザルト當局ガ御認メニナルナラバ、此小作爭議増加ノ傾向、而シテ段々惡化ノ傾向ヲ辿ッテ居ル所ノ現狀ニ鑑ミマシテ、土地假差押、土地立入禁止ノ假處分等ニ付キマシテハ、是ガ制限ノ方法、少クトモ或ル程度ノ緩和ヲ講ズベキ筈ト思フノデアリマスルガ、是等ニ付テ何等觸ル、所ガナイノデアリマス、凡ソ小作爭議ニ於テ立毛ノ假差押、土地返還ノ爲ノ立入禁止ノ假處分ト云フガ如キ、悲惨ナルコトハナイノデアアル、憐レナル小作人ガ是等ノ處分ヲ受ケマシタ時ニ、殆ド茫然自失爲ス所ヲ知ラズ、甚シキニ至リマシテハ、是ガ爲ニ直接行動ニ訴ヘントスル實例ハ、頻々トシテ私共指摘スルコトガ出來ルノデアアル、而モ終局ノ強制執行ナラバマダ宜シイ、唯債權保全ノ爲ノ假差押、執行保全ノ爲ノ假處分ト云フガ如キコトハ、是ハ立法的方法ニ依ッテ緩和スルカ、少クトモ之ヲ禁止スルカ、少クトモ是ガ緩和ノ方法ヲ講ズベキモノデアラウト思フガ、今御提案ニナッテ居ル所ノ農地法ノ小作關係ニ對スル部分ニ於キマシテモ、以上申上ゲマシタヤウナ諸點ニハ何等觸ル、所ガナイノデアリマス、小作立法ニ付テ當局ハ如何ナル御見解ヲ御持チニナッテ居ルデアリマセウカ、重ネテ此點ニ付テ御同致シタイノデアリマス、以上ハ本法案ニ對スル所ノ直接關係ノ問題デアアルノデアリマスルガ、更ニ私ハ土地政策ノ根本ニ付テ御尋致シタイノデアリマス、抑、土地問題ハ古來爲政者ノ最モ頭ヲ悩マシタ所ノ重大ナル問題デアアル、古キ歴史ヲ考ヘテ見マスト云フト、彼ノ大化ノ改新ノ大眼目デアッテ、其當時斷行セラレタ所ノ班田收授ノ法ハ、實ニ土地國有ト其公平ナル分配ニ依ッテ、國民ノ富ノ平均ヲ圖リ、一部豪族ニ依ル所ノ土地ノ獨占ヲ防ガントスルモノニ